

安中市  
男女共同参画に関する意識調査  
結果報告書

令和5年3月

安中市



## 目 次

第1部 市民意識調査.....	1
第1章 調査の概要.....	3
1. 調査の目的.....	3
2. 調査概要.....	3
3. 回収結果.....	3
4. 報告書の見方.....	4
5. 標本誤差について.....	4
第2章 調査のまとめ.....	5
1. 男女平等に関する意識について.....	5
2. 家庭生活について.....	5
3. 働き方について.....	6
4. 社会活動・地域活動について.....	7
5. 人権について.....	8
6. 配偶者等からの暴力（DV）について.....	9
7. 新型コロナウイルス感染拡大の影響について.....	9
8. 男女共同参画社会について.....	10
第3章 調査の結果.....	11
1. あなたご自身のことについておたずねします.....	11
2. 男女平等に関する意識についておたずねします.....	16
3. 家庭生活についておたずねします.....	36
4. 働き方についておたずねします.....	67
5. 社会活動・地域活動についておたずねします.....	82
6. 人権についておたずねします.....	89
7. 配偶者等からの暴力（DV）についておたずねします.....	101
8. 新型コロナウイルス感染拡大の影響についておたずねします.....	117
9. 男女共同参画社会についておたずねします.....	118

第2部 事業者意識調査 .....	125
第1章 調査の概要 .....	127
1. 調査の目的 .....	127
2. 調査概要 .....	127
3. 回収結果 .....	127
第2章 調査の結果 .....	128
1. 令和4年4月1日現在の事業所の状況についておうかがいします .....	128
2. 女性の職域拡大・管理職登用についておうかがいします .....	135
3. 育児・介護休業制度についておうかがいします .....	140
4. ワーク・ライフ・バランスについておうかがいします .....	144
5. セクシュアル・ハラスメントについておうかがいします .....	151
6. 市の取組みについておうかがいします .....	152

---

# 第1部 市民意識調査

---



# 第1章 調査の概要

## 1. 調査の目的

本調査は、市民の「男女共同参画」に関する意識の実態を把握し、「第4次安中市男女共同参画計画」を策定するにあたっての基礎資料とすることを目的として実施しました。

## 2. 調査概要

- (1) 調査対象：安中市在住の18歳以上の男女各1,000人（計2,000人）
- (2) 抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出
- (3) 調査期間：令和4年8月15日～8月31日
- (4) 調査方法：郵送による配布・回収

## 3. 回収結果

	配布数	有効回収数	回収率
女性	1,000	442	44.2%
男性	1,000	317	31.7%
合計	2,000	771	38.6%

※合計にはその他、性別の不明・無回答者を含む。

性別・年齢別の回収状況：

		配布数	回収数	回収率
女性	18～29歳	132	39	29.5%
	30～39歳	112	42	37.5%
	40～49歳	169	58	34.3%
	50～59歳	208	84	40.4%
	60～69歳	171	114	66.7%
	70歳以上	208	105	50.5%
男性	18～29歳	119	24	20.2%
	30～39歳	114	21	18.4%
	40～49歳	164	36	22.0%
	50～59歳	178	54	30.3%
	60～69歳	189	69	36.5%
	70歳以上	236	113	47.9%

#### 4. 報告書の見方

- (1) 集計結果はすべて小数点以下第2位を四捨五入しており、比率の合計が100.0%にならないことがあります。
- (2) 複数回答の設問の場合、集計結果の合計が100.0%を超えることがあります。
- (3) グラフ及び表の回答者はサンプル数であり、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。
- (4) 回答者の少ないデータ（クロス集計の回答者属性別の結果等）は統計的誤差が大きい場合があるため、数値の取り扱いに留意する必要があります。

【参考】本報告書で結果を引用した安中市の前回調査

##### ●前回調査「安中市男女共同参画に関する市民意識調査」

調査対象：安中市在住の18歳以上の男女各1,000人（計2,000人）

抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出

調査方法：郵送による配布・回収

調査期間：平成30年7月1日～7月20日

回収状況：有効回収率31.9%

#### 5. 標本誤差について

- この調査は、調査対象となる母集団（安中市に住む満18歳以上の市民）から一部を抽出した標本（sample）の比率、平均などを算出し、この値を母集団の傾向として推測する「標本調査」で行っています。そのため、真の値と調査結果との差（＝標本誤差）を考慮する必要があります。
- この調査では、母集団比率の推定において、信頼度を95%として信頼区間を設定（同一の調査を100回行えば95回まではこの結果になるであろうという推定）し、標本誤差を算出しており、その際の誤差は下表のとおりとなります。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

- 本調査結果は、母集団（18歳以上の市民）に対する統計上の一般的な要件（信頼度95%等）を備えています。理論上の最大誤差範囲は±2.8%（回答比率80%の場合は母集団では77.2%～82.8%の範囲と推定）。

回答比率 (P)		90%	80%	70%	60%	50%
		10%	20%	30%	40%	50%
基数 (N)						
全体 (n=771)	48,868	±2.1%	±2.8%	±3.2%	±3.4%	±3.5%
女性 (n=442)	24,934	±2.8%	±3.7%	±4.2%	±4.5%	±4.6%
男性 (n=317)	23,934	±3.3%	±4.4%	±5.0%	±5.4%	±5.5%



## 第2章 調査のまとめ

### 1. 男女平等に関する意識について

「学校教育の場」、「法律や制度」、「地域活動の場（自治会・PTA など）」では、比較的平等であると感じている人が多くなっていますが、「政治の場」、「社会全体として」、「社会通念・慣習・しきたりなど」、「就労の機会（募集や採用の条件等）」、「職場の状況（賃金、仕事内容等）」、「家庭生活」においては、『男性の方が優遇されている』との回答が多く、特に「政治の場」、「社会全体として」、「社会通念・慣習・しきたりなど」では7割以上の方が不平等感を感じており、前回調査からさらに高まっています。依然としてあらゆる分野での男女平等について不十分に感じる回答が多くなっています。

性別でみると、「平等になっている」はすべての分野において、男性の回答が女性の回答を上回っており、前回調査と同様に女性の方が男性よりも不平等を感じている傾向が続いています。

年齢別でみると各分野での傾向に違いはありますが、全体的に、年齢が高くなるほど、『男性の方が優遇されている』と感じている人が多くなる傾向があります。

「仕事、家事や育児」の考え方については、「性別にとらわれず、それぞれの事情に従い仕事や家事をおこなう方がよい」が約6割と最も多くなっています。

前回調査と比較すると、「性別にとらわれず、それぞれの事情に従い仕事や家事をおこなう方がよい」、「男女とも仕事をし、家事や育児は男女が公平に分担する方がよい」が多くなり、「男性は仕事をし、女性は家事や育児に差し支えない範囲で仕事をする方がよい」、「男性は仕事をし、女性は家事や育児をおこなう方がよい」、「男女とも仕事をし、家事や育児は主に女性が担当する方がよい」が少なくなっていることから、女性は家事を基本に従事すべきとする考え方が減ってきていることがうかがえます。

性別でみると、女性では「性別にとらわれず、それぞれの事情に従い仕事や家事をおこなう方がよい」が63.1%で男性の55.8%を7ポイント以上上回っており、また、男性では「男性は仕事をし、女性は家事や育児に差し支えない範囲で仕事をする方がよい」が14.2%で女性の6.1%を8ポイント以上上回っていることから、男性では女性が家事を基本に従事すべきとの考え方が多くなっています。

年齢別でみると、40歳以上では女性は家事を基本に従事すべきとする考え方が増える傾向にあります。

### 2. 家庭生活について

一日のうちで家事・育児・介護に従事する時間については、平日では「1時間以上3時間未満」、休日では「3時間以上6時間未満」が最も多くなっています。

前回調査と比較すると、平日、休日とも家事・育児・介護に従事する時間が多くなっており、性別で見ると女性の従事する時間が多くなっています。そのため、女性の家事・育児・介護の負担軽減を進めることが必要となっています。

家庭生活における今の役割分担の決め方は、「暗黙の了解で決まっている」が6割以上と最も多くなっています。今の役割分担への満足度は、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』が7割近くとなっていますが、男性では『満足』が82.6%で女性の59.8%を23ポイント近く上回っています。また、女性では「不満」と「やや不満」を合わせた『不満』が34.2%で男性の10.1%を24ポイント以上上回っています。結婚している女性では『不満』が41.4%で結婚している男性の8.3%を33ポイント以上上回っています。共働きしている女性では『不満』が43.7%で男性の11.1%を32ポイント以上上回っています。家庭生活における今の役割分担の満足度は、女性と男性で大きな差が出ています。

「家庭生活の男女での役割分担の理想」としては、各項目とも「男性と女性で共同して」が最も多いものの、「日常の家計管理」、「掃除」、「洗濯」、「食事のしたく」、「食事の後片付け・食器洗い」、「育児・しつけ」、「子どもの教育」、「身内の看護・介護」では「主に女性」が「主に男性」より多くなっています。暗黙の了解で家庭における固定的な役割分担意識がみられますが、役割分担については各項目とも「男性と女性が共同して」が多くなる傾向となっています。

### 3. 働き方について

進路や職業を選択する際に、性別を意識したかについては、「ほとんど（全く）意識せずに選択した」と「どちらかといえば性別を意識せずに選択した」を合わせた『意識せずに選択した』が6割を超えています。性別で見ると、女性では「性別をかなり意識して選択した」と「どちらかといえば性別を意識して選択した」を合わせた『性別を意識して選択した』が30.8%で男性の17.6%を13ポイント以上上回っており、女性と男性では意識に差が出ています。

育児休業・介護休業の制度については、「名前だけ知っている」が63.4%と最も多く、次いで「内容まで知っている」が22.2%と続いています。育児休業制度の利用（取得）状況については、「働いていた当時、そのような制度がなかった」が38.3%と最も多くなっています。「利用したことがある」では、女性が9.5%、男性が2.5%となっています。また、介護休業制度の利用（取得）状況については、「必要になったことがないので、利用したことはない」が50.8%と最も多くなっています。「利用したことがある」では、女性が0.9%、男性が1.3%となっています。

男性が育児休業や介護休業を取得することについては、「どちらも取得した方がよい」が77.2%と最も多くなっています。育児休業や介護休業の利用（取得）を増やすための環境づくりが必要となっています。

女性が職業をもつことについては、「子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい」が約5割と最も多く、次いで「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が2割を超えています。前回調査と比較すると、「子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい」が8ポイント以上多くなっています。また、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」は5ポイント以上少なくなっています。性別でみると、女性の「子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい」が55.7%で男性の44.5%を11ポイント以上上回っています。女性が「職業をもち続けること」へ意識の変化が進んでいることがうかがえますが、女性と男性では意識に差が出ています。

女性のリーダーが増えた場合の影響については、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が6割を超えて最も多く、次いで「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」と「女性の声が反映されやすくなる」が5割を超えて続くなど、肯定的な回答が多い状況です。

日常生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度については、実際では「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が26.3%と最も多く、次いで「「仕事」を優先」が26.2%と続き、理想では「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をいずれも優先」が34.5%と最も多く、次いで「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が24.0%と続いています。性別でみると、実際では、女性は「「家庭生活」を優先」、男性は「「仕事」を優先」が約3割と最も多く、理想としては、男女ともに「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をいずれも優先」に近づきたい傾向にあります。

男女がともに働きやすい社会環境をつくるために必要なことについては、「男女で家事や育児、介護などに協力して取り組む」が7割を超えて最も多く、次いで「育児休業や介護休業などを利用しやすくする」と「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境を整備する」が5割を超えて続いています。「家事や育児、介護」を男女で協力して取り組むとともに、子育てや介護をしやすい環境づくりが求められています。

#### 4. 社会活動・地域活動について

現在、社会活動や地域活動に参加しているかについては、「特に参加したくはない」が41.2%と最も多く、次いで「参加している」が34.6%、「参加していないがしてみたい」が20.9%と続いています。年齢別でみると18~49歳では「特に参加したくはない」が5割を超えており、若い世代の参加意欲がない傾向にあります。

住んでいる地域や現在活動している団体での男女不平等の状況については、「特にない」が約4割と最も多くなっていますが、次いで「団体の長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」、「女性が役職に就きたがらない」、「女性の参加が少ない」、「活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある」が続いています。住んでいる地域や現在活

動している団体では、依然として男性が代表になり女性は補助的な役割を担う、女性がお茶くみや準備・片付けなどを担当する等の性別役割分担が残っている状況がうかがえます。

災害時の配慮や防災の取組などで必要なことについては、「避難所の設備は性別に配慮すること（男女別のトイレ、更衣室、洗濯干し場など）」が約7割と最も多く、次いで「災害時の救援医療体制で、乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポートを考慮すること」、「公的施設の備蓄品、支給品の内容を考える際に、男女の意見を聞くこと」と続いています。性別で見ると、女性では「避難所の設備は性別に配慮すること」が74.4%で男性の65.9%を8ポイント以上上回っており、女性への配慮が必要となっています。

女性の意見は地域の活動や生活に反映されているかについては、「ある程度は反映されている」が39.6%と最も多く、次いで「わからない」が30.2%、「あまり反映されていない」が20.0%と続いています。性別で見ると、男性では「十分反映されている」と「ある程度は反映されている」を合わせた『反映されている』が49.6%で女性の37.6%を12ポイント上回っています。女性と男性では意識に差が出ています。

## 5. 人権について

女性の人権が尊重されていないと感じる場面については、「男女の固定的な性別役割分担を押し付けること（「男は仕事、女は家庭」など）」が47.9%と最も多く、次いで「痴漢やストーカー行為」が33.5%、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」が31.1%と続いています。性別で見ると、女性では「男女の固定的な性別役割分担を押し付けること」が51.6%で男性の42.3%を9ポイント以上上回っています。女性では「性別役割分担を押し付けられる」ことで人権が尊重されていないと感じていることがうかがえます。

各種ハラスメントやストーカー行為については、パワー・ハラスメントを除き「身近で見たり聞いたりしたことはない」が最も多いものの、「受けた経験がある」では、「セクシュアル・ハラスメント」が9.5%、「パワー・ハラスメント」が19.7%、「マタニティ・ハラスメント」が1.9%、「ストーカー行為」が7.8%となっています。前回調査と比較すると「セクシュアル・ハラスメント」、「ストーカー行為」が前回調査よりも多くなっています。各種ハラスメントやストーカー行為の対策は引き続き進めることが必要となっています。

「LGBT(Q+)」「性的マイノリティ」という言葉や意味を知っているかについては、「内容(意味)を知っている」が44.5%と最も多く、次いで「言葉は知っている」が40.2%と続いています。「LGBT(Q+)」「性的マイノリティ」に関する周知と正しい理解を進めることが求められます。

## 6. 配偶者等からの暴力（DV）について

配偶者等からの暴力（DV）については、いずれも「身近で見たり聞いたりしたことはない」が最も多いものの、「受けた経験がある」では、「身体的暴力」が5.6%、「精神的な暴力」が10.1%、「性的な暴力」が1.2%、「経済的な暴力」が1.7%、「社会的な暴力」が2.2%となっています。比率としては比較的少なくなっていますが、表面化しにくい問題であり、深刻化する前に対応が必要であるため、引き続き対策を進めることが必要となっています。

配偶者等からの暴力（DV）について、だれかに打ち明けたり相談したりしたかについては、「家族や友人、知人に相談した」が40.4%と最も多く、次いで「相談しようとは思わなかった」が35.1%、「相談したかったが、相談しなかった」が13.8%と続いています。前回調査と比較すると、「相談しようとは思わなかった」が13ポイント以上多くなっています。また、性別でみると、女性では「相談しようとは思わなかった」が37.2%で男性の20.0%を17ポイント以上上回っている状況です。

一方、相談しなかった理由については、「相談しても無駄だと思った」と「自分さえ我慢（がまん）すればやっていけると思った」が42.2%と最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思った」と「相談するほどのことではないと思った」が28.9%と続いています。前回調査と比較すると、「恥ずかしくてだれにも言えなかった」と「他人を巻き込みたくなかった」を加えた上位6項目では概ね多くなっています。性別でみると、女性では「自分さえ我慢すればやっていけると思った」、男性では「相談しても無駄だと思った」が最も多くなっています。

男女間における暴力を防止するために必要だと思うことでは、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が71.9%と最も多く、次いで「加害者への罰則を強化する」が45.9%、「学校、大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」が43.7%と続いています。性別でみると、女性では「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が74.2%で男性の67.8%を6ポイント以上上回っています。早期に相談できる環境や暴力を防止するための教育の充実が必要となっています。

## 7. 新型コロナウイルス感染拡大の影響について

家庭での新型コロナウイルス感染拡大による生活への影響については、「特に変わらない」が55.3%と最も多く、次いで「仕事がなくなったり、少なくなったりして収入が減った」が12.2%、「家族といる時間が増えて会話が増えた」が11.0%と続いています。性別でみると、女性では「食事の支度や掃除などの家事負担が増えた」が13.8%で男性の5.0%を8ポイント以上上回り、女性と男性で家事の負担が異なることがうかがえます。

## 8. 男女共同参画社会について

数年前と比べて、安中市の男女共同参画の社会づくりは進んでいるかについては、「わからない」が45.4%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が16.5%、「少しは進んでいる」が13.6%と続いています。「進んでいる」と「少しは進んでいる」を合わせた『進んでいる』が17.4%で「進んでいない」と「あまり進んでいない」を合わせた『進んでいない』が19.2%となっており、大きな差はない状況です。

今後、男女が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことについては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が60.1%と最も多く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が46.2%、「年配者や職場の上司などの周囲の人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を理解し、尊重すること」が42.3%と続いています。前回調査と同様に、男女の相互理解と協力し合うことや男性が家事などに参加することに対する男性自身や周囲の抵抗感をなくすことが重要であるとの認識が高い状況です。

男女共同参画に関する法律や言葉、市の取組について見たり聞いたりしたことがあるかについては、「男女雇用機会均等法」が55.9%と最も多く、次いで「ストーカー規制法」が48.4%、「DV防止法」が45.3%と続いています。前回調査と比較すると、「ジェンダー（歴史的・文化的・社会的に形成された性差）」が13ポイント近く多くなっています。

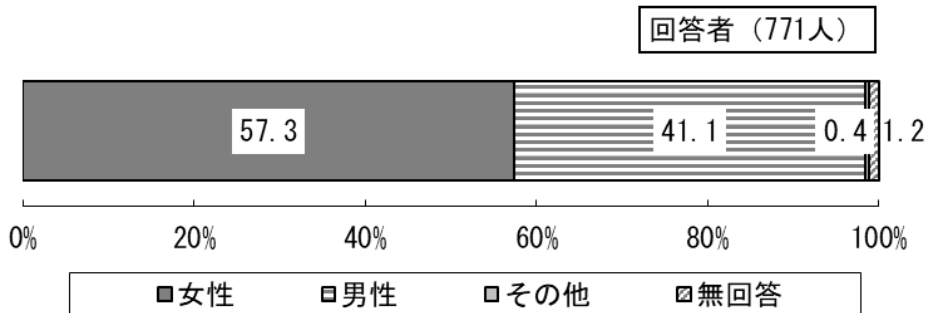
男女共同参画社会の実現に向けて重点をおくべき施策については、「保育の施設・サービスや、高齢者等の施設や介護サービスを充実する」が40.6%と最も多く、次いで「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が40.2%、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女ともに働き方の見直しを進める」が27.9%と続いています。前回調査と同様に、「保育の施設・サービスや、高齢者等の施設や介護サービスを充実する」が最も多くなっています。性別で見ると、女性では「保育の施設・サービスや、高齢者等の施設や介護サービスを充実する」、男性では「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が最も多くなっています。女性、男性ともに、働き続けていくための前提となる環境の整備を求める回答が多い状況です。

### 第3章 調査の結果

#### 1. あなたご自身のことについておたずねします

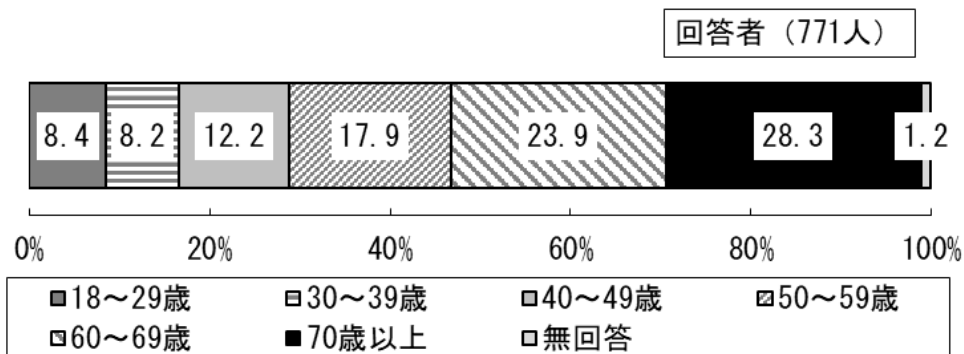
##### F1 あなたの性別は。(〇は1つ)

性別については、「女性」が57.3%、「男性」が41.1%、「その他」が0.4%となっています。



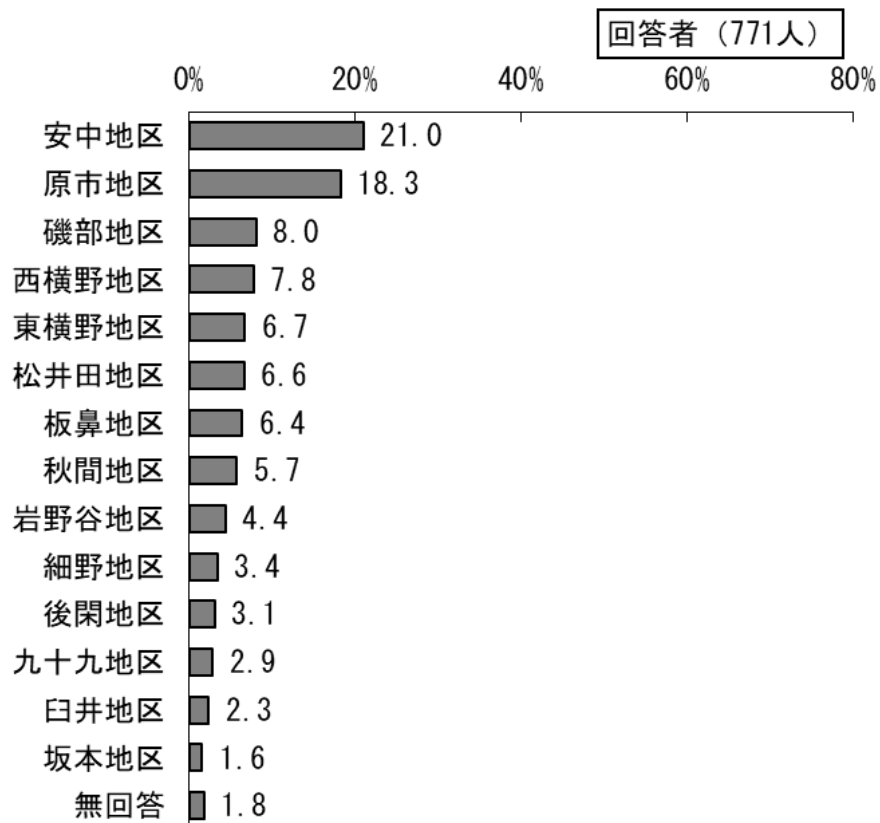
##### F2 あなたの年齢は。(〇は1つ)

年齢については、「70歳以上」が28.3%と最も多く、「60～69歳」が23.9%、「50～59歳」が17.9%と続きます。



### F3 あなたの住んでいるところは。(〇は1つ)

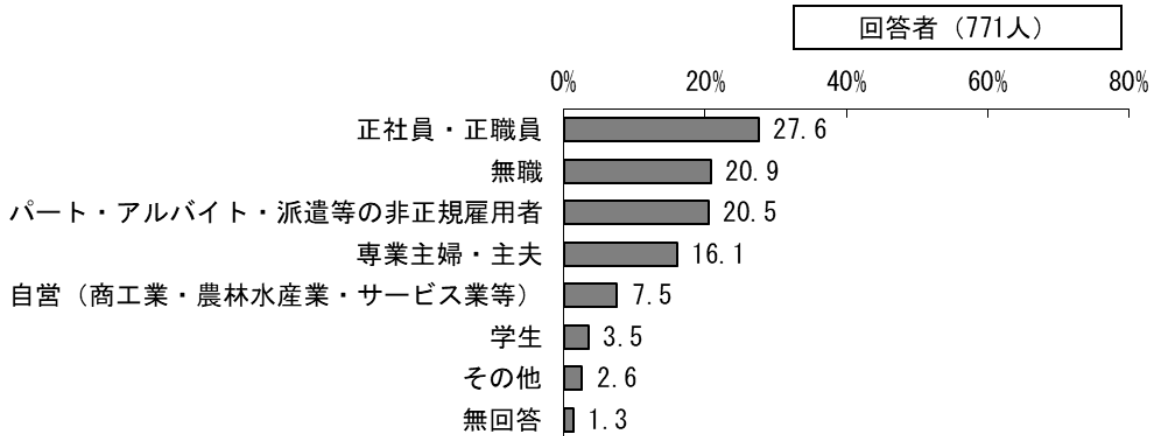
居住地区については、「安中地区」が21.0%と最も多く、「原市地区」が18.3%、「磯部地区」が8.0%と続きます。





#### F4 あなたの職業は、次のうちどれですか。（〇は1つ）

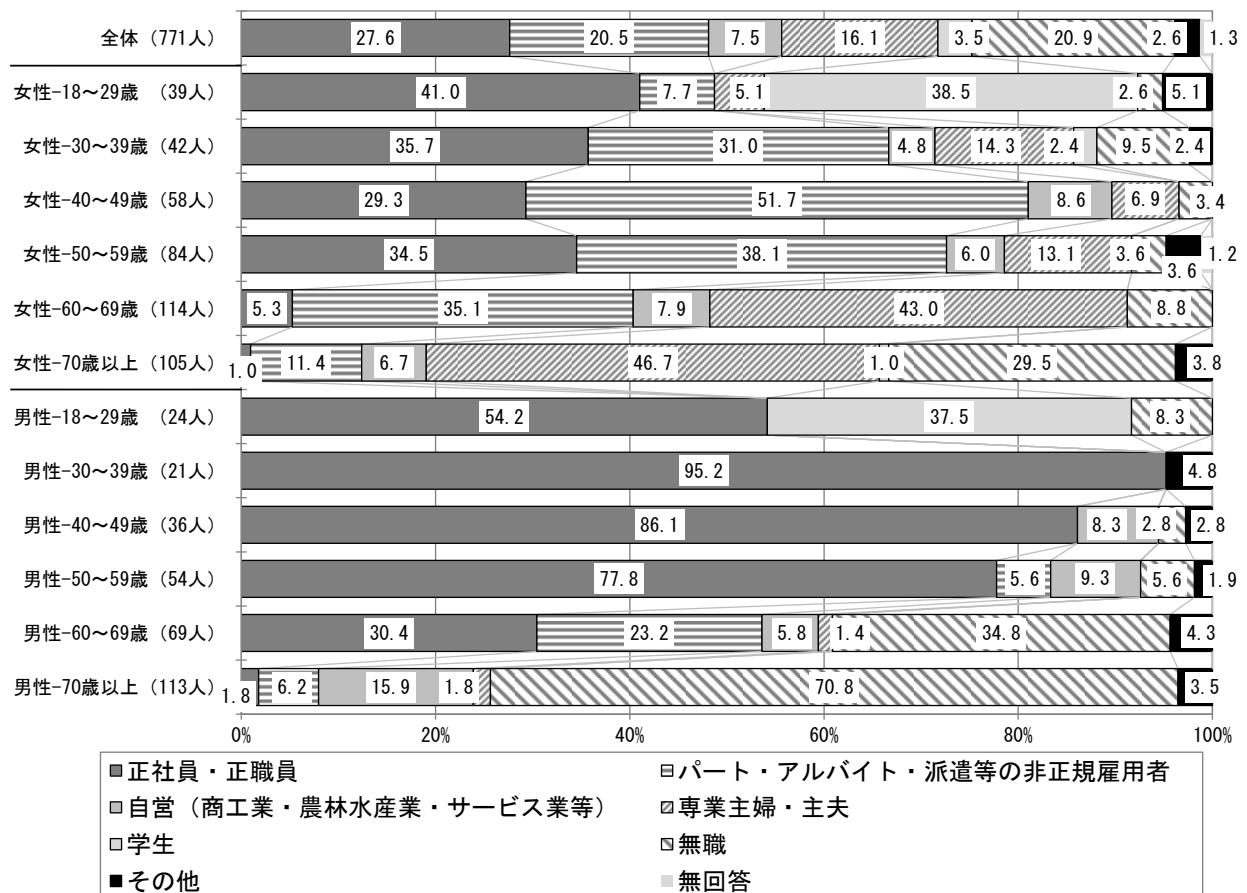
職業については、「正社員・正職員」が27.6%と最も多く、「無職」が20.9%、「パート・アルバイト・派遣等の非正規雇用者」が20.5%と続きます。



#### ■ 回答者属性からみる傾向

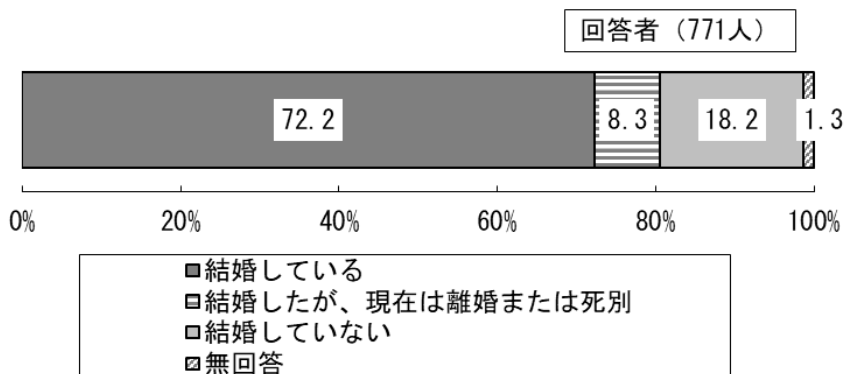
女性の年齢別で見ると、18～39歳では「正社員・正職員」、40～59歳では「パート・アルバイト・派遣等の非正規雇用者」、60歳以上では「専業主婦・主夫」が最も多くなっています。

男性の年齢別で見ると、18～59歳では「正社員・正職員」、60歳以上では「無職」が最も多くなっています。



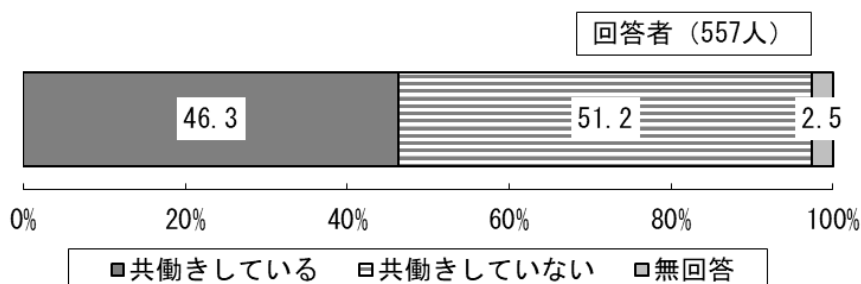
**F 5 あなたは結婚（事実婚を含む）していますか。（〇は1つ）**

結婚（事実婚を含む）の有無については、「結婚している」が72.2%、「結婚したが、現在は離婚または死別」が8.3%、「結婚していない」が18.2%となっています。



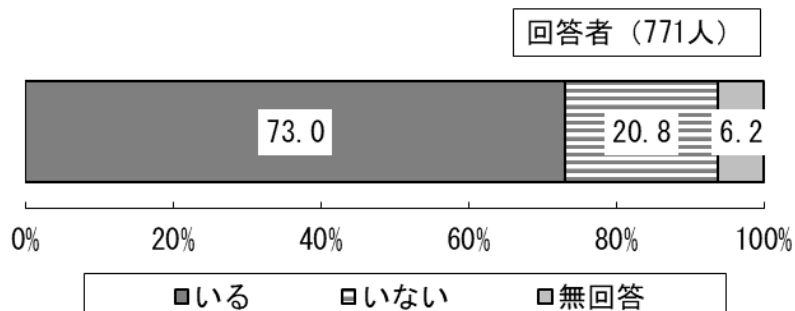
**F 5-1 あなたは共働き（パート・アルバイトを含む）をしていますか。（〇は1つ）**

共働き（パート・アルバイトを含む）をしているかについては、「共働きしている」が46.3%、「共働きしていない」が51.2%となっています。



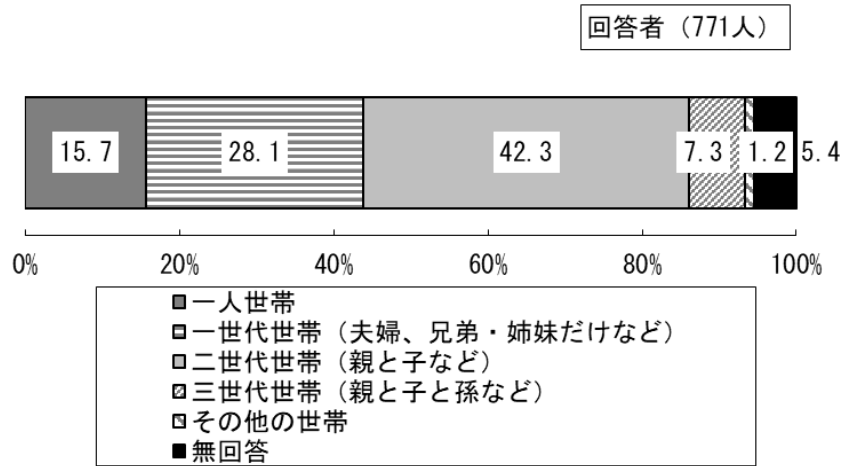
**F 6 あなたにはお子さんがいますか。（別居を含む）（〇は1つ）**

子どもがいるかについては、「いる」が73.0%、「いない」が20.8%となっています。



### F7 あなたの世帯の構成は、次のうちどれですか。（〇は1つ）

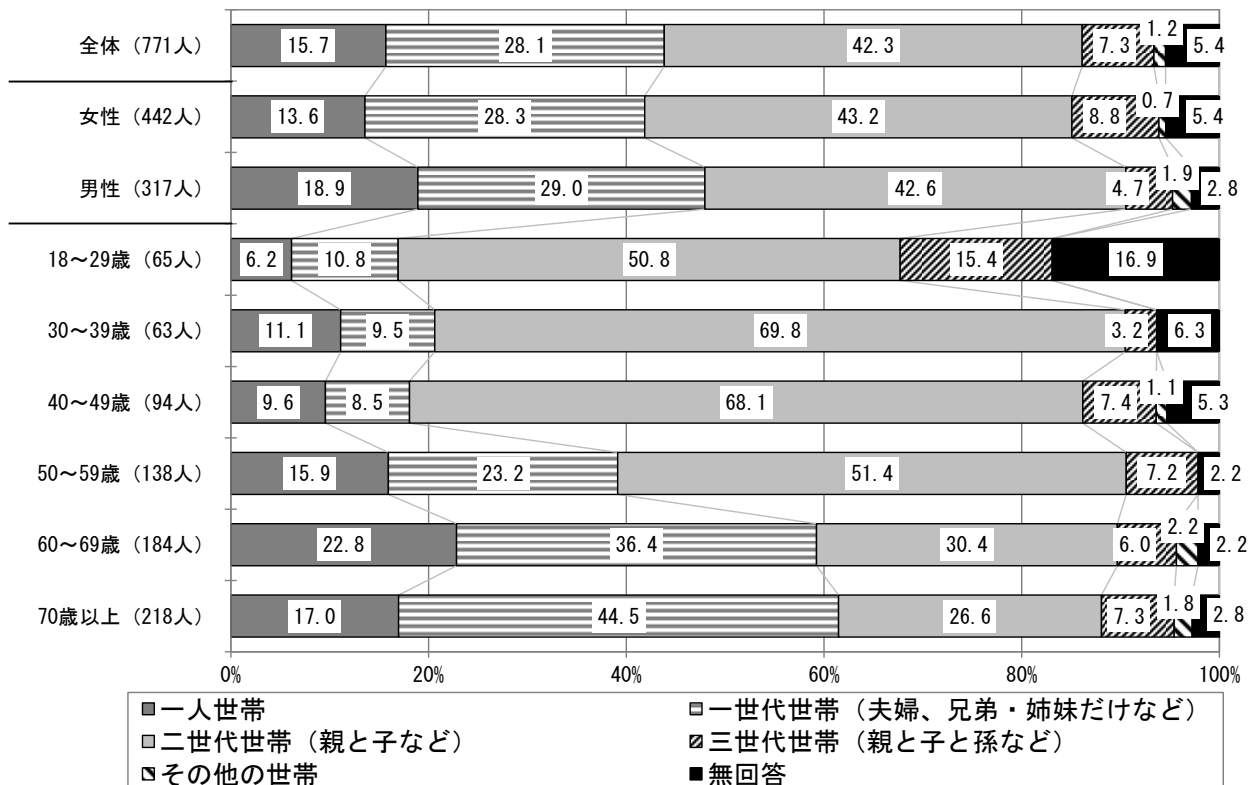
世帯の構成については、「二世帯世帯（親と子など）」が42.3%と最も多く、次いで「一世帯世帯（夫婦、兄弟・姉妹だけなど）」が28.1%、「一人世帯」が15.7%と続きます。



#### ■ 回答者属性からみる傾向

性別でみると、女性、男性とも「二世帯世帯（親と子など）」が4割を超えています。

年齢別でみると、60歳以上では「一世帯世帯（夫婦、兄弟・姉妹だけなど）」、「18～59歳では「二世帯世帯（親と子など）」が最も多くなっています。



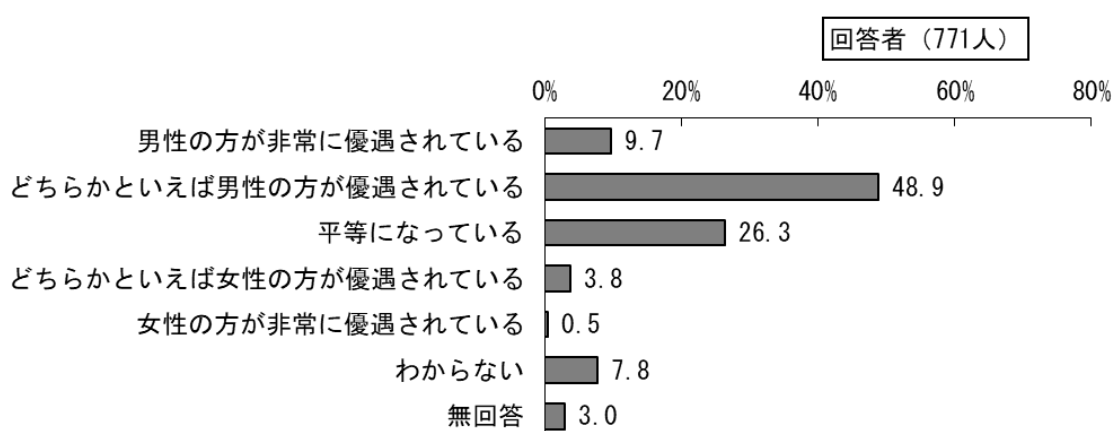
## 2. 男女平等に関する意識についておたずねします

問1 あなたは、今の日本の社会では現実として男女の地位は平等になっていると思いますか。次の各項目についてあなたのお考えに最も近いものをお答えください。

(①～⑨の各項目について、○は1つ)

### ①家庭生活

家庭生活については、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』が58.6%で、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた『女性優遇』の4.3%を54ポイント以上上回っています。



### ■ 前回調査との比較 (経年比較)

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも『男性優遇』が5割を超えています。

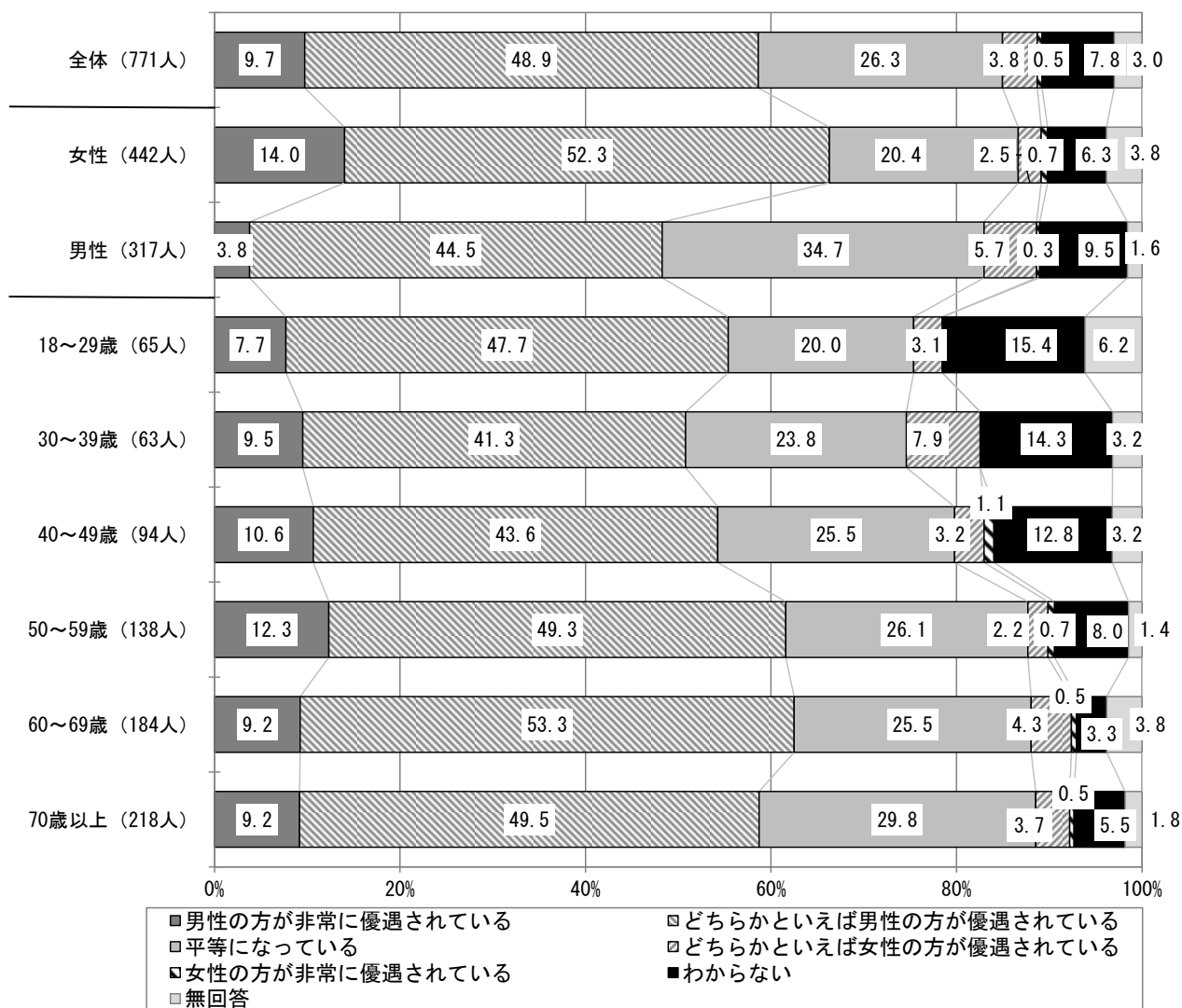
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
男性の方が非常に優遇されている	8.3	9.7	1.4
どちらかといえば男性の方が優遇されている	46.1	48.9	2.8
平等になっている	27.1	26.3	-0.8
どちらかといえば女性の方が優遇されている	5.5	3.8	-1.7
女性の方が非常に優遇されている	0.9	0.5	-0.4
わからない	9.1	7.8	-1.3
『男性優遇』	54.4	58.6	4.2
『女性優遇』	6.4	4.3	-2.1

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

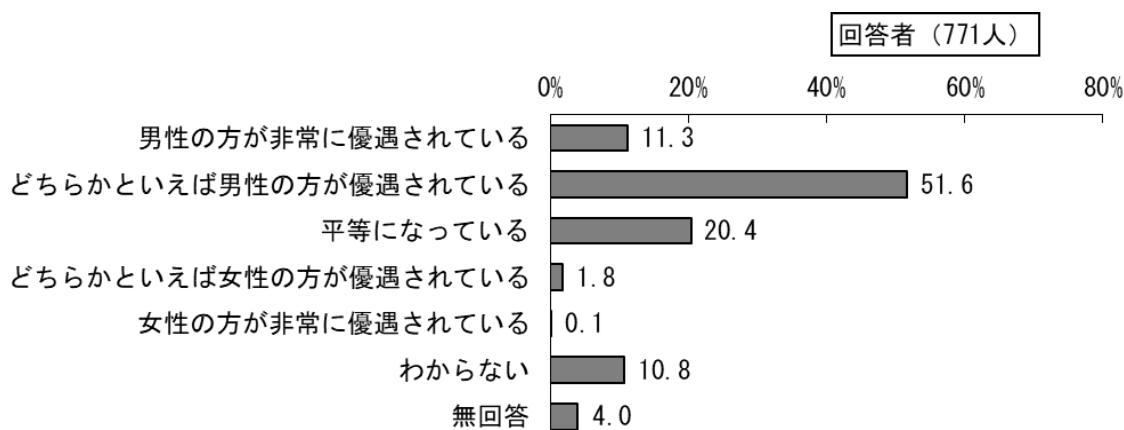
性別でみると、女性では『男性優遇』が66.3%で、男性の48.3%を18ポイント上回っています。

年齢別でみると、50～69歳では『男性優遇』が6割を超えています。



## ②就労の機会（募集や採用の条件等）

就労の機会については、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』が62.9%で、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた『女性優遇』の1.9%を61ポイント上回っています。



## ■ 前回調査との比較（経年比較）

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも『男性優遇』が5割を超えています。

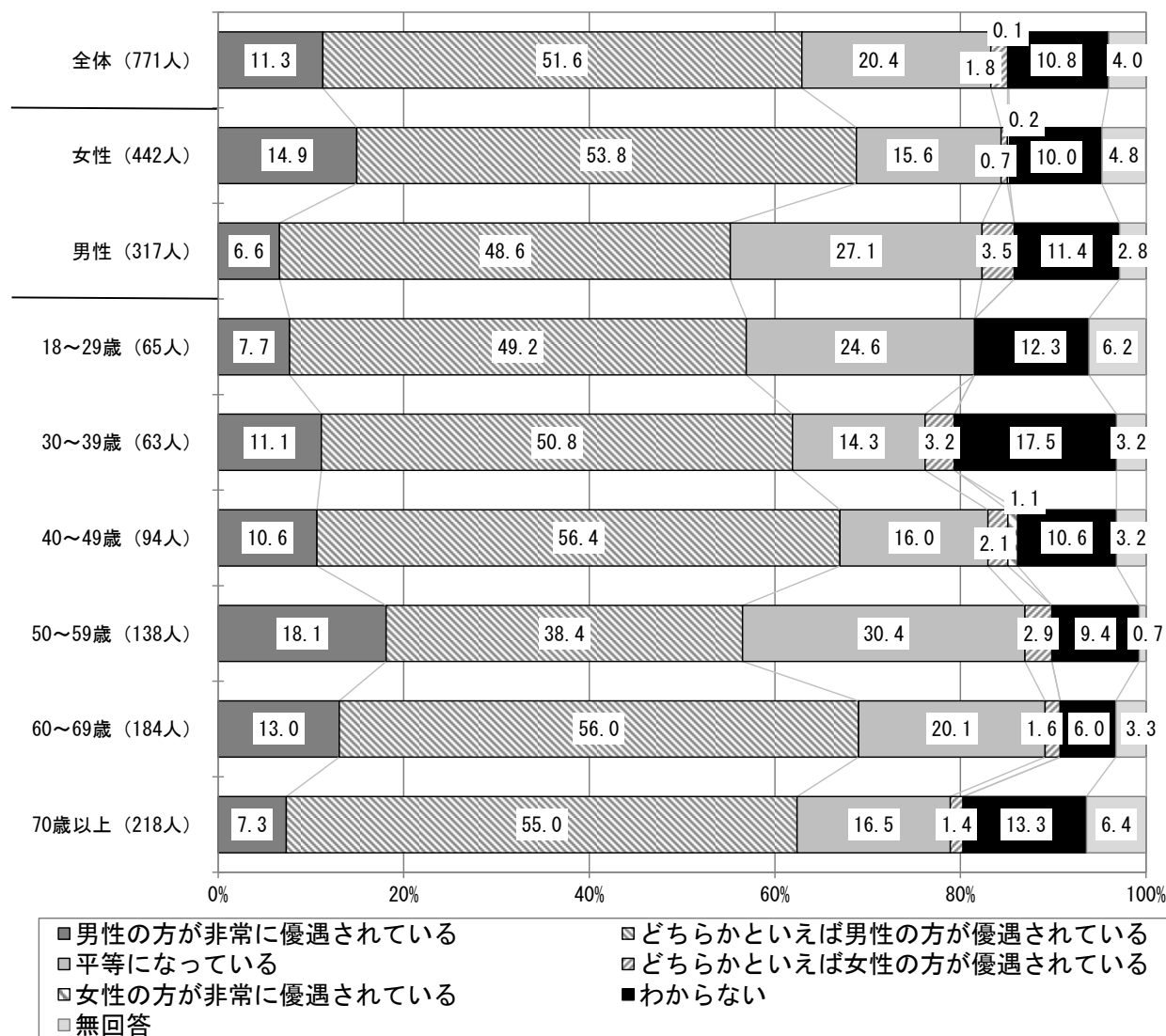
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回（A）	今回（B）	比率変化 （B - A）
男性の方が非常に優遇されている	8.8	11.3	2.5
どちらかといえば男性の方が優遇されている	50.2	51.6	1.4
平等になっている	21.3	20.4	-0.9
どちらかといえば女性の方が優遇されている	1.3	1.8	0.5
女性の方が非常に優遇されている	0.6	0.1	-0.5
わからない	12.7	10.8	-1.9
『男性優遇』	59.0	62.9	3.9
『女性優遇』	1.9	1.9	0.0

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

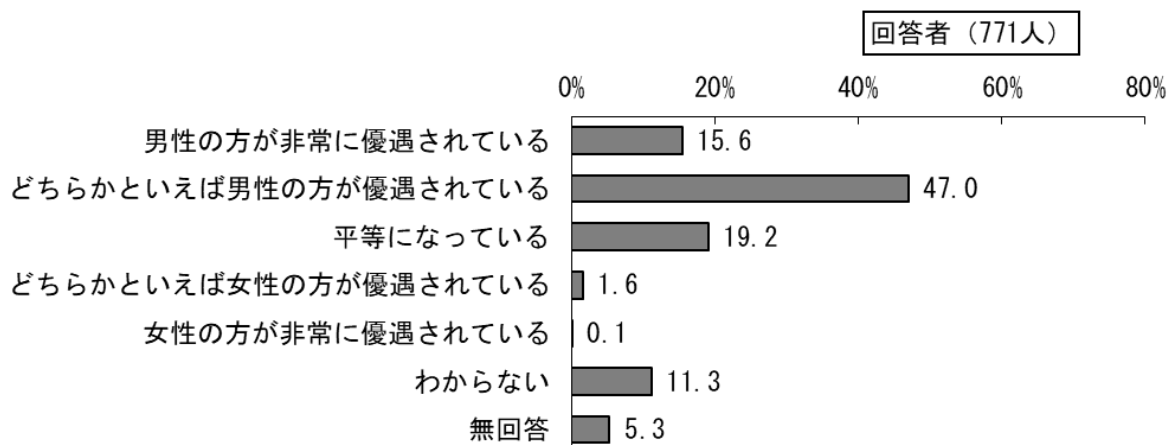
性別で見ると、女性では『男性優遇』が68.7%で、男性の55.2%を13ポイント以上上回っています。

年齢別で見ると、30～49歳、60歳以上では『男性優遇』が6割を超えています。



### ③職場の状況（賃金、仕事内容等）

職場の状況については、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』が62.6%で、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた『女性優遇』の1.7%を61ポイント近く上回っています。



### ■ 前回調査との比較（経年比較）

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも『男性優遇』が6割を超えています。

・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
男性の方が非常に優遇されている	13.5	15.6	2.1
どちらかといえば男性の方が優遇されている	48.9	47.0	-1.9
平等になっている	15.8	19.2	3.4
どちらかといえば女性の方が優遇されている	2.8	1.6	-1.2
女性の方が非常に優遇されている	0.6	0.1	-0.5
わからない	12.2	11.3	-0.9
『男性優遇』	62.4	62.6	0.2
『女性優遇』	3.4	1.7	-1.7

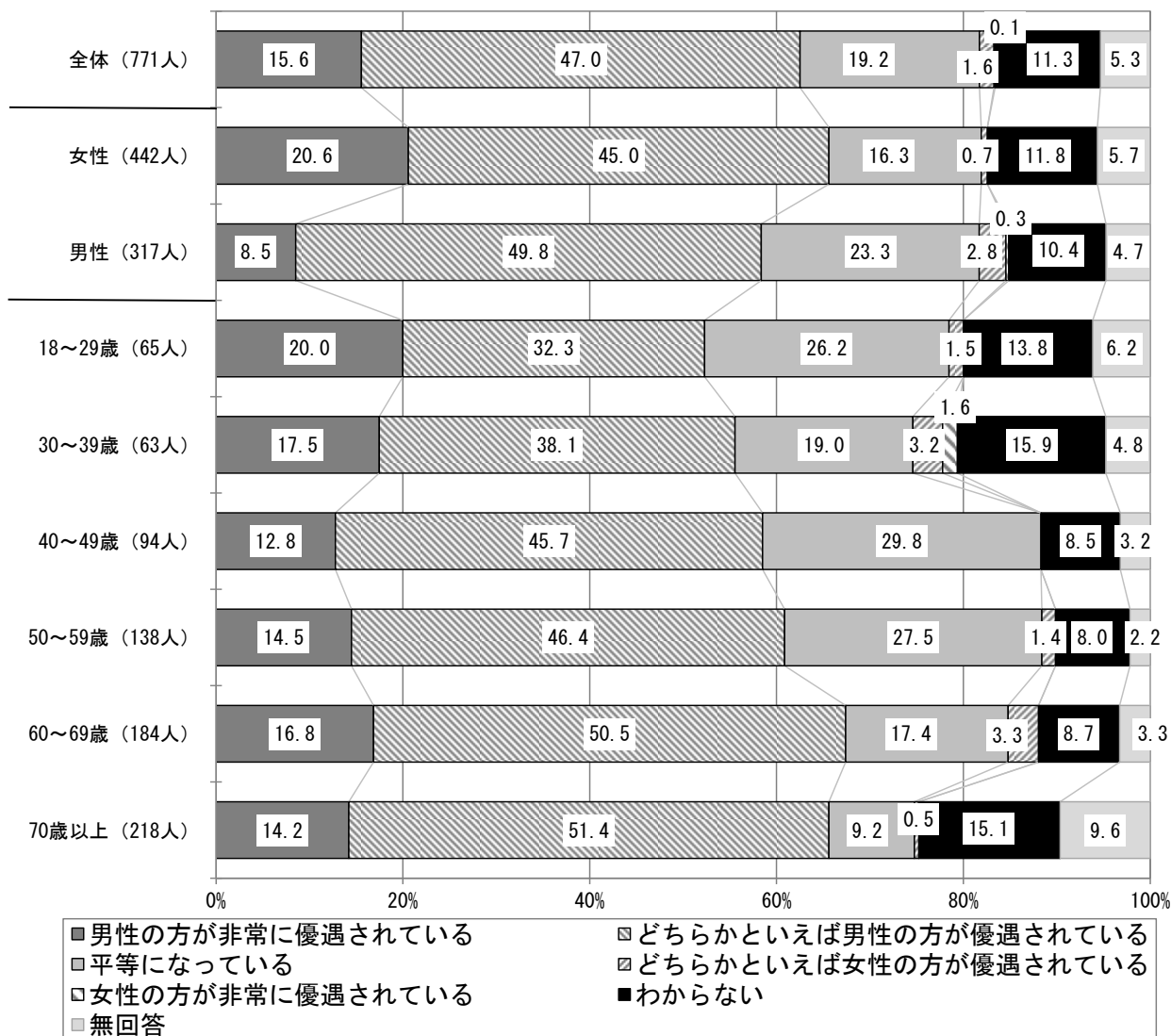
※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。



## ■ 回答者属性からみる傾向

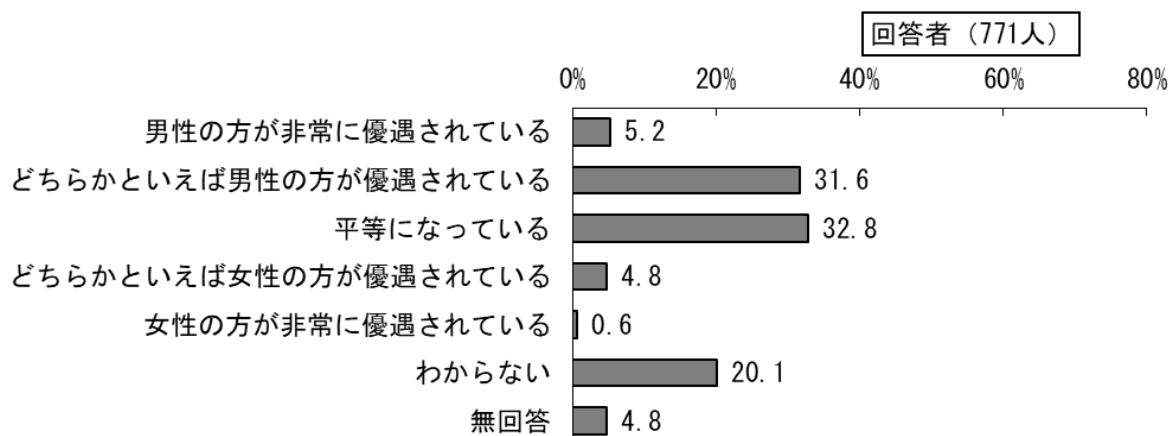
性別でみると、女性では『男性優遇』が65.6%で、男性の58.3%を7ポイント以上上回っています。

年齢別でみると、50歳以上では『男性優遇』が6割を超えています。



#### ④地域活動の場（自治会・PTA など）

地域活動の場については、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』が36.8%で、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた『女性優遇』の5.4%を31ポイント以上上回っています。また、「平等になっている」が3割を超えています。



#### ■ 前回調査との比較（経年比較）

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも『男性優遇』が3割を超えています。また、「平等になっている」も3割を超えています。

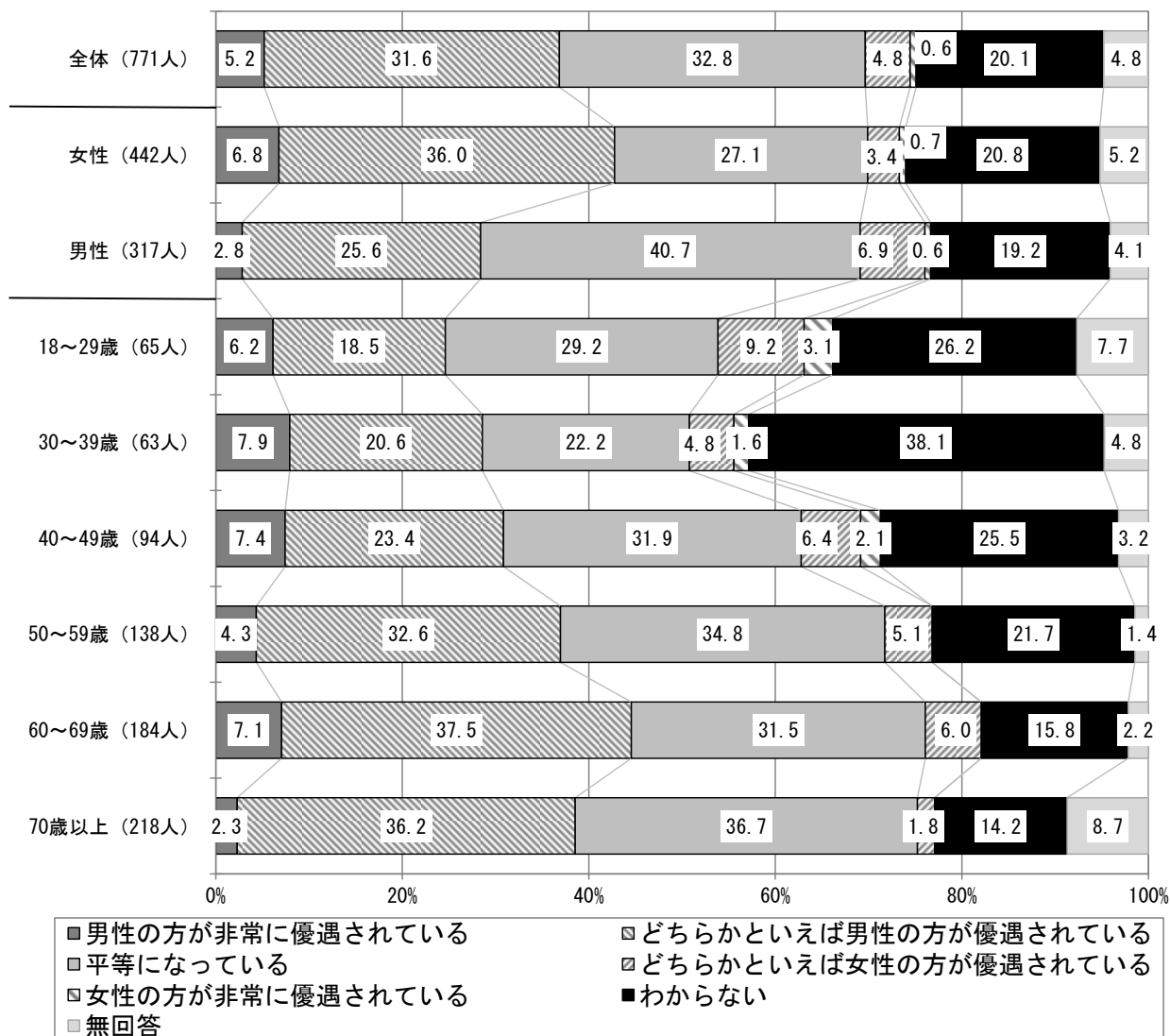
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回（A）	今回（B）	比率変化 （B－A）
男性の方が非常に優遇されている	5.0	5.2	0.2
どちらかといえば男性の方が優遇されている	28.2	31.6	3.4
平等になっている	34.6	32.8	-1.8
どちらかといえば女性の方が優遇されている	6.0	4.8	-1.2
女性の方が非常に優遇されている	0.8	0.6	-0.2
わからない	20.2	20.1	-0.1
『男性優遇』	33.2	36.8	3.6
『女性優遇』	6.8	5.4	-1.4

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

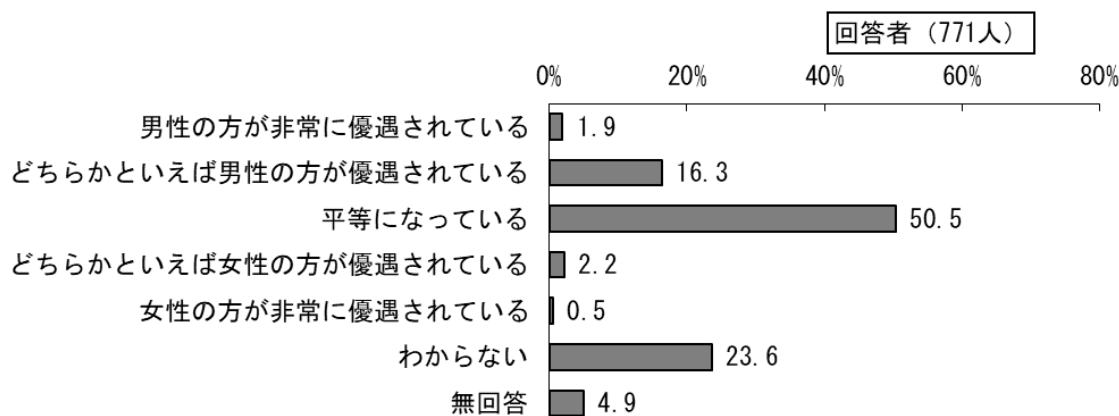
性別で見ると、女性では『男性優遇』が42.8%で男性の28.4%を14ポイント以上上回っています。

年齢別で見ると、40歳以上では「平等になっている」が3割を超えています。



## ⑤学校教育の場

学校教育の場については、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』が18.2%で、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた『女性優遇』の2.7%を15ポイント以上上回っていますが、「平等になっている」が5割を超えています。



### ■ 前回調査との比較（経年比較）

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも「平等になっている」が5割を超えています。

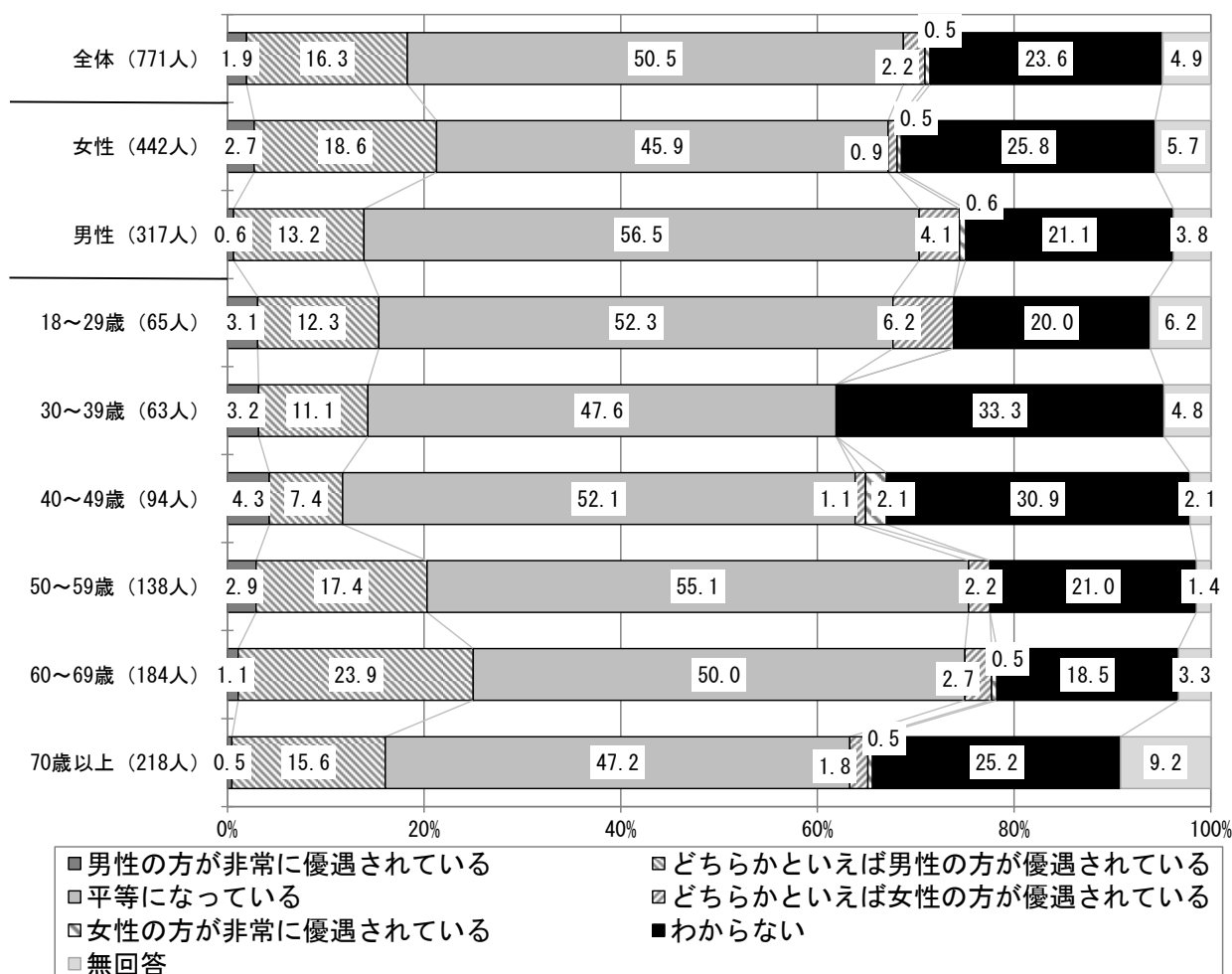
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
男性の方が非常に優遇されている	1.7	1.9	0.2
どちらかといえば男性の方が優遇されている	11.4	16.3	4.9
平等になっている	53.6	50.5	-3.1
どちらかといえば女性の方が優遇されている	2.5	2.2	-0.3
女性の方が非常に優遇されている	0.8	0.5	-0.3
わからない	24.5	23.6	-0.9
『男性優遇』	13.1	18.2	5.1
『女性優遇』	3.3	2.7	-0.6

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

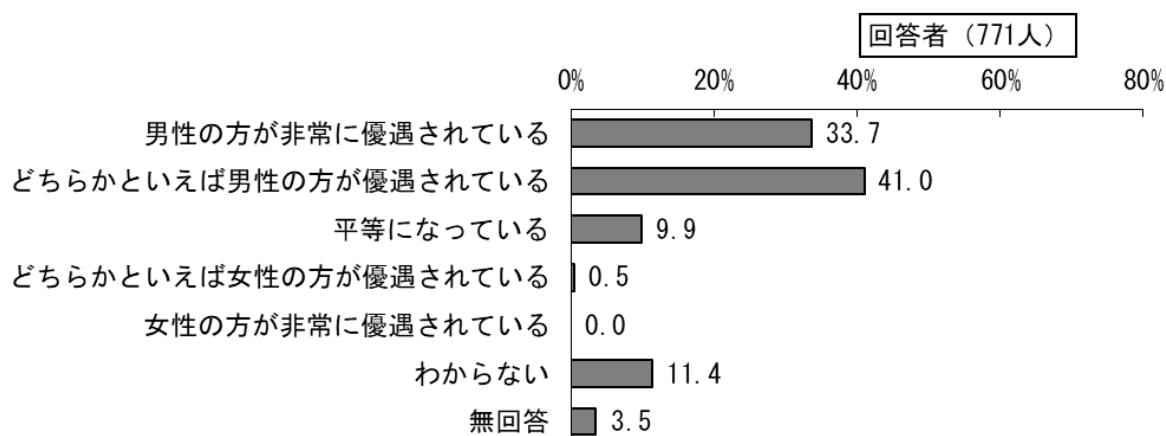
性別で見ると、女性では『男性優遇』が21.3%で、男性の13.8%を7ポイント以上上回っていますが、女性、男性とも「平等になっている」が5割前後となっています。

年齢別で見ると、18～29歳、40～69歳では「平等になっている」が5割を超えています。



## ⑥政治の場

政治の場については、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』が74.7%で、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた『女性優遇』の0.5%を74ポイント以上上回っています。



### ■ 前回調査との比較（経年比較）

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも『男性優遇』が6割を超えています。

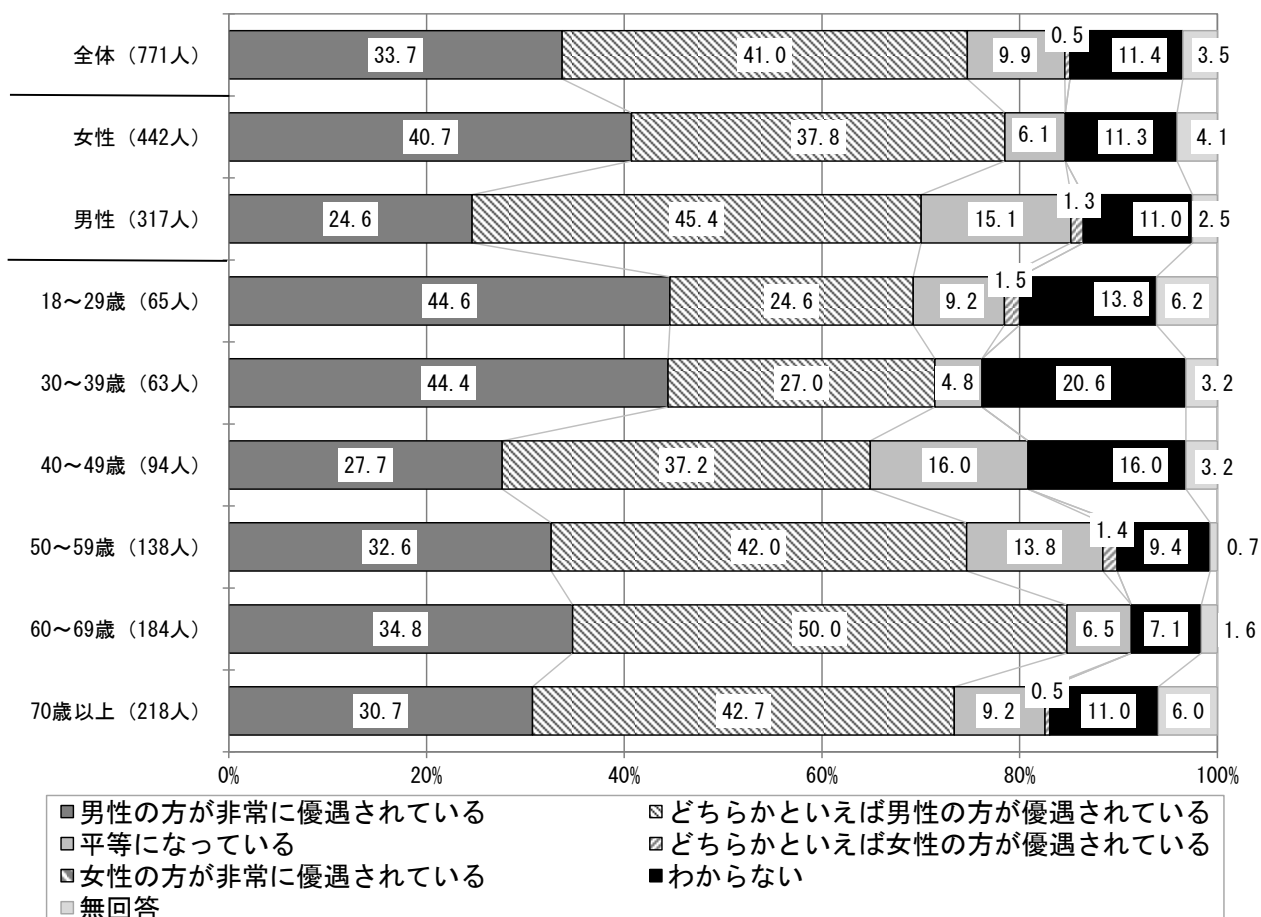
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
男性の方が非常に優遇されている	24.5	33.7	9.2
どちらかといえば男性の方が優遇されている	45.0	41.0	-4.0
平等になっている	11.8	9.9	-1.9
どちらかといえば女性の方が優遇されている	0.6	0.5	-0.1
女性の方が非常に優遇されている	0.6	0.0	-0.6
わからない	12.1	11.4	-0.7
『男性優遇』	69.5	74.7	5.2
『女性優遇』	1.2	0.5	-0.7

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

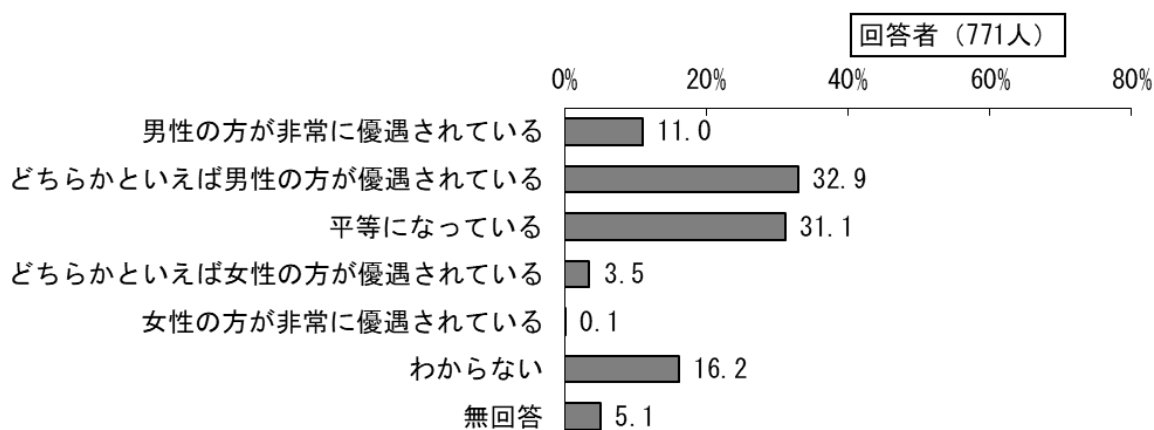
性別で見ると、女性では『男性優遇』が78.5%で男性の70.0%を8ポイント以上上回っています。

年齢別で見ると、30～39歳、50歳以上では『男性優遇』が7割を超えています。



## ⑦法律や制度

法律や制度については、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』が43.9%で、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた『女性優遇』の3.6%を40ポイント以上上回っています。



### ■ 前回調査との比較（経年比較）

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも『男性優遇』が3割を超えています、「平等になっている」も3割を超えています。

・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
男性の方が非常に優遇されている	10.2	11.0	0.8
どちらかといえば男性の方が優遇されている	29.5	32.9	3.4
平等になっている	31.5	31.1	-0.4
どちらかといえば女性の方が優遇されている	3.4	3.5	0.1
女性の方が非常に優遇されている	0.8	0.1	-0.7
わからない	18.8	16.2	-2.6
『男性優遇』	39.7	43.9	4.2
『女性優遇』	4.2	3.6	-0.6

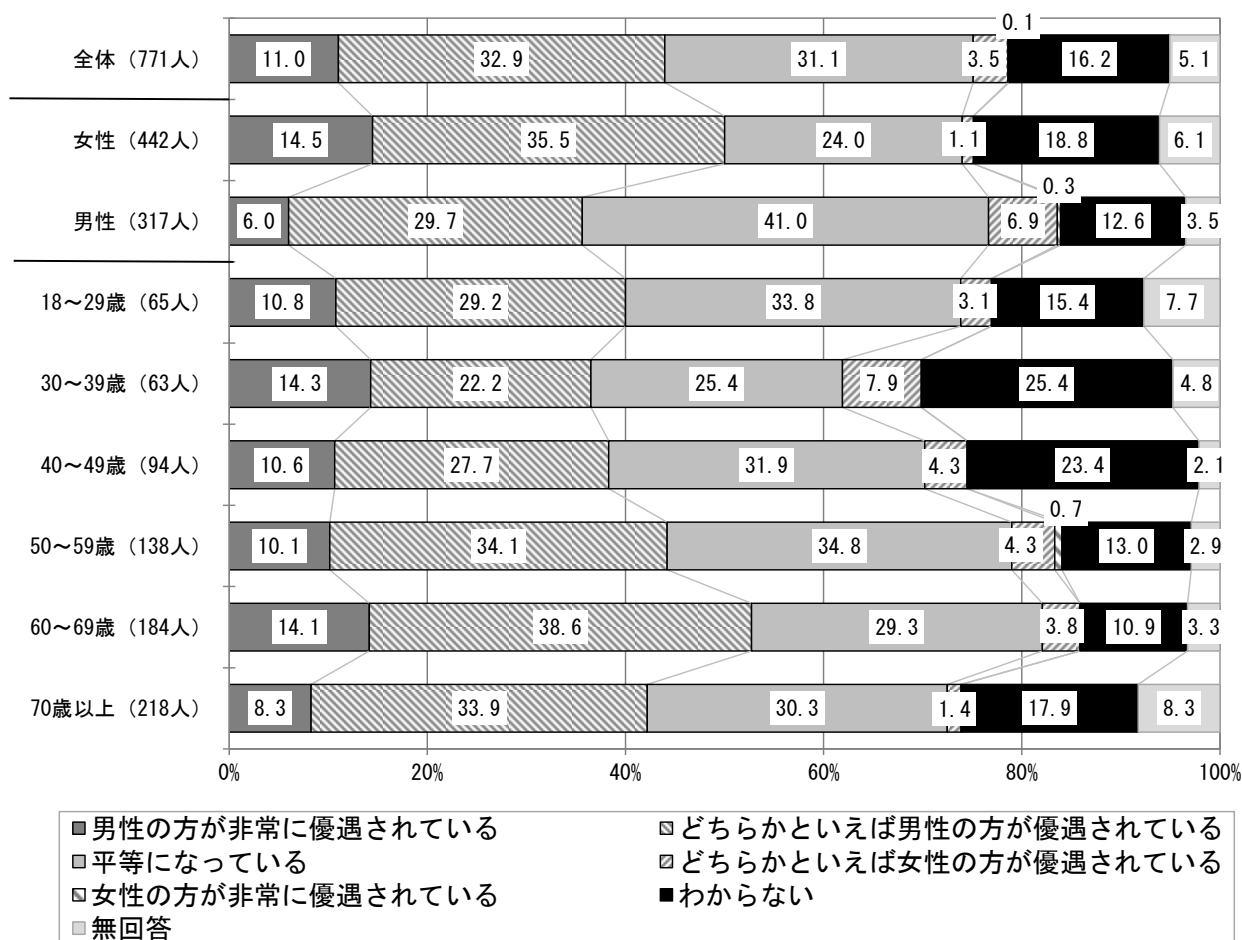
※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。



## ■ 回答者属性からみる傾向

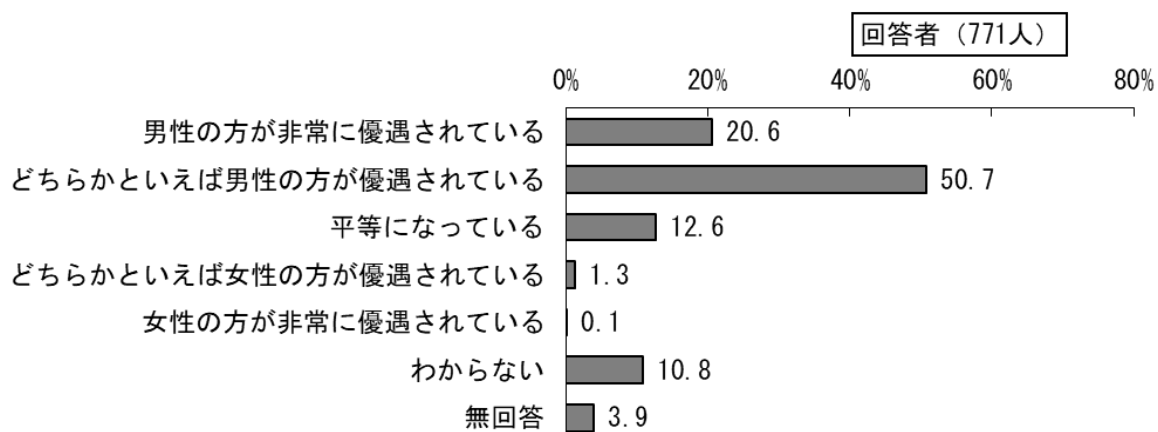
性別で見ると、女性では『男性優遇』が50.0%で、男性の35.7%を14ポイント以上上回っていますが、男性では「平等になっている」が4割を超えています。

年齢別で見ると、18～59歳では「平等になっている」、30～39歳では「わからない」も最も多くなっています。



## ⑧社会通念・慣習・しきたりなど

社会通念・慣習・しきたりなどについては、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』が71.3%で、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた『女性優遇』の1.4%を70ポイント近く上回っています。



### ■ 前回調査との比較（経年比較）

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも『男性優遇』が6割を超えています。

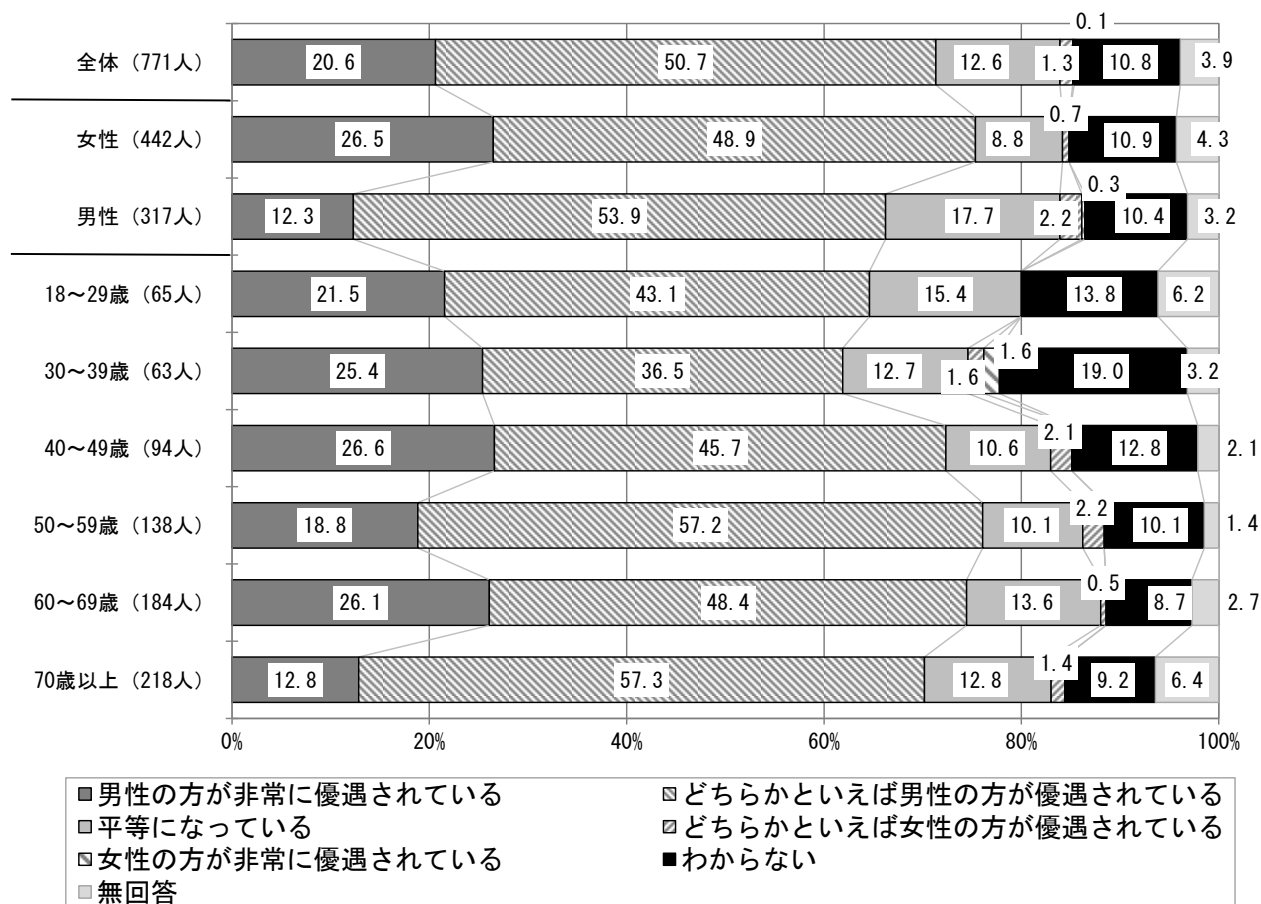
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
男性の方が非常に優遇されている	15.0	20.6	5.6
どちらかといえば男性の方が優遇されている	50.3	50.7	0.4
平等になっている	14.7	12.6	-2.1
どちらかといえば女性の方が優遇されている	1.7	1.3	-0.4
女性の方が非常に優遇されている	0.5	0.1	-0.4
わからない	13.3	10.8	-2.5
『男性優遇』	65.3	71.3	6.0
『女性優遇』	2.2	1.4	-0.8

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

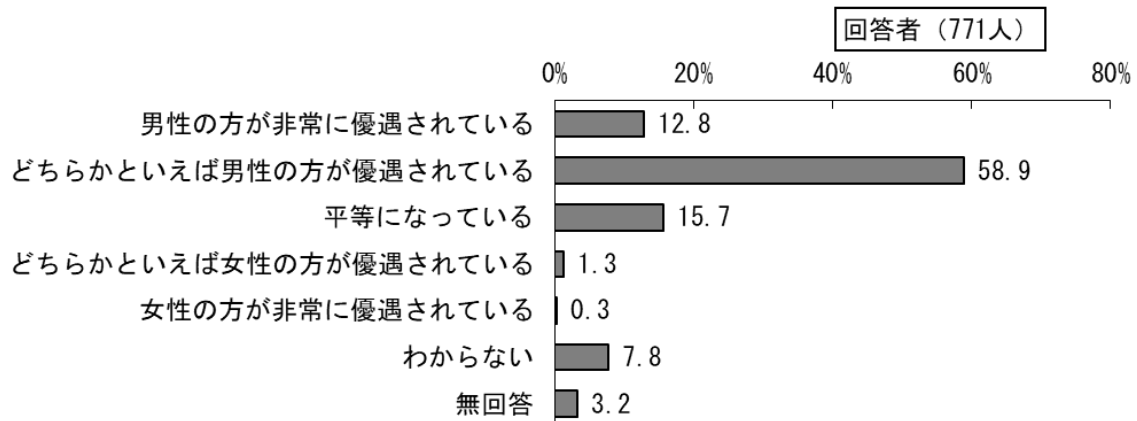
性別でみると、女性では『男性優遇』が75.4%で、男性の66.2%を9ポイント以上上回っています。

年齢別でみると、40歳以上では『男性優遇』が7割を超えています。



## ⑨社会全体として

社会全体としては、全体でみると「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』が71.7%で、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた『女性優遇』の1.6%を70ポイント以上上回っています。



### ■ 前回調査との比較（経年比較）

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも『男性優遇』が6割を超えています。

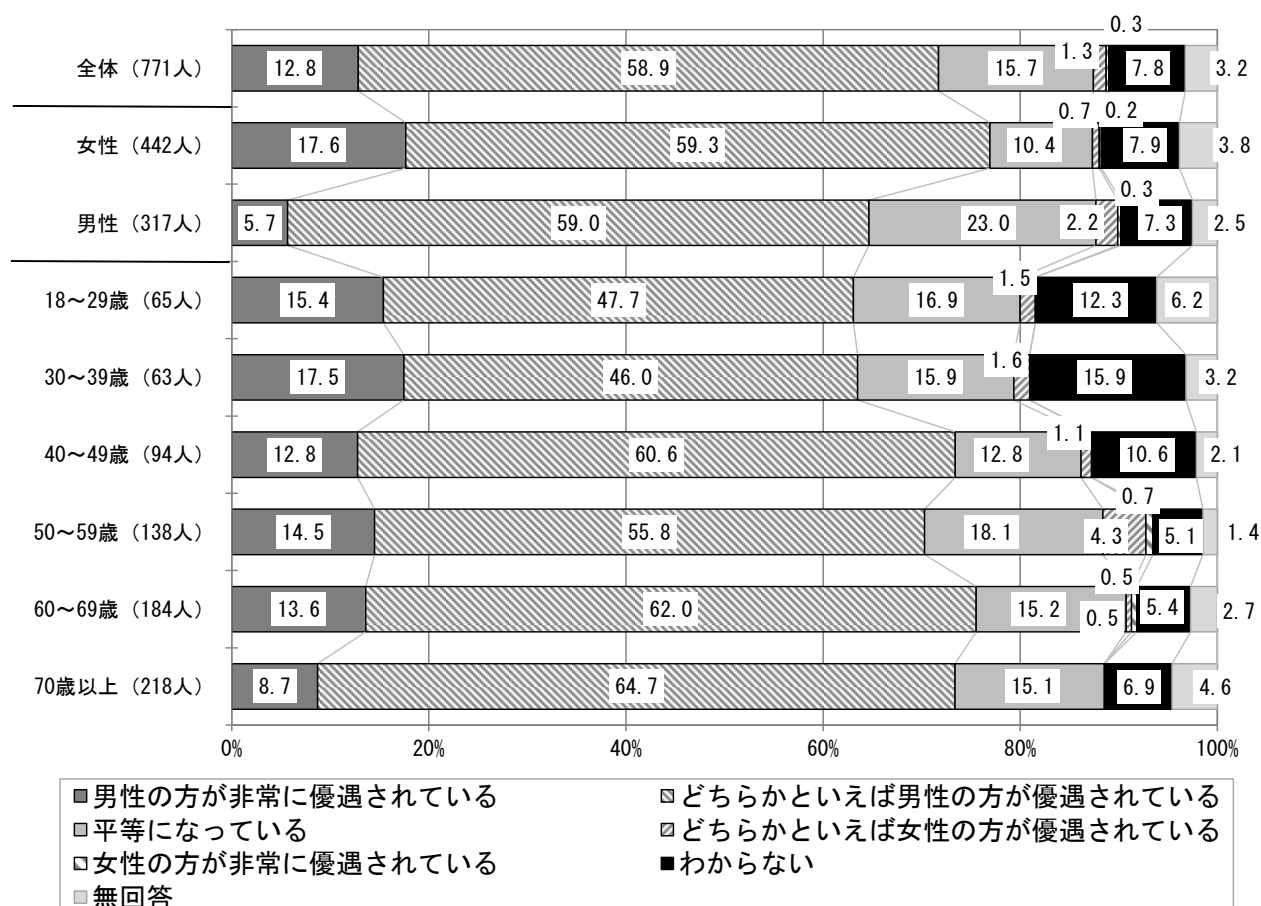
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
男性の方が非常に優遇されている	11.3	12.8	1.5
どちらかといえば男性の方が優遇されている	57.8	58.9	1.1
平等になっている	15.2	15.7	0.5
どちらかといえば女性の方が優遇されている	2.4	1.3	-1.1
女性の方が非常に優遇されている	0.5	0.3	-0.2
わからない	8.9	7.8	-1.1
『男性優遇』	69.1	71.7	2.6
『女性優遇』	2.9	1.6	-1.3

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

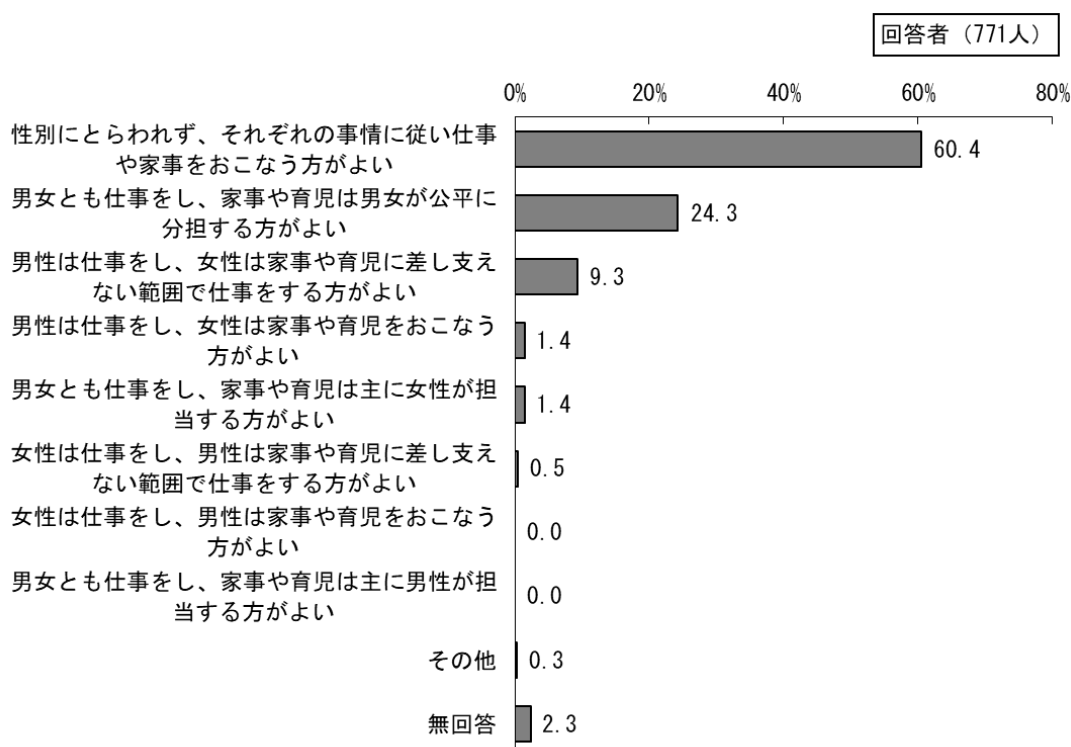
性別で見ると、女性では『男性優遇』が76.9%で、男性の64.7%を12ポイント以上上回っています。

年齢別で見ると、40歳以上では『男性優遇』が7割を超えています。



## 問2 仕事、家事や育児について、あなたはどのようにお考えですか。（〇は1つ）

仕事、家事や育児についてどのように考えているかについては、「性別にとらわれず、それぞれの事情に従い仕事や家事をおこなう方がよい」が60.4%と最も多く、次いで「男女とも仕事をし、家事や育児は男女が公平に分担する方がよい」が24.3%と続きます。



### ■ 前回調査との比較（上位5項目を経年比較）

前回調査と上位5項目を比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも「性別にとらわれず、それぞれの事情に従い仕事や家事をおこなう方がよい」が5割を超えています。

・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
性別にとらわれず、それぞれの事情に従い仕事や家事をおこなう方がよい	50.5	60.4	9.9
男女とも仕事をし、家事や育児は男女が公平に分担する方がよい	18.8	24.3	5.5
男性は仕事をし、女性は家事や育児に差し支えない範囲で仕事をする方がよい	17.6	9.3	-8.3
男性は仕事をし、女性は家事や育児をおこなう方がよい	6.9	1.4	-5.5
男女とも仕事をし、家事や育児は主に女性が担当する方がよい	3.3	1.4	-1.9

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としてしています。

## ■ 回答者属性からみる傾向（上位5項目）

性別でみると、女性では「性別にとらわれず、それぞれの事情に従い仕事や家事をおこなう方がよい」が63.1%で男性の55.8%を7ポイント以上上回っています。

年齢別でみると、18～59歳では「性別にとらわれず、それぞれの事情に従い仕事や家事をおこなう方がよい」が6割を超えています。

※数値は%、網掛は各区分の第1位。属性及び設問の「その他」、「無回答」は非表示

属性	区分	回答者（人）	性別にとらわれず、それぞれの事情に従い仕事や家事をおこなう方がよい	男女とも仕事をし、家事や育児は男女が公平に分担する方がよい	男性は仕事をし、女性は家事や育児に差し支えない範囲で仕事をする方がよい	男性は仕事をし、女性は家事や育児をおこなう方がよい	男女とも仕事をし、家事や育児は主に女性が担当する方がよい
	全体	771	60.4	24.3	9.3	1.4	1.4
性別	女性	442	63.1	25.6	6.1	0.9	1.1
	男性	317	55.8	22.7	14.2	2.2	1.9
年齢	18～29歳	65	66.2	26.2	0.0	0.0	0.0
	30～39歳	63	68.3	19.0	3.2	1.6	0.0
	40～49歳	94	66.0	20.2	10.6	0.0	0.0
	50～59歳	138	63.0	23.9	9.4	0.7	2.2
	60～69歳	184	57.6	28.8	8.2	2.2	0.5
	70歳以上	218	54.1	23.4	14.7	2.3	3.2

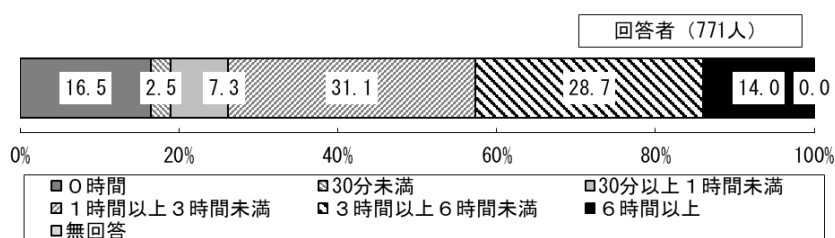
### 3. 家庭生活についておたずねします

問3 一日のうちであなたが家事・育児・介護に従事する時間はどのくらいですか。

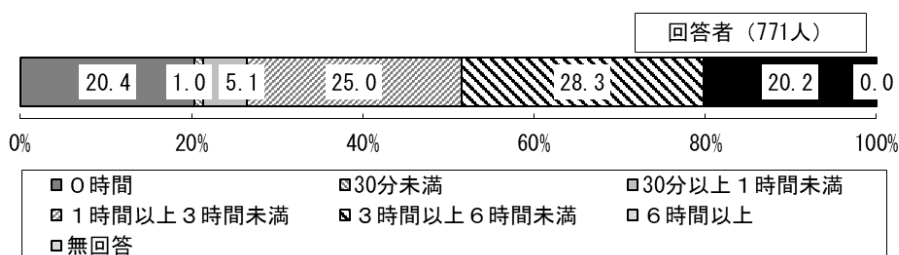
一日の中で、家事・育児・介護の時間をあわせておおよその時間をご記入ください。

一日のうちで家事・育児・介護に従事する時間については、平日では、「1時間以上3時間未満」が31.1%と最も多く、次いで「3時間以上6時間未満」が28.7%、「0時間」が16.5%と続きます。休日では、「3時間以上6時間未満」が28.3%と最も多く、次いで「1時間以上3時間未満」が25.0%、「0時間」が20.4%と続きます。

〔平日〕



〔休日〕



#### ■ 前回調査との比較 (経年比較)

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、平日の「1時間以上3時間未満」が10ポイント近く多くなり、休日の「0時間」が9ポイント近く少なくなっています。

・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示		前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B-A)
0時間	平日	24.1	16.5	-7.6
	休日	29.3	20.4	-8.9
30分未満	平日	2.2	2.5	0.3
	休日	1.6	1.0	-0.6
30分以上1時間未満	平日	7.1	7.3	0.2
	休日	3.6	5.1	1.5
1時間以上3時間未満	平日	21.3	31.1	9.8
	休日	20.1	25.0	4.9
3時間以上6時間未満	平日	27.6	28.7	1.1
	休日	24.0	28.3	4.3
6時間以上	平日	17.7	14.0	-3.7
	休日	21.5	20.2	-1.3

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としてしています。



## ■ 回答者属性からみる傾向

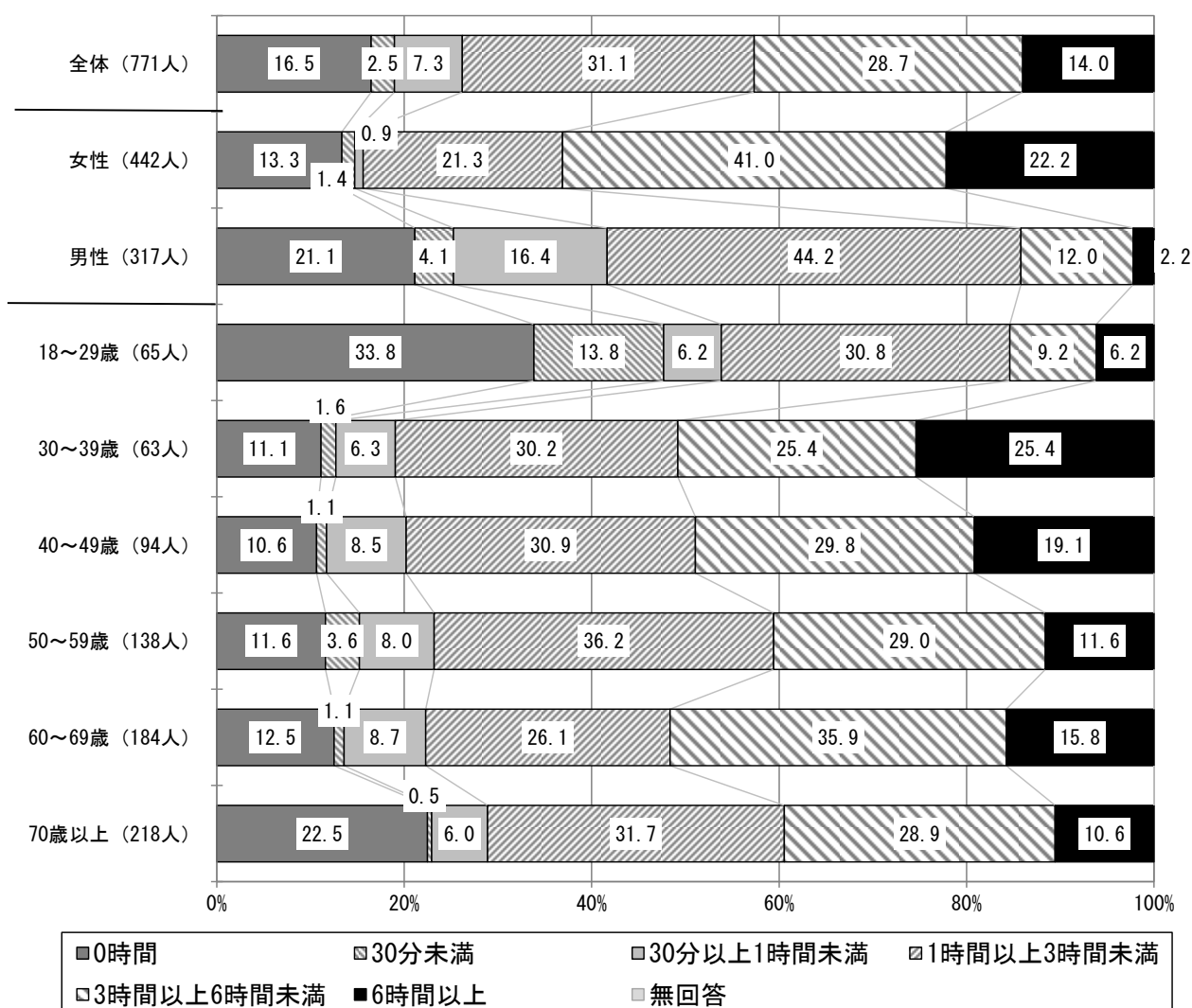
〔平日〕 性別で見ると、女性では「3時間以上6時間未満」、男性では「1時間以上3時間未満」が最も多くなっています。

年齢別で見ると、18～29歳では「0時間」、30～59歳、70歳以上では「1時間以上3時間未満」、60～69歳では「3時間以上6時間未満」が最も多くなっています。

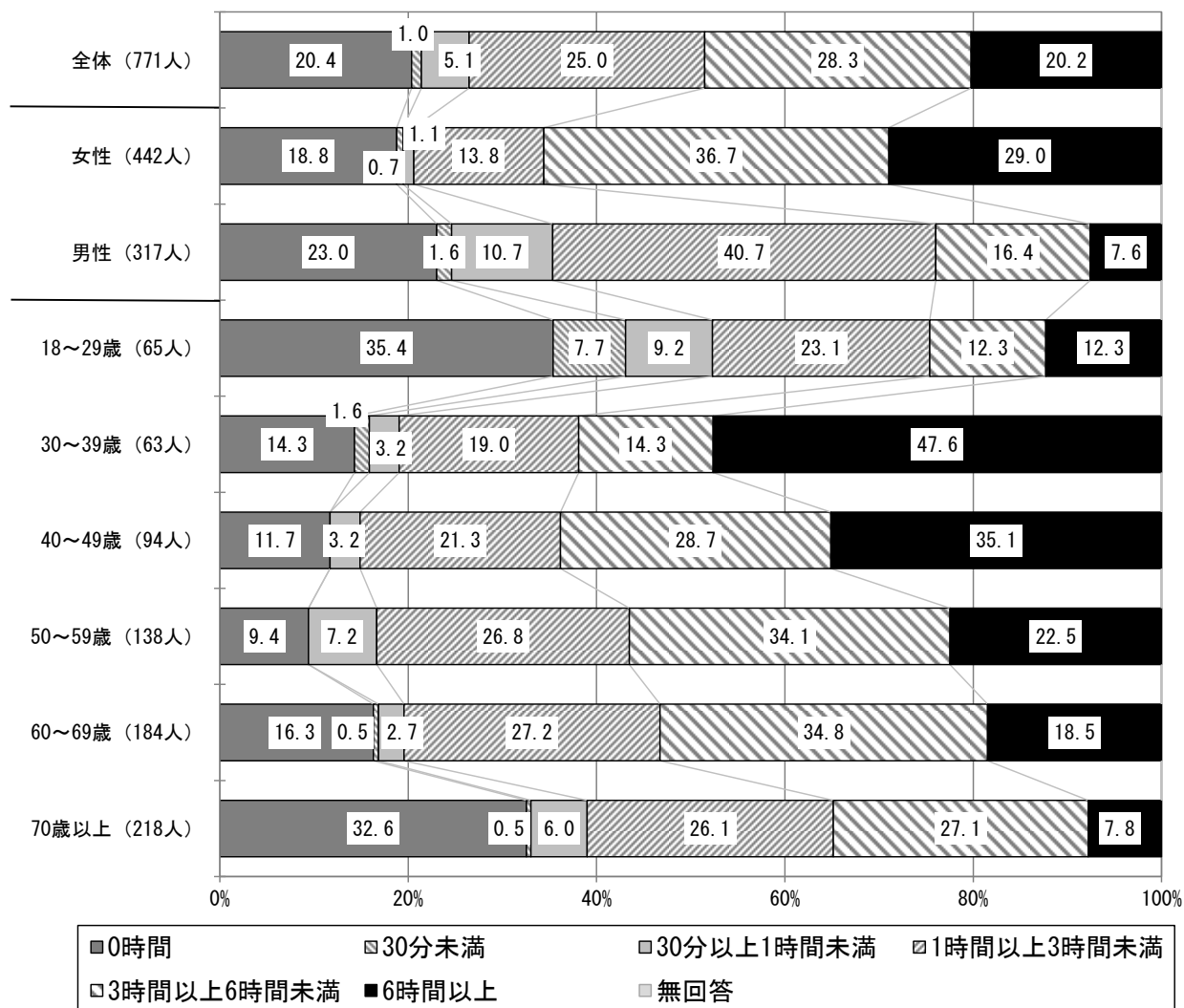
〔休日〕 性別で見ると、女性では「3時間以上6時間未満」、男性では「1時間以上3時間未満」が最も多くなっています。

年齢別で見ると、18～29歳、70歳以上では「0時間」、30～49歳では「6時間以上」、50～69歳では「3時間以上6時間未満」が最も多くなっています。

〔平日〕

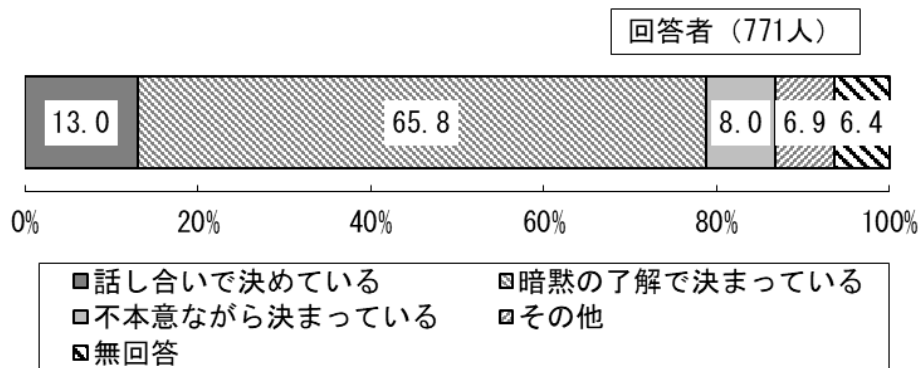


〔休日〕



#### 問4 家庭生活における今の役割分担はどのように決められましたか。(〇は1つ)

家庭生活における今の役割分担をどのように決められたかについては、「暗黙の了解で決まっている」が65.8%と最も多く、「話し合いで決めている」が13.0%と続きます。



#### ■ 前回調査との比較 (経年比較)

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも「暗黙の了解で決まっている」が6割を超えています。

・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
話し合いで決めている	11.0	13.0	2.0
暗黙の了解で決まっている	63.6	65.8	2.2
不本意ながら決まっている	8.6	8.0	-0.6

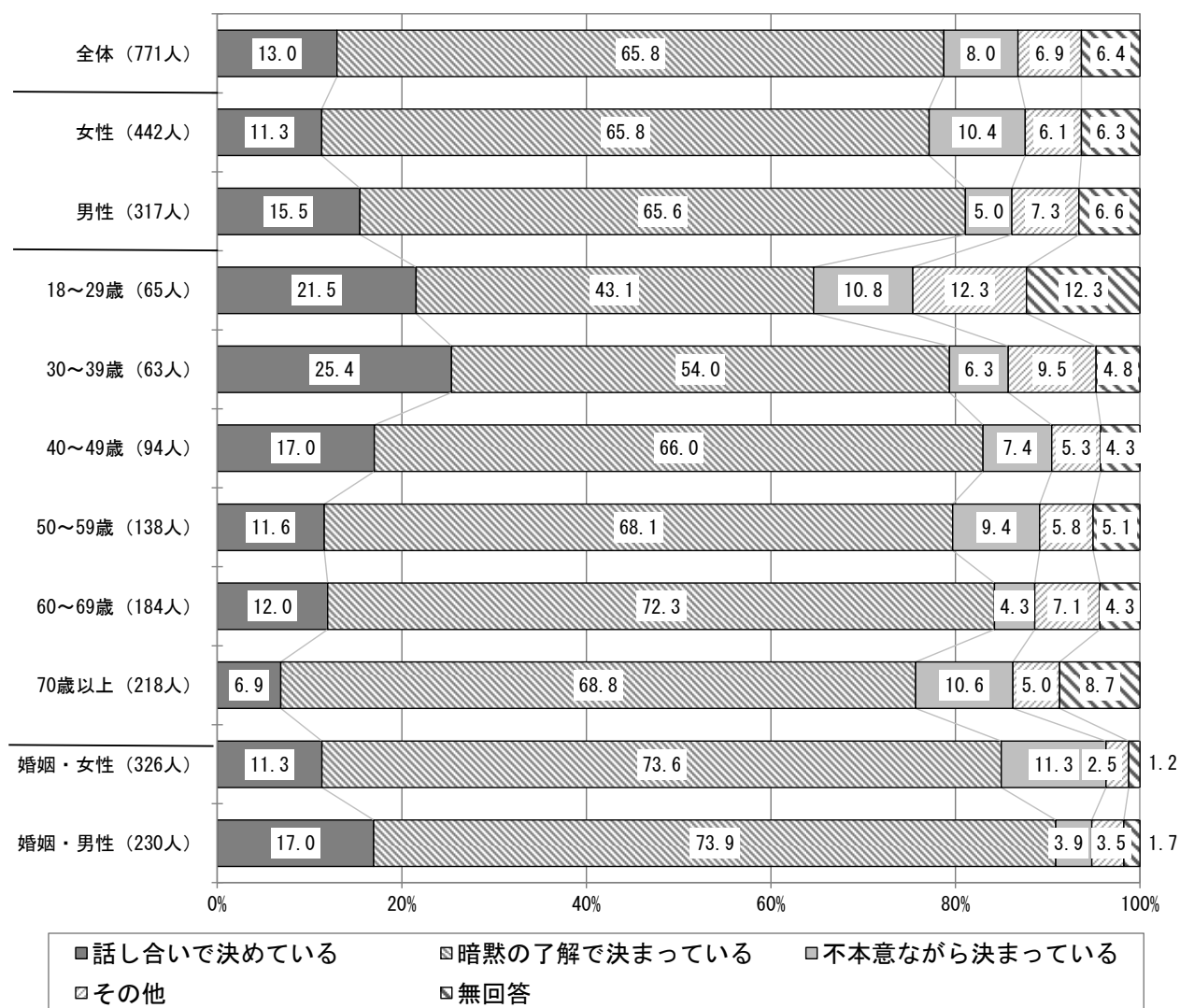
※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

性別で見ると、女性、男性とも「暗黙の了解で決まっている」が6割を超えています。

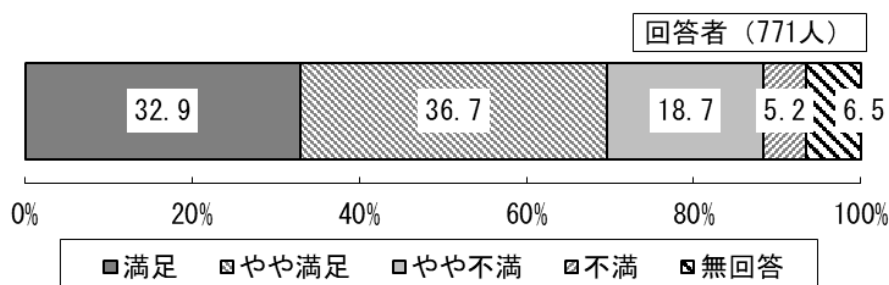
年齢別で見ると、40歳以上では「暗黙の了解で決まっている」が6割を超えています。

結婚している人の性別で見ると、女性、男性とも「暗黙の了解で決まっている」が7割を超えています。女性では「不本意ながら決まっている」が11.3%で男性の3.9%を7ポイント以上上回っています。



## 問5 家庭生活における今の役割分担についてどう思いますか。(〇は1つ)

家庭生活における今の役割分担についてどう思うかについては、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』が69.6%で、「不満」と「やや不満」を合わせた『不満』の23.9%を45ポイント以上上回っています。



### ■ 前回調査との比較 (経年比較)

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも『満足』が7割近くとなっています。

・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
満足	31.8	32.9	1.1
やや満足	37.6	36.7	-0.9
やや不満	17.7	18.7	1.0
不満	4.1	5.2	1.1
『満足』	69.4	69.6	0.2
『不満』	21.8	23.9	2.1

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

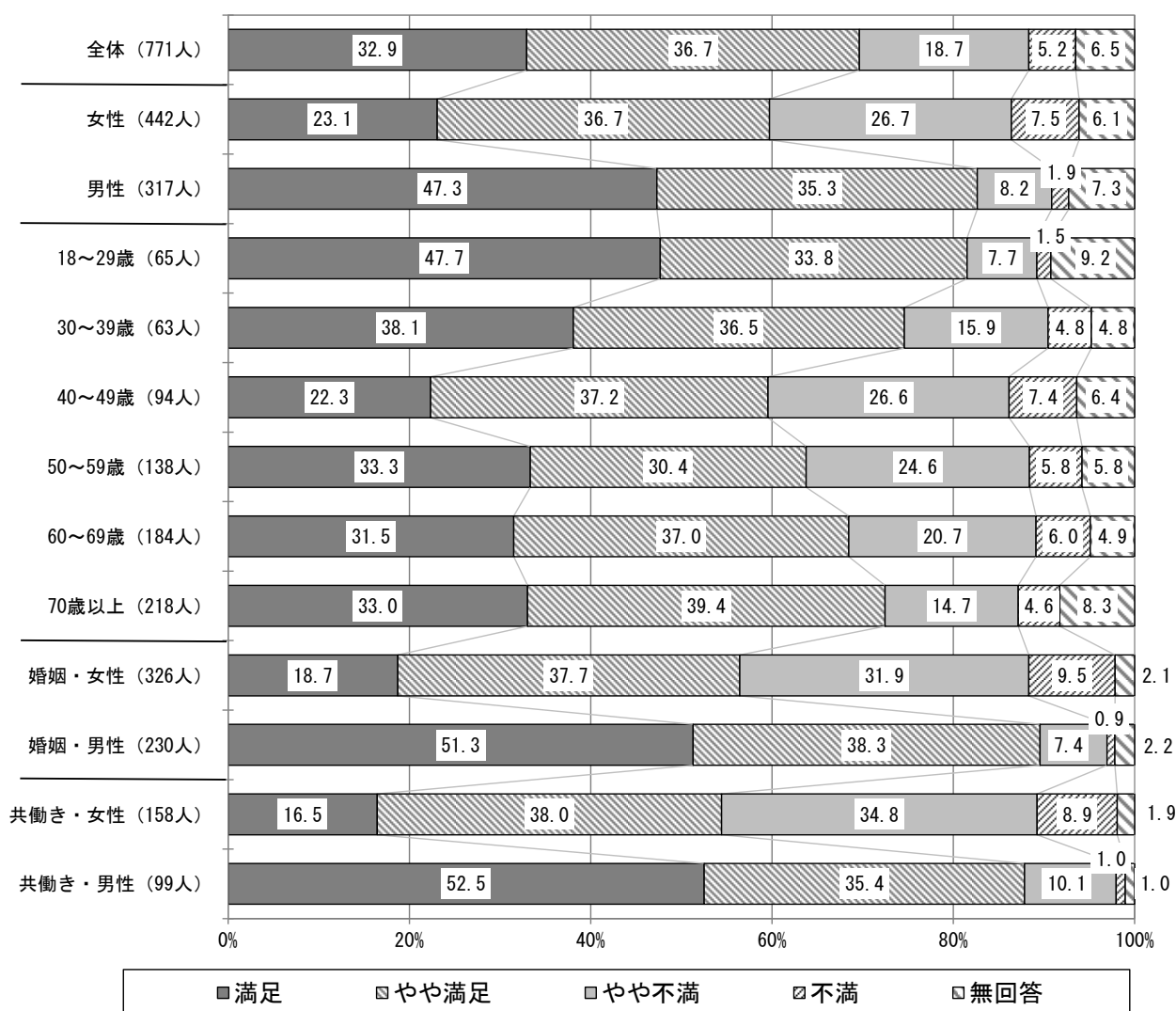
## ■ 回答者属性からみる傾向

性別でみると、女性では『不満』が34.2%で男性の10.1%を24.ポイント以上上回っており、男性では『満足』が82.6%で女性の59.8%を23ポイント近く上回っています。

年代別でみると、18～39歳、70歳以上で『満足』が7割を超えています。

結婚している人の性別でみると、女性では『不満』が41.4%で男性の8.3%を33ポイント以上上回っています。

共働きの性別でみると、女性では『不満』が43.7%で男性の11.1%を32ポイント以上上回っています。

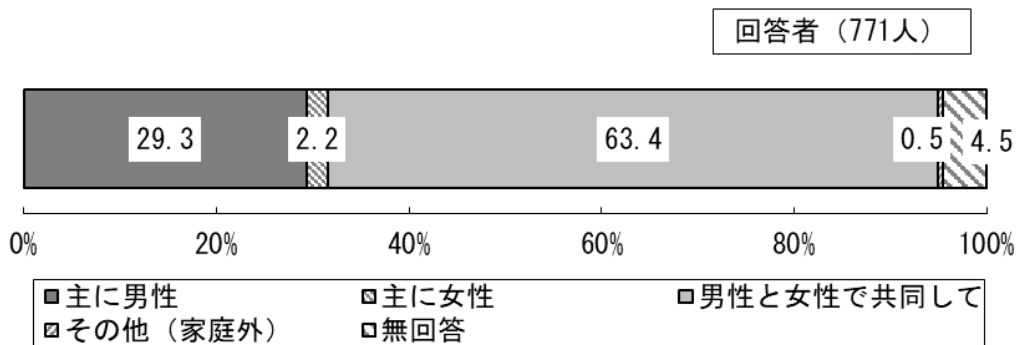


**問6 次にあげる家庭生活のことについて、男性と女性でどのように分担するのが理想だと思いませんか。(①~⑫の各項目について、○は1つ)**

※その他(家庭外)：家族からの仕送り、ホームヘルパーやベビーシッター等を想定していません。

**①収入・生活費の確保**

生活費の確保については、「男性と女性で共同して」が63.4%と最も多く、次いで「主に男性」が29.3%と続きます。



**■ 前回調査との比較(経年比較)**

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目は、「男性と女性で共同して」が13ポイント以上多くなり、「主に男性」が13ポイント以上少なくなっています。

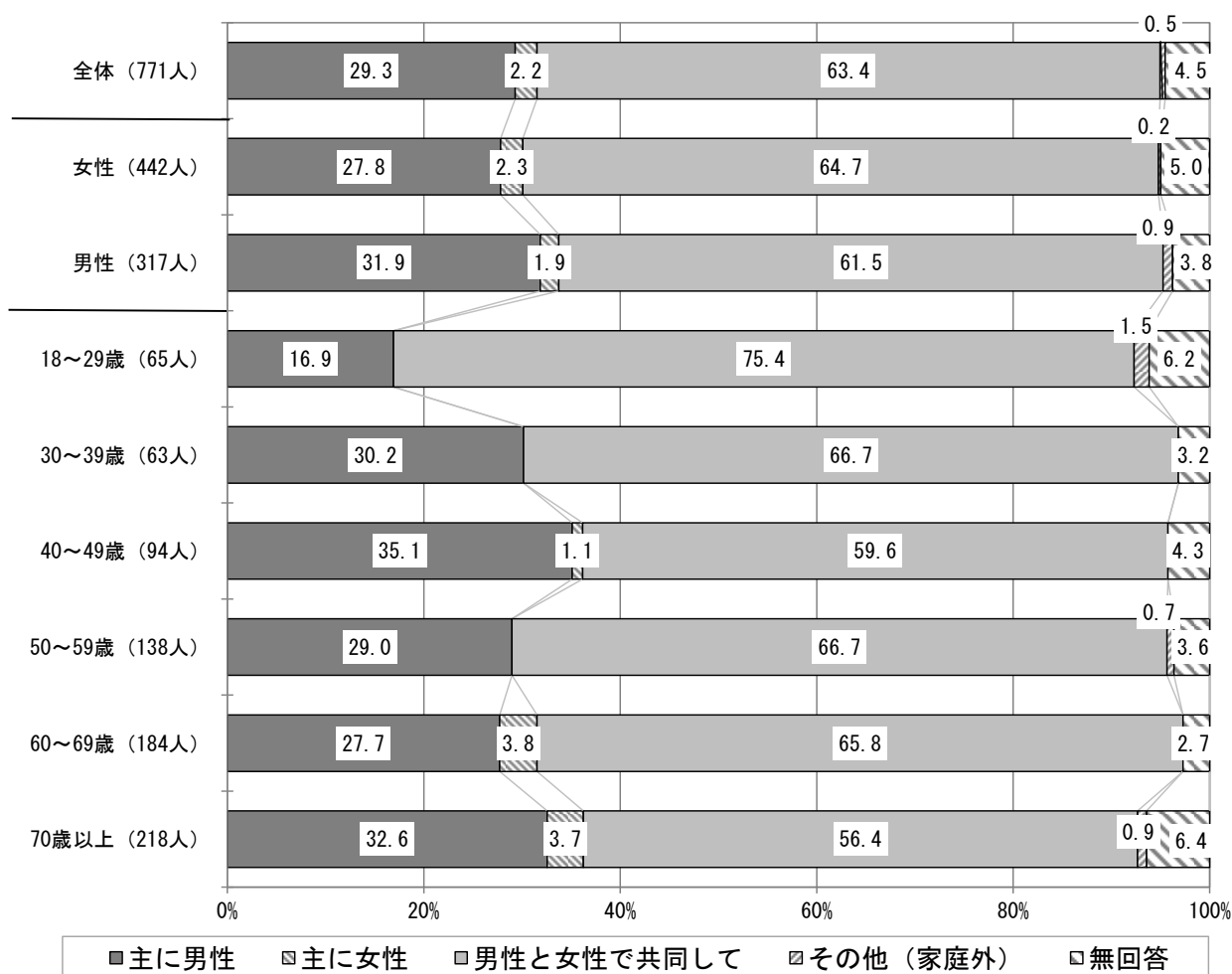
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回(A)	今回(B)	比率変化 (B-A)
主に男性	42.5	29.3	-13.2
主に女性	3.9	2.2	-1.7
男性と女性で共同して	50.3	63.4	13.1
その他(家庭外)	0.3	0.5	0.2

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

性別で見ると、女性では「男性と女性で共同して」が64.7%で男性の61.5%を3ポイント以上上回っています。

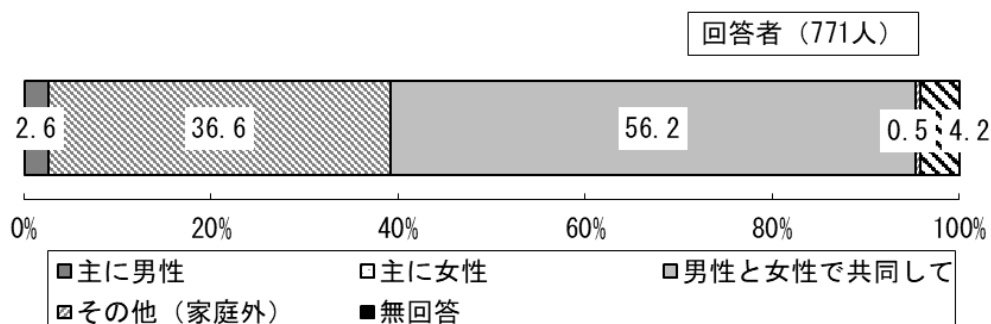
年代別で見ると、18～39歳、50～69歳では「男性と女性で共同して」が6割を超えています。





## ②日常の家計管理

日常の家計管理については、「男性と女性で共同して」が56.2%と最も多く、次いで「主に女性」が36.6%と続きます。



### ■ 前回調査との比較 (経年比較)

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目は、「男性と女性で共同して」が13ポイント以上多くなり、「主に女性」が14ポイント以上少なくなっています。

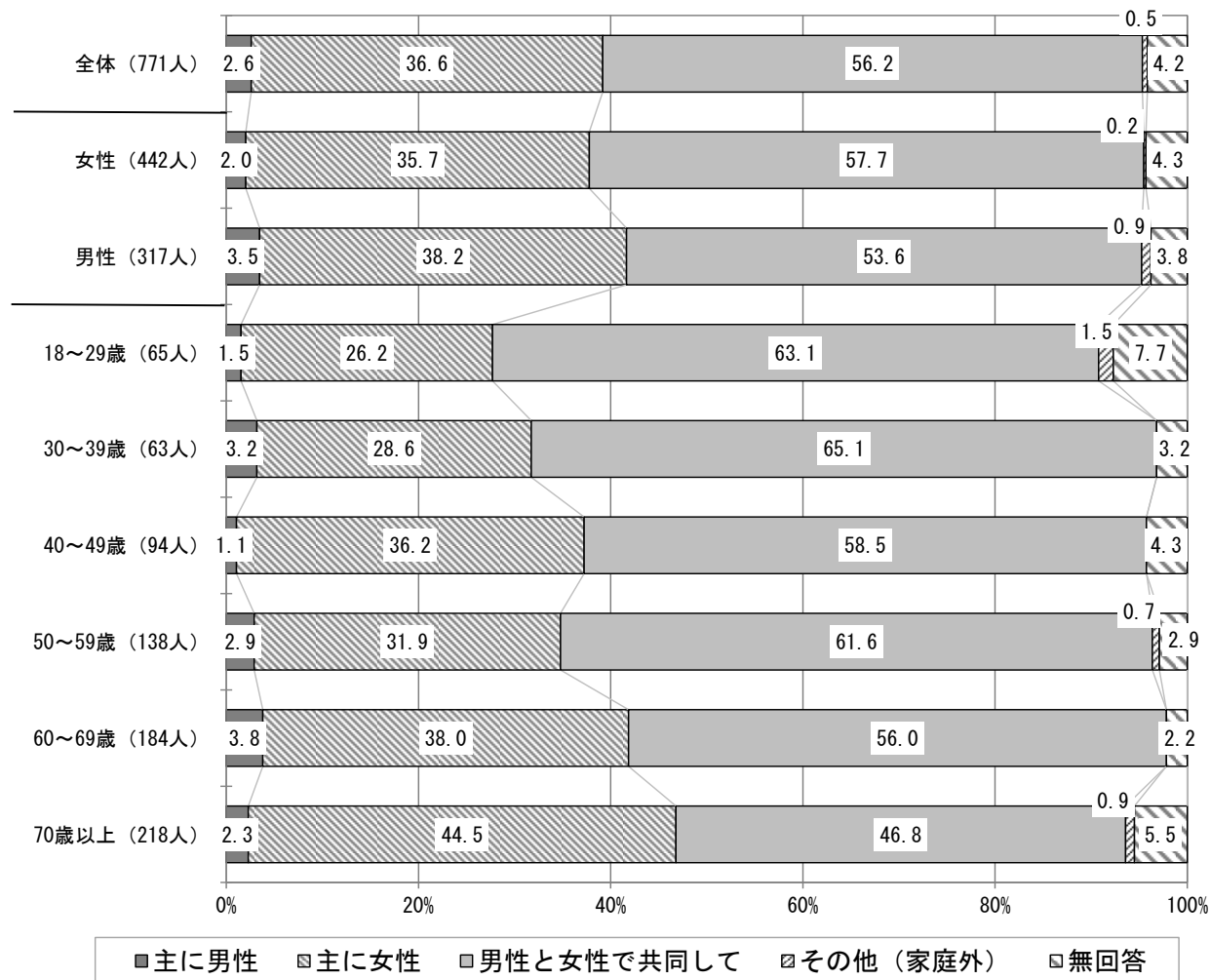
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
主に男性	3.1	2.6	-0.5
主に女性	50.8	36.6	-14.2
男性と女性で共同して	42.5	56.2	13.7
その他 (家庭外)	0.2	0.5	0.3

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

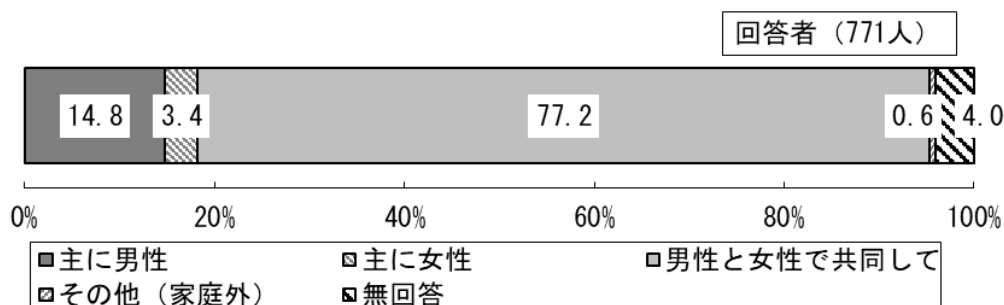
性別で見ると、女性では「男性と女性で共同して」が57.7%で男性の53.6%を4ポイント以上上回っています。

年齢別で見ると、18～39歳、50～59歳では「男性と女性で共同して」が6割を超えています。



### ③家庭における重要な決定

家庭における重要な決定については、「男性と女性で共同して」が77.2%と最も多く、次いで「主に男性」が14.8%となっています。



### ■ 前回調査との比較 (経年比較)

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも「男性と女性で共同して」が7割を超えています。

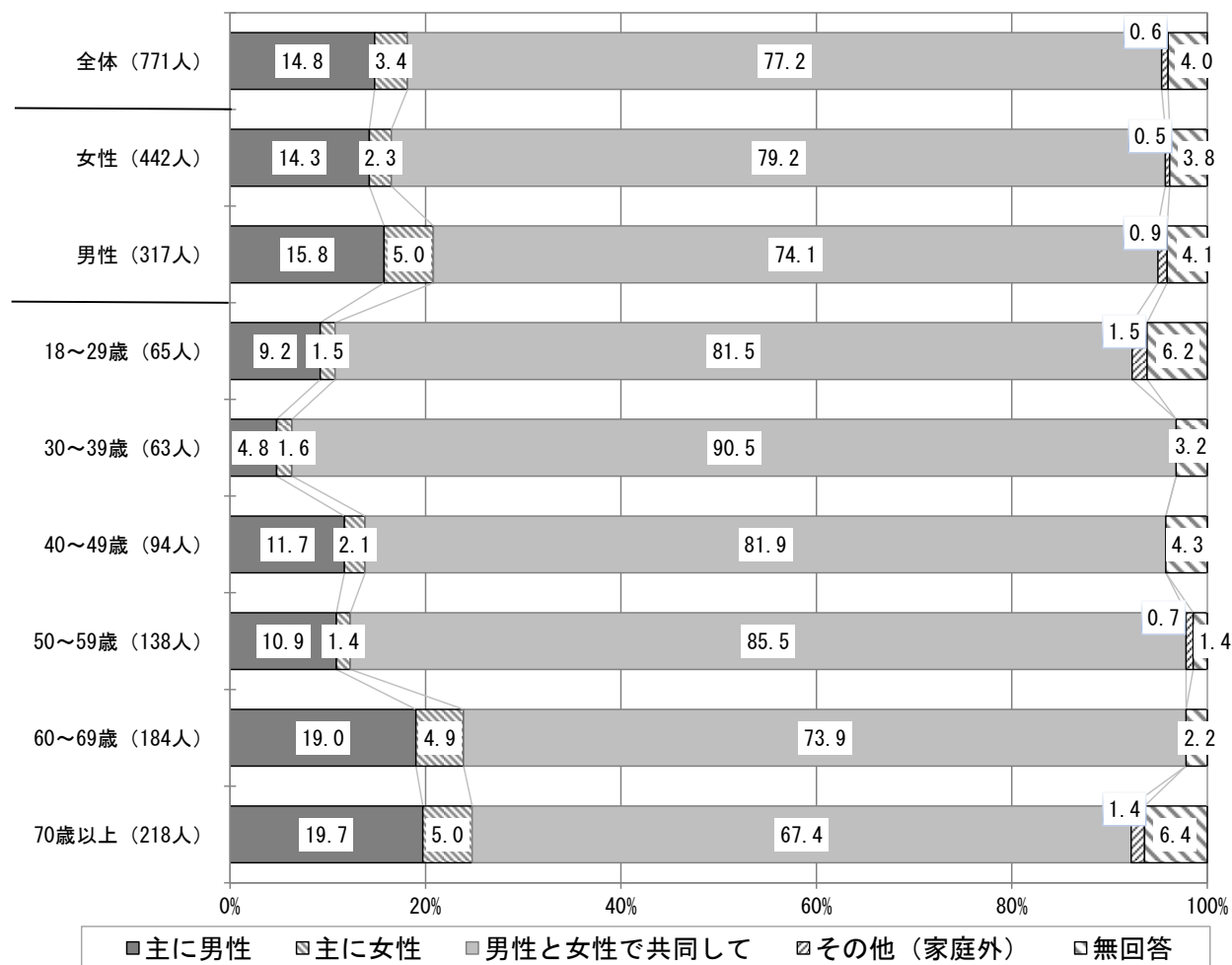
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
主に男性	20.8	14.8	-6.0
主に女性	4.7	3.4	-1.3
男性と女性で共同して	70.4	77.2	6.8
その他 (家庭外)	0.2	0.6	0.4

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

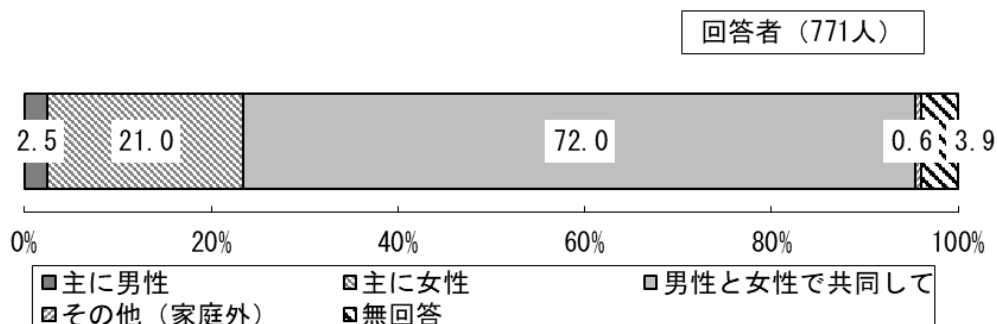
性別で見ると、女性では「男性と女性で共同して」が79.2%で男性の74.1%を5ポイント以上上回っています。

年齢別で見ると、18～59歳では「男性と女性で共同して」が8割を超えています。



#### ④掃除

掃除については、「男性と女性で共同して」が72.0%と最も多く、次いで「主に女性」が21.0%と続きます。



#### ■ 前回調査との比較 (経年比較)

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目は、「男性と女性で共同して」が14ポイント以上多くなり、「主に女性」が14ポイント以上少なくなっています。

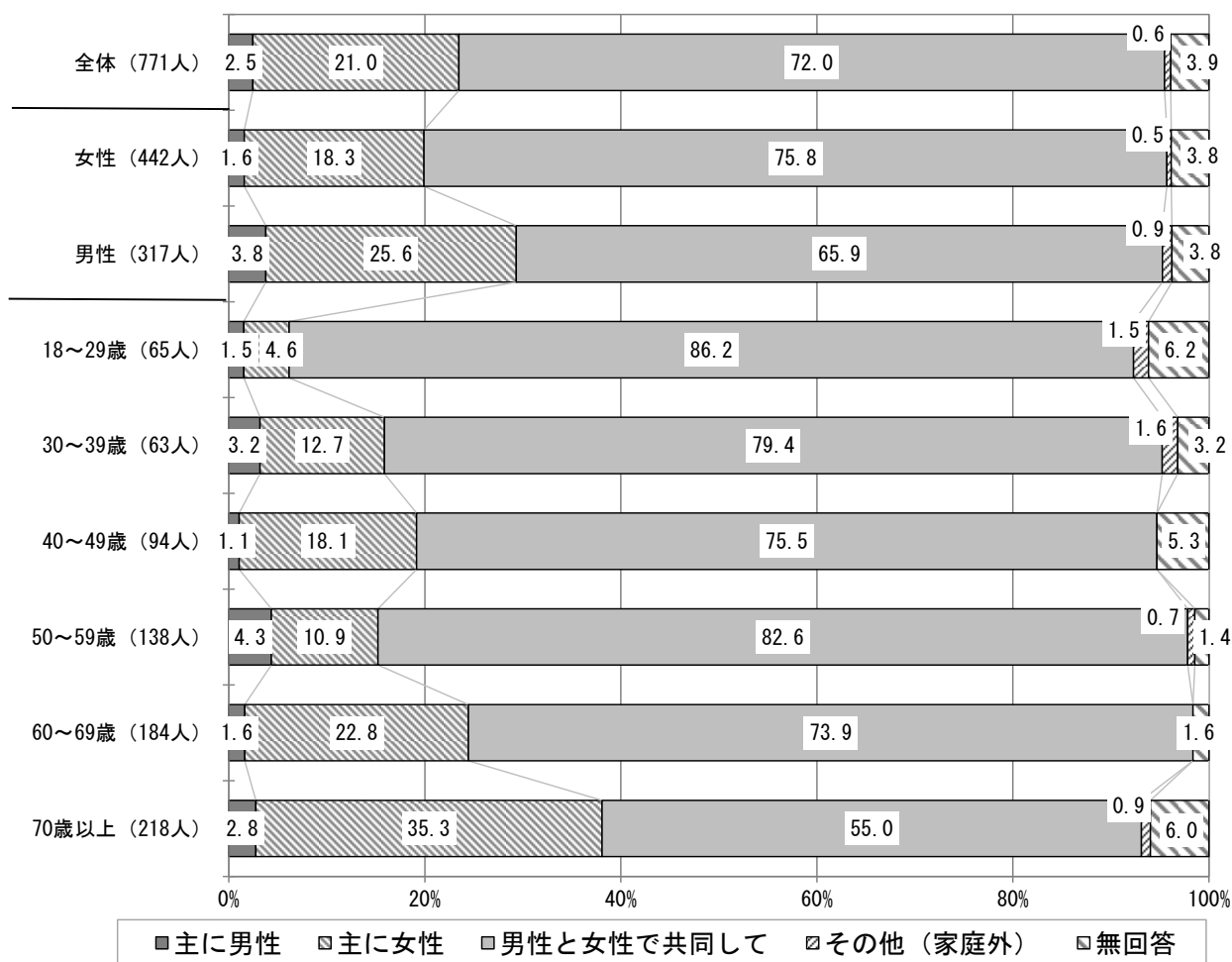
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
主に男性	3.6	2.5	-1.1
主に女性	35.7	21.0	-14.7
男性と女性で共同して	57.5	72.0	14.5
その他 (家庭外)	0.2	0.6	0.4

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

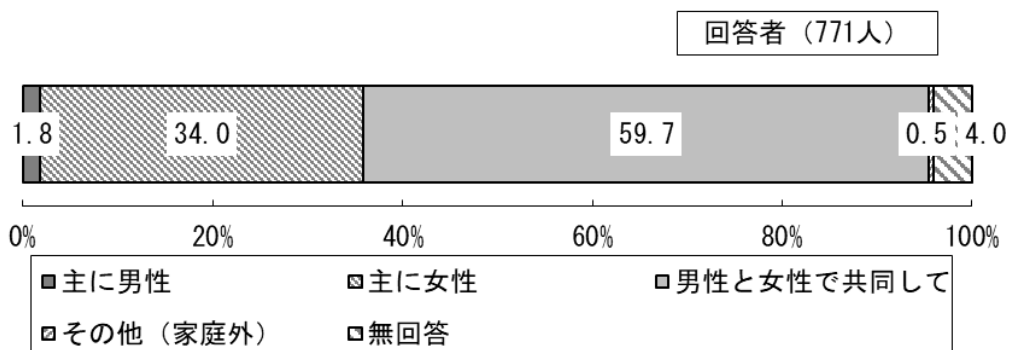
性別で見ると、女性では「男性と女性で共同して」が75.8%で男性の65.9%を10ポイント近く上回っています。

年齢別で見ると、18～69歳では「男性と女性で共同して」が7割を超えています。



## ⑤洗濯

洗濯については、「男性と女性で共同して」が59.7%と最も多く、次いで「主に女性」が34.0%と続きます。



### ■ 前回調査との比較 (経年比較)

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目は、「男性と女性で共同して」が15ポイント以上多くなり、「主に女性」が16ポイント以上少なくなっています。

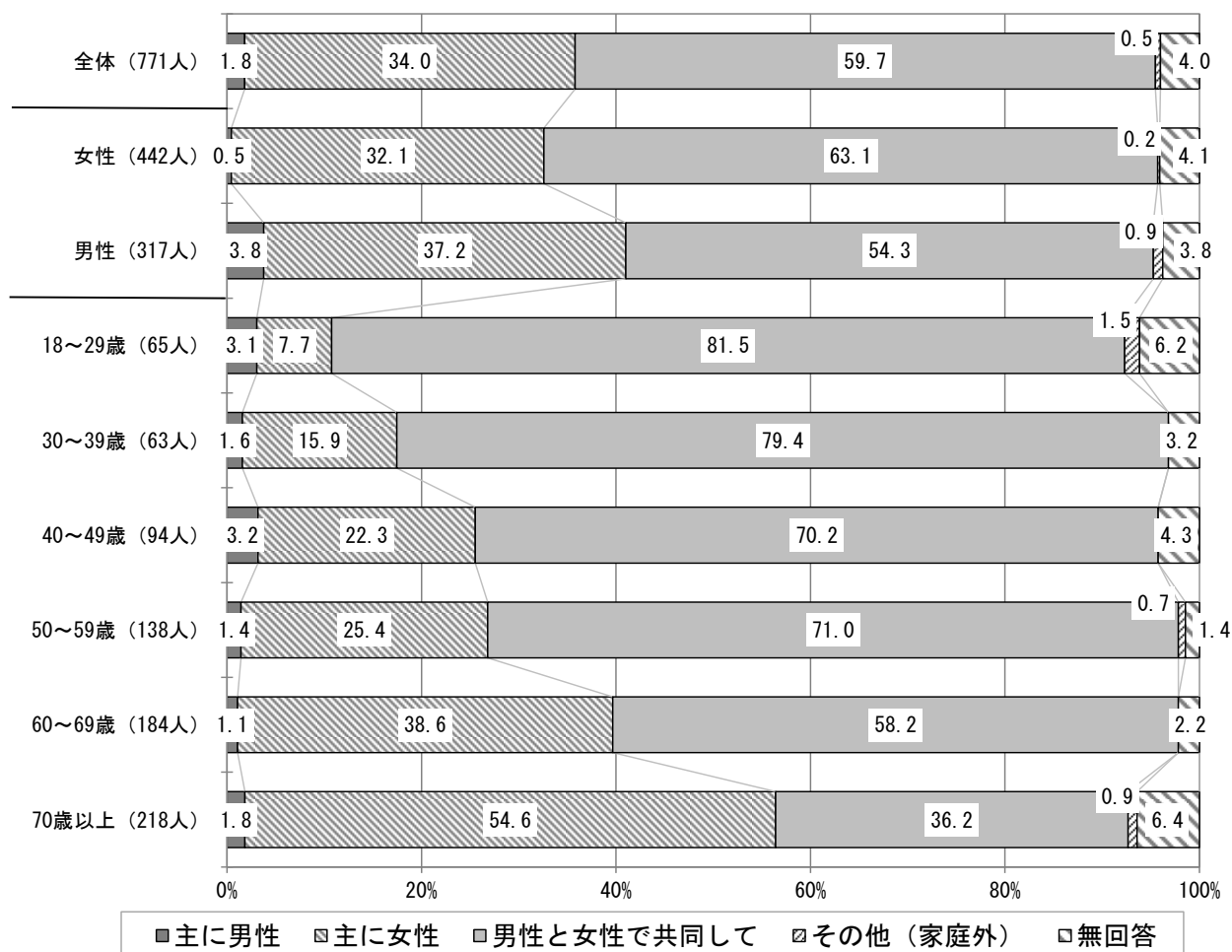
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
主に男性	2.0	1.8	-0.2
主に女性	50.3	34.0	-16.3
男性と女性で共同して	44.5	59.7	15.2
その他 (家庭外)	0.2	0.5	0.3

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

性別で見ると、女性では「男性と女性で共同して」が63.1%で男性の54.3%を9ポイント近く上回っています。

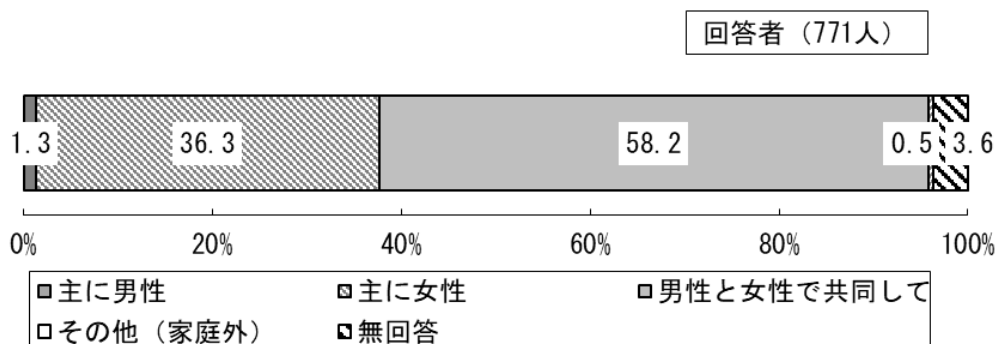
年齢別で見ると、18～69歳では「男性と女性で共同して」、70歳以上では「主に女性」が最も多くなっています。





## ⑥食事のしたく

食事のしたくについては、「男性と女性で共同して」が58.2%と最も多く、次いで「主に女性」が36.3%と続きます。



### ■ 前回調査との比較 (経年比較)

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目は、「男性と女性で共同して」が18ポイント以上多くなり、「主に女性」が20ポイント近く少なくなっています。

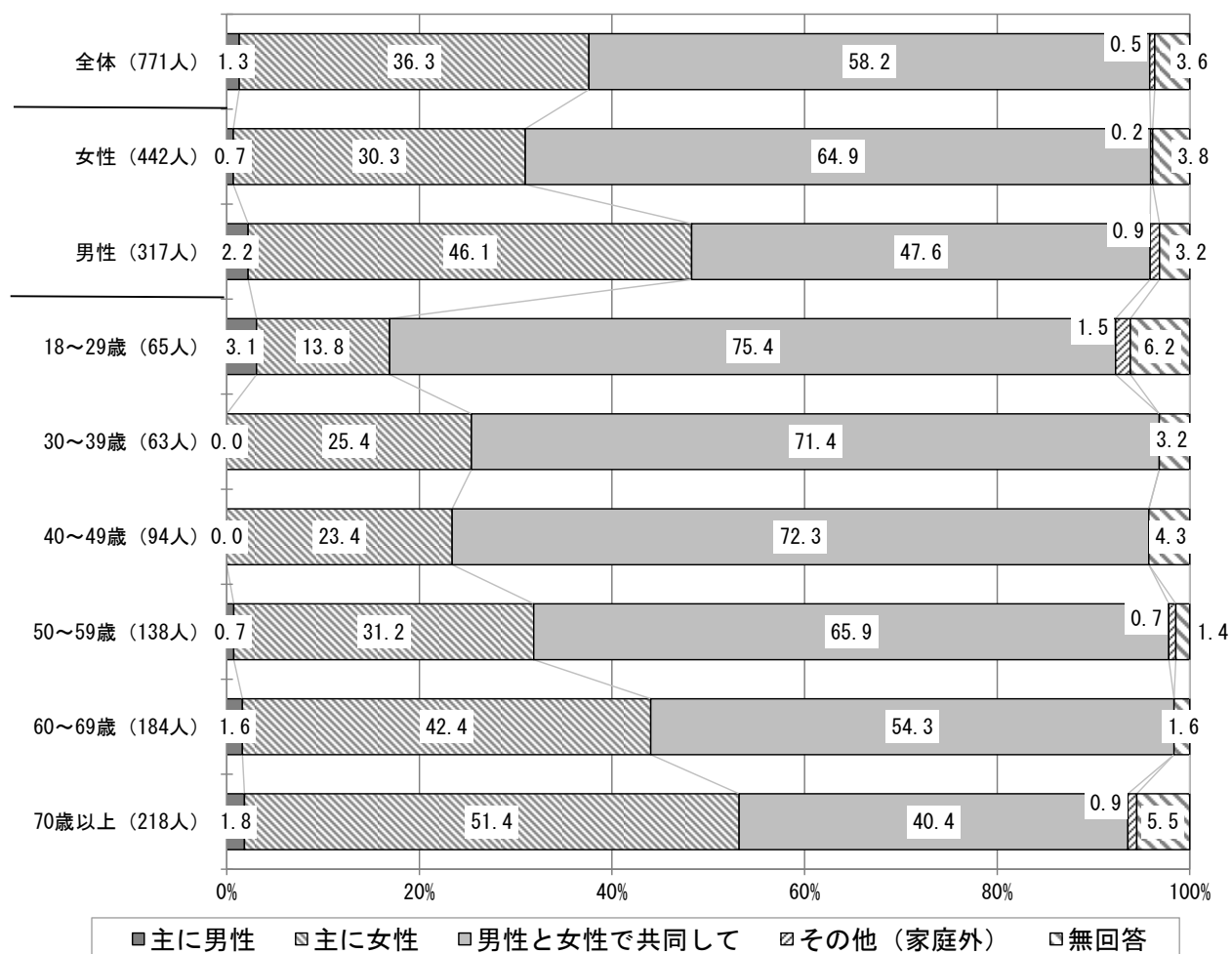
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
主に男性	1.1	1.3	0.2
主に女性	56.1	36.3	-19.8
男性と女性で共同して	40.0	58.2	18.2
その他 (家庭外)	0.3	0.5	0.2

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

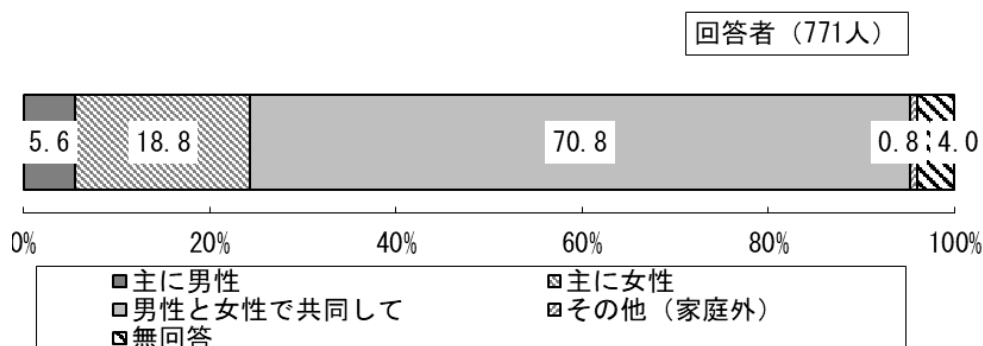
性別で見ると、女性では「男性と女性で共同して」が64.9%で男性の47.6%を17ポイント以上上回っています。

年齢別で見ると、70歳以上では「主に女性」、18～69歳では「男性と女性で共同して」が最も多くなっています。



## ⑦食事後片づけ・食器洗い

食事後片づけ・食器洗いについては、「男性と女性で共同して」が70.8%と最も多く、次いで「主に女性」が18.8%と続きます。



### ■ 前回調査との比較 (経年比較)

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目は、「男性と女性で共同して」が13ポイント以上多くなり、「主に女性」が15ポイント近く少なくなっています。

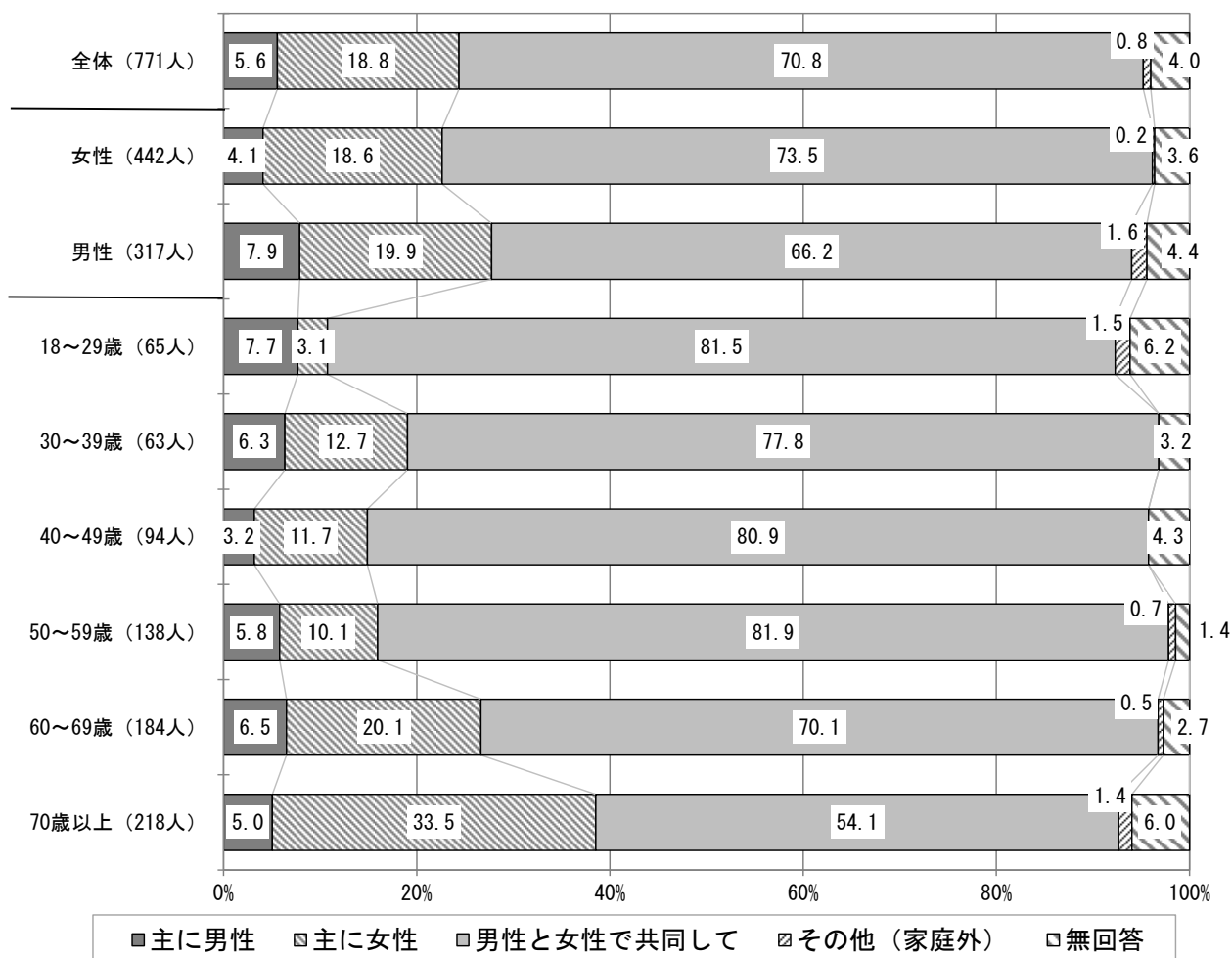
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
主に男性	5.8	5.6	-0.2
主に女性	33.7	18.8	-14.9
男性と女性で共同して	57.7	70.8	13.1
その他 (家庭外)	0.3	0.8	0.5

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

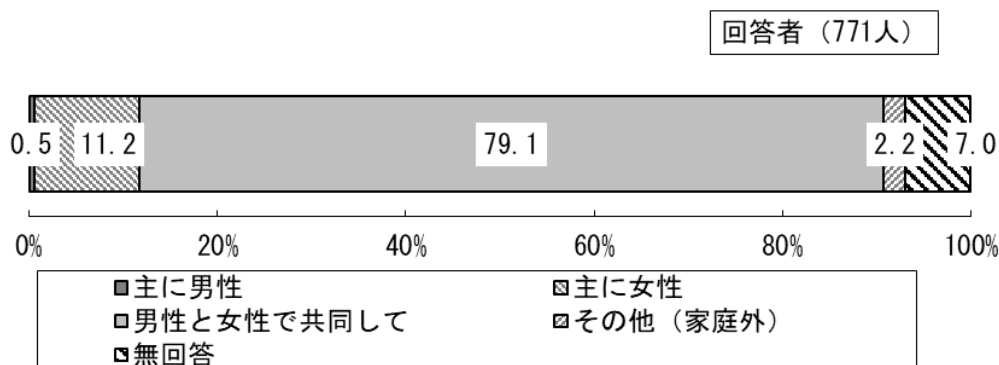
性別で見ると、女性では「男性と女性で共同して」が73.5%で男性の66.2%を7ポイント以上上回っています。

年齢別で見ると、18～69歳では「男性と女性で共同して」が7割を超えています。



## ⑧育児・しつけ

育児・しつけについては、「男性と女性で共同して」が79.1%と最も多く、次いで「主に女性」が11.2%と続きます。



### ■ 前回調査との比較 (経年比較)

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも「男性と女性で共同して」が7割を超えています。

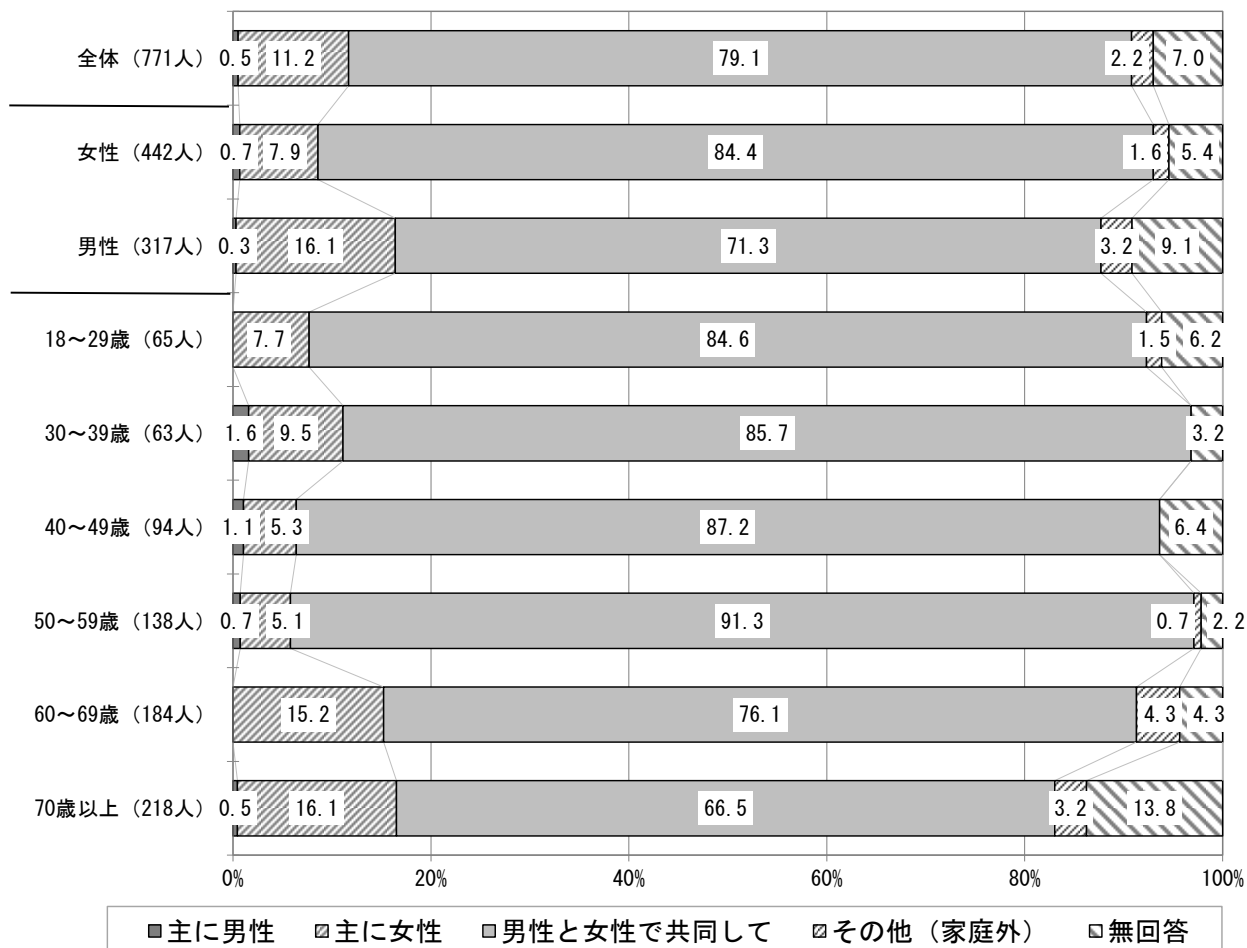
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
主に男性	1.1	0.5	-0.6
主に女性	15.8	11.2	-4.6
男性と女性で共同して	75.1	79.1	4.0
その他 (家庭外)	1.6	2.2	0.6

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

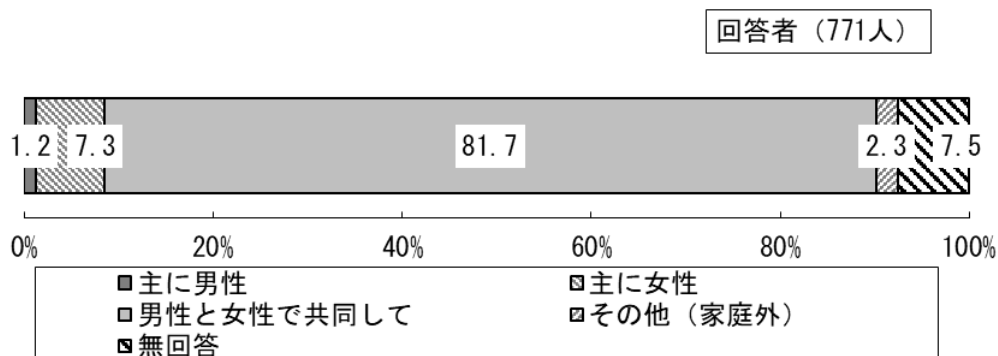
性別で見ると、女性では「男性と女性で共同して」が84.4%で男性の71.3%を13ポイント以上上回っています。

年齢別で見ると、18～59歳では「男性と女性で共同して」が8割を超えています。



## ⑨子どもの教育

子どもの教育については、「男性と女性で共同して」が81.7%と最も多く、次いで「主に女性」が7.3%と続きます。



### ■ 前回調査との比較 (経年比較)

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも「男性と女性で共同して」が7割を超えています。

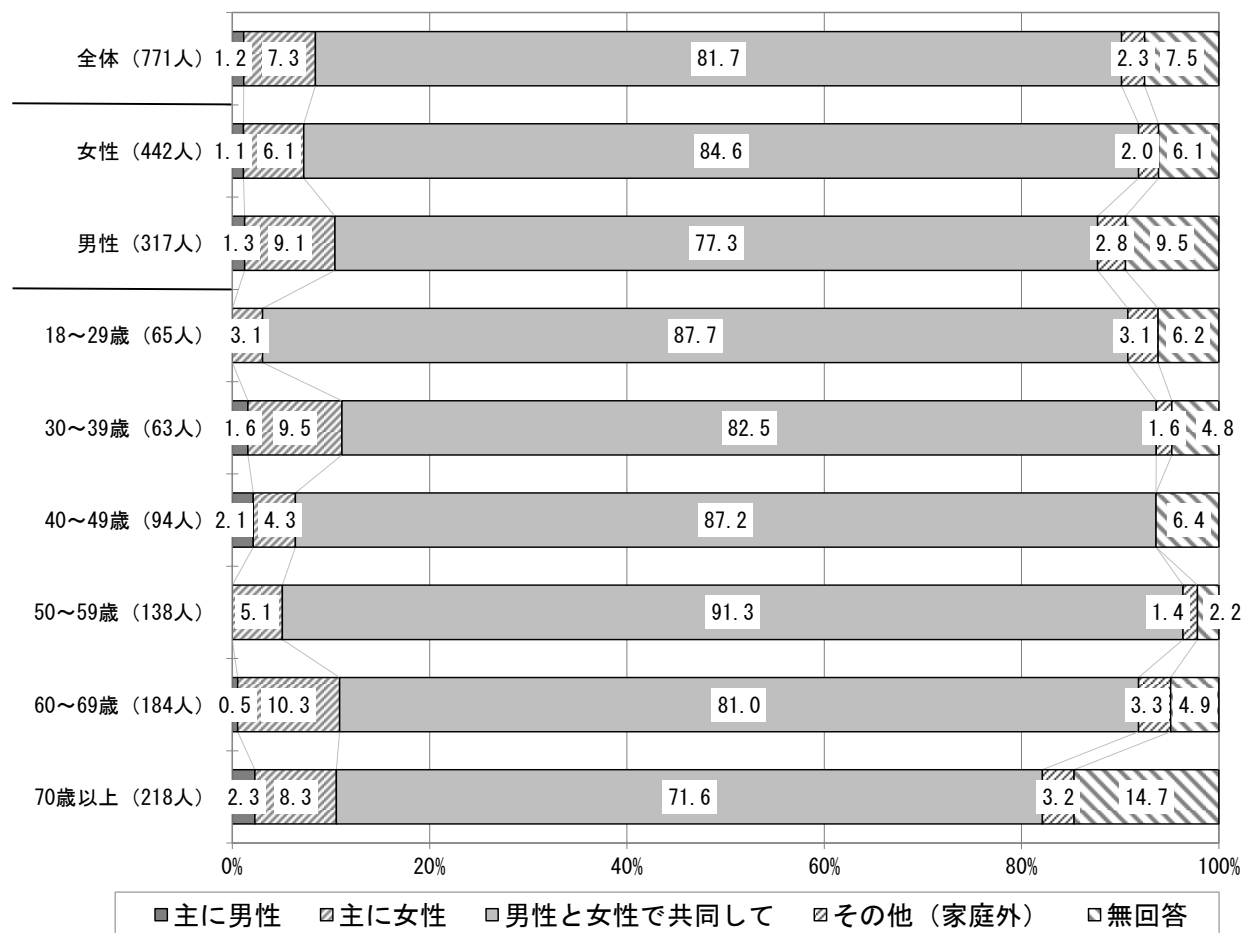
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
主に男性	1.6	1.2	-0.4
主に女性	12.2	7.3	-4.9
男性と女性で共同して	77.6	81.7	4.1
その他 (家庭外)	1.9	2.3	0.4

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

性別で見ると、女性では「男性と女性で共同して」が84.6%で男性の77.3%を7ポイント以上上回っています。

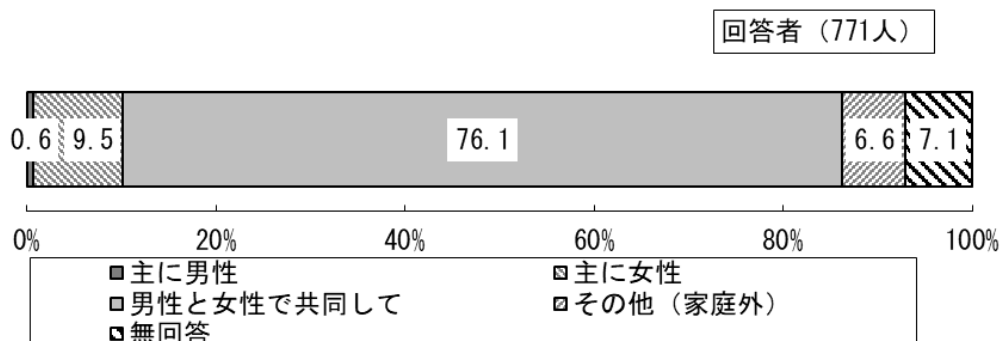
年齢別で見ると、18～69歳では「男性と女性で共同して」が8割を超えています。





## ⑩身内の看護・介護

身内の看護・介護については、「男性と女性で共同して」が76.1%と最も多く、次いで「主に女性」が9.5%と続きます。



### ■ 前回調査との比較（経年比較）

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも「男性と女性で共同して」が7割を超えています。

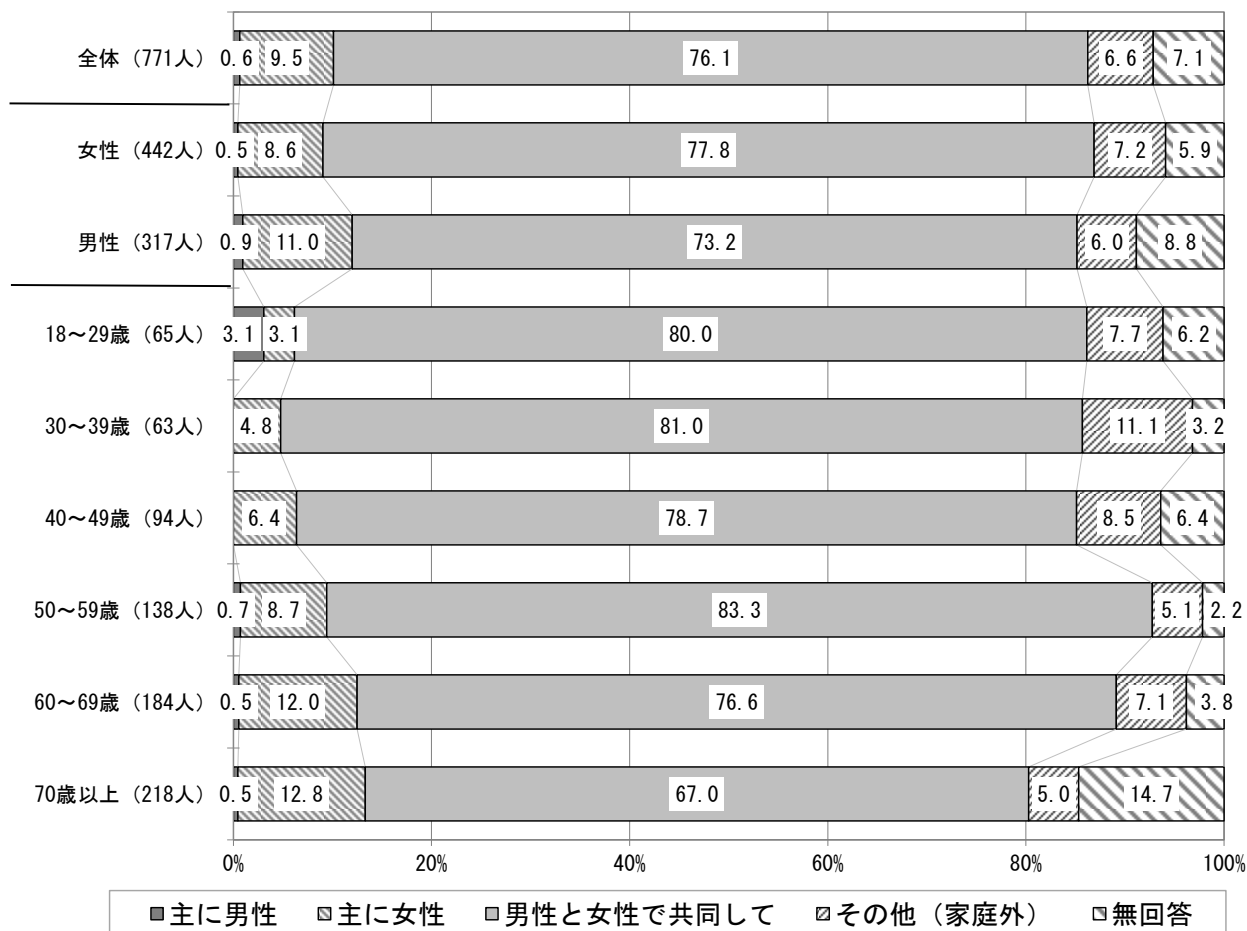
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
主に男性	0.6	0.6	0.0
主に女性	15.8	9.5	-6.3
男性と女性で共同して	70.5	76.1	5.6
その他（家庭外）	6.3	6.6	0.3

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

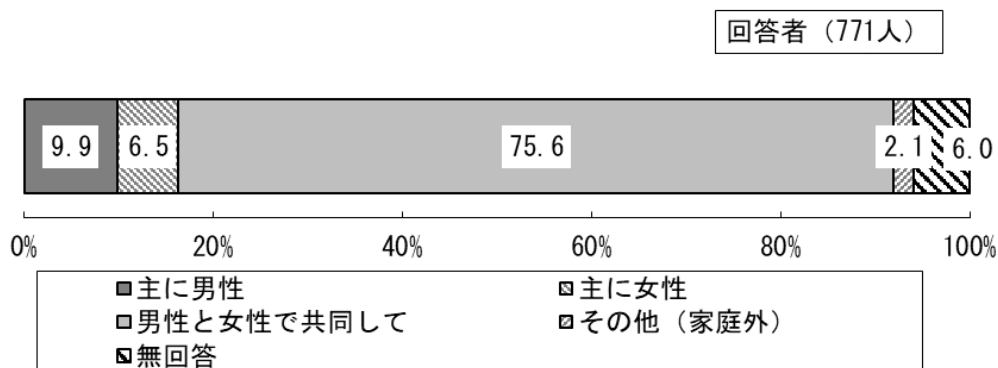
性別で見ると、女性では「男性と女性で共同して」が77.8%で男性の73.2%を4ポイント以上上回っています。

年齢別で見ると、18～69歳では「男性と女性で共同して」が7割を超えています。



## ⑪自治会・PTA等の地域活動

自治会・PTA等の地域活動については、「男性と女性で共同して」が75.6%と最も多く、次いで「主に男性」が9.9%と続きます。



### ■ 前回調査との比較 (経年比較)

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも「男性と女性で共同して」が7割を超えています。

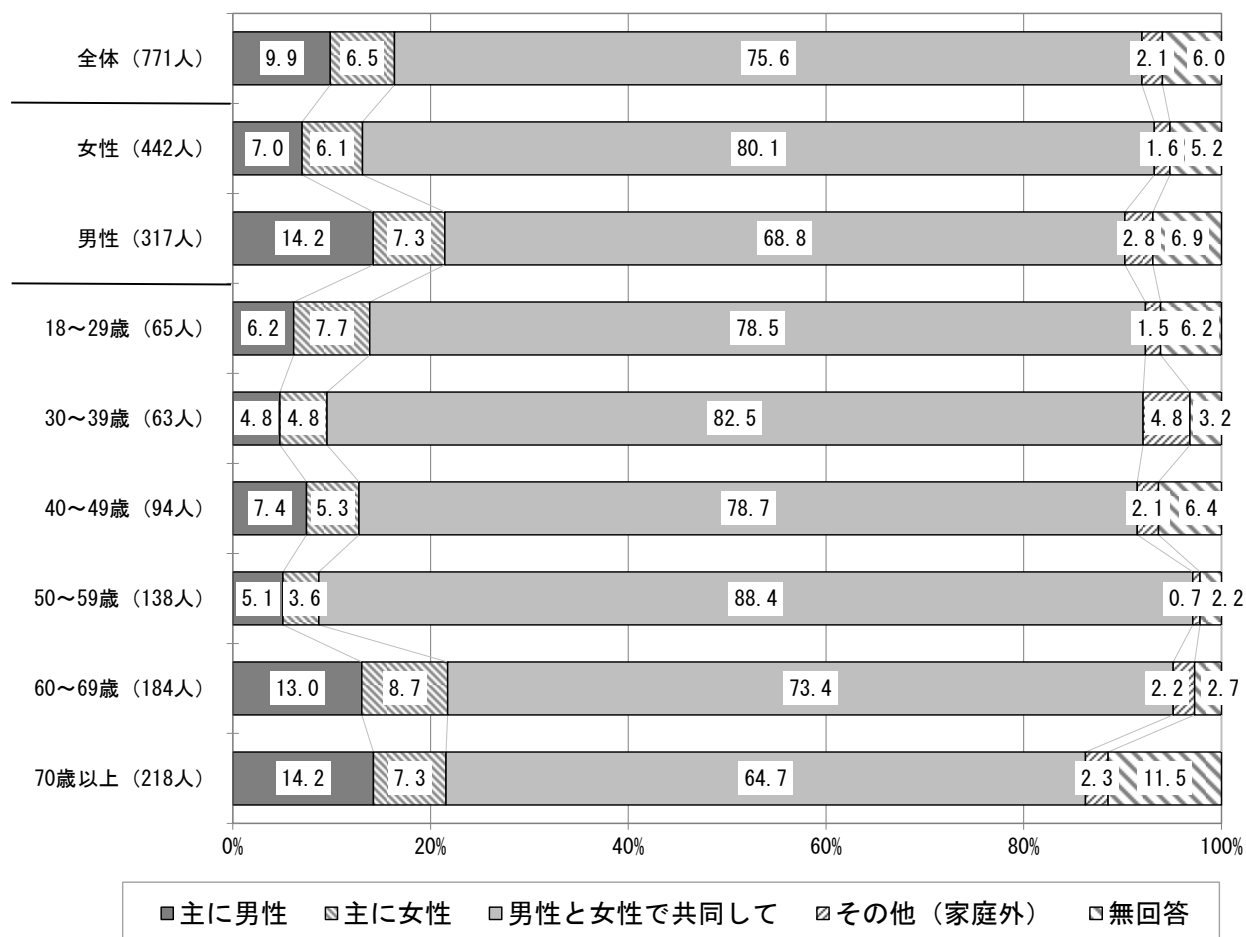
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
主に男性	12.2	9.9	-2.3
主に女性	9.1	6.5	-2.6
男性と女性で共同して	71.2	75.6	4.4
その他 (家庭外)	1.9	2.1	0.2

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

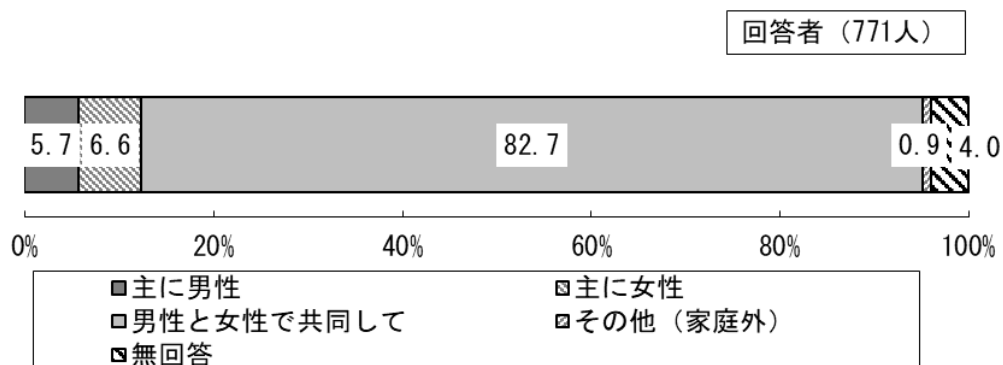
性別で見ると、女性では「男性と女性で共同して」が80.1%で男性の68.8%を11ポイント以上上回っています。

年齢別で見ると、18～69歳では「男性と女性で共同して」が7割を超えています。



## ⑫近所や親戚とのつきあい

近所や親戚とのつきあいについては、「男性と女性で共同して」が82.7%と最も多く、次いで「主に女性」が6.6%と続きます。



### ■ 前回調査との比較 (経年比較)

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも「男性と女性で共同して」が7割を超えています。

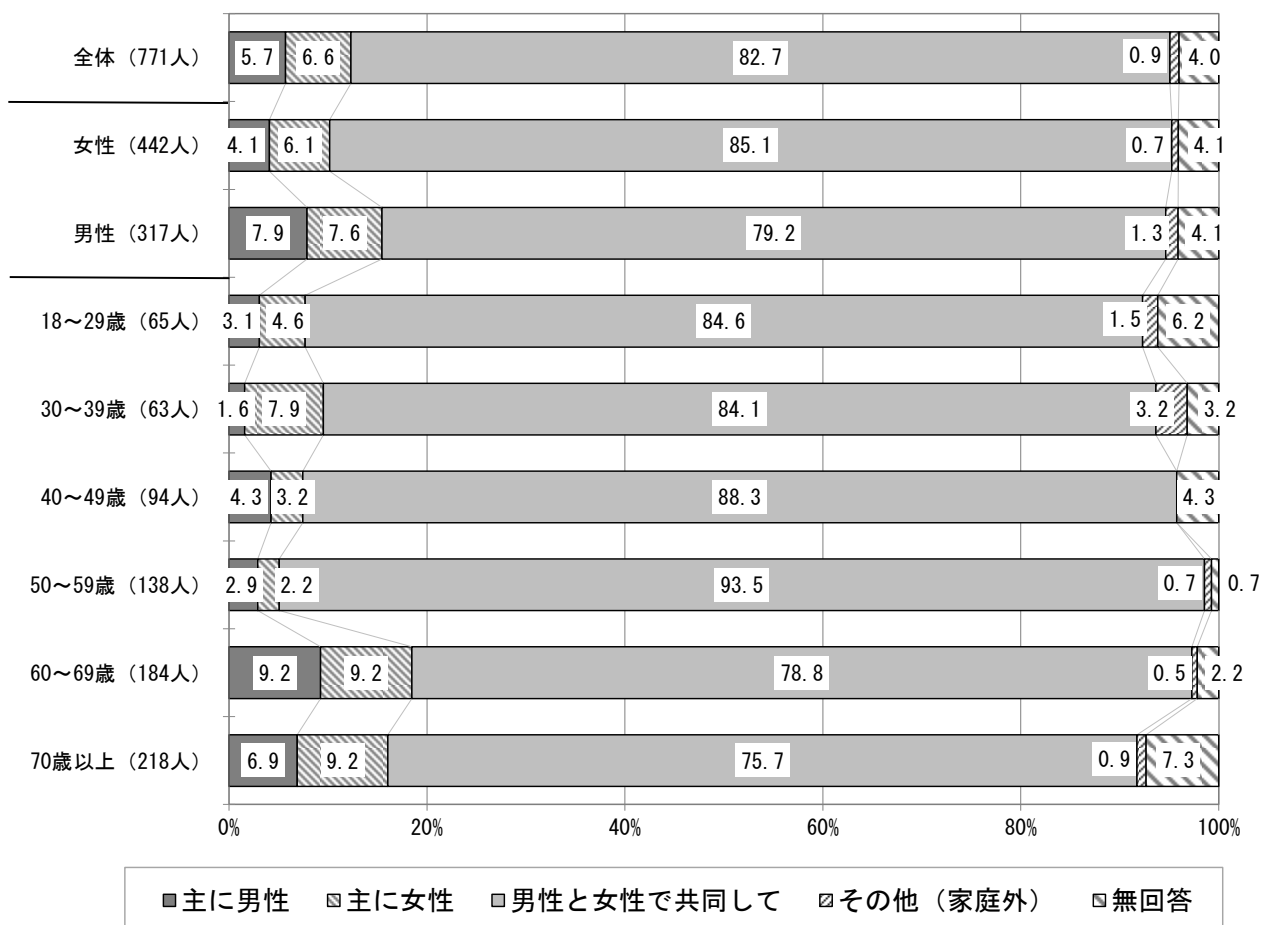
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
主に男性	7.5	5.7	-1.8
主に女性	9.6	6.6	-3.0
男性と女性で共同して	79.3	82.7	3.4
その他 (家庭外)	0.6	0.9	0.3

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

性別で見ると、女性では「男性と女性で共同して」が85.1%で男性の79.2%を6ポイント近く上回っています。

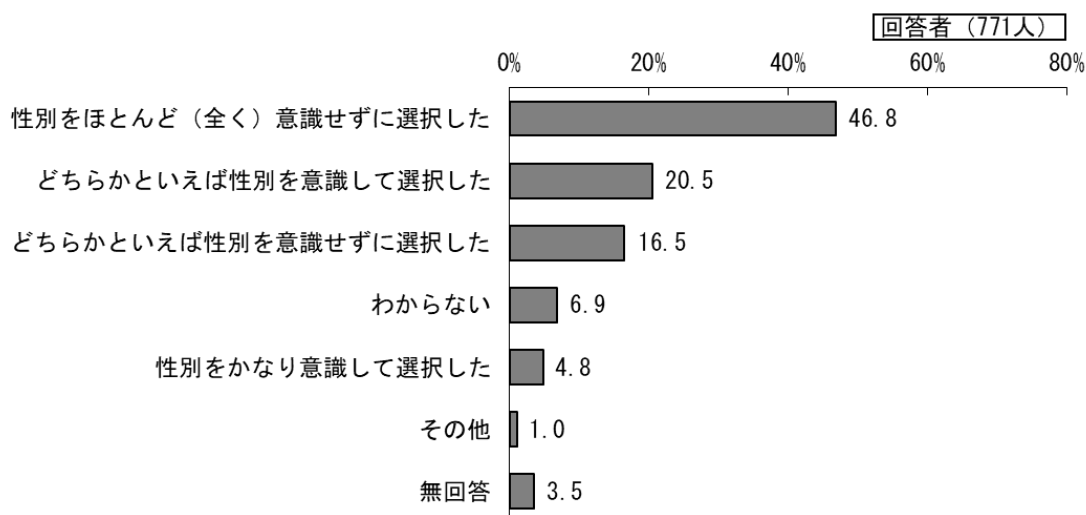
年齢別で見ると、18～59歳では「男性と女性で共同して」が8割を超えています。



## 4. 働き方についておたずねします

### 問7 あなたは、進路や職業を選択する際に、性別を意識しましたか。（〇は1つ）

進路や職業を選択する際に、性別を意識したかについては、「性別をほとんど（全く）意識せずに選択した」が46.8%と最も多く、次いで「どちらかといえば性別を意識して選択した」が20.5%と続きます。



### ■ 前回調査との比較（経年比較）

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも「性別をほとんど（全く）意識せずに選択した」が4割を超えています。

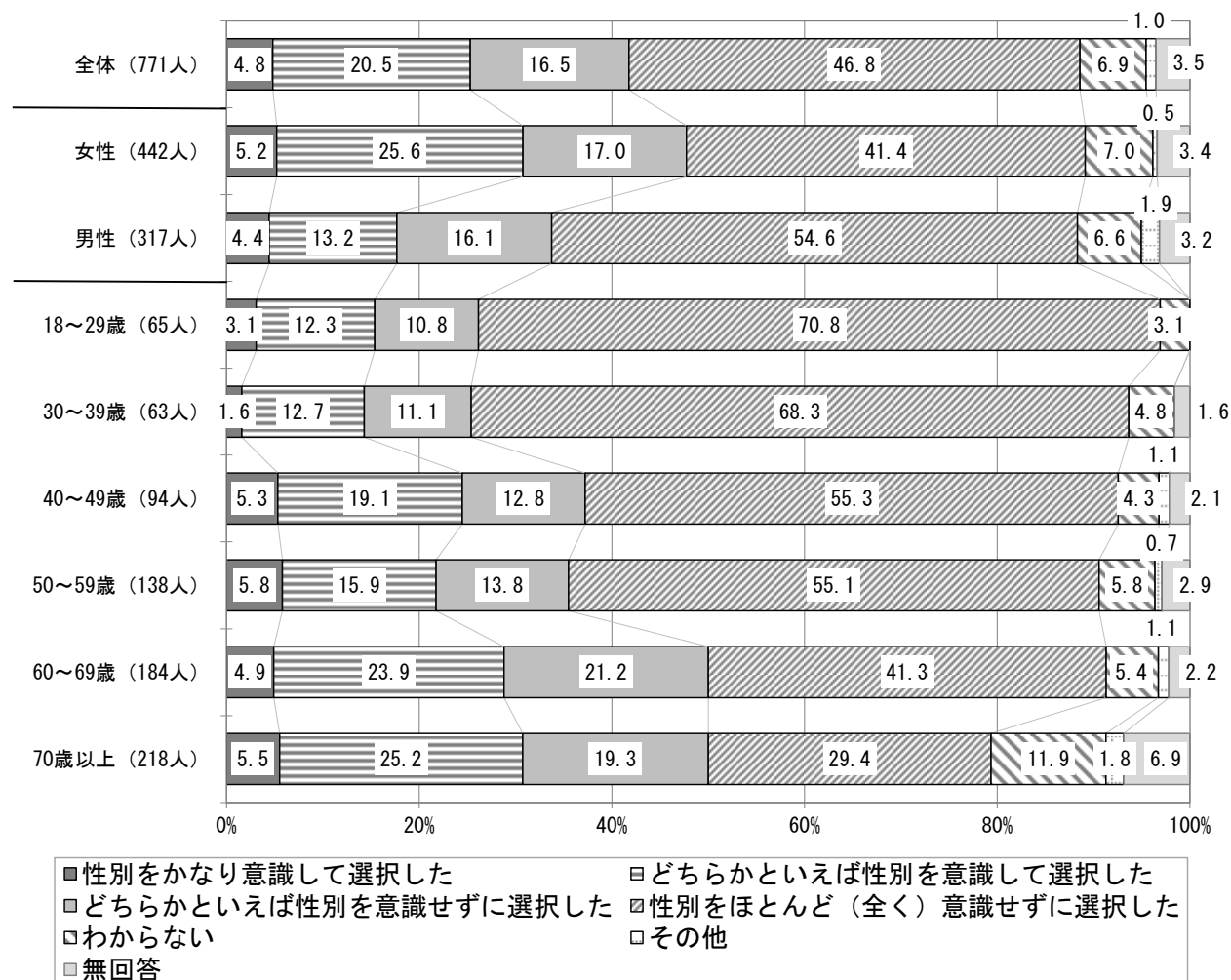
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
性別をかなり意識して選択した	6.9	4.8	-2.1
どちらかといえば性別を意識して選択した	19.0	20.5	1.5
どちらかといえば性別を意識せずに選択した	14.7	16.5	1.8
性別をほとんど（全く）意識せずに選択した	45.8	46.8	1.0
わからない	10.0	6.9	-3.1

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

性別でみると、男性では「性別をほとんど（全く）意識せずに選択した」が 54.6%で女性の 41.4%を 13 ポイント以上上回っています。

年齢別でみると、18～39 歳では「性別をほとんど（全く）意識せずに選択した」が6割を超えています。

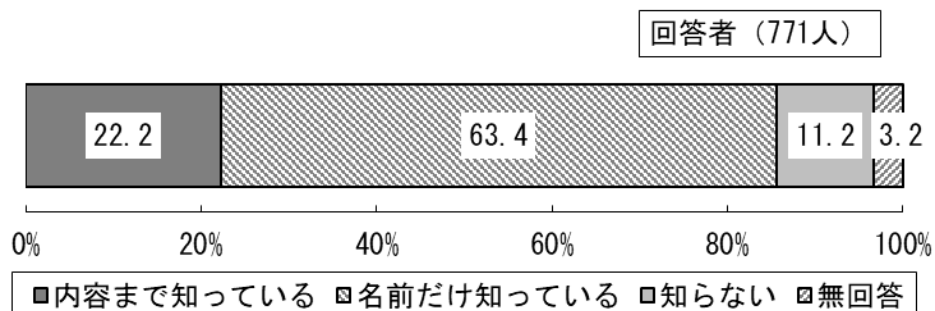




**問8 育児や介護を行うために、育児休業や介護休業を取得できる制度が「育児・介護休業法」により定められています。あなたは、この制度を知っていますか。**

(○は1つ)

育児・介護休業の制度を知っているかについては、「名前だけ知っている」が63.4%と最も多く、次いで「内容まで知っている」が22.2%と続きます。



**■ 前回調査との比較 (経年比較)**

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも「名前だけ知っている」が6割を超えています。

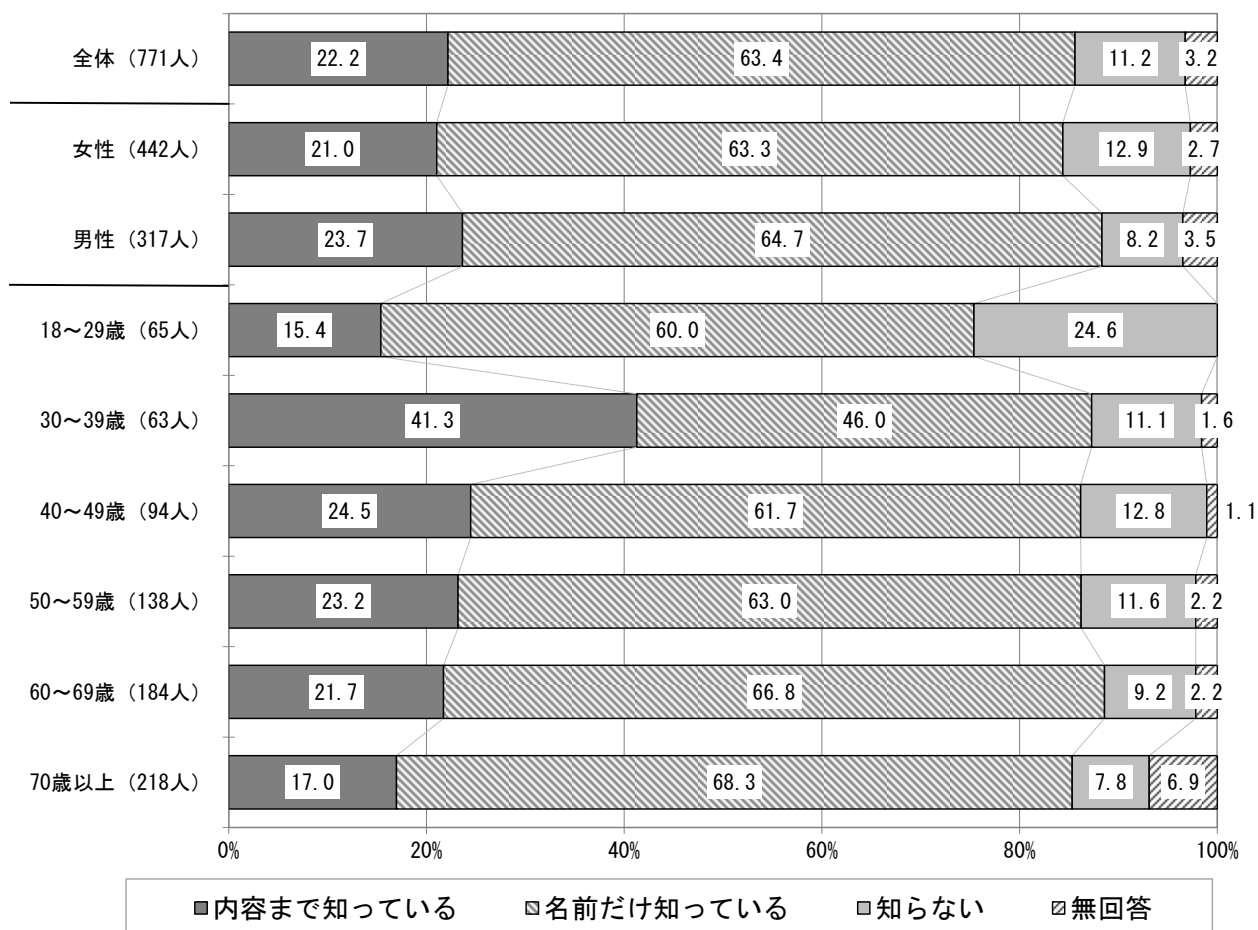
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
内容まで知っている	19.7	22.2	2.5
名前だけ知っている	64.1	63.4	-0.7
知らない	12.9	11.2	-1.7

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

性別で見ると、女性、男性とも「名前だけ知っている」が6割を超えています。

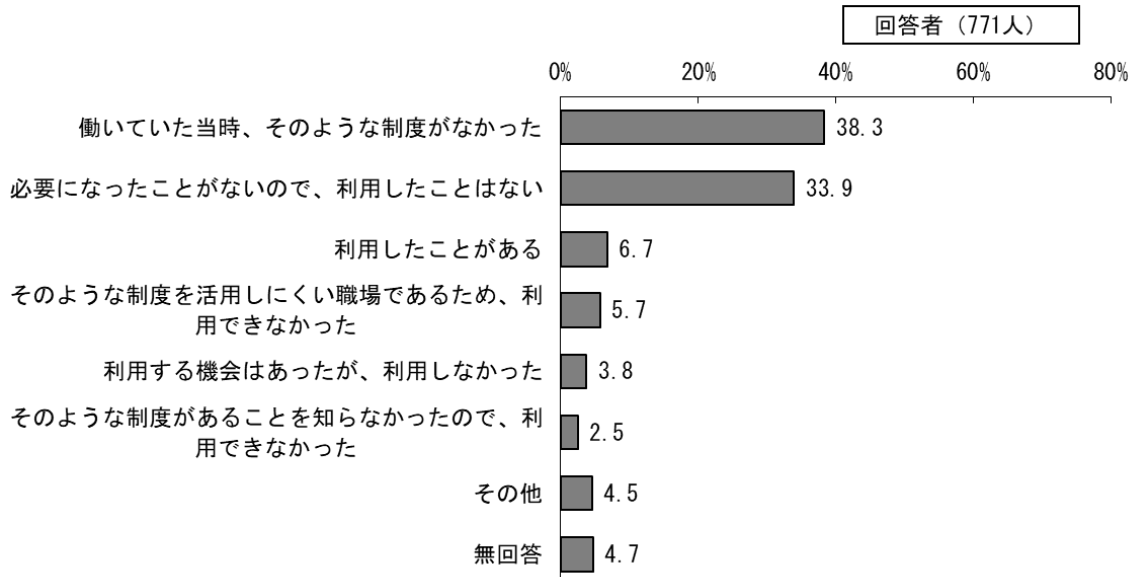
年齢別で見ると、30～39歳では「内容まで知っている」が4割を超えています。



問9 男女ともに利用できる育児休業制度を利用（取得）したことがありますか。

（〇は1つ）

育児休業制度を利用（取得）したことがあるかについては、「働いていた当時、そのような制度がなかった」が38.3%と最も多く、次いで「必要になったことがないので、利用したことはない」が33.9%、「利用したことがある」が6.7%と続きます。



■ 回答者属性からみる傾向

性別で見ると、女性では「働いていた当時、そのような制度がなかった」、男性では「必要になったことがないので、利用したことはない」が最も多くなっています

年齢別で見ると、18～59歳では「必要になったことがないので、利用したことはない」、60歳以上では「働いていた当時、そのような制度がなかった」が最も多くなっています。

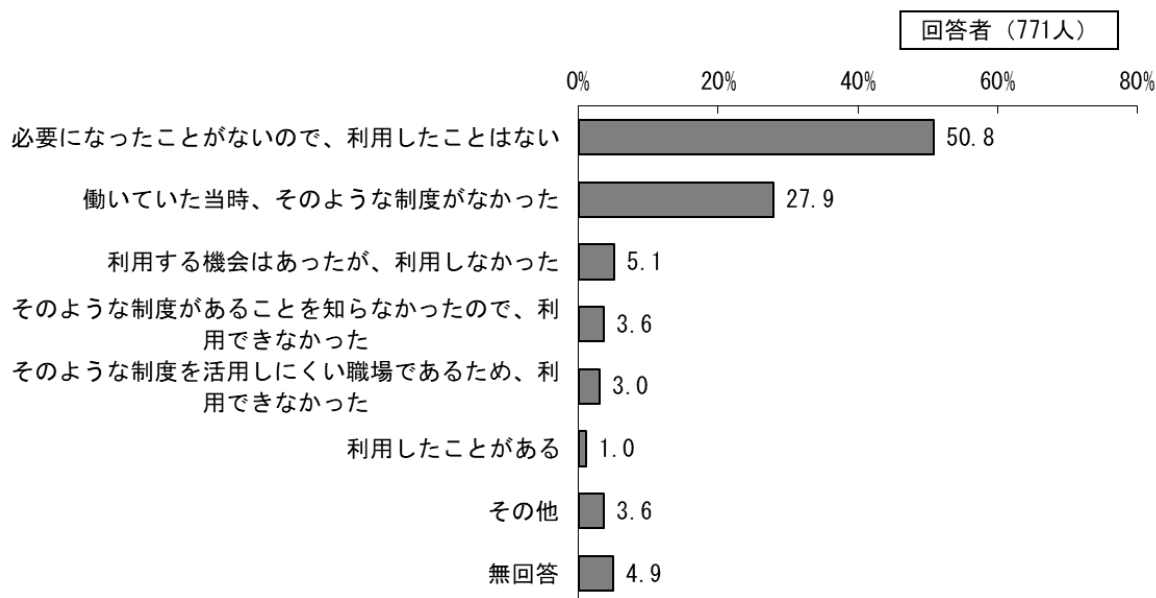
※数値は%、網掛は各区分の第1位。属性及び設問の「その他」、「無回答」は非表示

属性	区分	回答者 (人)	利用したことがある	利用する機会があったが、利用しなかった	必要になったことがないので、利用したことはない	そのような制度を活用しにくい職場であるため、利用できなかった	そのような制度があることを知らなかったので、利用できなかった	働いていた当時、そのような制度がなかった
	全体	771	6.7	3.8	33.9	5.7	2.5	38.3
性別	女性	442	9.5	2.3	31.4	4.8	2.5	39.8
	男性	317	2.5	6.0	37.5	6.9	2.2	36.9
年齢	18～29歳	65	1.5	1.5	84.6	1.5	1.5	1.5
	30～39歳	63	33.3	9.5	34.9	12.7	1.6	1.6
	40～49歳	94	16.0	4.3	37.2	20.2	4.3	10.6
	50～59歳	138	2.9	5.1	40.6	7.2	2.9	31.2
	60～69歳	184	2.7	4.3	28.3	2.2	2.2	52.7
	70歳以上	218	1.8	1.4	18.3	0.5	1.8	64.7

問 10 男女ともに利用できる介護休業制度を利用（取得）したことがありますか。

（〇は1つ）

介護休業制度を利用（取得）したことがあるかについては、「必要になったことがないので、利用したことはない」が50.8%と最も多く、次いで「働いていた当時、そのような制度がなかった」が27.9%と続きます。



■ 回答者属性からみる傾向

性別でみると、女性、男性とも「働いていた当時、そのような制度がなかった」が5割を超えています。

年齢別でみると、18～59歳では「必要になったことがないので、利用したことはない」、60歳以上では「働いていた当時、そのような制度がなかった」が最も多くなっています。

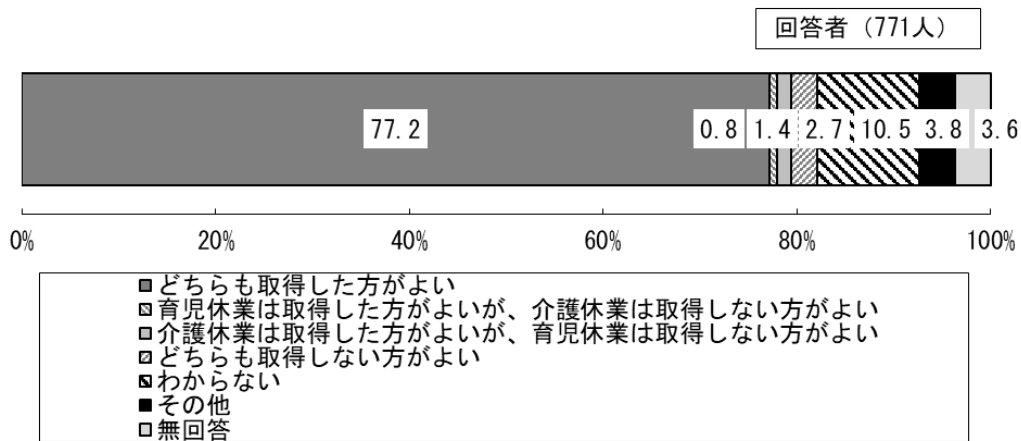
※数値は%、網掛は各区分の第1位。属性及び設問の「その他」、「無回答」は非表示

属性	区分	回答者 (人)	利用したことがある	利用する機会があったが、利用しなかった	必要になったことがないので、利用したことはない	そのような制度を活用しにくい職場であるため、利用できなかった	そのような制度があることを知らなかったので、利用できなかった	働いていた当時、そのような制度がなかった
	全体	771	1.0	5.1	50.8	3.0	3.6	27.9
性別	女性	442	0.9	3.8	51.6	2.3	3.8	28.7
	男性	317	1.3	6.9	50.2	3.8	3.2	26.8
年齢	18～29歳	65	0.0	0.0	90.8	0.0	3.1	0.0
	30～39歳	63	1.6	4.8	82.5	3.2	1.6	1.6
	40～49歳	94	1.1	0.0	80.9	7.4	3.2	2.1
	50～59歳	138	2.2	6.5	58.7	2.9	5.1	15.2
	60～69歳	184	1.1	10.9	36.4	3.3	3.8	37.0
	70歳以上	218	0.5	3.2	24.8	1.4	3.2	55.0

問 11 男性が育児休業や介護休業を取得することについて、どう思いますか。

(○は1つ)

男性が育児休業や介護休業を取得することについては、「どちらも取得した方がよい」が77.2%と最も多く、次いで「わからない」が10.5%と続きます。



■ 回答者属性からみる傾向

性別でみると、女性、男性とも「どちらも取得した方がよい」が7割を超えています。

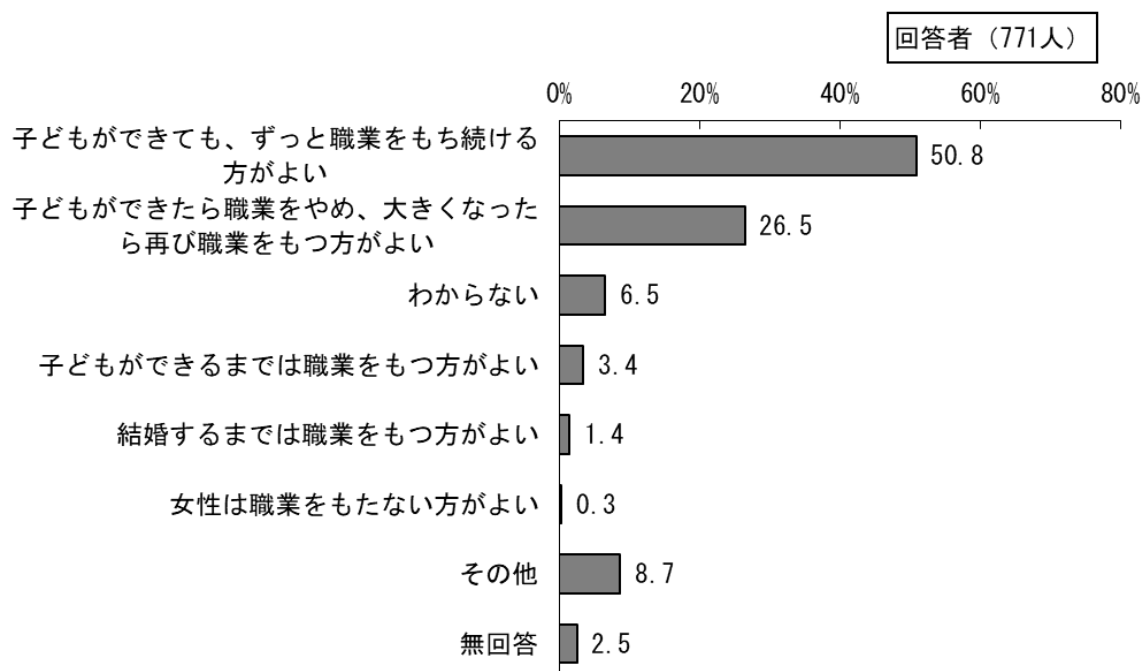
年齢別でみると、18～69歳では「どちらも取得した方がよい」が7割を超えています。

※数値は%、網掛は各区分の第1位。属性及び設問の「その他」、「無回答」は非表示

属性	区分	回答者 (人)	どちらも取得した方がよい	育児休業は取得した方がよいが、介護休業は取得しない方がよい	介護休業は取得した方がよいが、育児休業は取得しない方がよい	どちらも取得しない方がよい	わからない
	全体	771	77.2	0.8	1.4	2.7	10.5
性別	女性	442	79.4	0.5	1.1	2.3	9.0
	男性	317	74.4	1.3	1.9	3.5	12.3
年齢	18～29歳	65	89.2	1.5	0.0	1.5	7.7
	30～39歳	63	74.6	0.0	1.6	1.6	7.9
	40～49歳	94	75.5	0.0	3.2	5.3	9.6
	50～59歳	138	84.8	0.0	0.7	1.4	6.5
	60～69歳	184	79.9	0.5	1.6	3.8	8.7
	70歳以上	218	67.9	1.8	1.4	2.3	16.5

## 問 12 女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。（〇は1つ）

女性が職業をもつことについては、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が50.8%と最も多く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が26.5%と続きます。



### ■ 前回調査との比較（経年比較）

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも「子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい」が4割を超えています。

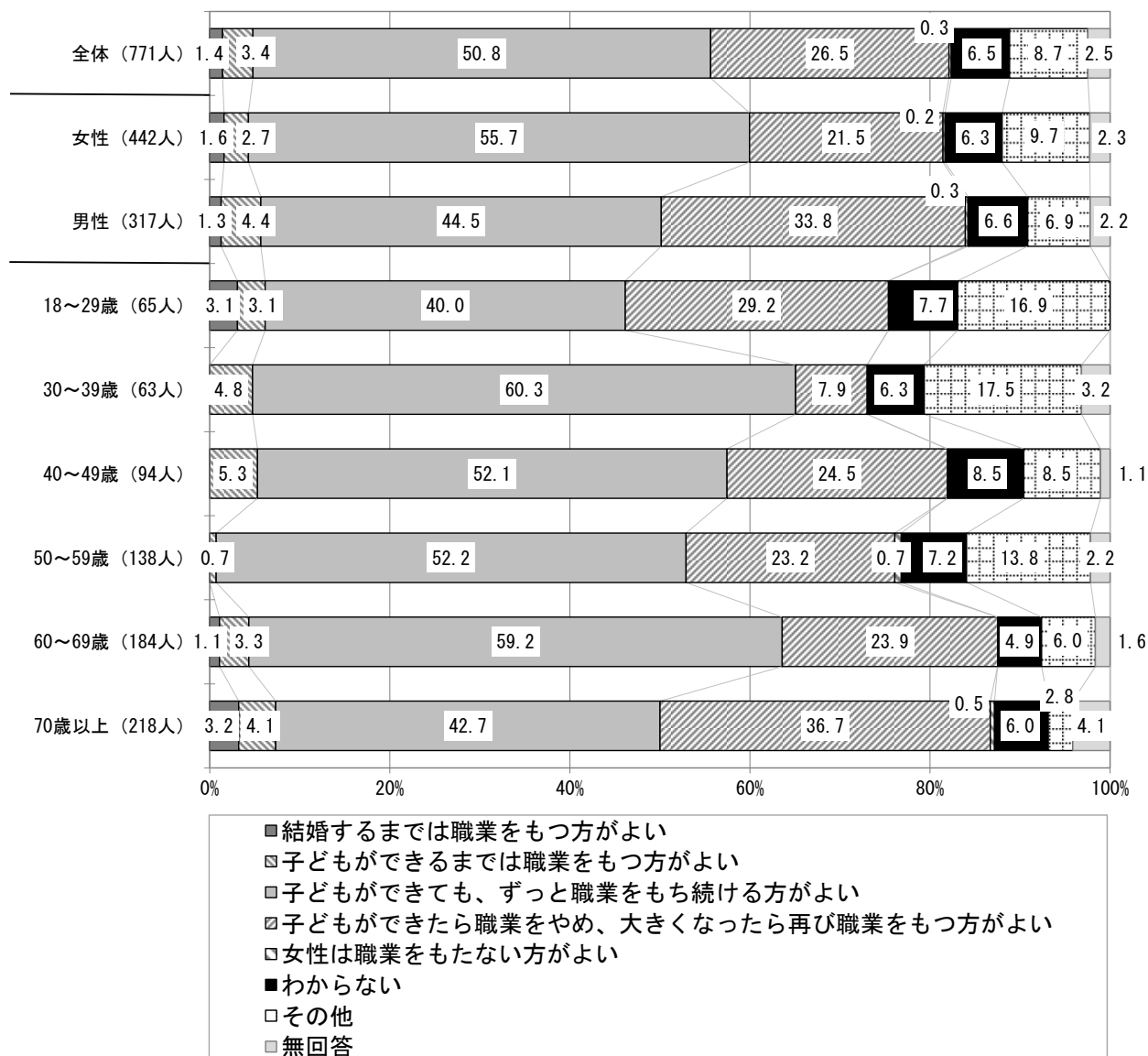
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
結婚するまでは職業をもつ方がよい	4.7	1.4	-3.3
子どもができるまでは職業をもつ方がよい	5.5	3.4	-2.1
子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい	42.5	50.8	8.3
子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	31.7	26.5	-5.2
女性は職業をもたない方がよい	0.5	0.3	-0.2
わからない	8.0	6.5	-1.5

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

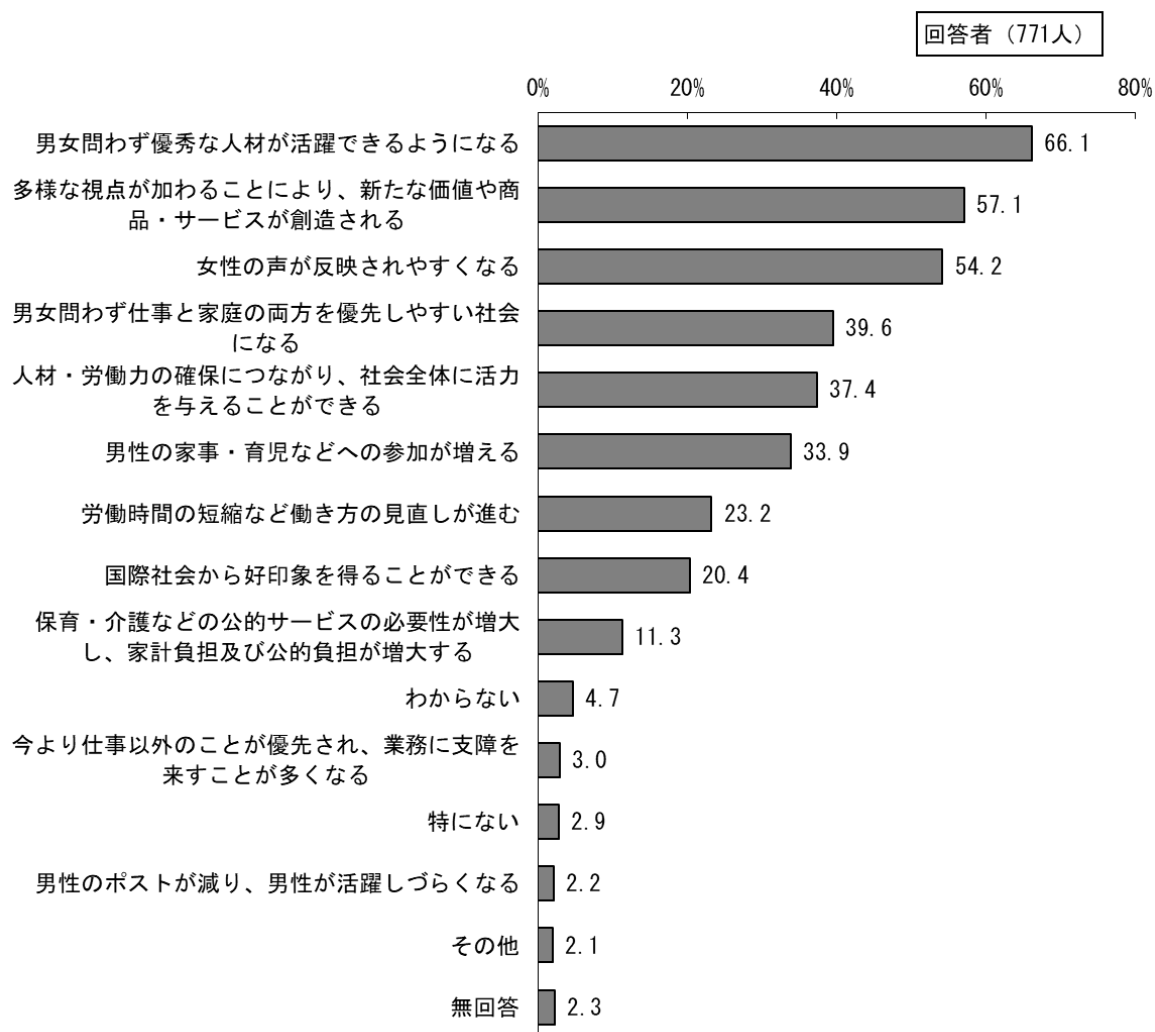
性別で見ると、女性では「子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい」が55.7%で男性の44.5%を11ポイント以上上回っています。

年齢別で見ると、30～69歳では「子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい」が5割を超えています。



**問 13 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えると、どのような影響があると思いますか。（〇はいくつでも）**

女性のリーダーが増えた場合の影響については、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が66.1%と最も多く、次いで「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」が57.1%、「女性の声が反映されやすくなる」が54.2%と続きます。





## ■ 前回調査との上位6項目比較（経年比較）

前回調査と上位6項目を比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が5割を超えています。

・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回（A）	今回（B）	比率変化 （B－A）
男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる	58.5	66.1	7.6
多様な視点が加わるにより、新たな価値や商品・サービスが創造される	48.9	57.1	8.2
女性の声が反映されやすくなる	49.7	54.2	4.5
男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる	35.1	39.6	4.5
人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる	32.3	37.4	5.1
男性の家事・育児などへの参加が増える	31.3	33.9	2.6

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる上位6項目の傾向

性別でみると、女性、男性とも「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が6割を超えています。

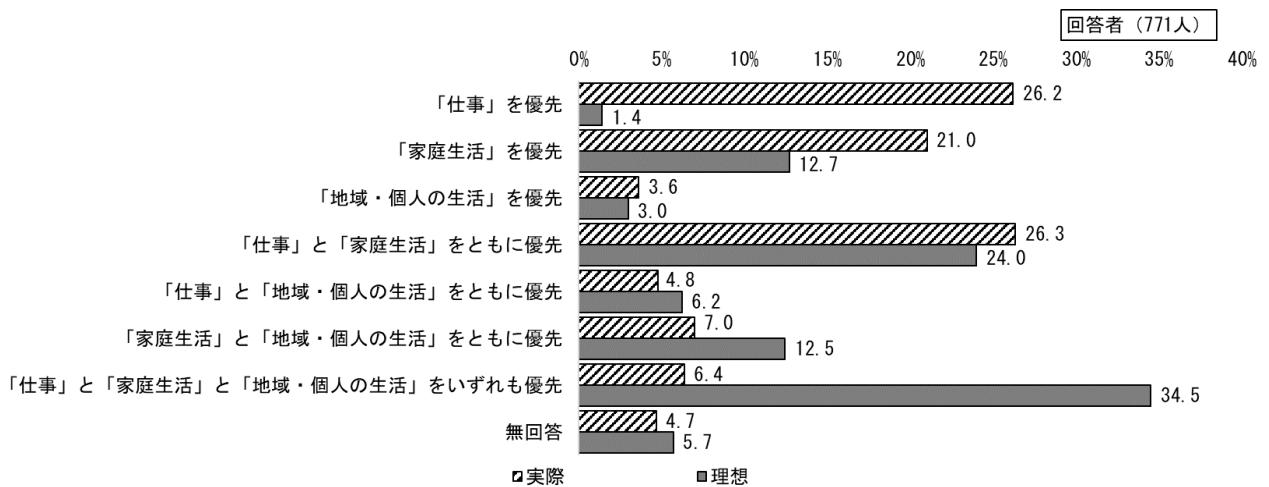
年齢別でみると、全年齢で「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」、18～29歳では「男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる」も最も多くなっています。

※数値は%、網掛は各区分の第1位。属性及び設問の「その他」、「無回答」は非表示

属性	区分	回答者（人）	男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる	多様な視点が加わるにより、新たな価値や商品・サービスが創造される	女性の声が反映されやすくなる	男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる	人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる	男性の家事・育児などへの参加が増える
	全体	771	66.1	57.1	54.2	39.6	37.4	33.9
性別	女性	442	67.2	57.2	56.8	43.9	34.8	36.7
	男性	317	65.9	57.4	51.1	33.4	41.0	30.0
年齢	18～29歳	65	66.2	64.6	63.1	66.2	33.8	43.1
	30～39歳	63	65.1	52.4	52.4	44.4	30.2	34.9
	40～49歳	94	71.3	62.8	59.6	46.8	33.0	36.2
	50～59歳	138	72.5	60.1	55.1	44.2	40.6	34.8
	60～69歳	184	64.1	62.5	58.2	30.4	44.0	31.5
	70歳以上	218	62.8	47.2	45.9	31.2	34.4	31.2

**問 14 日常生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度について、あなたの①実際の生活と②理想の生活に最も近いものはどれですか。（①、②の各項目で〇は1つ）**

日常生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度については、実際では「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が26.3%と最も多く、次いで「「仕事」を優先」が26.2%と続きます。理想では「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をいずれも優先」が34.5%と最も多く、次いで「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が24.0%と続きます。



**■ 前回調査との実際・理想上位3項目を比較（経年比較）**

前回調査と実際・理想上位3項目を比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、今回の実際では「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」、理想では「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をいずれも優先」、前回の実際では「「仕事」を優先」、理想では「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をいずれも優先」が最も多くなっています。

・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示		前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
実際	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	24.5	26.3	1.8
	「仕事」を優先	27.4	26.2	-1.2
	「家庭生活」を優先	20.5	21.0	0.5
理想	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をいずれも優先	30.4	34.5	4.1
	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	25.1	24.0	-1.1
	「家庭生活」を優先	11.4	12.7	1.3

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる実際・理想上位3項目の傾向

〔実際〕 性別で見ると、女性では「家庭生活」を優先、男性では「仕事」を優先が最も多くなっています。

年齢別で見ると、18～39歳、50～59歳では「仕事」を優先、60歳以上では「家庭生活」を優先、40～49歳、60～69歳では「仕事」と「家庭生活」をともに優先が最も多くなっています。

〔理想〕 性別で見ると、女性、男性とも「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をいずれも優先が3割を超えています。

年齢別で見ると、30～39歳では「仕事」と「家庭生活」をともに優先、18～29歳、40歳以上では「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をいずれも優先が最も多くなっています。

〔実際〕 ※数値は%、網掛は各区分の第1位。属性及び設問の「その他」、「無回答」は非表示

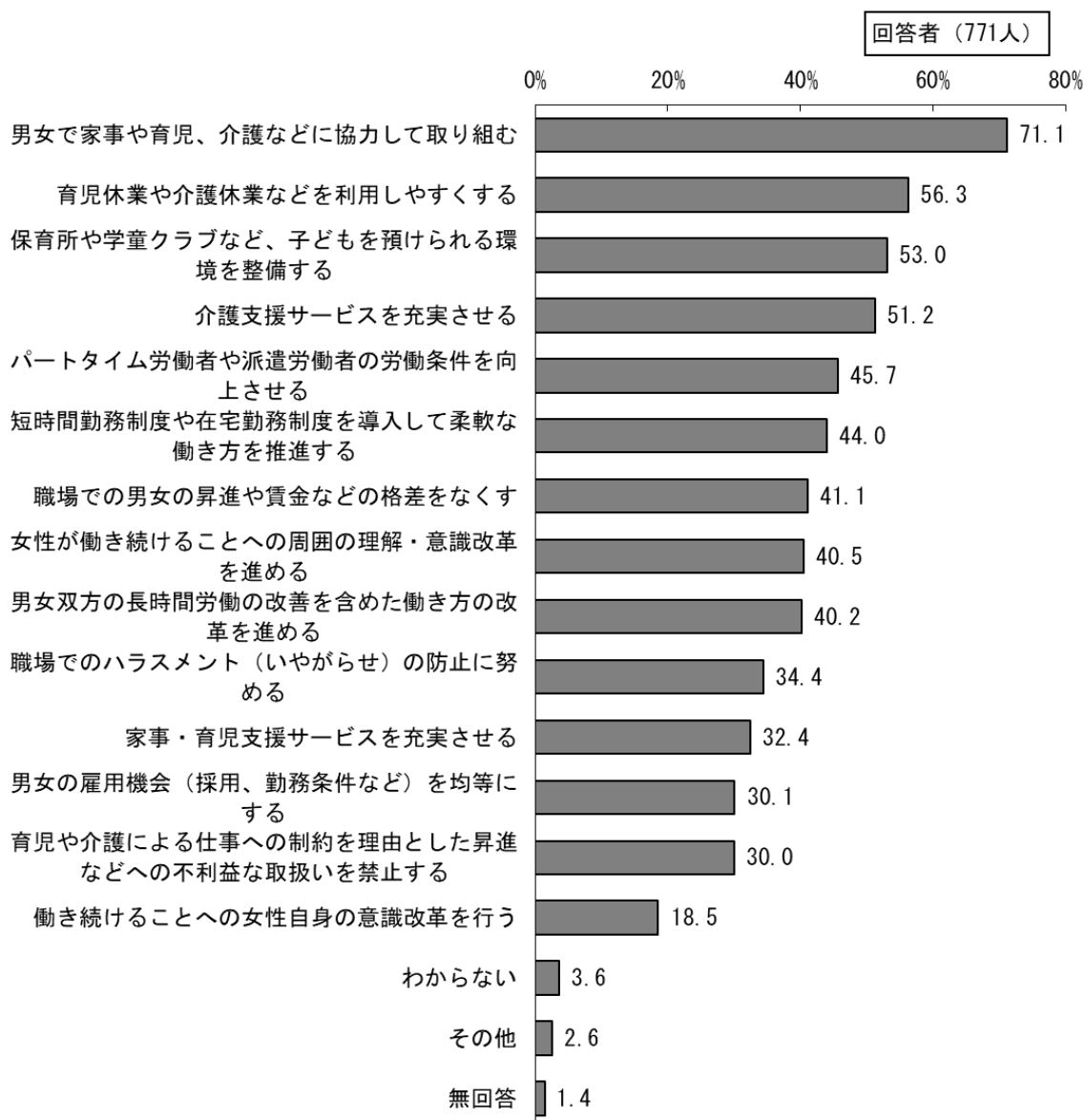
属性	区分	回答者(人)	「仕事」を優先	優先「家庭生活」を	優先「仕事」と「家庭生活」をともに	優先「地域・個人の生活」をともに	「家庭生活」と「地域・個人の生活」と	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をいずれも優先
	全体	771	26.2	21.0	26.3	7.0	6.4	
性別	女性	442	22.2	27.6	23.5	7.0	5.7	
	男性	317	32.2	12.0	29.7	7.3	6.9	
年齢	18～29歳	65	44.6	7.7	21.5	6.2	3.1	
	30～39歳	63	34.9	17.5	30.2	0.0	4.8	
	40～49歳	94	25.5	19.1	37.2	3.2	6.4	
	50～59歳	138	37.0	17.4	26.8	2.9	8.7	
	60～69歳	184	20.1	25.5	25.5	8.7	7.6	
	70歳以上	218	17.4	25.2	21.1	12.4	5.0	

〔理想〕 ※数値は%、網掛は各区分の第1位。属性及び設問の「その他」、「無回答」は非表示

属性	区分	回答者(人)	「仕事」を優先	優先「家庭生活」を	優先「仕事」と「家庭生活」をともに	優先「地域・個人の生活」をともに	「家庭生活」と「地域・個人の生活」と	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をいずれも優先
	全体	771	1.4	12.7	24.0	12.5	34.5	
性別	女性	442	1.4	13.6	22.2	12.9	33.7	
	男性	317	1.6	12.0	26.8	11.0	35.3	
年齢	18～29歳	65	0.0	13.8	24.6	13.8	35.4	
	30～39歳	63	1.6	17.5	34.9	3.2	31.7	
	40～49歳	94	1.1	14.9	26.6	6.4	38.3	
	50～59歳	138	2.2	15.9	28.3	10.1	35.5	
	60～69歳	184	2.7	13.0	22.3	13.0	36.4	
	70歳以上	218	0.5	8.3	18.8	17.0	31.2	

**問 15 あなたは、男女がともに働きやすい社会環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）**

男女がともに働きやすい社会環境をつくるために必要なことについては、「男女で家事や育児、介護などに協力して取り組む」が71.1%と最も多く、次いで「育児休業や介護休業などを利用しやすくする」が56.3%、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境を整備する」が53.0%と続きます。



## ■ 前回調査との上位5項目比較（経年比較）

前回調査と上位5項目を比較すると、10ポイント以上の変化があった項目は、「育児休業や介護休業などを利用しやすくする」が10ポイント以上多くなっています。

・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回（A）	今回（B）	比率変化 （B－A）
男女で家事や育児、介護などに協力して取り組む	62.4	71.1	8.7
育児休業や介護休業などを利用しやすくする	45.6	56.3	10.7
保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境を整備する	49.5	53.0	3.5
介護支援サービスを充実させる	47.3	51.2	3.9
パートタイム労働者や派遣労働者の労働条件を向上させる	39.2	45.7	6.5

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる上位5項目の傾向

性別でみると、女性では「男女で家事や育児、介護などに協力して取り組む」が76.2%で男性の63.4%を13ポイント近く上回っています。

年齢別でみると、18～59歳では「男女で家事や育児、介護などに協力して取り組む」が7割を超えています。

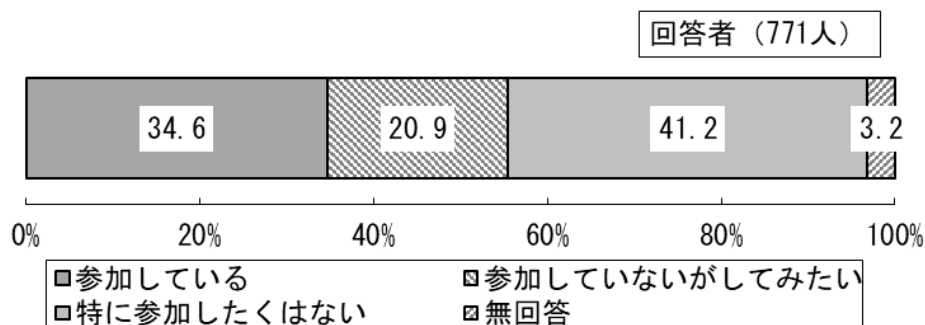
※数値は%、網掛は各区分の第1位。属性及び設問の「その他」、「無回答」は非表示

属性	区分	回答者（人）	男女で家事や育児、介護などに協力して取り組む	育児休業や介護休業などを利用しやすくする	保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境を整備する	介護支援サービスを充実させる	パートタイム労働者や派遣労働者の労働条件を向上させる
	全体	771	71.1	56.3	53.0	51.2	45.7
性別	女性	442	76.2	60.2	53.6	54.5	47.7
	男性	317	63.4	50.2	51.7	46.7	41.6
年齢	18～29歳	65	83.1	67.7	60.0	44.6	41.5
	30～39歳	63	71.4	63.5	55.6	39.7	41.3
	40～49歳	94	71.3	55.3	56.4	53.2	48.9
	50～59歳	138	73.2	63.8	51.4	54.3	43.5
	60～69歳	184	69.0	54.9	56.5	55.4	48.4
	70歳以上	218	67.0	46.8	46.3	50.5	44.0

## 5. 社会活動・地域活動についておたずねします

### 問 16 あなたは現在、社会活動や地域活動に参加していますか。(〇は1つ)

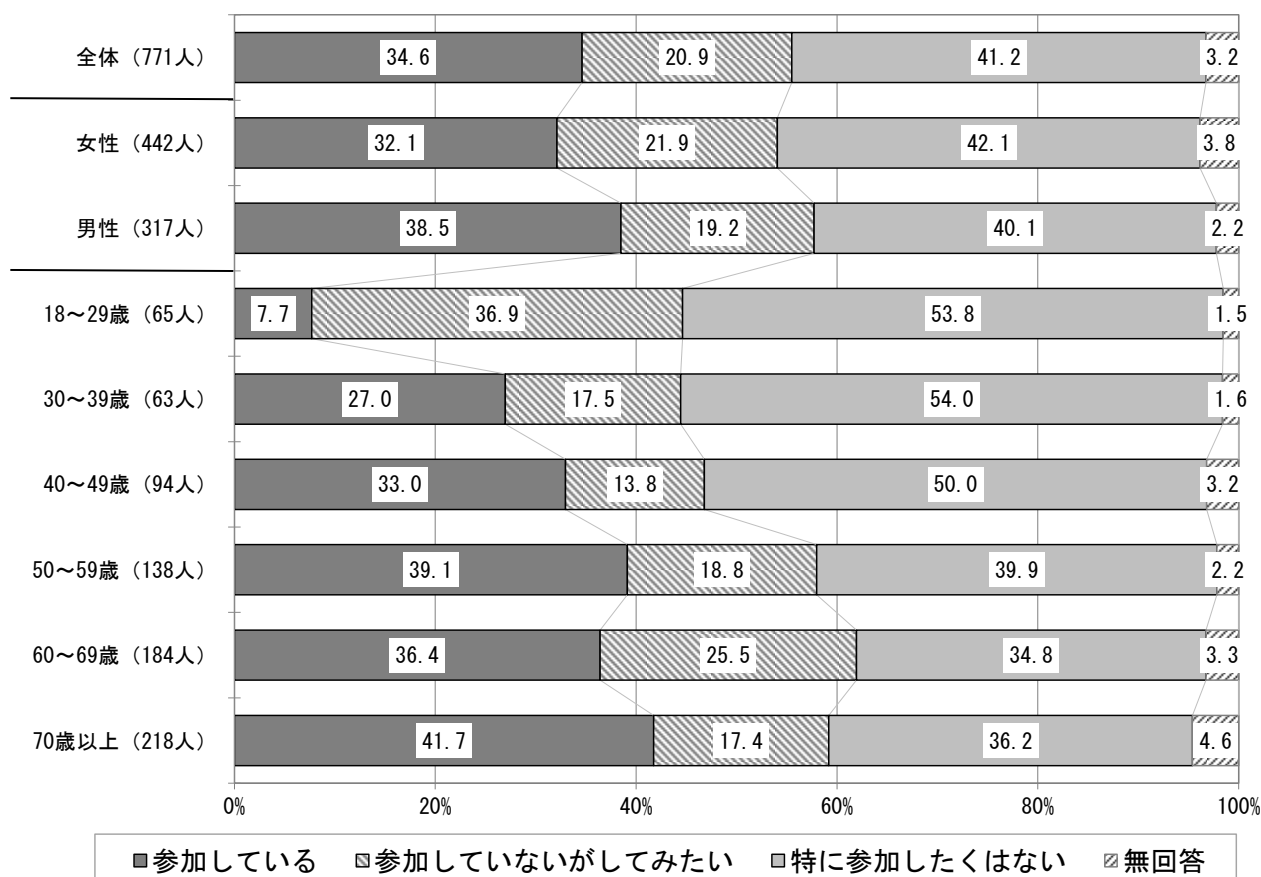
現在、社会活動や地域活動に参加しているかについては、「特に参加したくない」が41.2%と最も多く、次いで「参加している」が34.6%、「参加していないがしてみたい」が20.9%と続きます。



### ■ 回答者属性からみる傾向

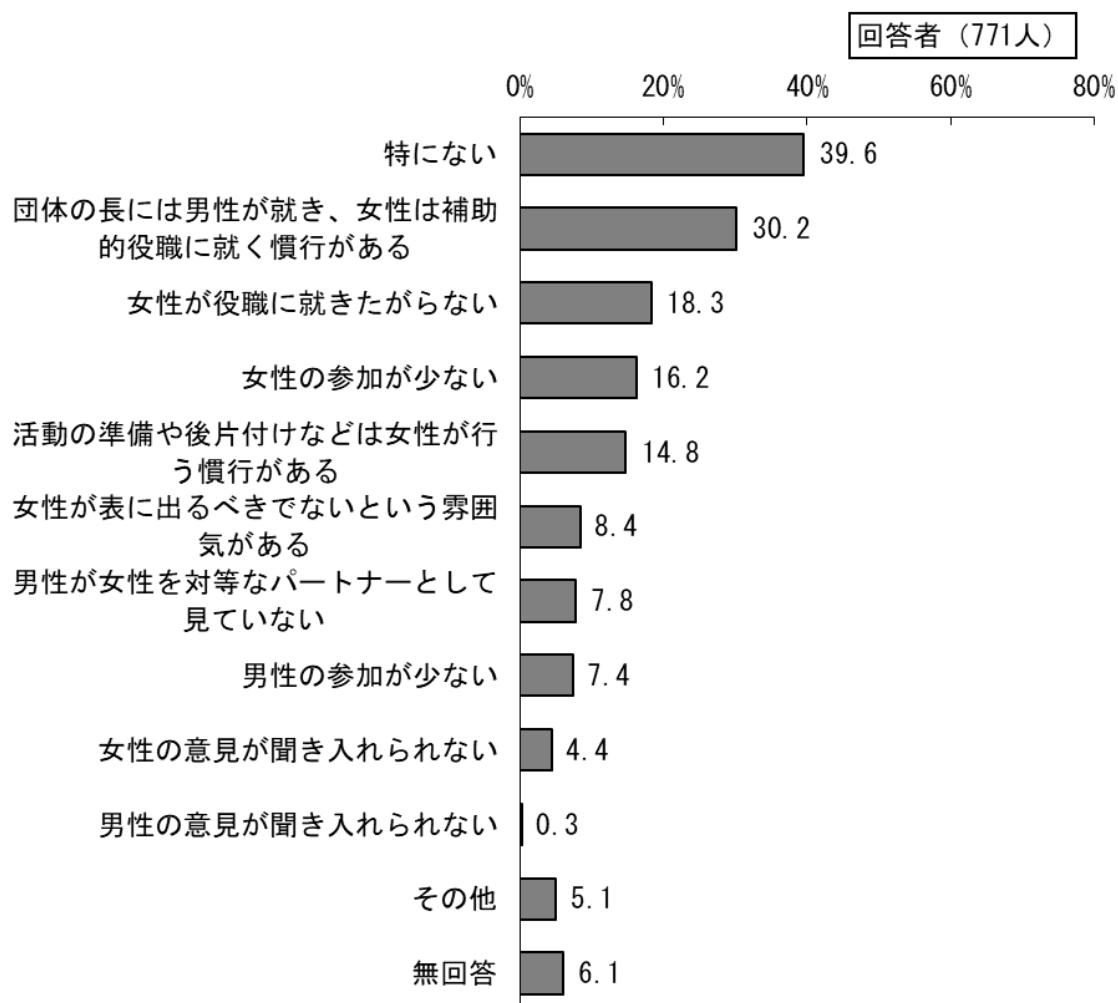
性別でみると、女性、男性とも「特に参加したくない」が4割を超えています。

年齢別でみると、18～59歳では「特に参加したくない」、60歳以上では「参加している」が最も多くなっています。



問 17 あなたが住んでいる地域や活動されている団体で、次のようなことはありますか。  
 (〇はいくつでも)

住んでいる地域や活動されている団体で次のようなことはあるかについては、「特にない」が39.6%と最も多く、次いで「団体の長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」が30.2%、「女性が役職に就きたがらない」が18.3%と続きます。



## ■ 前回調査との上位5項目比較（経年比較）

前回調査と上位5項目を比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも「特にない」が約4割となっています。

・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回（A）	今回（B）	比率変化 （B－A）
特にない	40.6	39.6	-1.0
団体の長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある	23.1	30.2	7.1
女性が役職に就きたがらない	16.7	18.3	1.6
女性の参加が少ない	14.1	16.2	2.1
活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある	12.0	14.8	2.8

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる上位5項目の傾向

性別でみると、女性では「特にない」が41.4%で男性の37.5%を4ポイント近く上回っています。

年齢別でみると、18～59歳では「特にない」、60歳以上では「団体の長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」が最も多くなっています。

※数値は%、網掛は各区分の第1位。属性及び設問の「その他」、「無回答」は非表示

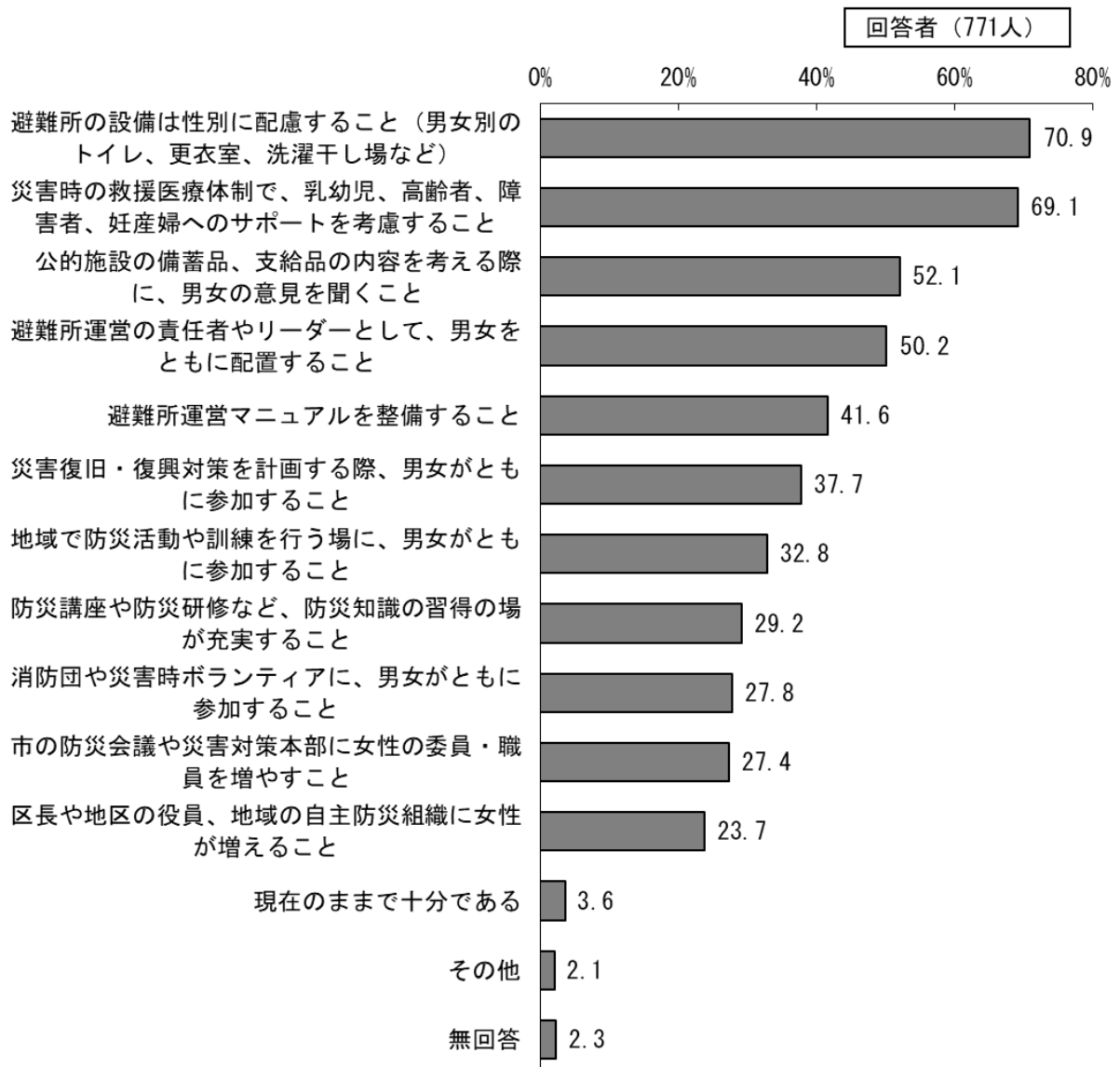
属性	区分	回答者 (人)	特にない	団体の長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある	女性が役職に就きたがらない	女性の参加が少ない	活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある
	全体	771	39.6	30.2	18.3	16.2	14.8
性別	女性	442	41.4	26.7	16.5	11.5	16.3
	男性	317	37.5	34.7	20.8	23.3	12.3
年齢	18～29歳	65	56.9	18.5	3.1	7.7	7.7
	30～39歳	63	39.7	25.4	14.3	17.5	12.7
	40～49歳	94	41.5	23.4	18.1	5.3	16.0
	50～59歳	138	44.2	23.2	26.1	14.5	13.8
	60～69歳	184	34.8	37.0	19.6	21.7	16.8
	70歳以上	218	35.8	36.2	18.3	20.2	15.1



問 18 災害時の配慮や日頃の防災の取組などで、どのようなことが必要だと思いますか。

(〇はいくつでも)

災害時の配慮や防災の取組などで必要なことについては、「避難所の設備は性別に配慮すること」が70.9%で最も多く、次いで「災害時の救援医療体制で、乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポートを考慮すること」が69.1%、「公的施設の備蓄品、支給品の内容を考える際に、男女の意見を聞くこと」が52.1%と続きます。



## ■ 前回調査との上位5項目比較（経年比較）

前回調査と上位5項目を比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも「避難所の設備は性別に配慮すること」、「災害時の救援医療体制で、乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポートを考慮すること」が6割を超えています。

・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回（A）	今回（B）	比率変化 （B－A）
避難所の設備は性別に配慮すること（男女別のトイレ、更衣室、洗濯干し場など）	65.7	70.9	5.2
災害時の救援医療体制で、乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポートを考慮すること	63.8	69.1	5.3
公的施設の備蓄品、支給品の内容を考える際に、男女の意見を聞くこと	46.6	52.1	5.5
避難所運営の責任者やリーダーとして、男女をともに配置すること	46.6	50.2	3.6
避難所運営マニュアルを整備すること	40.8	41.6	0.8

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる上位5項目の傾向

性別でみると、女性では「避難所の設備は性別に配慮すること」、男性では「災害時の救援医療体制で、乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポートを考慮すること」が最も多くなっています。

年齢別でみると、40歳以上では「避難所の設備は性別に配慮すること」、18～39歳では「災害時の救援医療体制で、乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポートを考慮すること」が最も多くなっています。

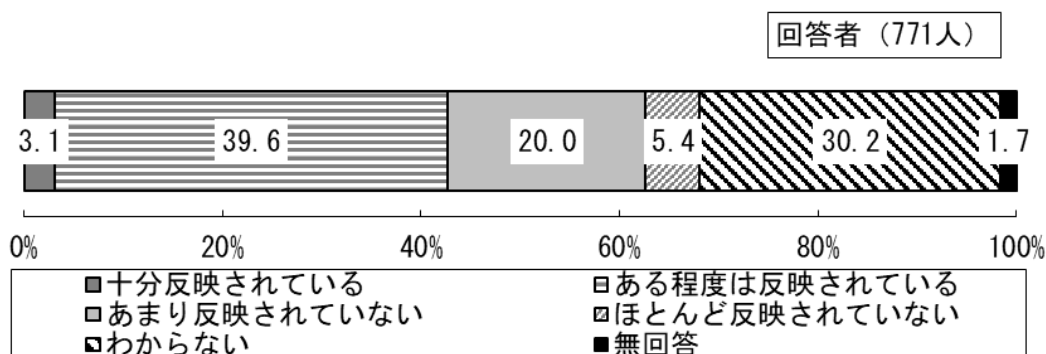
※数値は%、網掛は各区分の第1位。属性及び設問の「その他」、「無回答」は非表示

属性	区分	回答者（人）	避難所の設備は性別に配慮すること（男女別のトイレ、更衣室、洗濯干し場など）	災害時の救援医療体制で、乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポートを考慮すること	公的施設の備蓄品、支給品の内容を考える際に、男女の意見を聞くこと	避難所運営の責任者やリーダーとして、男女をともに配置すること	避難所運営マニュアルを整備すること
	全体	771	70.9	69.1	52.1	50.2	41.6
性別	女性	442	74.4	69.5	53.4	49.1	38.7
	男性	317	65.9	67.8	50.2	51.7	45.1
年齢	18～29歳	65	69.2	80.0	63.1	44.6	47.7
	30～39歳	63	66.7	68.3	61.9	28.6	42.9
	40～49歳	94	74.5	68.1	51.1	36.2	48.9
	50～59歳	138	77.5	72.5	54.3	59.4	42.0
	60～69歳	184	69.0	67.9	51.1	57.1	35.9
	70歳以上	218	68.3	64.2	45.9	52.3	40.4

問 19 あなたは、女性の意見は地域の活動や生活に反映されていると思いますか。

(○は1つ)

女性の意見は地域の活動や生活に反映されているかについては、「十分反映されている」と「ある程度は反映されている」を合わせた『反映されている』が42.7%で、「あまり反映されていない」と「ほとんど反映されていない」を合わせた『反映されていない』の25.4%を17ポイント以上上回っています。



■ 前回調査との比較 (経年比較)

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、『反映されている』が少なくなり、『反映されていない』が多くなっています。

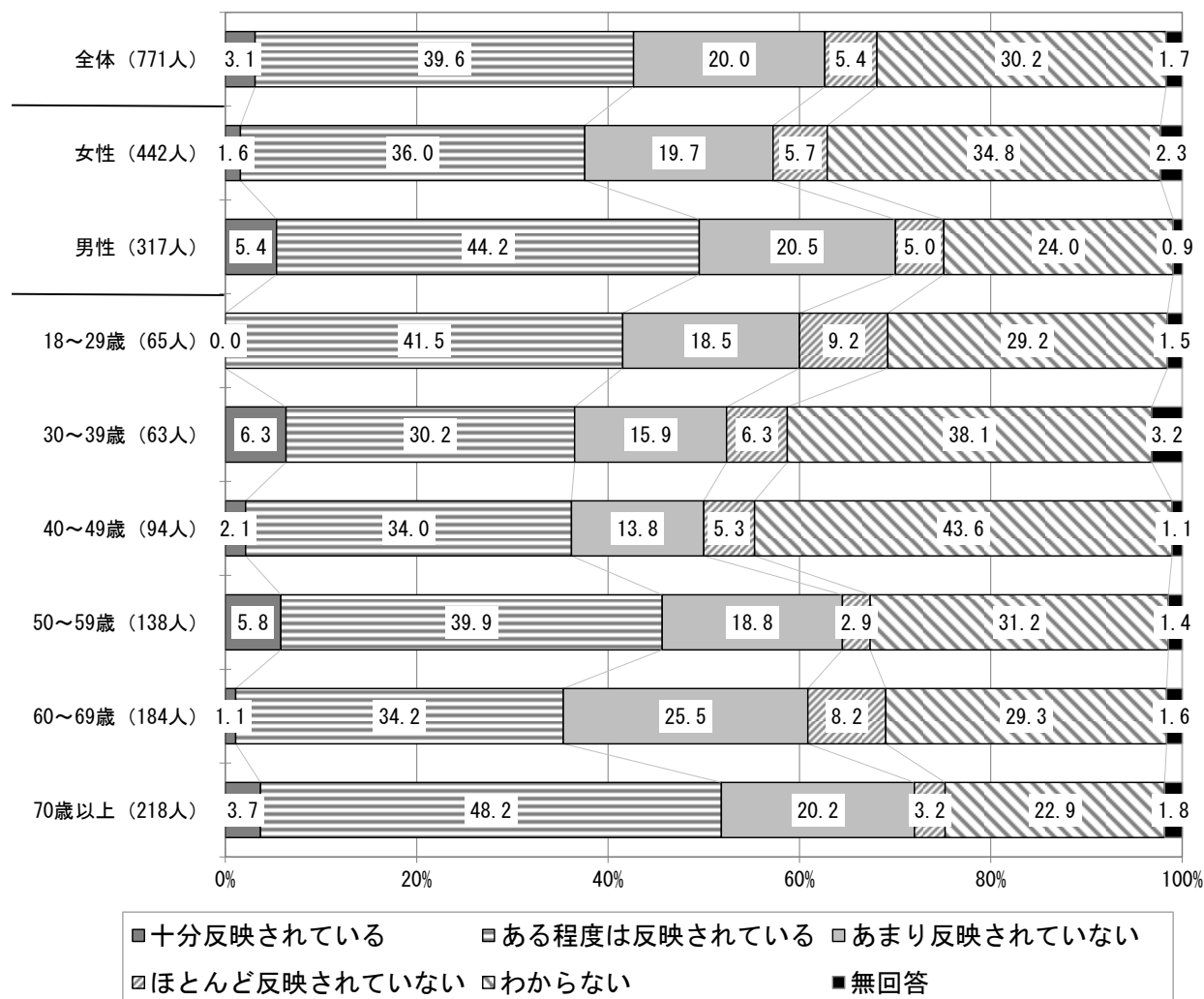
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
十分反映されている	4.5	3.1	-1.4
ある程度は反映されている	44.5	39.6	-4.9
あまり反映されていない	16.9	20.0	3.1
ほとんど反映されていない	3.1	5.4	2.3
わからない	27.6	30.2	2.6
『反映されている』	49.0	42.7	-6.3
『反映されていない』	20.0	25.4	5.4

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

性別でみると、男性では『反映されている』が49.6%で女性の37.6%を12ポイント上回っています。

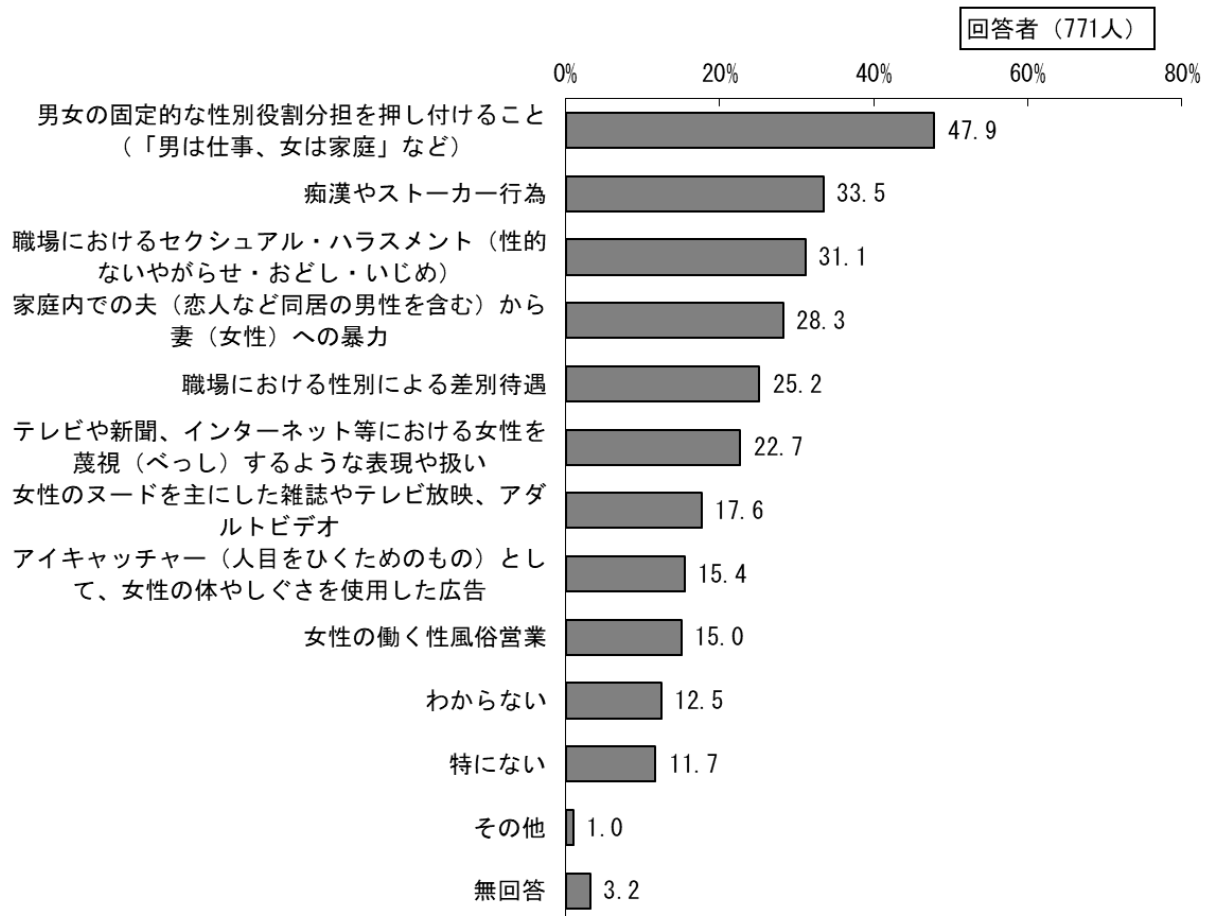
年齢別でみると、18～29歳、50～59歳、70歳以上では『反映されている』が4割を超えています。



## 6. 人権についておたずねします

問 20 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。（〇はいくつでも）

女性の人権が尊重されていないと感じることについては、「男女の固定的な性別役割分担を押し付けること」が47.9%と最も多く、次いで「痴漢やストーカー行為」が33.5%、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」が31.1%と続きます。



## ■ 前回調査との上位5項目比較（経年比較）

前回調査と上位5項目を比較すると、10ポイント以上の変化があった項目は、「家庭内での夫（恋人など同居の男性を含む）から妻（女性）への暴力」が10ポイント以上多くなっています。

・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回（A）	今回（B）	比率変化 （B－A）
男女の固定的な性別役割分担を押し付けること（「男は仕事、女は家庭」など）	39.3	47.9	8.6
痴漢やストーカー行為	31.0	33.5	2.5
職場におけるセクシュアル・ハラスメント（性的ないやがらせ・おどし・いじめ）	31.2	31.1	-0.1
家庭内での夫（恋人など同居の男性を含む）から妻（女性）への暴力	18.0	28.3	10.3
職場における性別による差別待遇	19.7	25.2	5.5

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる上位5項目の傾向

性別でみると、女性では「男女の固定的な性別役割分担を押し付けること」が51.6%で男性の42.3%を9ポイント以上上回っています。

年齢別でみると、18～49歳では「男女の固定的な性別役割分担を押し付けること」が5割を超えています。

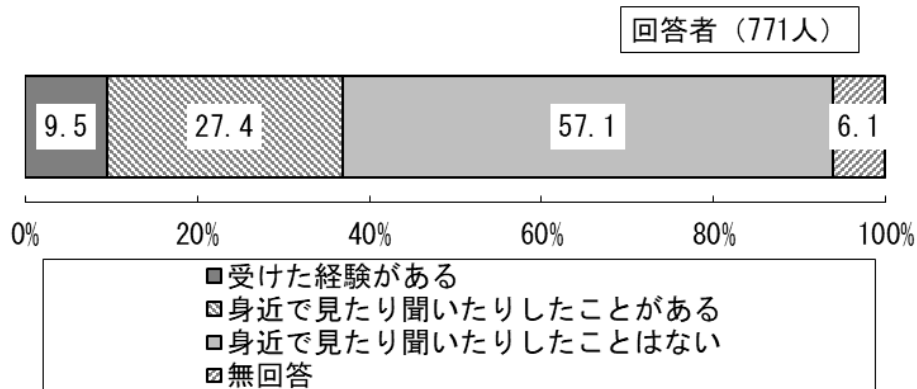
※数値は%、網掛は各区分の第1位。属性及び設問の「その他」、「無回答」は非表示

属性	区分	回答者（人）	男女の固定的な性別役割分担を押し付けること（「男は仕事、女は家庭」など）	痴漢やストーカー行為	職場におけるセクシュアル・ハラスメント（性的ないやがらせ・おどし・いじめ）	家庭内での夫（恋人など同居の男性を含む）から妻（女性）への暴力	職場における性別による差別待遇
	全体	771	47.9	33.5	31.1	28.3	25.2
性別	女性	442	51.6	34.6	30.8	28.7	26.5
	男性	317	42.3	31.9	32.2	27.4	23.3
年齢	18～29歳	65	69.2	43.1	44.6	44.6	36.9
	30～39歳	63	50.8	34.9	36.5	28.6	28.6
	40～49歳	94	55.3	33.0	28.7	31.9	27.7
	50～59歳	138	49.3	34.8	29.7	29.0	23.2
	60～69歳	184	48.9	34.8	32.6	24.5	25.5
	70歳以上	218	34.9	28.4	27.1	24.3	20.2

問 21 あなたは、次のような人権侵害行為を経験したり、身近で見たり聞いたりしたことがありますか。(①～④の各項目について、○は1つ)

①セクシュアル・ハラスメント【セクハラ】

セクシュアル・ハラスメントについては、「身近で見たり聞いたりしたことはない」が57.1%と最も多く、次いで「身近で見たり聞いたりしたことがある」が27.4%と続きます。



■ 前回調査との比較 (経年比較)

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも「身近で見たり聞いたりしたことはない」が5割を超えています。

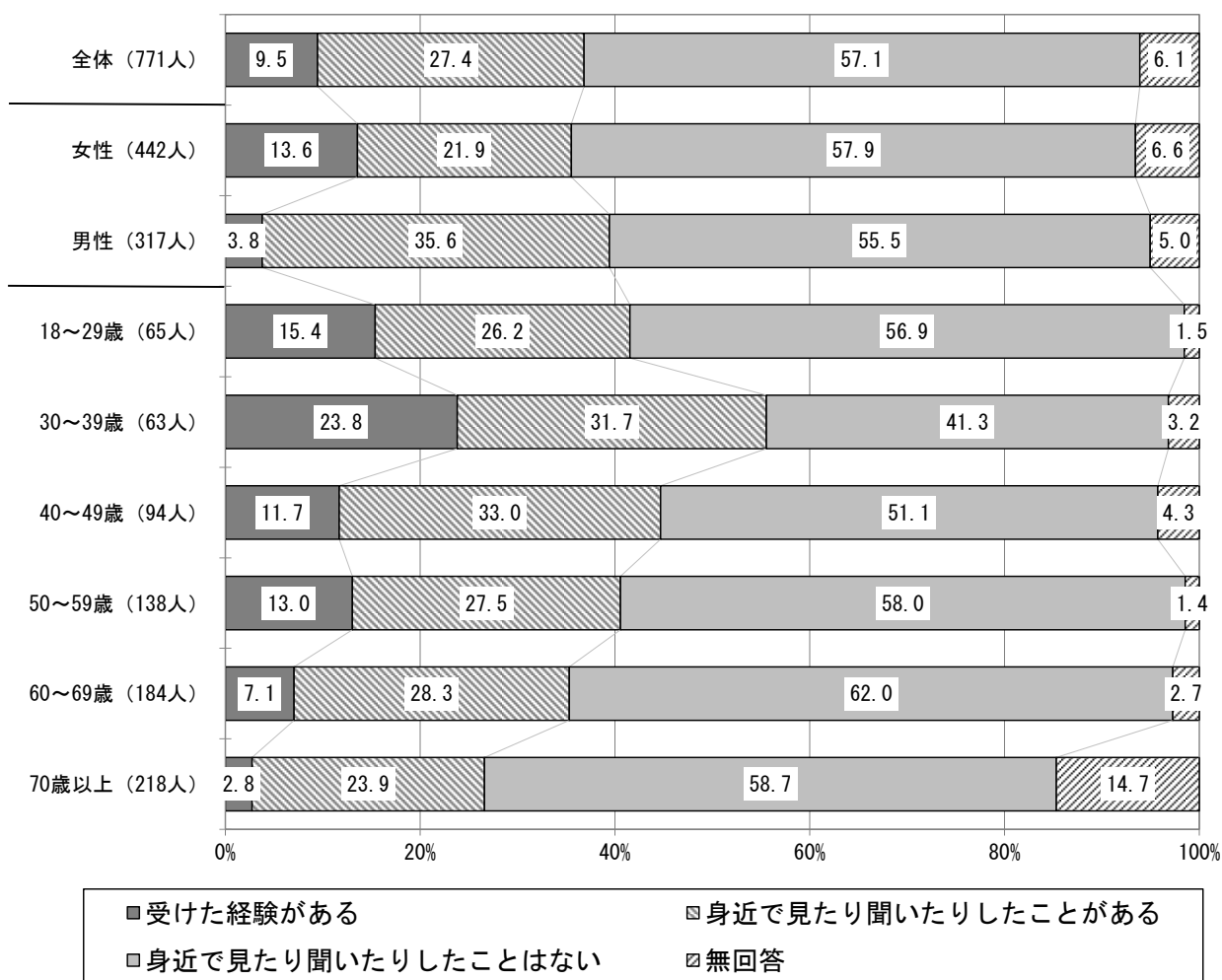
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
受けた経験がある	6.6	9.5	2.9
身近で見たり聞いたりしたことがある	25.9	27.4	1.5
身近で見たり聞いたりしたことはない	60.0	57.1	-2.9

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

性別で見ると、女性、男性とも「身近で見たり聞いたりしたことはない」が5割を超えています。

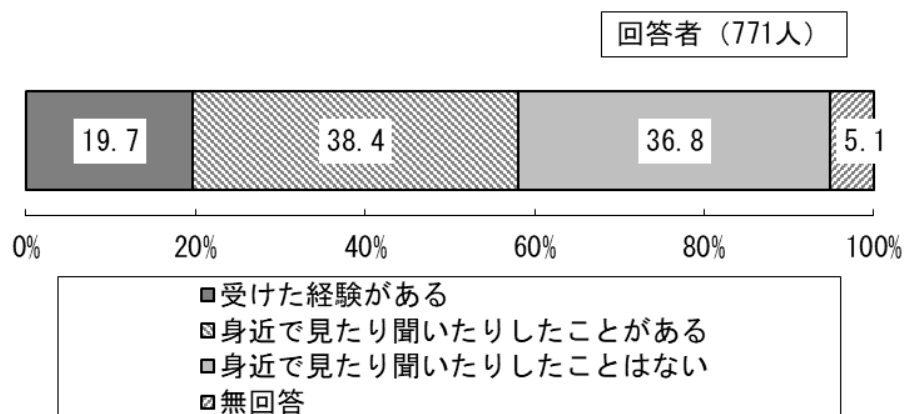
年齢別で見ると、18～29歳、40歳以上では「身近で見たり聞いたりしたことはない」が5割を超えています。





## ②パワー・ハラスメント【パウハラ】

パワー・ハラスメントについては、「身近で見たり聞いたりしたことがある」が38.4%で最も多く、次いで「身近で見たり聞いたりしたことはない」が36.8%と続きます。



### ■ 前回調査との比較（経年比較）

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、今回調査では「身近で見たり聞いたりしたことがある」が最も多くなっています。

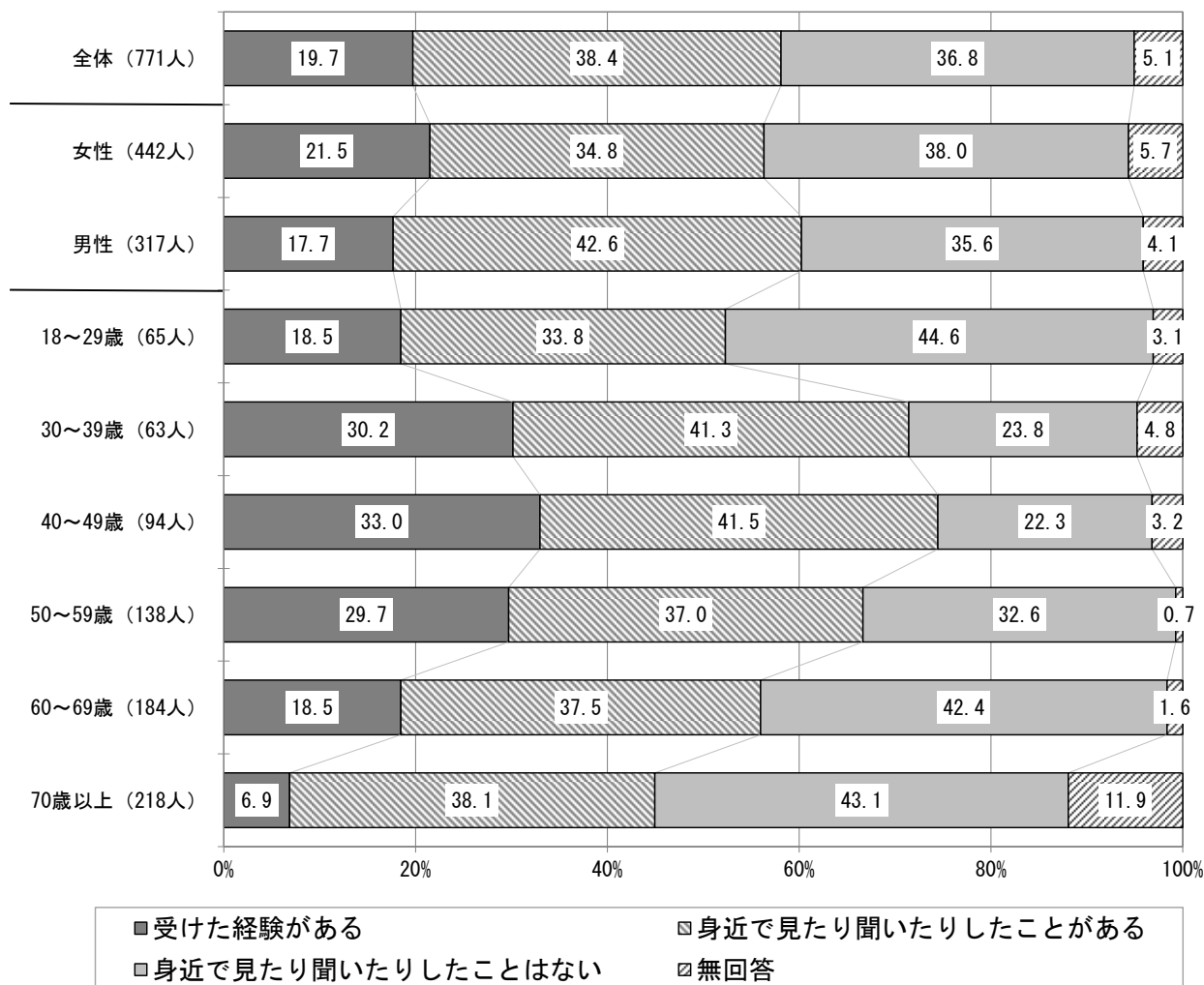
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
受けた経験がある	20.2	19.7	-0.5
身近で見たり聞いたりしたことがある	32.8	38.4	5.6
身近で見たり聞いたりしたことはない	38.9	36.8	-2.1

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

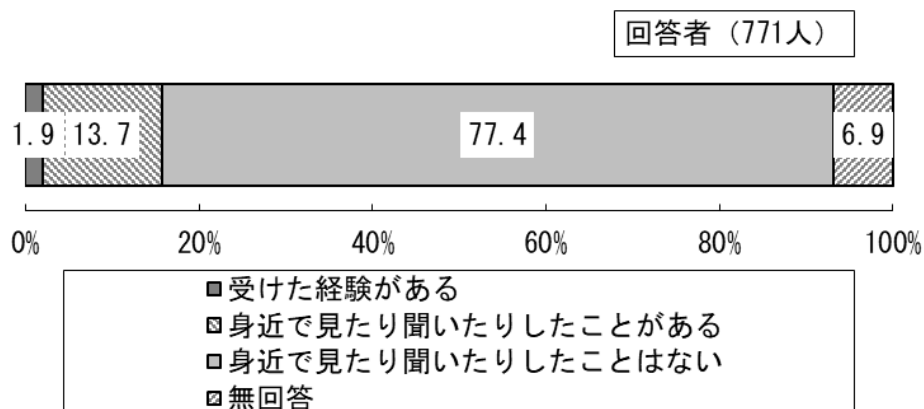
性別で見ると、女性では「身近で見たり聞いたりしたことはない」、男性では「身近で見たり聞いたりしたことがある」が最も多くなっています。

年齢別で見ると、30～59歳では「身近で見たり聞いたりしたことがある」、18～29歳、60歳以上では「身近で見たり聞いたりしたことはない」が最も多くなっています。



### ③マタニティ・ハラスメント【マタハラ】

マタニティ・ハラスメントについては、「身近で見たり聞いたりしたことはない」が77.4%と最も多く、次いで「身近で見たり聞いたりしたことがある」が13.7%と続きます。



#### ■ 前回調査との比較（経年比較）

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも「身近で見たり聞いたりしたことはない」が7割を超えています。

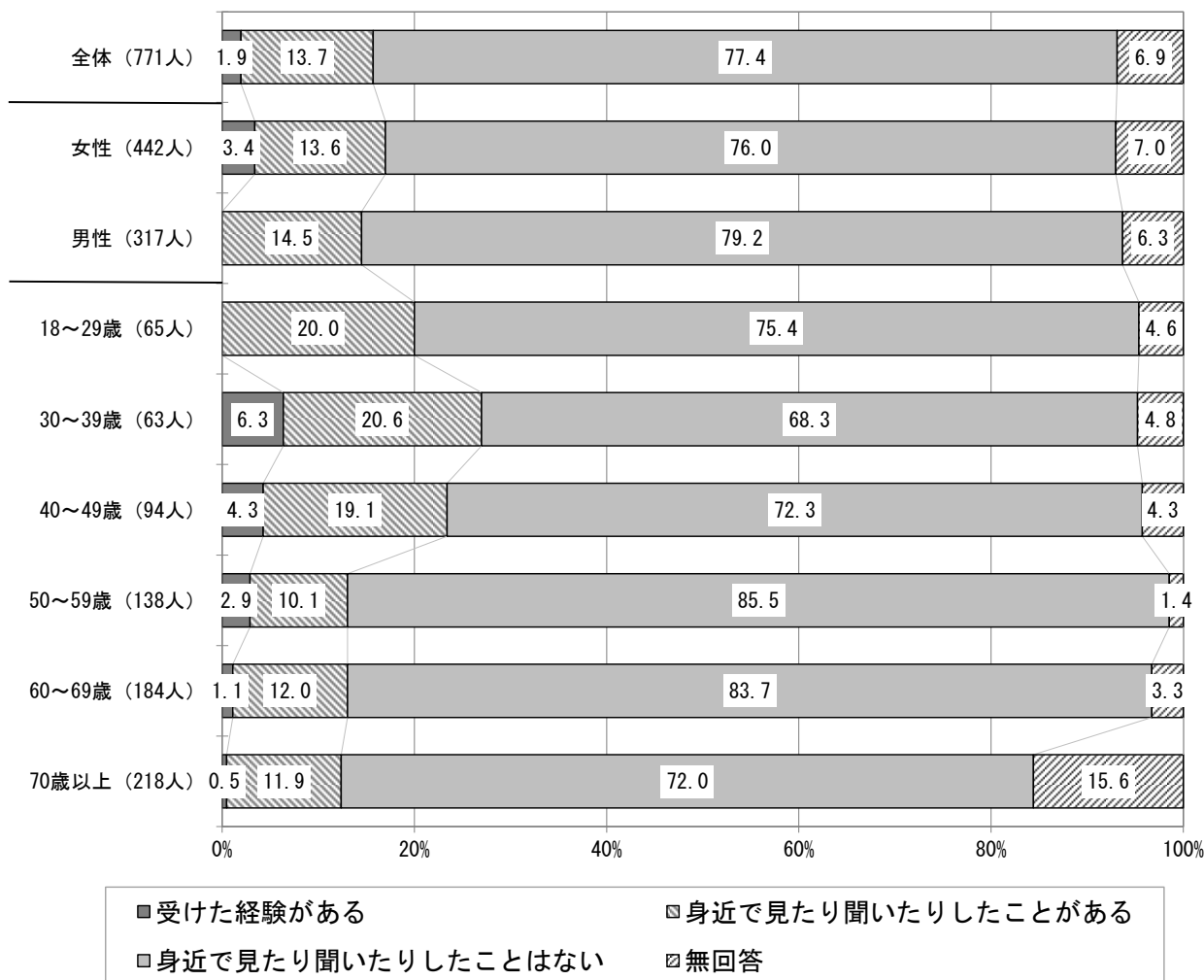
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
受けた経験がある	1.9	1.9	0.0
身近で見たり聞いたりしたことがある	15.0	13.7	-1.3
身近で見たり聞いたりしたことはない	73.2	77.4	4.2

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

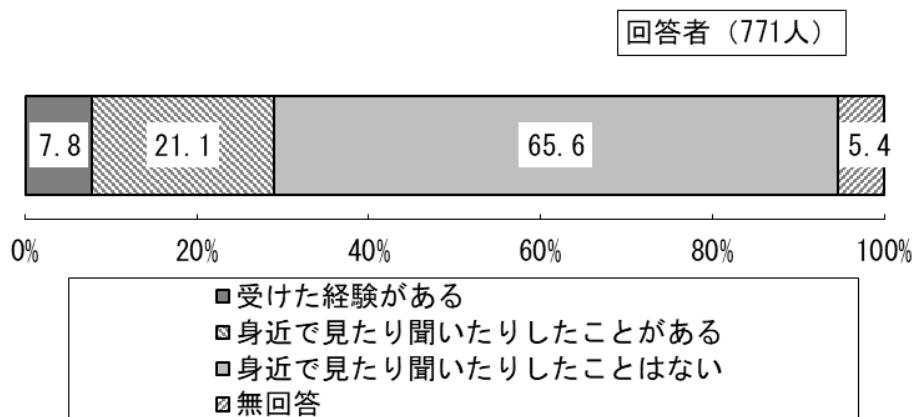
性別で見ると、女性、男性とも「身近で見たり聞いたりしたことはない」が7割を超えています。

年齢別で見ると、18～29歳、40歳以上では「身近で見たり聞いたりしたことはない」が7割を超えています。



#### ④ ストーカー行為

ストーカー行為については、「身近で見たり聞いたりしたことはない」が65.6%と最も多く、次いで「身近で見たり聞いたりしたことがある」が21.1%と続きます。



#### ■ 前回調査との比較（経年比較）

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも「身近で見たり聞いたりしたことはない」が6割を超えています。

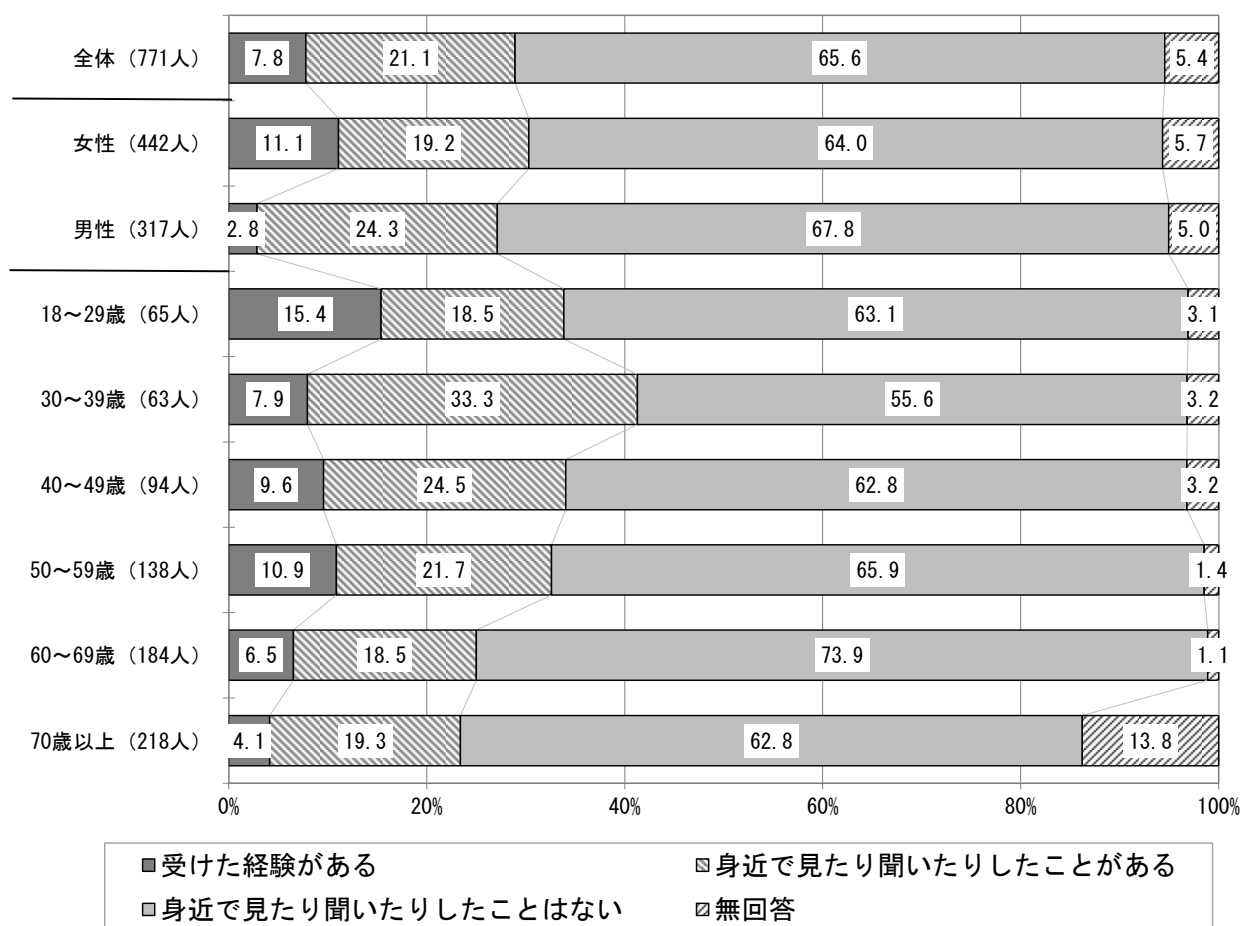
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
受けた経験がある	5.8	7.8	2.0
身近で見たり聞いたりしたことがある	18.7	21.1	2.4
身近で見たり聞いたりしたことはない	66.6	65.6	-1.0

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

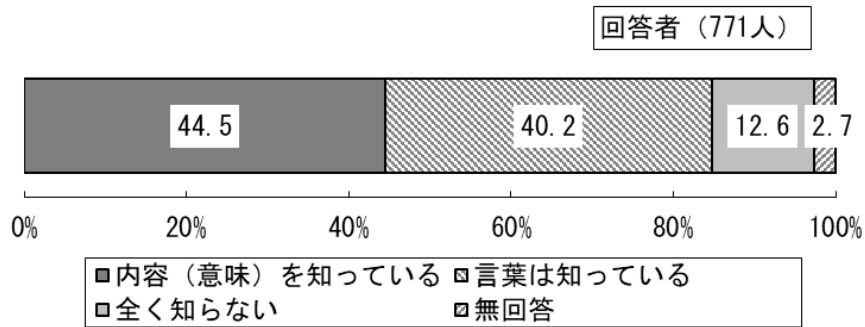
性別で見ると、女性、男性とも「身近で見たり聞いたりしたことはない」が6割を超えています。

年齢別で見ると、18～29歳、40歳以上では「身近で見たり聞いたりしたことはない」が6割を超えています。



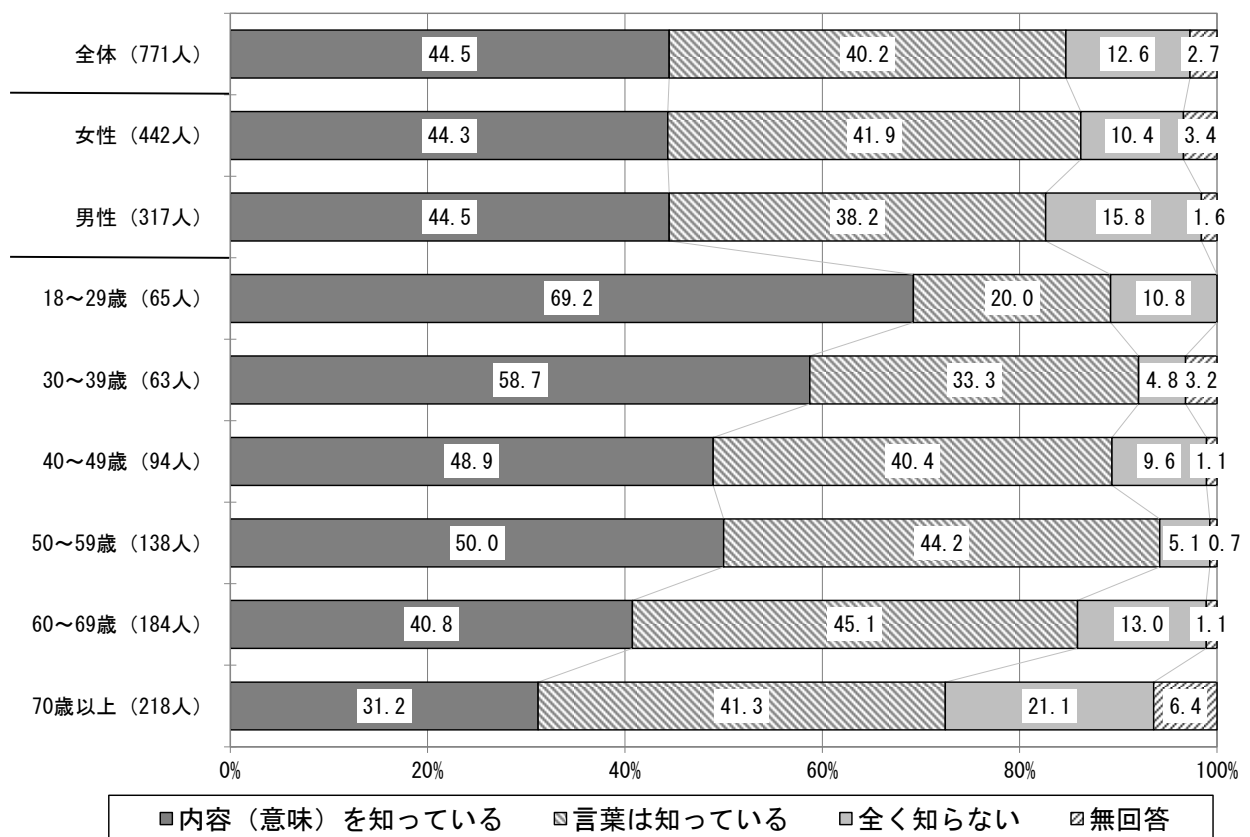
問 22 「LGBT (Q+)」「性的マイノリティ」という言葉や意味を知っていますか。  
(〇は1つ)

「LGBT (Q+)」「性的マイノリティ」という言葉や意味を知っているかについては、「内容(意味)を知っている」が44.5%と最も多く、次いで「言葉は知っている」が40.2%と続きます。



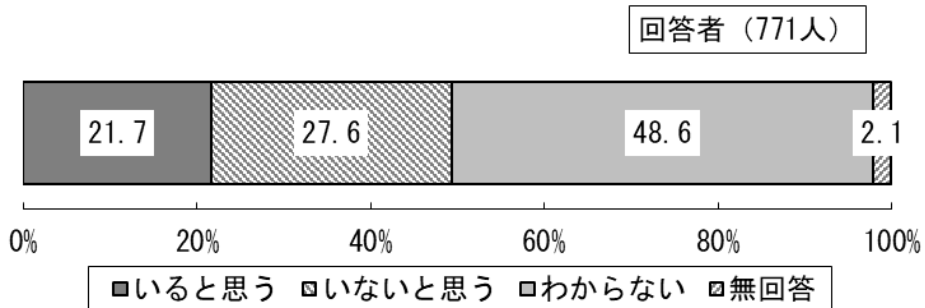
■ 回答者属性からみる傾向

性別でみると、女性、男性とも「内容(意味)を知っている」が4割を超えています。  
年齢別でみると、18~59歳では「内容(意味)を知っている」、60歳以上では「言葉は知っている」が最も多くなっています。



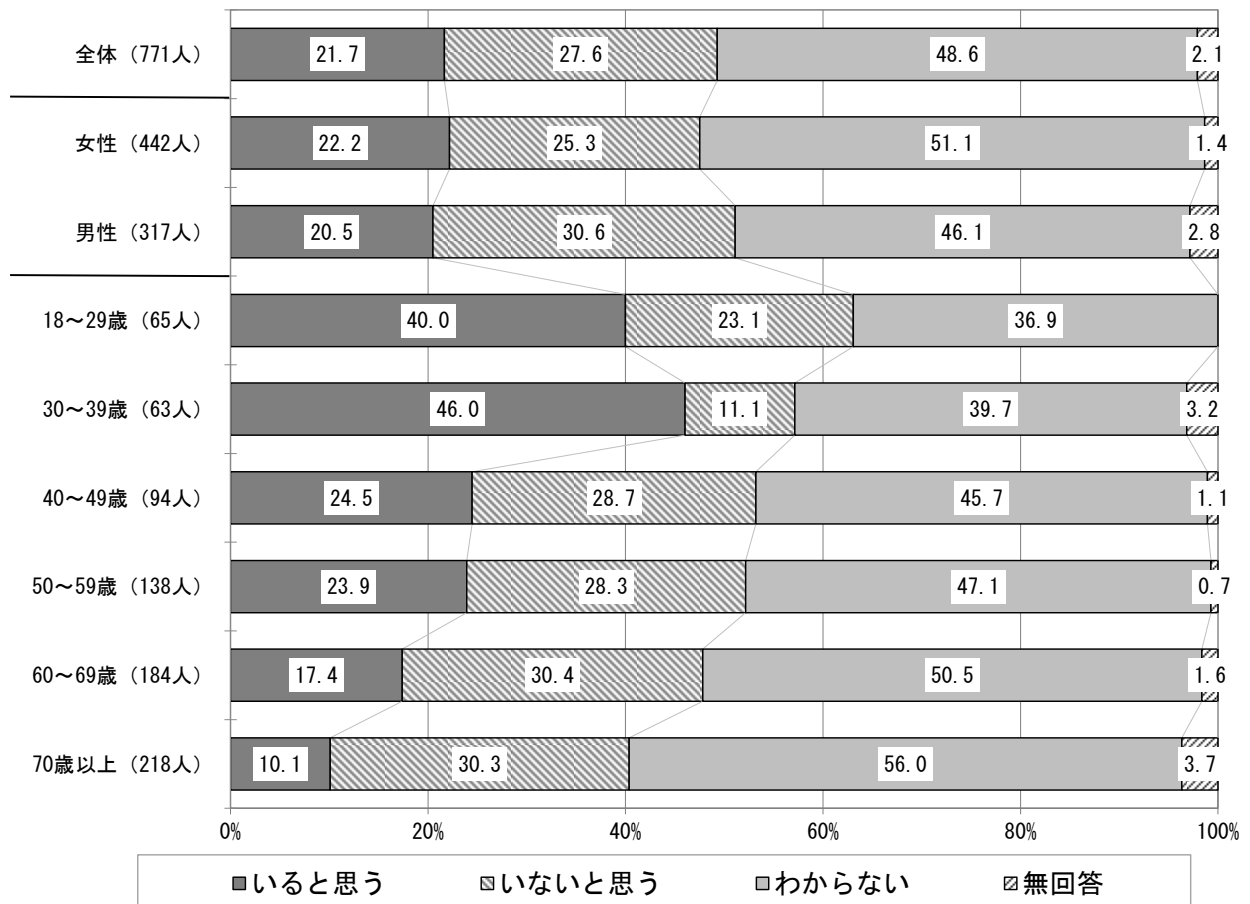
**問 23 身近に性的マイノリティの当事者がいると思いますか。(〇は1つ)**

身近に性的マイノリティの当事者がいるかについては、「わからない」が48.6%と最も多く、次いで「いないと思う」が27.6%と続きます。



**■ 回答者属性からみる傾向**

性別でみると、女性の「わからない」が51.1%で男性の46.1%を5ポイント上回っています。年齢別でみると、18～39歳では「いると思う」、40歳以上では「わからない」が最も多くなっています。





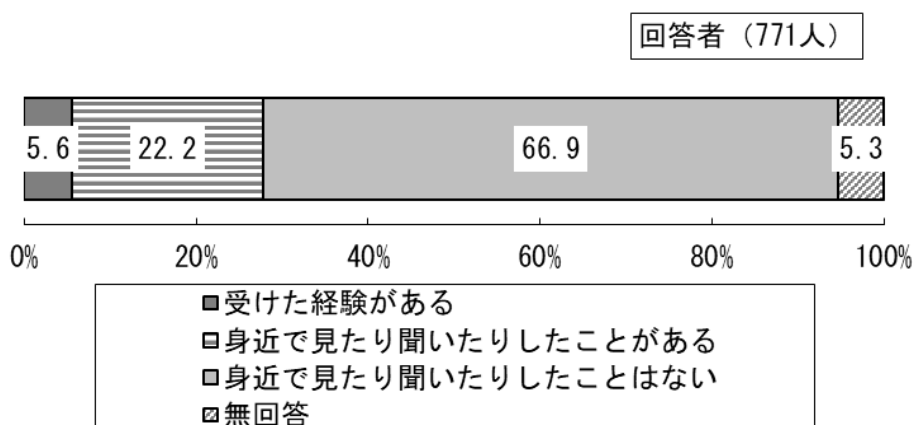
## 7. 配偶者等からの暴力（DV）についておたずねします

問 24 配偶者等※からの暴力（DV：ドメスティック・バイオレンス）を経験したり、見たり聞いたりしたことがありますか。（①～⑤の各項目について、○は1つ）

※「配偶者等」には、事実婚や別居中、離婚した夫婦なども含まれます。

### ①身体的暴力

身体的暴力については、「見たり聞いたりしたことはない」が66.9%と最も多く、次いで「身近で見たり聞いたりしたことがある」が22.2%と続きます。



### ■ 前回調査との比較（経年比較）

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも「身近で見たり聞いたりしたことはない」が6割を超えています。

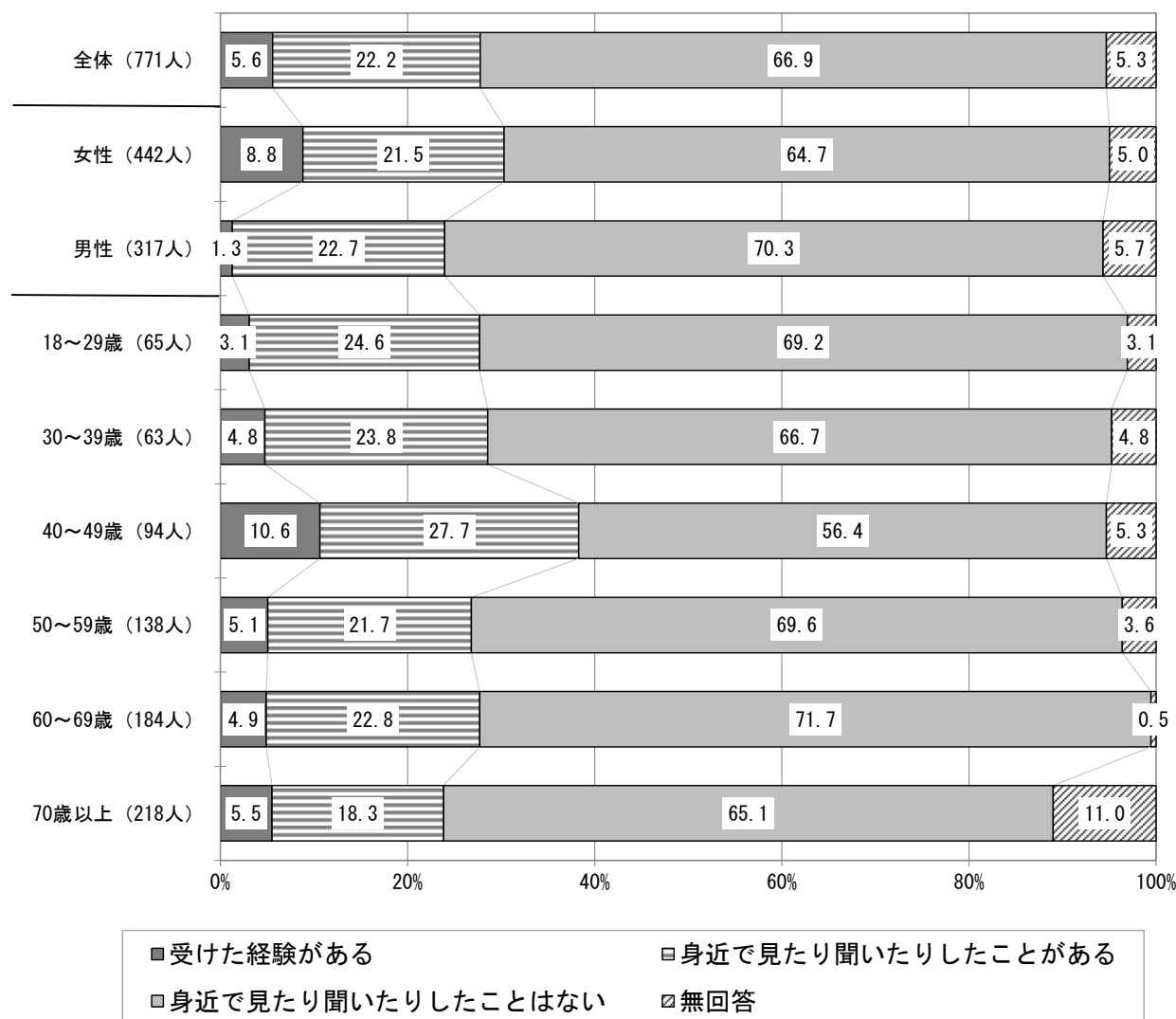
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回（A）	今回（B）	比率変化 （B－A）
■ 受けた経験がある	7.5	5.6	-1.9
□ 身近で見たり聞いたりしたことがある	19.7	22.2	2.5
□ 身近で見たり聞いたりしたことはない	63.6	66.9	3.3

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

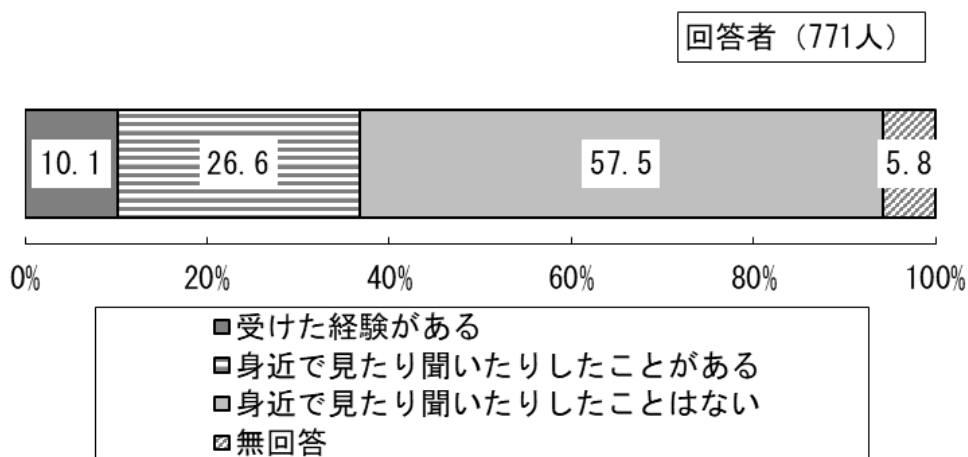
性別で見ると、男性では「身近で見たり聞いたりしたことはない」が70.3%で女性の64.7%を5ポイント以上上回っています。また、「受けた経験がある」では女性が8.8%で男性の1.3%を7ポイント以上上回っています。

年齢別で見ると、18～39歳、50歳以上では「身近で見たり聞いたりしたことはない」が6割を超えています。また、40～49歳では「受けた経験がある」が1割以上となっています。



## ②精神的な暴力

精神的な暴力については、「見たり聞いたりしたことはない」が57.5%と最も多く、次いで「身近で見たり聞いたりしたことがある」が26.6%と続きます。



### ■ 前回調査との比較（経年比較）

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目は、「身近で見たり聞いたりしたことがある」が12ポイント以上多くなり、「身近で見たり聞いたりしたことはない」が12ポイント以上少なくなっています。

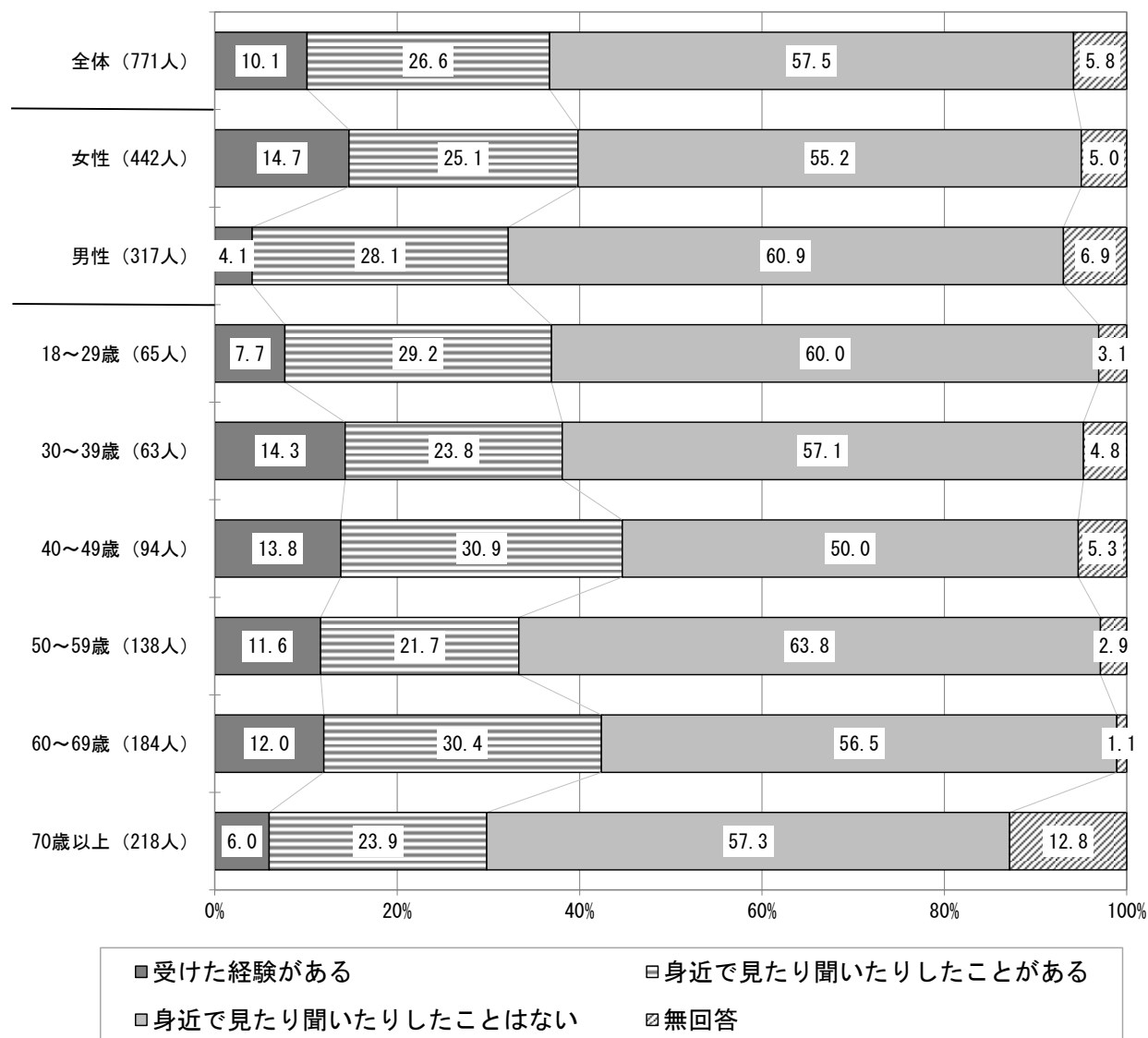
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
受けた経験がある	6.3	10.1	-3.8
身近で見たり聞いたりしたことがある	14.4	26.6	12.2
身近で見たり聞いたりしたことはない	69.6	57.5	-12.1

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

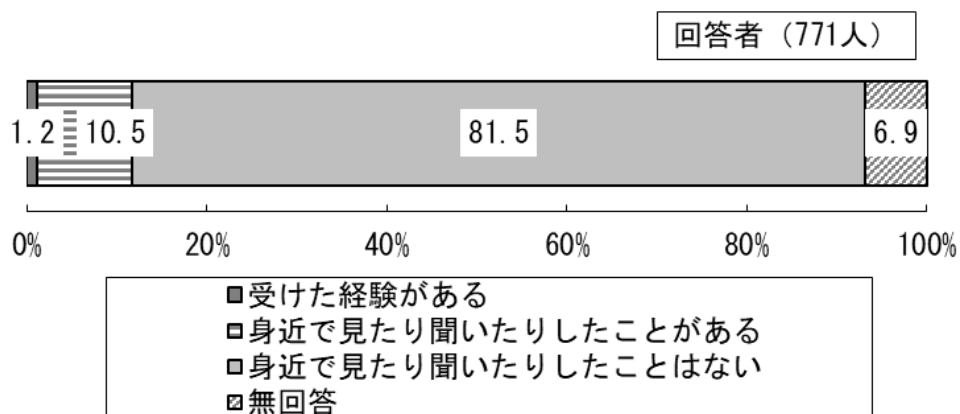
性別で見ると、男性では「身近で見たり聞いたりしたことはない」が60.9%で女性の55.2%を5ポイント以上上回っています。また、「受けた経験がある」では女性が14.7%で男性の4.1%を10ポイント以上上回っています。

年齢別で見ると、18～29歳、50～59歳では「身近で見たり聞いたりしたことはない」が6割を超えています。また、30～69歳では「受けた経験がある」が1割以上となっています。



### ③性的な暴力

性的な暴力については、「見たり聞いたりしたことはない」が81.5%と最も多く、次いで「身近で見たり聞いたりしたことがある」が10.5%と続きます。



#### ■ 前回調査との比較 (経年比較)

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも「身近で見たり聞いたりしたことはない」が7割を超えています。

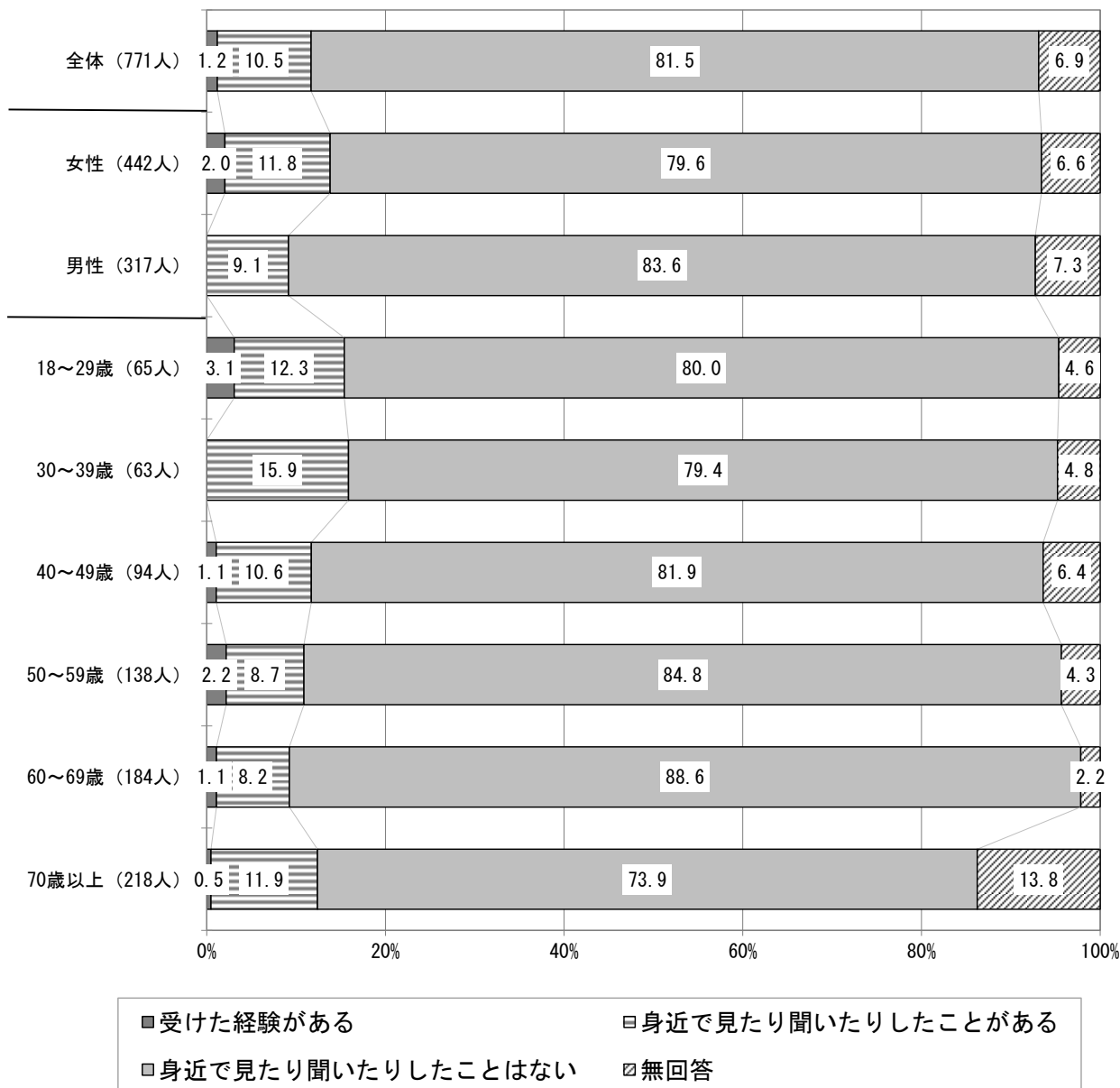
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
受けた経験がある	3.0	1.2	-1.8
身近で見たり聞いたりしたことがある	7.2	10.5	3.3
身近で見たり聞いたりしたことはない	78.8	81.5	2.7

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

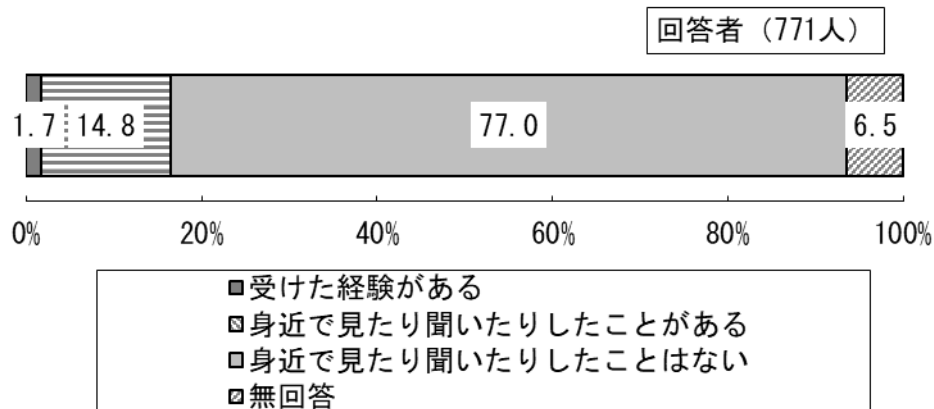
性別で見ると、女性、男性とも「身近で見たり聞いたりしたことはない」が8割前後となっています。

年齢別で見ると、18～29歳、40～69歳では「身近で見たり聞いたりしたことはない」が8割を超えています。



#### ④経済的な暴力

経済的な暴力については、全体では「見たり聞いたりしたことはない」が77.0%と最も多く、次いで「身近で見たり聞いたりしたことがある」が14.8%と続きます。



#### ■ 前回調査との比較（経年比較）

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも「身近で見たり聞いたりしたことはない」が7割を超えています。

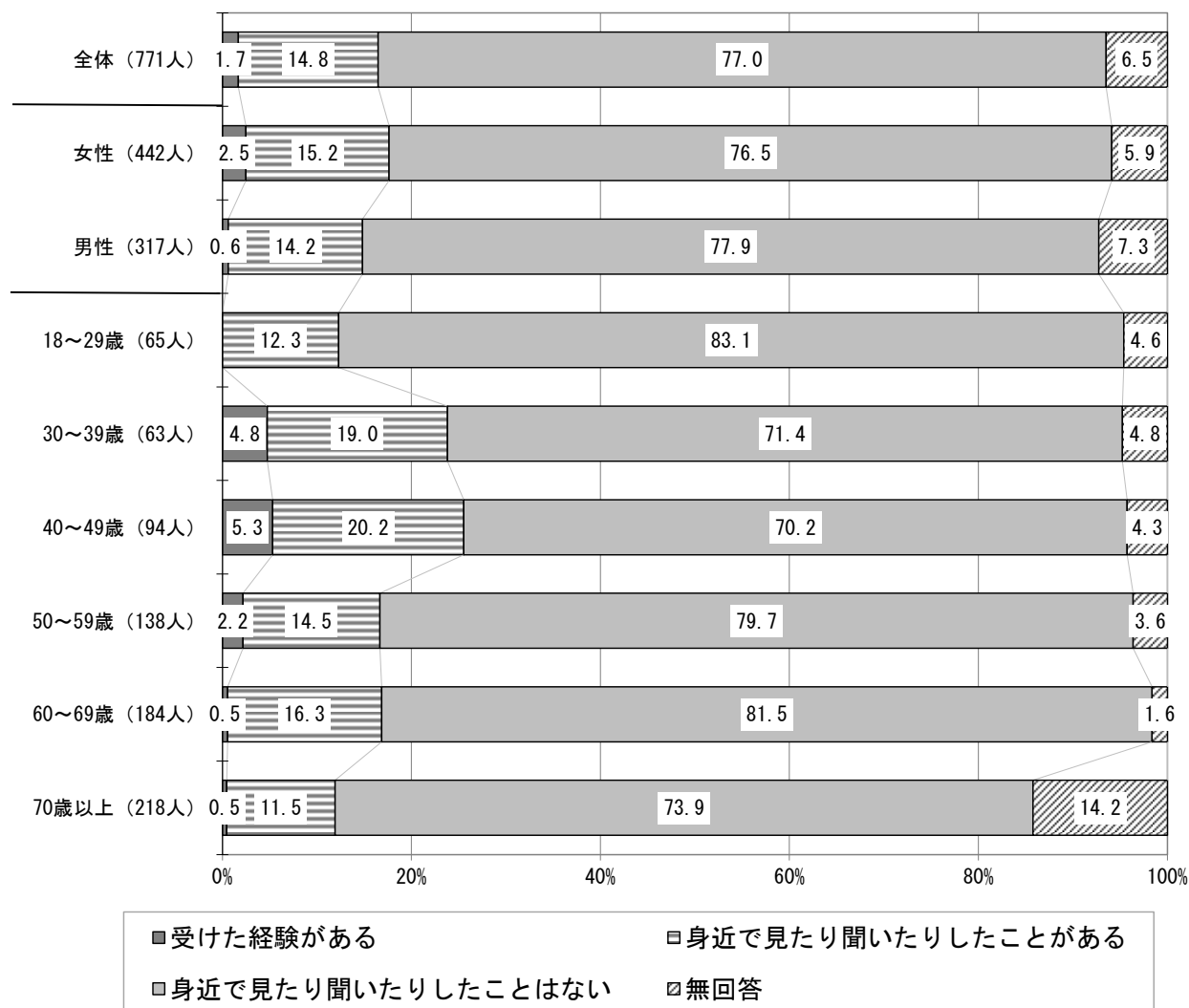
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
受けた経験がある	2.2	1.7	-0.5
身近で見たり聞いたりしたことがある	11.4	14.8	3.4
身近で見たり聞いたりしたことはない	76.2	77.0	0.8

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

性別で見ると、女性、男性とも「身近で見たり聞いたりしたことはない」が7割を超えています。

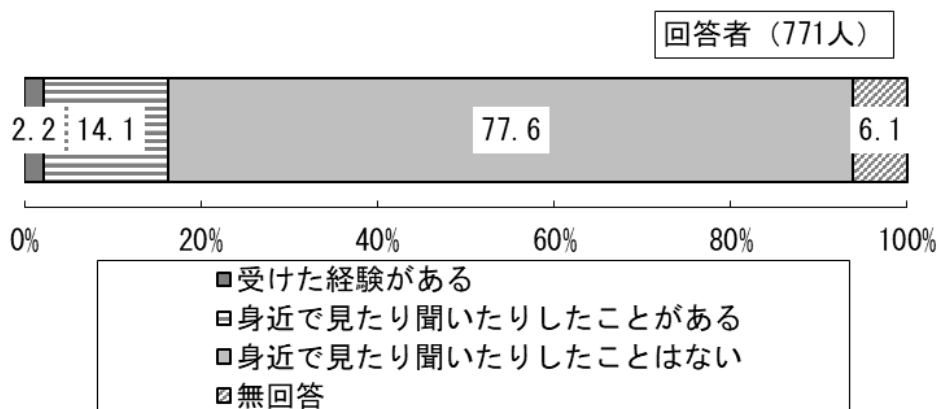
年齢別で見ると、18～29歳、60～69歳では「身近で見たり聞いたりしたことはない」が8割を超えています。また、30～49歳では「身近で見たり聞いたりしたことがある」が2割程度となっています。





## ⑤社会的な暴力

社会的な暴力については、「見たり聞いたりしたことはない」が77.6%と最も多く、次いで「身近で見たり聞いたりしたことがある」が14.1%と続きます。



### ■ 前回調査との比較（経年比較）

前回調査と比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも「身近で見たり聞いたりしたことはない」が7割を超えています。

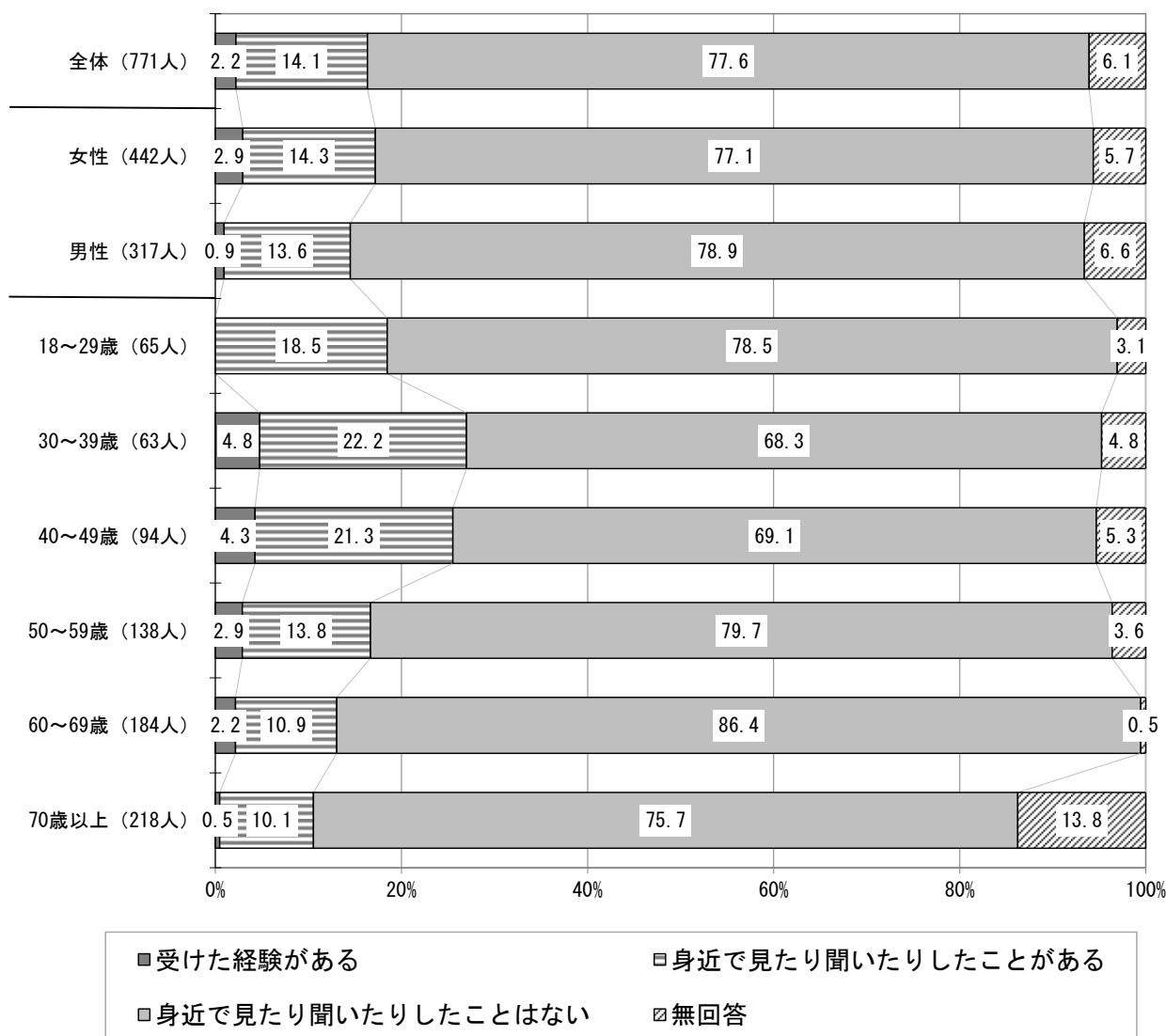
・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回 (A)	今回 (B)	比率変化 (B - A)
受けた経験がある	2.0	2.2	0.2
身近で見たり聞いたりしたことがある	8.8	14.1	5.3
身近で見たり聞いたりしたことはない	78.2	77.6	-0.6

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる傾向

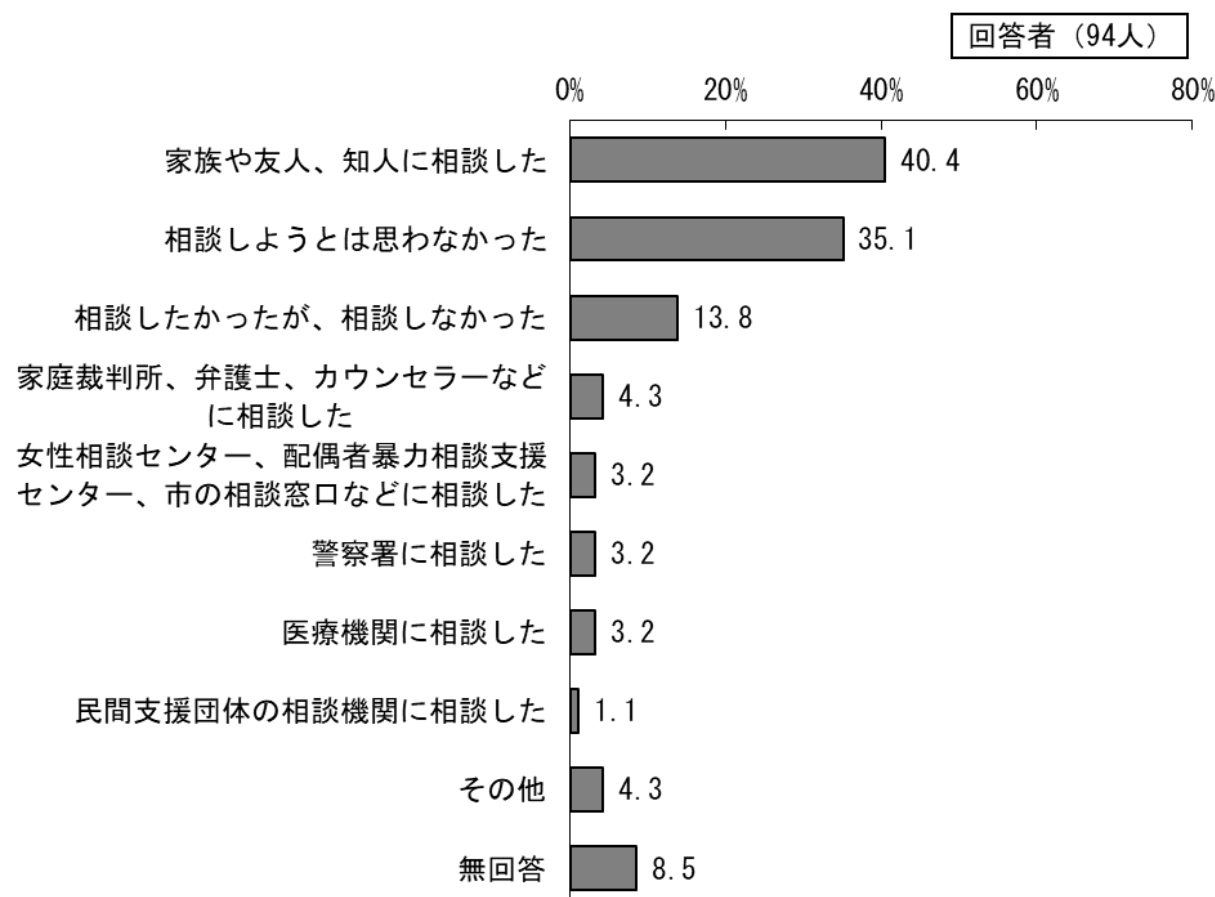
性別で見ると、女性、男性とも「身近で見たり聞いたりしたことはない」が7割を超えています。

年齢別で見ると、18～29歳、50歳以上では「身近で見たり聞いたりしたことはない」が7割を超えています。また、30～49歳では「身近で見たり聞いたりしたことがある」が2割以上となっています。



**問 24-1 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）について、あなたはだれかに打ち明けたり相談したりしましたか。（〇はいくつでも）**

配偶者等からの暴力について、だれかに打ち明けたり相談したりしたかについては、「家族や友人、知人に相談した」が40.4%と最も多く、次いで「相談しようとは思わなかった」が35.1%、「相談したかったが、相談しなかった」が13.8%と続きます。



**■ 前回調査との上位3項目比較（経年比較）**

前回調査と上位3項目を比較すると、10ポイント以上の変化があった項目は、「相談しようとは思わなかった」が13ポイント以上多くなっています。

・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回（A）	今回（B）	比率変化 （B - A）
家族や友人、知人に相談した	44.9	40.4	-4.5
相談しようとは思わなかった	21.7	35.1	13.4
相談したかったが、相談しなかった	23.2	13.8	-9.4

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる上位3項目の傾向

性別でみると、女性では「家族や友人、知人に相談した」が42.3%で男性の33.3%を9ポイント上回っています。また、女性では「相談しようとは思わなかった」が37.2%で男性の20.0%を17ポイント以上上回っています。

年齢別でみると、18～59歳では「家族や友人、知人に相談した」、60歳以上では「相談しようとは思わなかった」が最も多くなっています。

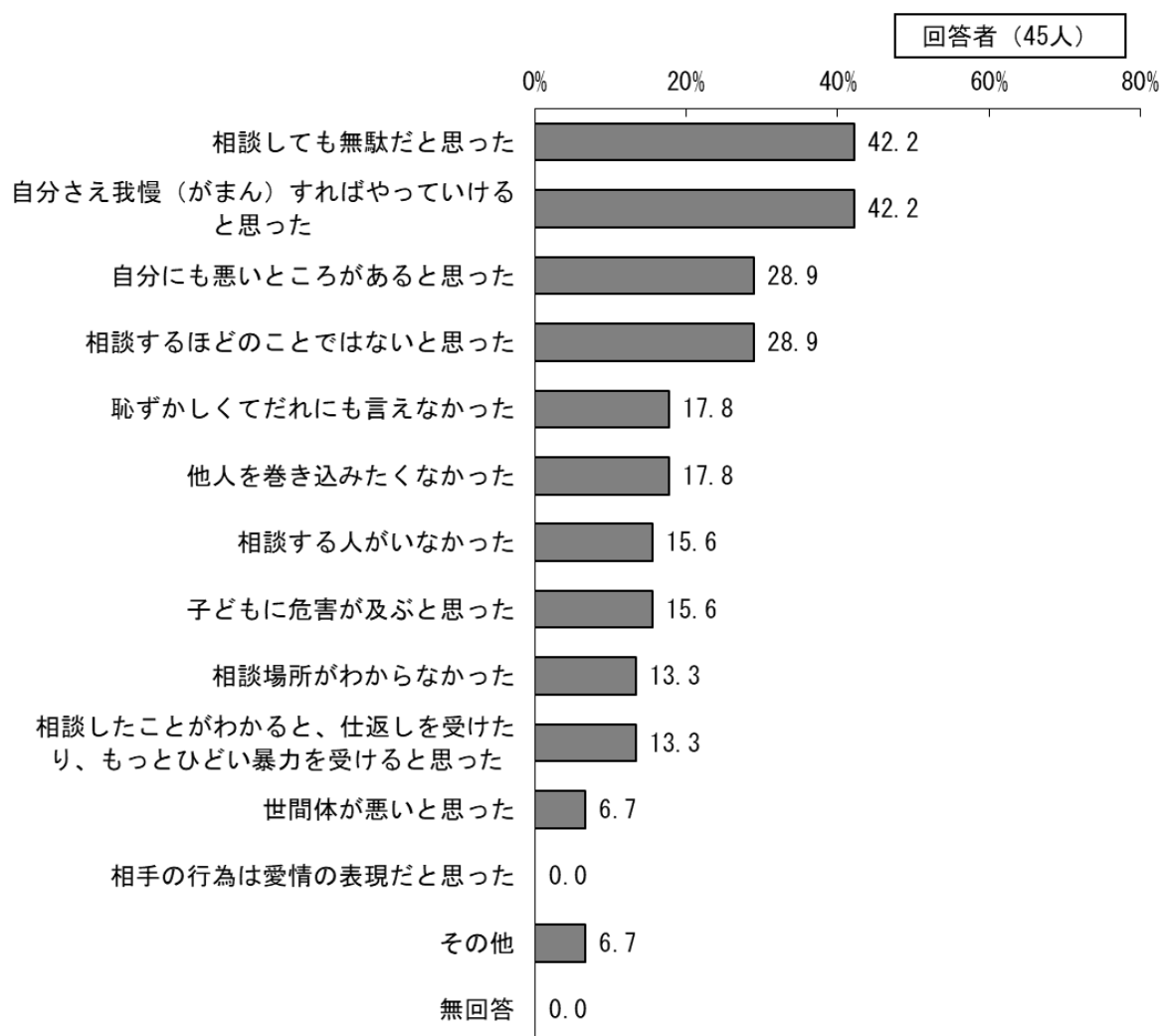
※数値は%、網掛は各区分の第1位。属性及び設問の「その他」、「無回答」は非表示

属性	区分	回答者 (人)	家族や友人、 知人に相談した	相談しようとは思わ なかった	相談したかったが、 相談しなかった
	全体	94	40.4	35.1	13.8
性別	女性	78	42.3	37.2	12.8
	男性	15	33.3	20.0	20.0
年齢	18～29歳	6	50.0	33.3	16.7
	30～39歳	10	60.0	20.0	10.0
	40～49歳	15	33.3	20.0	20.0
	50～59歳	18	50.0	27.8	16.7
	60～69歳	24	33.3	45.8	12.5
	70歳以上	20	35.0	45.0	10.0

問 24-2 あなたが、だれ（どこ）にも相談しなかったのは、なぜですか。

（〇はいくつでも）

配偶者等からの暴力を受けた際、相談しなかった理由については、「相談しても無駄だと思った」と「自分さえ我慢（がまん）すればやっていけると思った」が42.2%と最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思った」と「相談するほどのことではないと思った」が28.9%と続きます。



## ■ 前回調査との上位6項目比較（経年比較）

前回調査と上位6項目を比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも「相談しても無駄だと思った」、「自分さえ我慢（がまん）すればやっていけると思った」が3割を超えています。

・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回（A）	今回（B）	比率変化 （B－A）
相談しても無駄だと思った	35.5	42.2	6.7
自分さえ我慢（がまん）すればやっていけると 思った	32.3	42.2	9.9
自分にも悪いところがあると思った	25.8	28.9	3.1
相談するほどのことではないと思った	29.0	28.9	-0.1
恥ずかしくてだれにも言えなかった	9.7	17.8	8.1
他人を巻き込みたくなかった	9.7	17.8	8.1

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる上位6項目の傾向

性別でみると、女性では「自分さえ我慢（がまん）すればやっていけると思った」、男性では「相談しても無駄だと思った」が最も多くなっています。

年齢別は件数が少ないため省略します。

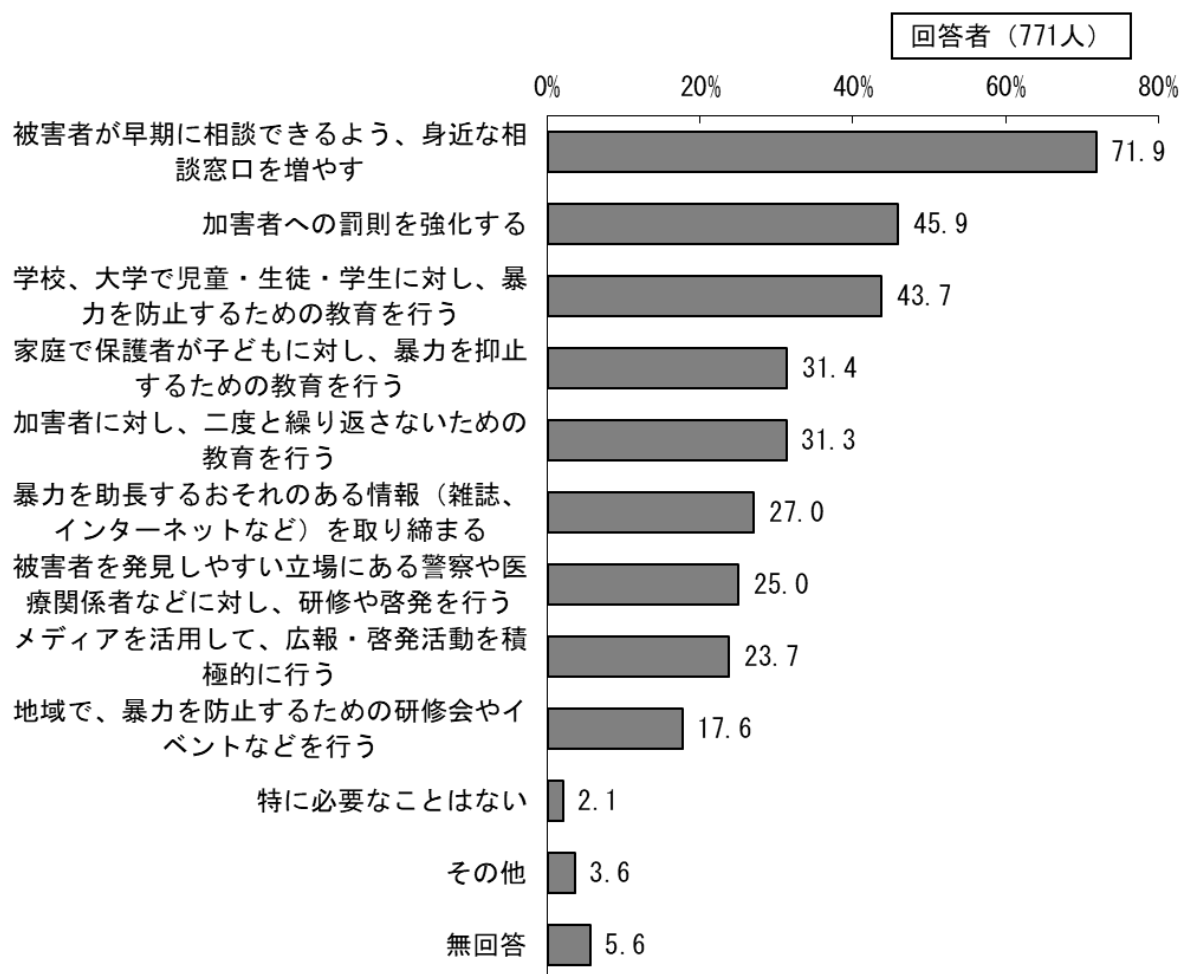
※数値は%、網掛は各区分の第1位。属性及び設問の「その他」、「無回答」は非表示

属性	区分	回答者 (人)	相談しても無駄だ と思った	自分さえ我慢（が まん）すれば やっていけると 思った	自分にも悪いと ころがあると思 った	相談するほどの ことではないと 思った	恥ずかしくてだ れにも言えな かった	他人を巻き込 みたくなかった
	全体	45	42.2	42.2	28.9	28.9	17.8	17.8
性別	女性	38	36.8	44.7	31.6	31.6	18.4	13.2
	男性	6	83.3	33.3	16.7	0.0	16.7	33.3

問 25 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(〇はいくつでも)

男女間における暴力を防止するために必要なことについては、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が 71.9%と最も多く、次いで「加害者への罰則を強化する」が 45.9%、「学校、大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」が 43.7%と続きます。



## ■ 前回調査との上位5項目比較（経年比較）

前回調査と上位5項目を比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が6割を超えています。

・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回（A）	今回（B）	比率変化 （B－A）
被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	64.4	71.9	7.5
加害者への罰則を強化する	39.3	45.9	6.6
学校、大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	39.0	43.7	4.7
家庭で保護者が子どもに対し、暴力を抑止するための教育を行う	33.7	31.4	-2.3
加害者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	29.3	31.3	2.0

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる上位5項目の傾向

性別でみると、女性では「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が74.2%で男性の67.8%を6ポイント以上上回っています。

年齢別でみると、全年齢では「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」、30～39歳では「加害者への罰則を強化する」も最も多くなっています。

※数値は%、網掛は各区分の第1位。属性及び設問の「その他」、「無回答」は非表示

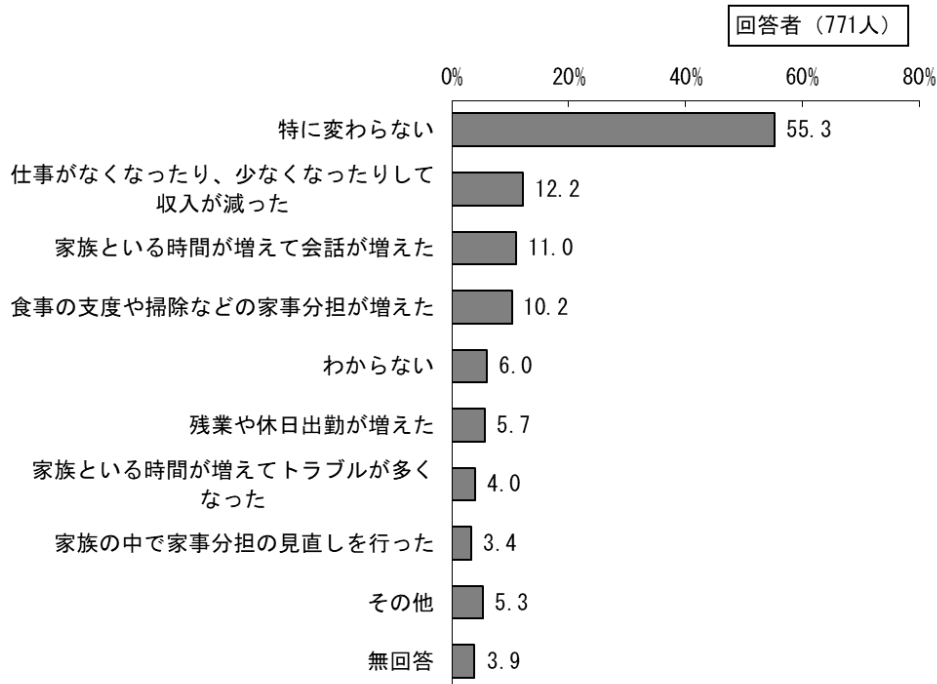
属性	区分	回答者 (人)	被害者が早期に相談できる よう、身近な相談窓口を増やす	加害者への罰則を強化する	学校、大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を抑止するための教育を行う	加害者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う
	全体	771	71.9	45.9	43.7	31.4	31.3
性別	女性	442	74.2	43.9	45.0	32.6	31.9
	男性	317	67.8	48.3	41.3	28.7	30.0
年齢	18～29歳	65	75.4	64.6	47.7	36.9	35.4
	30～39歳	63	73.0	73.0	39.7	34.9	34.9
	40～49歳	94	69.1	43.6	47.9	35.1	30.9
	50～59歳	138	76.1	48.6	46.4	33.3	36.2
	60～69歳	184	72.8	44.6	39.7	27.7	33.7
	70歳以上	218	67.4	32.6	43.1	28.0	23.9



## 8. 新型コロナウイルス感染拡大の影響についておたずねします

問 26 あなたの家庭での新型コロナウイルス感染拡大による生活への影響についてうかがいます。(〇はいくつでも)

家庭での新型コロナウイルス感染拡大による生活への影響については、「特に変わらない」が55.3%と最も多く、次いで「仕事が無くなったり、少なくなったりして収入が減った」が12.2%、「家族といる時間が増えて会話が增进了」が11.0%と続きます。



### ■ 回答者属性からみる上位4項目の傾向

性別でみると、女性、男性とも「特に変わらない」が5割を超えています。年齢別でみると、50歳以上では「特に変わらない」が5割を超えています。

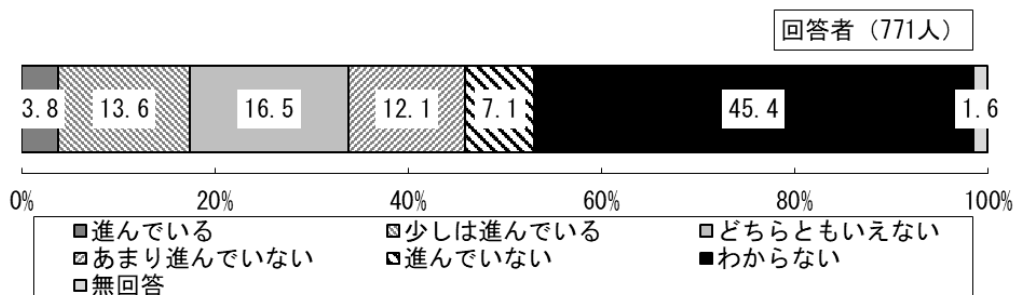
※数値は%、網掛は各区分の第1位。属性及び設問の「その他」、「無回答」は非表示

属性	区分	回答者 (人)	特に変わらない	仕事が無くなったり、少なくなったりして収入が減った	家族といる時間が増えた	食事の支度や掃除などの家事分担が増えた
	全体	771	55.3	12.2	11.0	10.2
性別	女性	442	54.1	12.0	10.6	13.8
	男性	317	57.4	12.3	11.7	5.0
年齢	18～29歳	65	35.4	15.4	18.5	9.2
	30～39歳	63	41.3	7.9	17.5	12.7
	40～49歳	94	43.6	18.1	19.1	21.3
	50～59歳	138	50.7	17.4	10.9	10.1
	60～69歳	184	69.0	8.7	7.1	9.8
	70歳以上	218	61.9	9.6	7.3	5.5

## 9. 男女共同参画社会についておたずねします

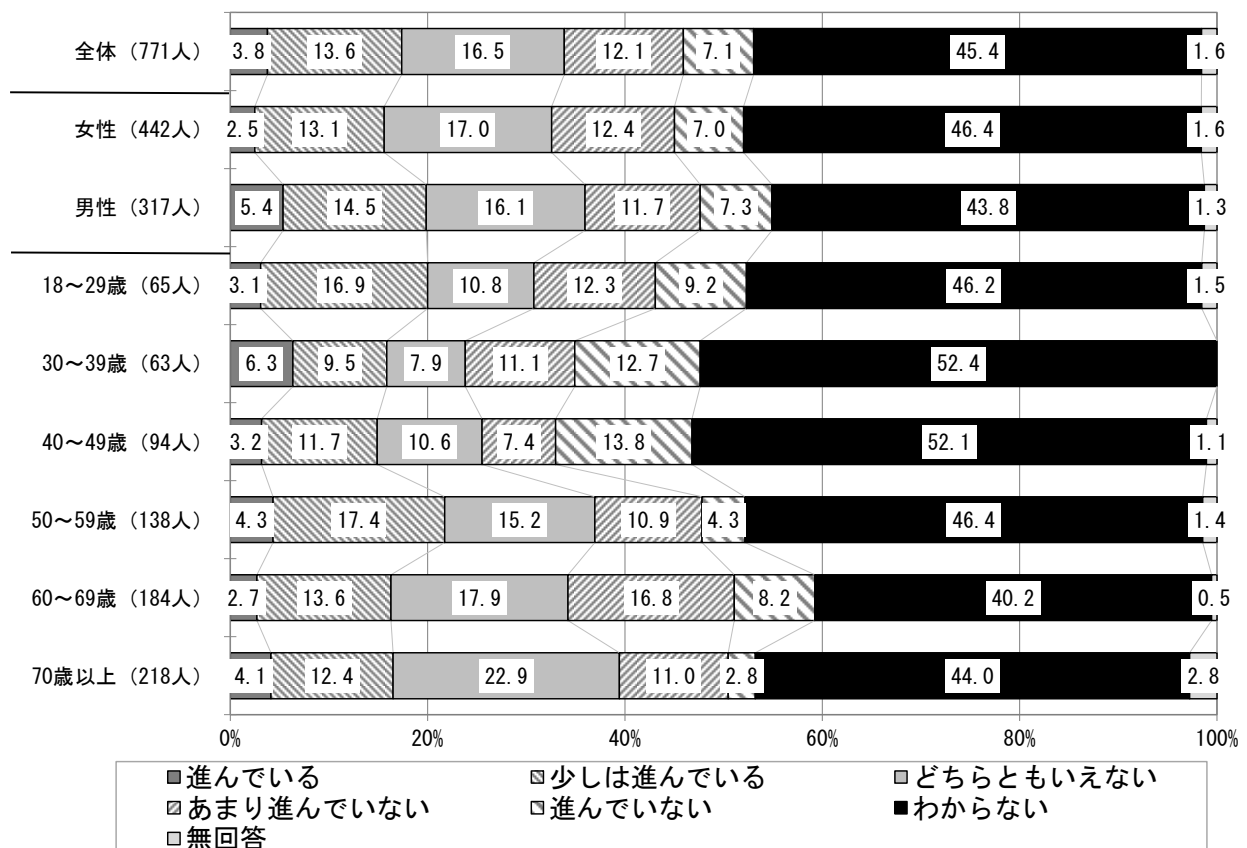
問 27 数年前と比べて、安中市の男女共同参画の社会づくりは進んでいると感じますか。  
(○は1つ)

数年前と比べて、安中市の男女共同参画の社会づくりは進んでいるかについては、「進んでいる」と「少しは進んでいる」を合わせた『進んでいる』が17.4%で、「あまり進んでいない」と「進んでいない」を合わせた『進んでいない』の19.2%を2ポイント近く下回っています。また、「わからない」が45.4%となっています。



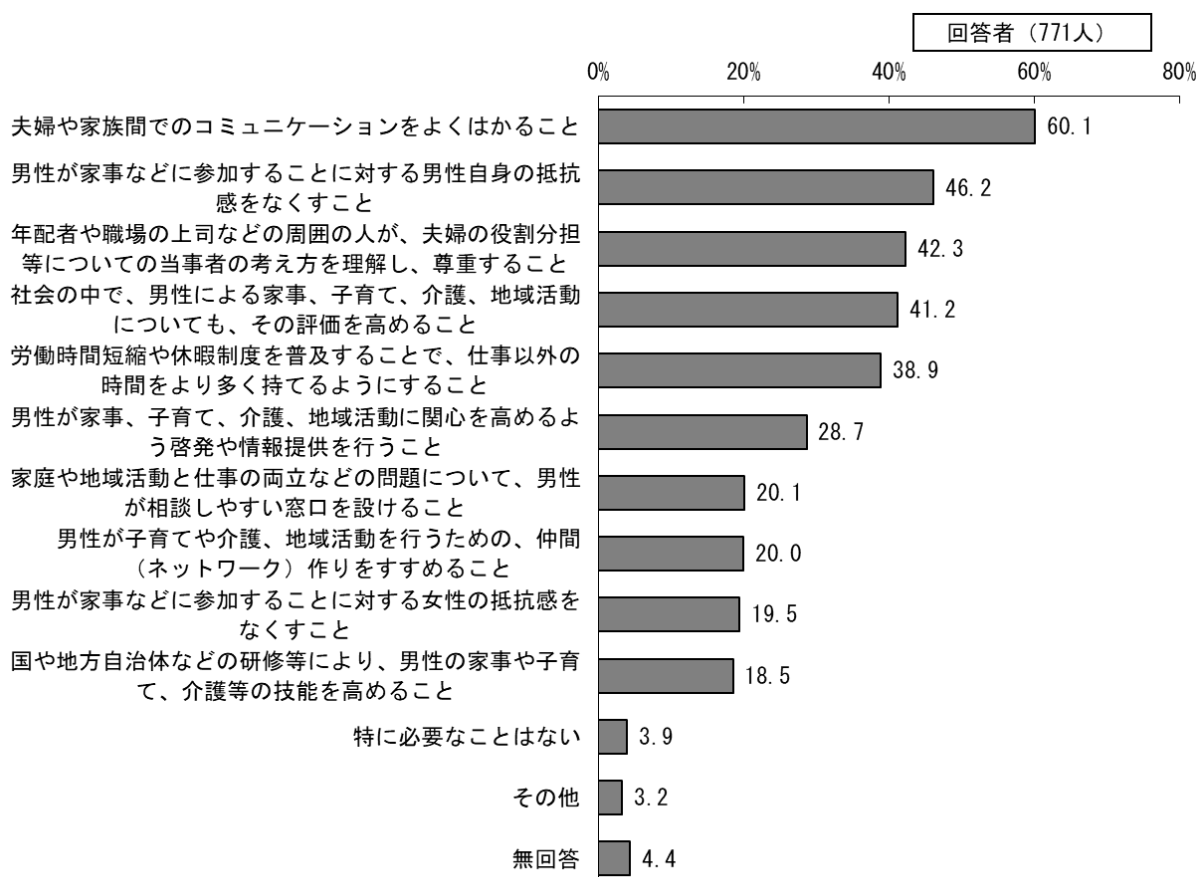
### ■ 回答者属性からみる傾向

性別でみると、女性では『進んでいない』、男性では『進んでいる』が多くなっています。年齢別でみると、18～29歳、50～59歳では『進んでいる』が2割を超えています。



**問 28 今後、男女が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）**

今後、男女が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要かについては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が60.1%と最も多く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が46.2%、「年配者や職場の上司などの周囲の人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を理解し、尊重すること」が42.3%、「年配者や職場の上司などの周囲の人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を理解し、尊重すること」が42.3%と続きます。



## ■ 前回調査との上位5項目比較（経年比較）

前回調査と上位5項目を比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が6割を超えています。

・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回（A）	今回（B）	比率変化 （B－A）
夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	63.5	60.1	-3.4
男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	45.6	46.2	0.6
年配者や職場の上司などの周囲の人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を理解し、尊重すること	35.4	42.3	6.9
社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること	37.6	41.2	3.6
労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	36.2	38.9	2.7

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる上位5項目の傾向

性別でみると、女性、男性とも「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が6割前後となっています

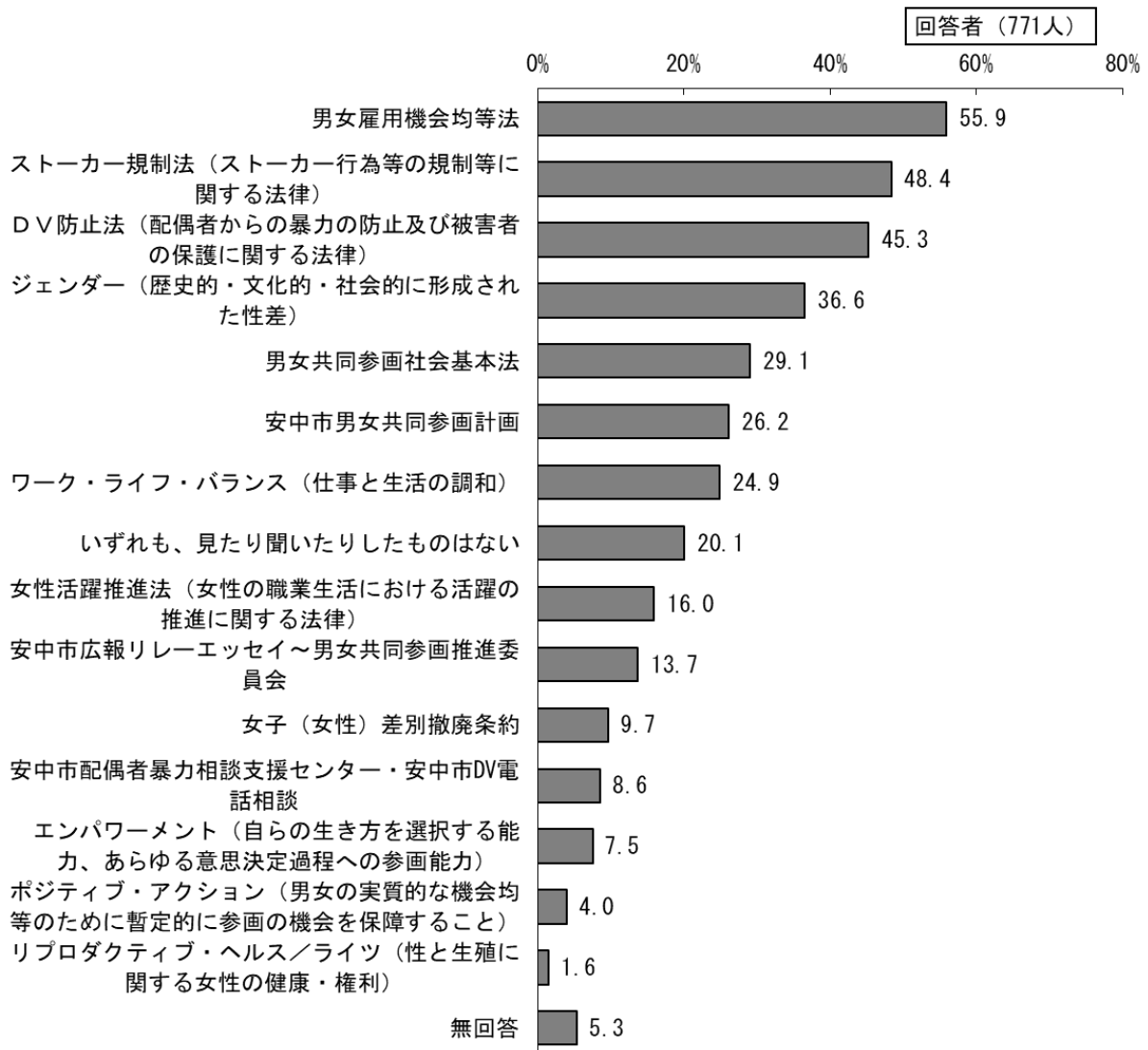
年齢別でみると、30歳以上では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」、18～29歳では「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が最も多くなっています。

※数値は%、網掛は各区分の第1位。属性及び設問の「その他」、「無回答」は非表示

属性	区分	回答者（人）	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	年配者や職場の上司などの周囲の人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を理解し、尊重すること	社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること	労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
	全体	771	60.1	46.2	42.3	41.2	38.9
性別	女性	442	60.0	52.5	45.2	44.8	39.1
	男性	317	59.3	36.6	37.5	36.0	37.5
年齢	18～29歳	65	66.2	69.2	67.7	50.8	56.9
	30～39歳	63	61.9	42.9	57.1	38.1	39.7
	40～49歳	94	63.8	51.1	51.1	42.6	53.2
	50～59歳	138	58.7	48.6	45.7	47.1	47.1
	60～69歳	184	59.2	44.0	36.4	43.5	37.0
	70歳以上	218	56.4	38.1	28.9	33.0	22.9

問 29 あなたは、男女共同参画に関する法律や言葉、市の取組について、見たり聞いたりしたことがありますか。（〇はいくつでも）

男女共同参画に関する法律や言葉、市の取組について見たり聞いたりしたことがあるかについては、「男女雇用機会均等法」が 55.9%と最も多く、次いで「ストーカー規制法」が 48.4%、「DV防止法」が 45.3%と続きます。



## ■ 前回調査との上位5項目比較（経年比較）

前回調査と上位5項目を比較すると、10ポイント以上の変化があった項目は、「ジェンダー」が13ポイント近く多くなっています。

・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回（A）	今回（B）	比率変化 （B－A）
男女雇用機会均等法	57.2	55.9	-1.3
ストーカー規制法（ストーカー行為等の規制等に関する法律）	53.3	48.4	-4.9
DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）	36.4	45.3	8.9
ジェンダー（歴史的・文化的・社会的に形成された性差）	23.7	36.6	12.9
男女共同参画社会基本法	27.3	29.1	1.8

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる上位5項目の傾向

性別でみると、女性、男性とも「男女雇用機会均等法」が5割を超えています。

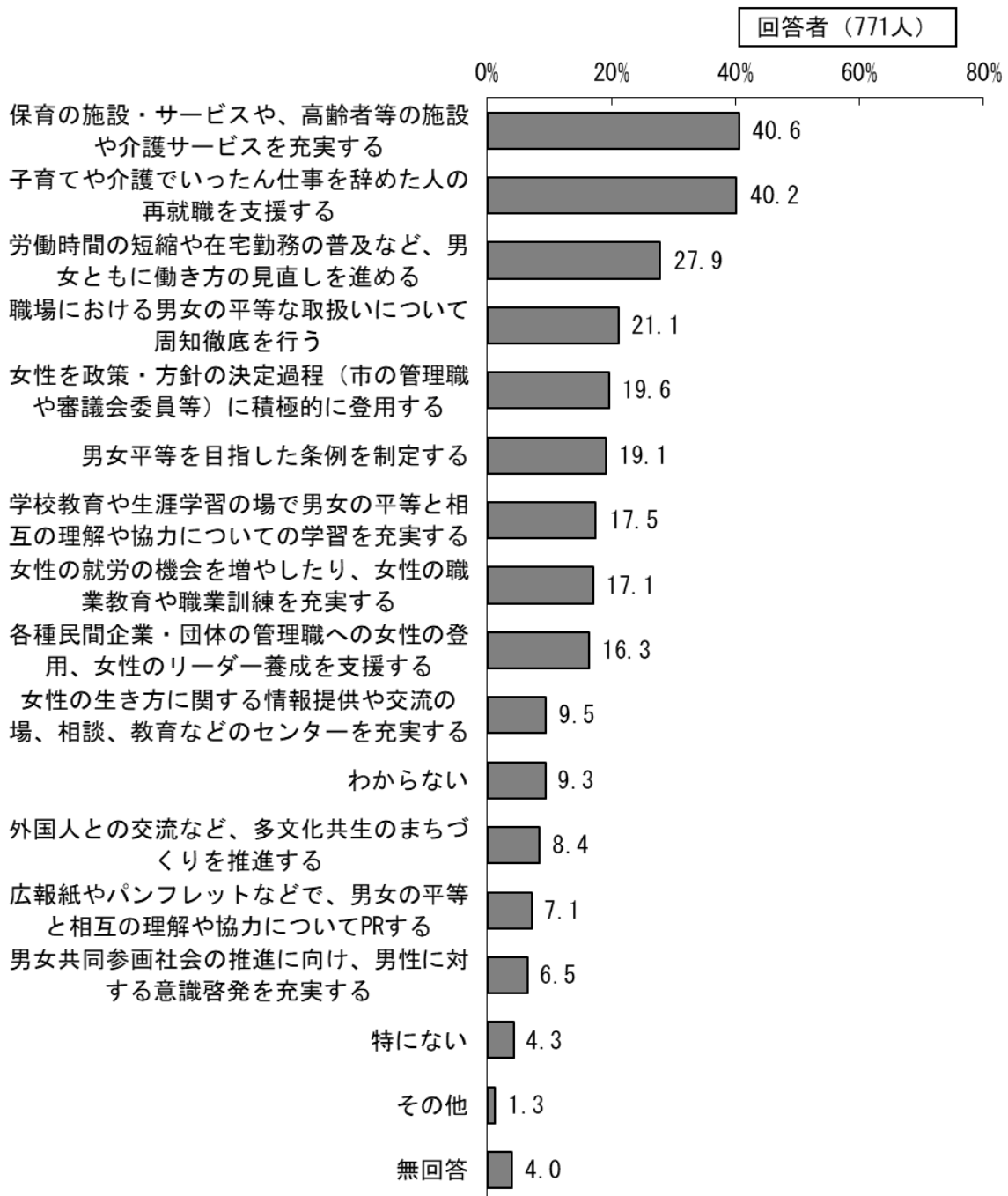
年齢別でみると、18～29歳、50～59歳では「男女雇用機会均等法」が6割を超えています。

※数値は%、網掛は各区分の第1位。属性及び設問の「その他」、「無回答」は非表示

属性	区分	回答者（人）	男女雇用機会均等法	ストーカー規制法（ストーカー行為等の規制等に関する法律）	DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）	ジェンダー（歴史的・文化的・社会的に形成された性差）	男女共同参画社会基本法
	全体	771	55.9	48.4	45.3	36.6	29.1
性別	女性	442	55.4	47.7	43.4	38.5	28.3
	男性	317	56.2	49.5	47.6	33.4	30.0
年齢	18～29歳	65	61.5	40.0	41.5	58.5	55.4
	30～39歳	63	54.0	52.4	50.8	44.4	31.7
	40～49歳	94	50.0	48.9	44.7	34.0	19.1
	50～59歳	138	65.2	57.2	49.3	42.0	28.3
	60～69歳	184	59.8	52.7	49.5	38.0	26.6
	70歳以上	218	47.7	40.8	38.5	23.9	27.5

問 30 安中市における男女共同参画社会の実現に向けて、あなたは、今後どのような施策に重点をおいてほしいですか。（〇は3つまで）

男女共同参画社会の実現に向けて重点をおくべき施策については、「保育の施設・サービスや、高齢者等の施設や介護サービスを充実する」が40.6%と最も多く、次いで「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が40.2%、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女ともに働き方の見直しを進める」が27.9%と続きます。



## ■ 前回調査との上位5項目比較（経年比較）

前回調査と上位5項目を比較すると、10ポイント以上の変化があった項目はなく、両調査とも「保育の施設・サービスや、高齢者等の施設や介護サービスを充実する」、「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が4割を超えています。

・ 数値は%、網掛は変化が10ポイント以上 ・ 「その他」、「無回答」は非表示	前回（A）	今回（B）	比率変化 （B－A）
保育の施設・サービスや、高齢者等の施設や介護サービスを充実する	45.0	40.6	-4.4
子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	44.4	40.2	-4.2
労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女ともに働き方の見直しを進める	23.5	27.9	4.4
職場における男女の平等な取扱いについて周知徹底を行う	16.8	21.1	4.3
女性を政策・方針の決定過程（市の管理職や審議会委員等）に積極的に登用する	16.1	19.6	3.5

※今回の調査結果を比較する場合、10ポイント以上の差を「変化あり」としています。

## ■ 回答者属性からみる上位5項目の傾向

性別でみると、女性では「保育の施設・サービスや、高齢者等の施設や介護サービスを充実する」、男性では「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が最も多くなっています。

年齢別でみると、60歳以上では「保育の施設・サービスや、高齢者等の施設や介護サービスを充実する」、30～59歳では「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」、18～29歳では「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女ともに働き方の見直しを進める」が最も多くなっています。

※数値は%、網掛は各区分の第1位。属性及び設問の「その他」、「無回答」は非表示

属性	区分	回答者（人）	保育の施設・サービスや、高齢者等の施設や介護サービスを充実する	子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女ともに働き方の見直しを進める	職場における男女の平等な取扱いについて周知徹底を行う	女性を政策・方針の決定過程（市の管理職や審議会委員等）に積極的に登用する
	全体	771	40.6	40.2	27.9	21.1	19.6
性別	女性	442	43.9	41.6	29.0	21.3	19.5
	男性	317	35.3	37.9	25.9	21.5	19.6
年齢	18～29歳	65	36.9	38.5	47.7	23.1	15.4
	30～39歳	63	38.1	57.1	46.0	19.0	11.1
	40～49歳	94	38.3	44.7	37.2	25.5	13.8
	50～59歳	138	37.7	39.1	29.7	26.1	21.0
	60～69歳	184	43.5	36.4	23.4	20.7	20.7
	70歳以上	218	41.7	37.2	14.7	17.4	23.4



---

## 第2部 事業者意識調査

---



## 第1章 調査の概要

### 1. 調査の目的

本調査は、本市内における事業所等の「男女共同参画」に関する意識の実態を把握し、「第4次安中市男女共同参画計画」を策定するにあたっての基礎資料とすることを目的として実施しました。

### 2. 調査概要

- (1) 調査対象：従業員数 10 人以上の市内事業所 100 事業所（無作為抽出）
- (2) 調査期間：令和4年9月 13 日～9月 28 日
- (3) 調査方法：郵送による配布・回収

### 3. 回収結果

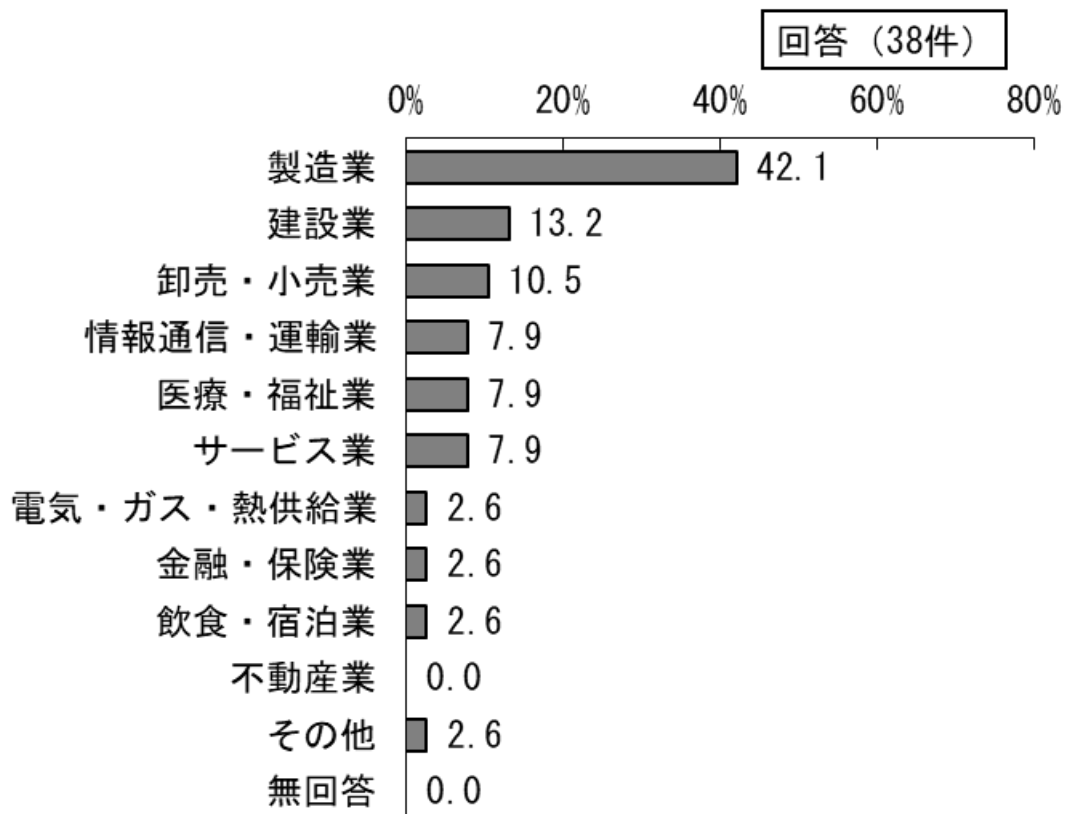
配布数	有効回収数	回収率
100	38	38.0%

## 第2章 調査の結果

### 1. 令和4年4月1日現在の事業所の状況についておうかがいします

#### 問1 業種についてお答えください。(〇は1つ)

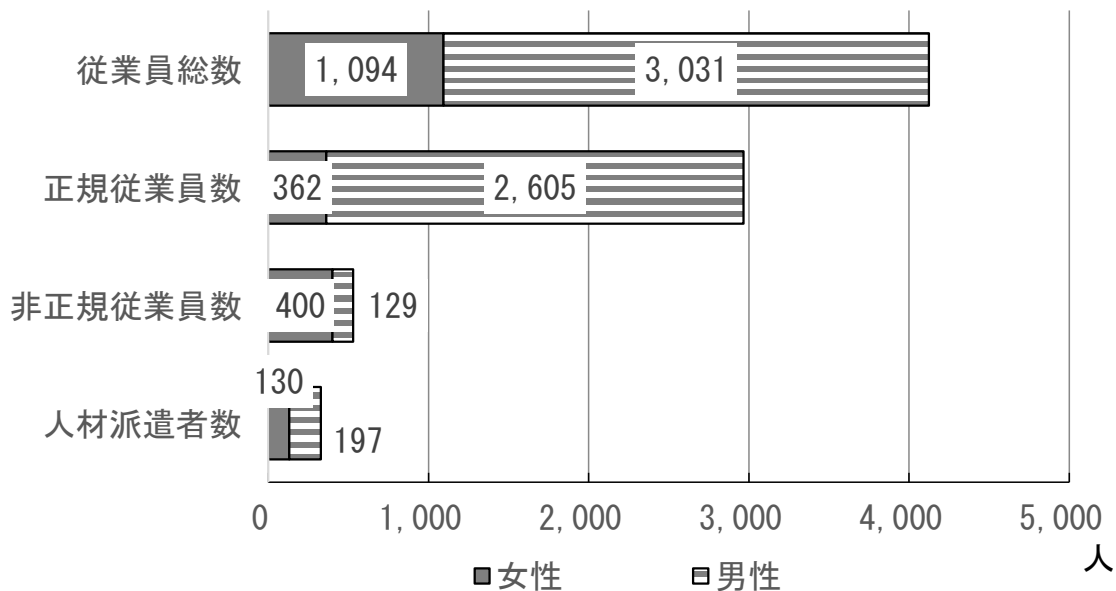
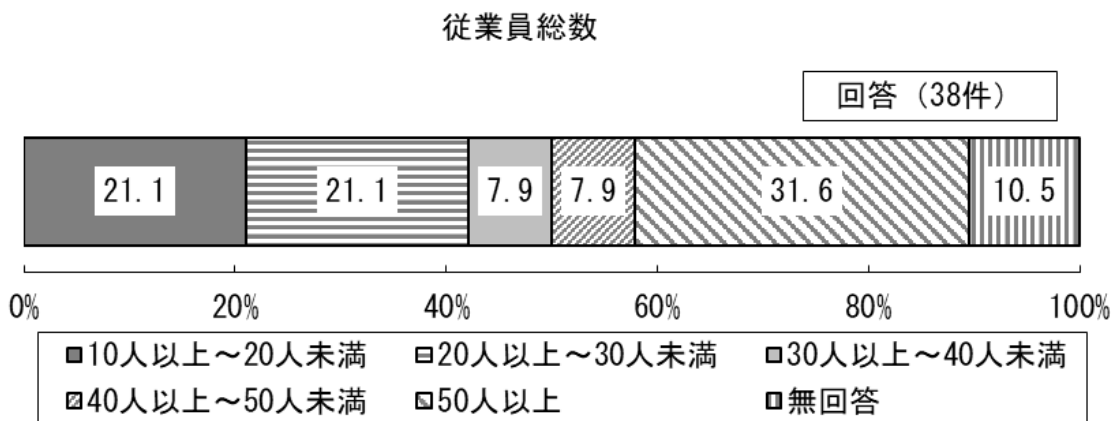
業種については、「製造業」が42.1%と最も多く、次いで「建設業」が13.2%、「卸売・小売業」が10.5%と続きます。



**問2 事業所の従業員数についてお答えください。**

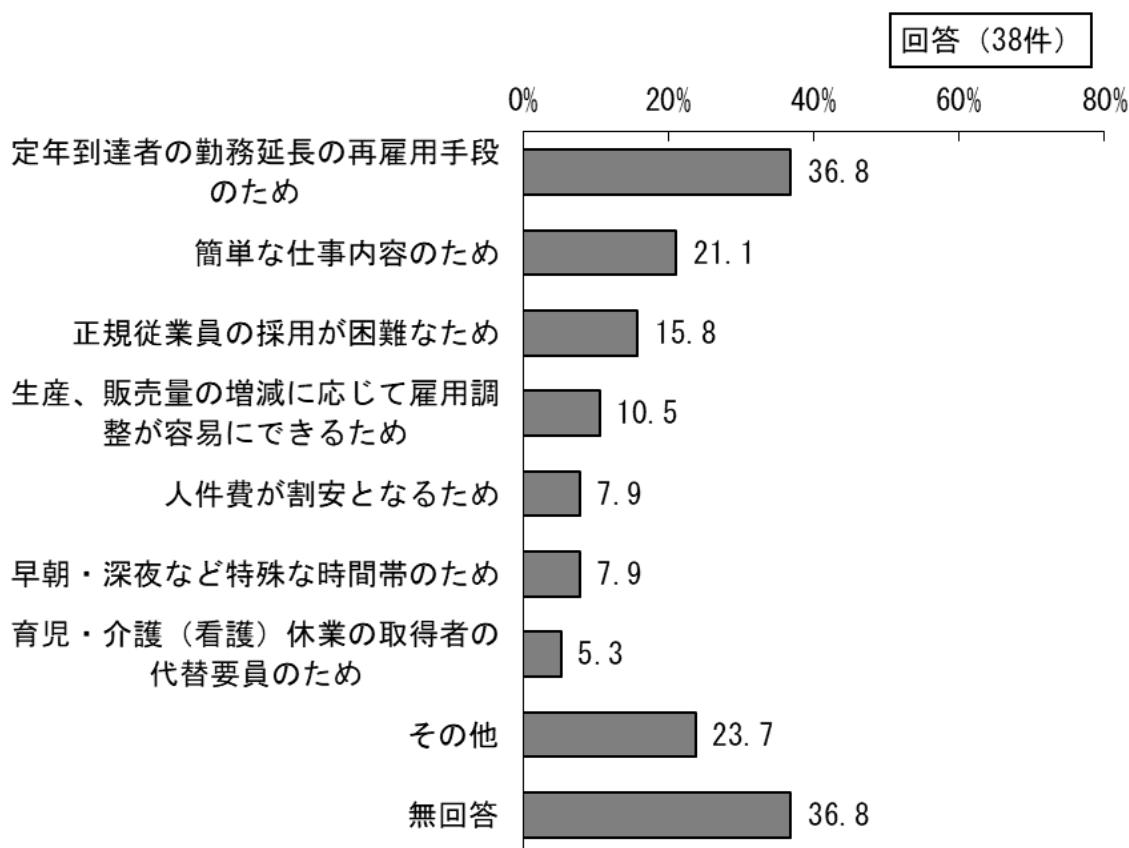
従業員総数についての回答割合は、「50人以上」が31.6%と最も多く、「10人以上～20人未満」と「20人以上～30人未満」が21.1%と続いています。また、従業員総数を男女別に見ると、「女性」が1,094人、「男性」が3,031人となっています。

正規従業員数については、「女性」が362人、「男性」が2,605人となっています。  
 非正規従業員数については、「女性」が400人、「男性」が129人となっています。  
 人材派遣者数については、「女性」が130人、「男性」が197人となっています。



### 問2-1 非正規従業員を雇用している理由は何ですか。(〇はいくつでも)

非正規従業員を雇用している理由については、「定年到達者の勤務延長の再雇用手段のため」が36.8%と最も多く、次いで「簡単な仕事内容のため」が21.1%、「正規従業員の採用が困難なため」が15.8%と続きます。



### 問3 貴事業所に在籍している正規従業員の平均年齢と平均勤続年数はどのくらいですか。四捨五入して、整数値で記入してください。

正規従業員の平均年齢については、「女性」が47.5歳、「男性」が45.6歳、「全体」が46.7歳となっています。

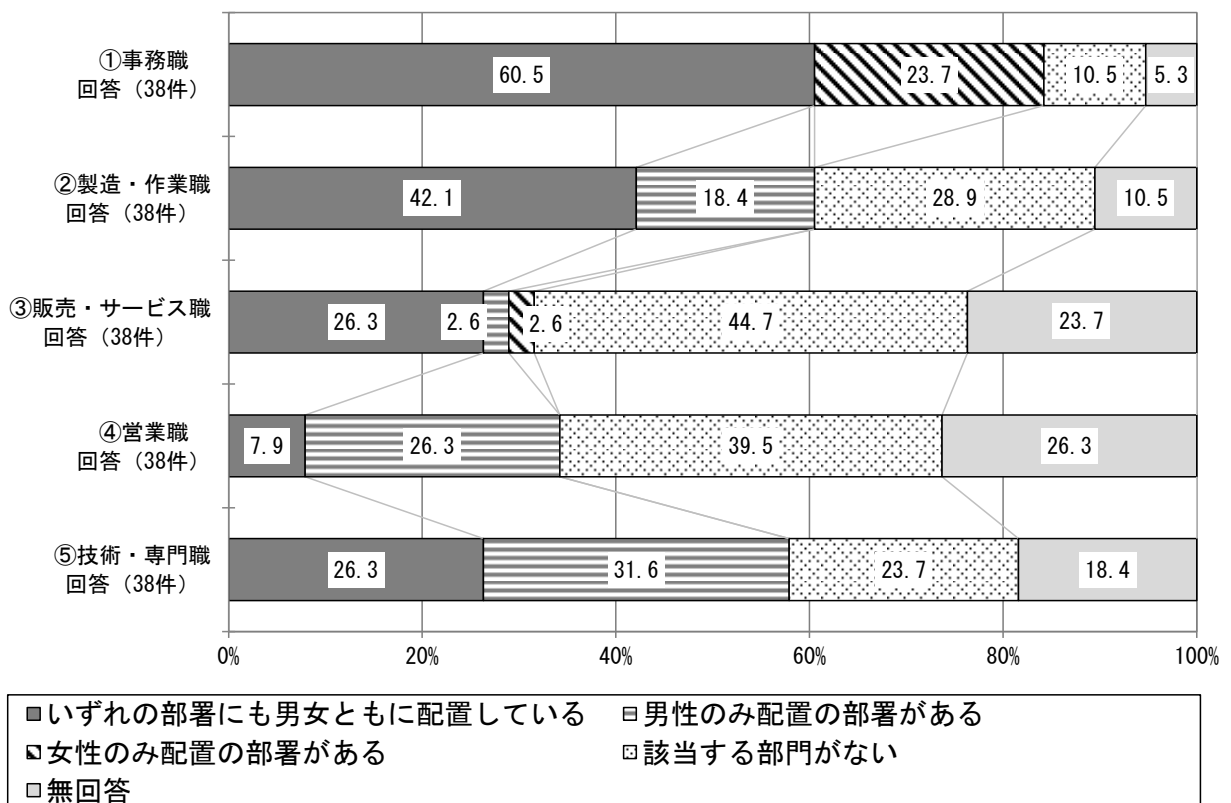
正規従業員の平均勤続年数については、「女性」が11.4年、「男性」が13.8年、「全体」が13.3年となっています。

	女性	男性	全体
平均年齢	47.5歳	45.6歳	46.7歳
平均勤続年数	11.4年	13.8年	13.3年

問4 次の部門における男女の配置状況はどのようになっていますか。

(○はそれぞれ1つ)

事業所の各部門における男女の配置状況については、「いずれの部署にも男女ともに配置している」では、「①事務職」が60.5%、「②製造・作業職」が42.1%、「③販売・サービス職」が26.3%、「④営業職」が7.9%、「⑤技術・専門職」が26.3%となっています。一方、「男性のみ配置の部署がある」では、「①事務職」が0.0%、「②製造・作業職」が18.4%、「③販売・サービス職」が2.6%、「④営業職」が26.3%、「⑤技術・専門職」が31.6%となっています。



問4-1 男性のみの配置だったのはどのような理由からですか。その部門について該当する番号に○をつけてください。(○はそれぞれ2つまで)

男性のみの配置だったのはどのような理由からかについては、「①事務職」では該当なし、「②製造・作業職」では「体力・筋力を必要とする業務がある」が71.4%、「③販売・サービス職」では該当なし、「④営業職」では「該当部署を希望する女性がない」が40.0%、「⑤技術・専門職」では「技能や資格を持つ女性がない」と「女性の適任者がいない」が41.7%と最も多くなっています。

回答(38件) 単位(%)	①事務職 回答(0件)	②製造・ 作業職 回答(7件)	③販売・ サービス職 回答(1件)	④営業職 回答(10件)	⑤技術・ 専門職 回答(12件)
技能や資格を持つ女性がない	0.0	14.3	0.0	0.0	41.7
女性の適任者がいない	0.0	14.3	0.0	20.0	41.7
該当部署が女性を希望しない	0.0	0.0	0.0	10.0	25.0
該当部署を希望する女性がない	0.0	42.9	0.0	40.0	16.7
出張、全国転勤がある	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0
外部との折衝が多い	0.0	0.0	0.0	30.0	0.0
深夜業や時間外労働が多い	0.0	28.6	0.0	10.0	0.0
体力・筋力を必要とする業務がある	0.0	71.4	0.0	10.0	25.0
その他	0.0	0.0	0.0	10.0	8.3
無回答	0.0	0.0	100.0	0.0	8.3



**問5 係長以上の管理職及び女性の管理職は何人いますか。該当者がいない場合は0を記入してください。**

係長以上の管理職及び女性の管理職の人数については、

「①役員・事業主」は 82 人で、「うち女性」は 15 人、女性比率は 18.3%となっています。

「②部長相当職」は 246 人で、「うち女性」は 1 人、女性比率は 0.4%となっています。

「③課長相当職」は 297 人で、「うち女性」は 17 人、女性比率は 5.7%となっています。

「④係長相当職」は 501 人で、「うち女性」は 39 人、女性比率は 7.8%となっています。

管理職数の合計は 1,126 人で、「うち女性」は 71 人、女性比率は 6.3%となっています。

管理職	管理職数	うち女性	女性比率
①役員・事業主	82 人	15 人	18.3%
②部長相当職	246 人	1 人	0.4%
③課長相当職	297 人	17 人	5.7%
④係長相当職	501 人	39 人	7.8%
合計	1,126 人	71 人	6.3%

**問5-1 男性の管理職と比較して、女性の管理職が少ない（またはまったくいない）のは、どのような理由からですか。（〇はいくつでも）**

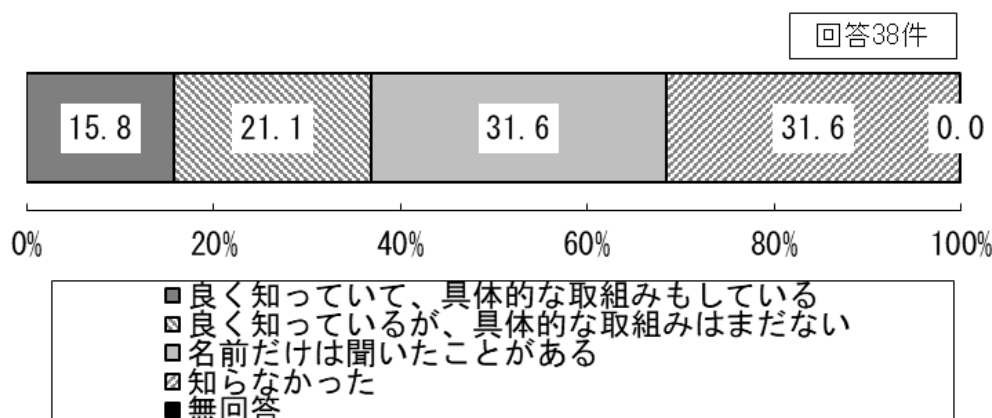
男性の管理職と比較して、女性の管理職が少ない（またはまったくいない）理由については、「管理能力の面で必要な知識や判断力を有する女性の適任者がいない（少ない）から」が31.6%と最も多く、次いで「女性自身が、昇進・昇格や管理職になることを望んでいないことが多いから」が21.1%、「将来管理職に就く可能性のある女性はあるが、現在のところその職に就くための在籍年数などを満たしていないから」が15.8%と続きます。



## 2. 女性の職域拡大・管理職登用についておうかがいします

### 問6 「ポジティブ・アクション」を知っていましたか。(〇は1つ)

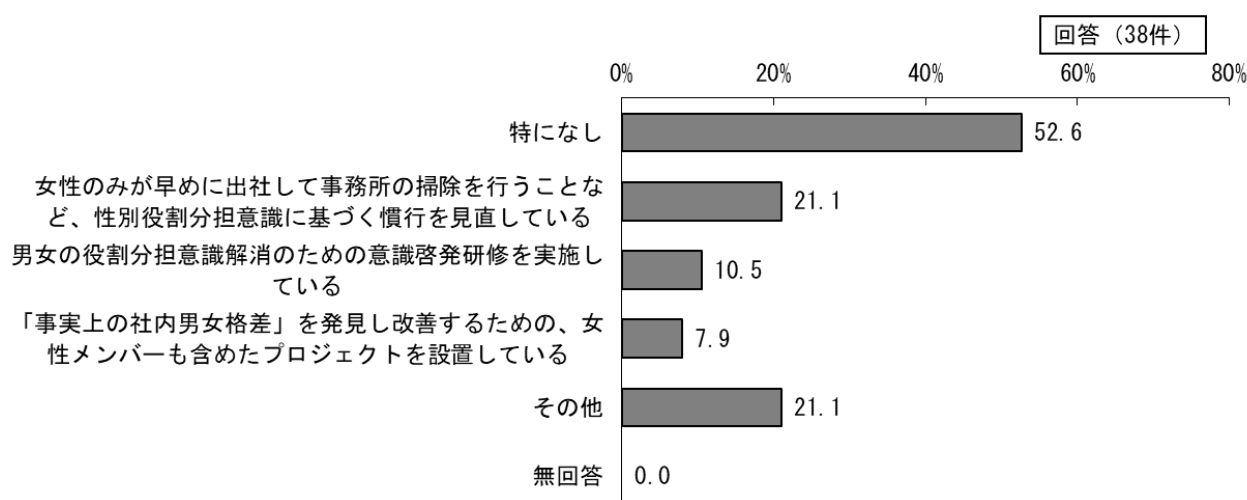
「ポジティブ・アクション」を知っているかについては、「名前だけは聞いたことがある」と「知らなかった」が31.6%と最も多く、次いで「良く知っているが、具体的な取組みはまだない」が21.1%と続きます。



### 問7 職場環境や風土の改善として、取り組んでいることはありますか。

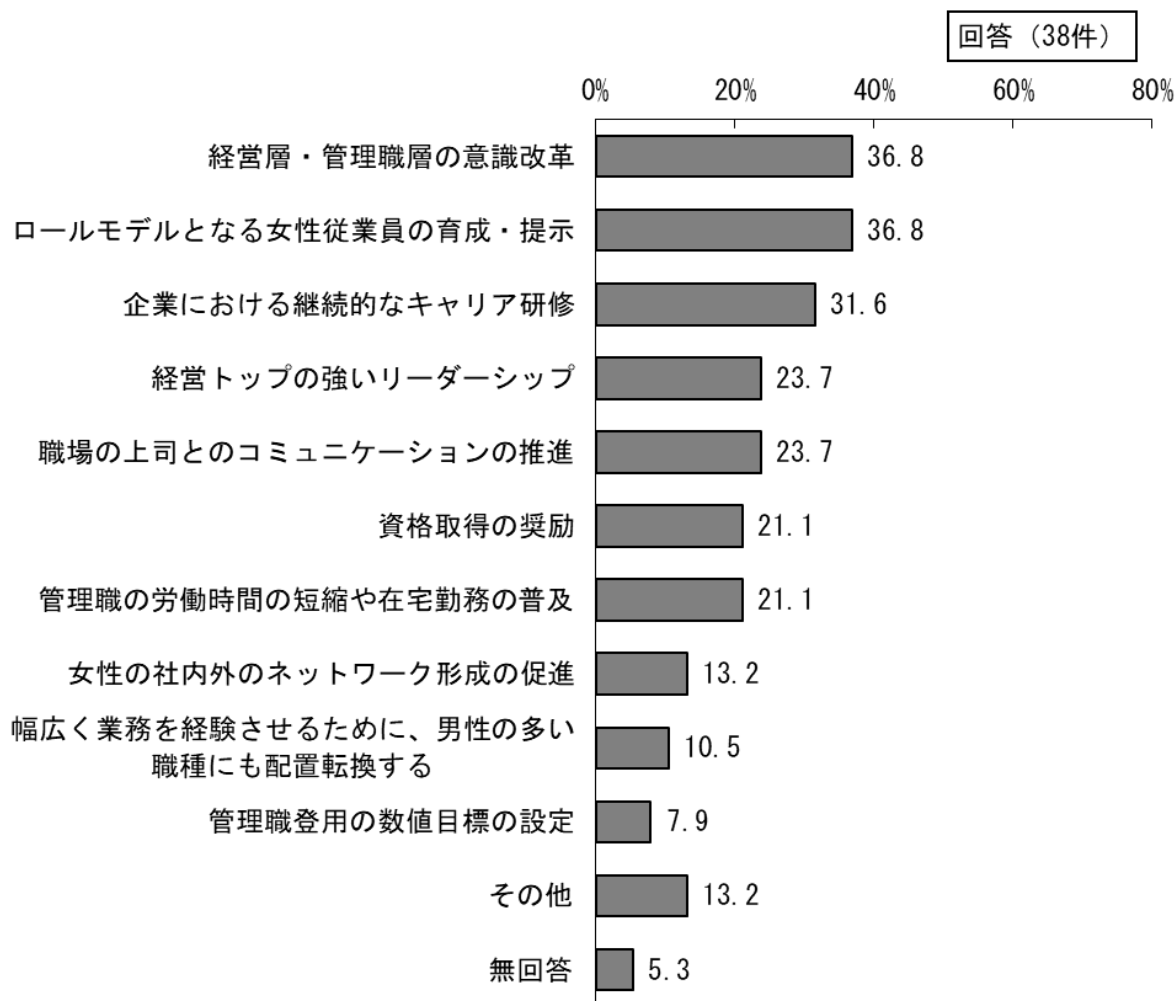
(〇はいくつでも)

職場環境や風土の改善として、取り組んでいることはあるかについては、「特になし」が52.6%と最も多く、次いで「女性のみが早めに出社して事務所の掃除を行うことなど、性別役割分担意識に基づく慣行を見直している」が21.1%、「男女の役割分担意識解消のための意識啓発研修を実施している」が10.5%と続きます。



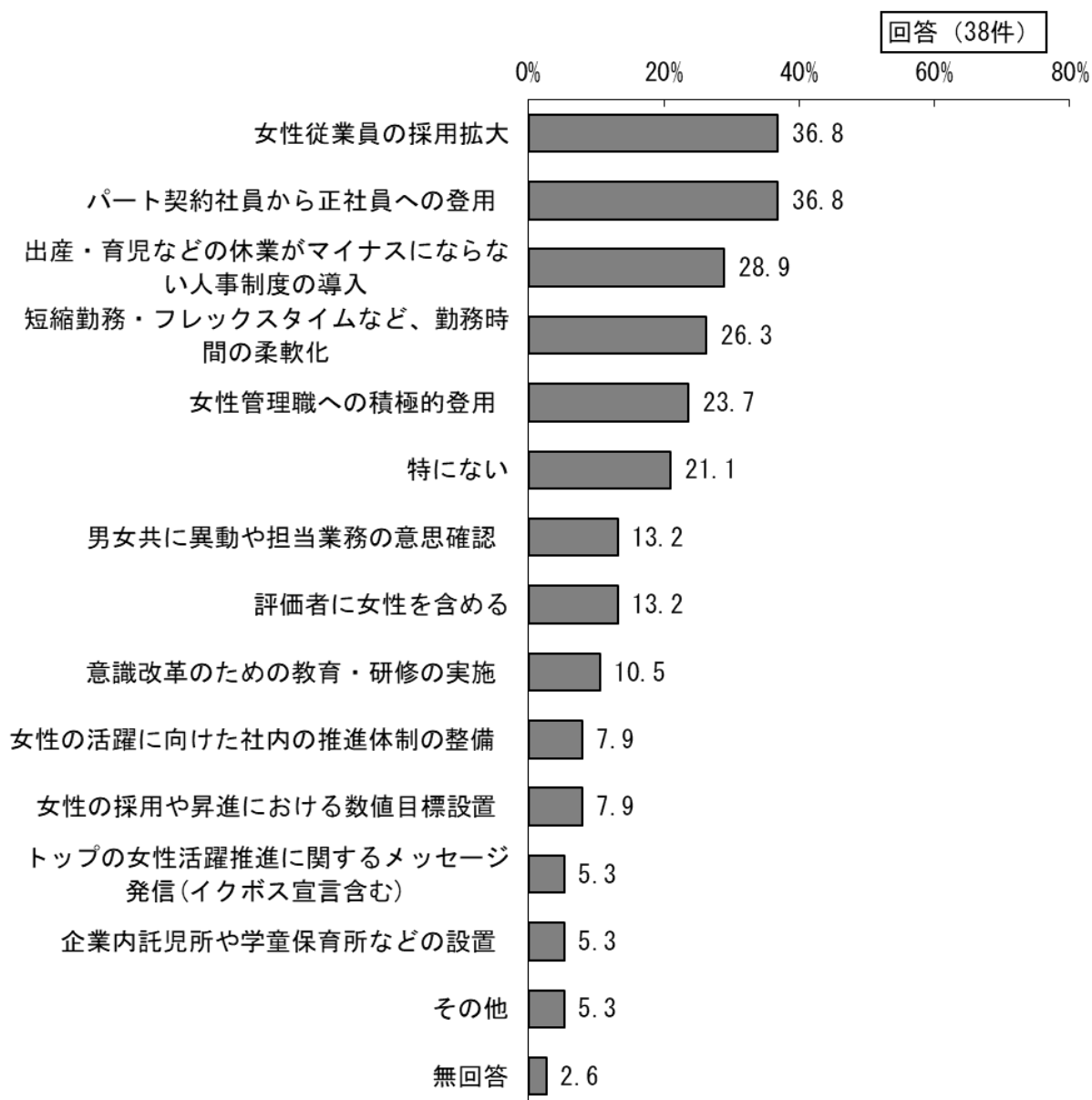
**問8 女性の管理職への登用を促進するために、どのような取組みが効果的だと思いますか。**  
**(〇はいくつでも)**

女性の管理職への登用を促進するために、どのような取組みが効果的だと思うかについては、「経営層・管理職層の意識改革」と「ロールモデルとなる女性従業員の育成・提示」が36.8%と最も多く、次いで「企業における継続的なキャリア研修」が31.6%と続きます。



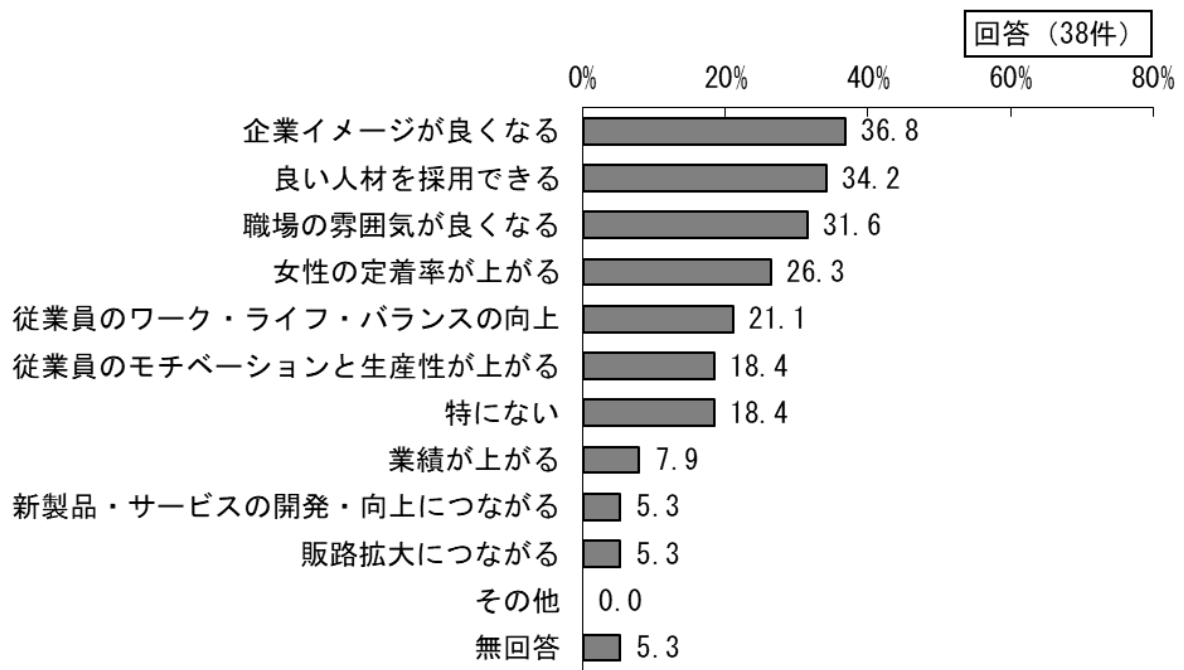
### 問9 女性の活躍に向けて推進している取組みはありますか。(〇はいくつでも)

女性の活躍に向けて推進している取組みはあるかについては、「女性従業員の採用拡大」と「パート契約社員から正社員への登用」が36.8%と最も多く、次いで「出産・育児などの休業がマイナスにならない人事制度の導入」が28.9%と続きます。



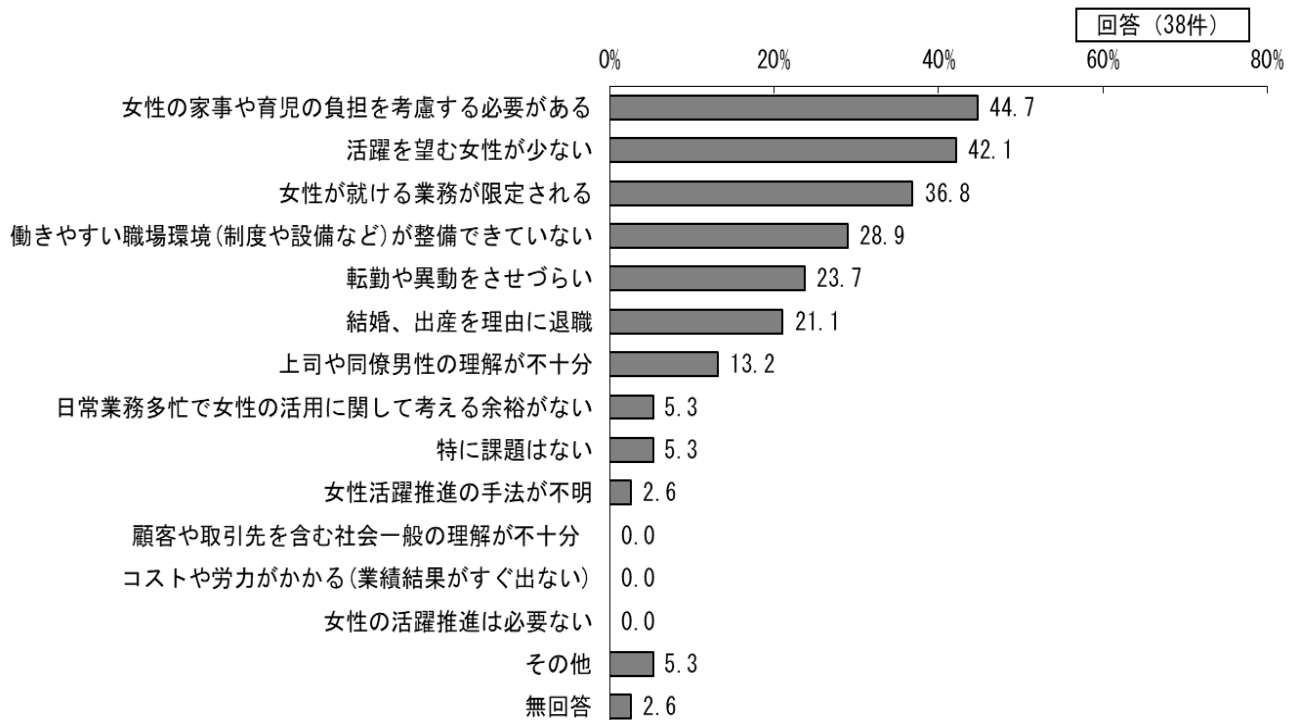
### 問 10 女性の活躍を推進することのメリットは何ですか（〇はいくつでも）

女性の活躍を推進することのメリットについては、「企業イメージが良くなる」が36.8%と最も多く、次いで「良い人材を採用できる」が34.2%、「職場の雰囲気が良くなる」が31.6%と続きます。



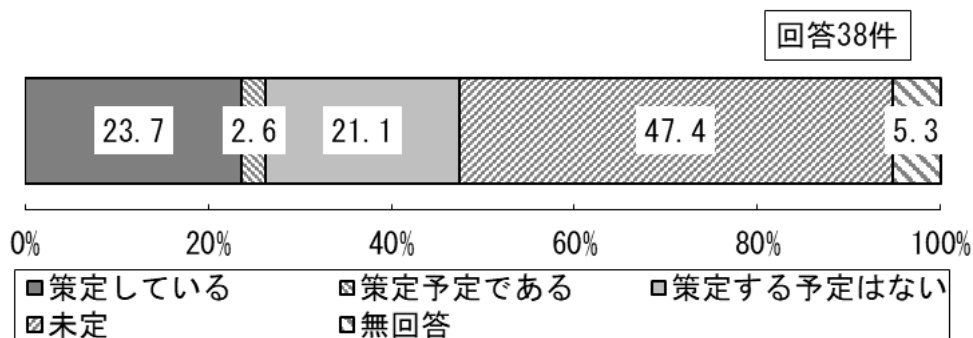
**問 11 女性の活躍推進にあたっての課題は何ですか。（〇はいくつでも）**

女性の活躍推進にあたっての課題については、「女性の家事や育児の負担を考慮する必要がある」が44.7%と最も多く、次いで「活躍を望む女性が少ない」が42.1%、「女性が就ける業務が限定される」が36.8%と続きます。



**問 12 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」（女性活躍推進法）に基づく行動計画を策定していますか。（〇は1つ）**

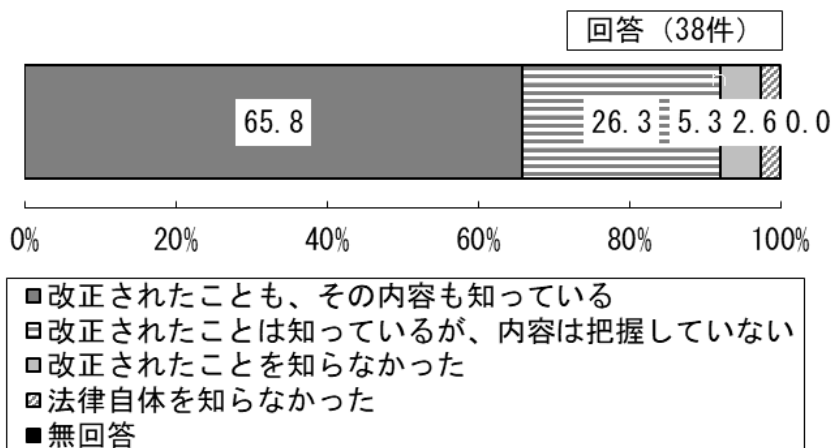
女性活躍推進法に基づく行動計画を策定しているかについては、「未定」が47.4%と最も多く、次いで「策定している」が23.7%、「策定する予定はない」が21.1%と続きます。



### 3. 育児・介護休業制度についておうかがいします

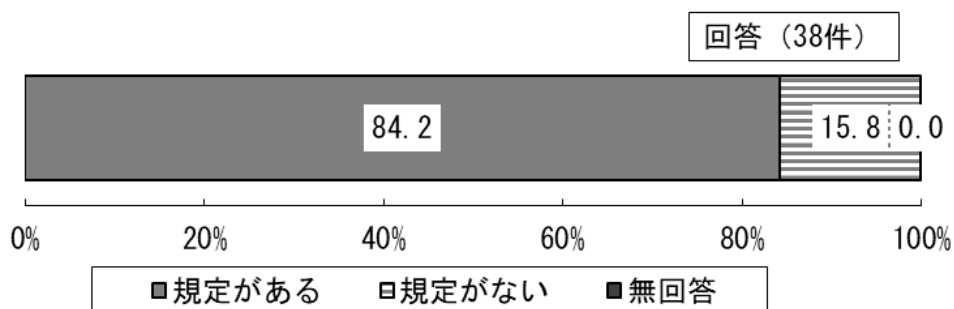
#### 問 13 令和3年の改正育児・介護休業法についてご存知ですか。(〇は1つ)

令和3年の改正育児・介護休業法については、「改正されたことも、その内容も知っている」が65.8%、「改正されたことは知っているが、内容は把握していない」が26.3%、「改正されたことを知らなかった」が5.3%、「法律自体を知らなかった」が2.6%となっています。



#### 問 14 貴事業所では、育児休業制度の規定がありますか。(〇は1つ)

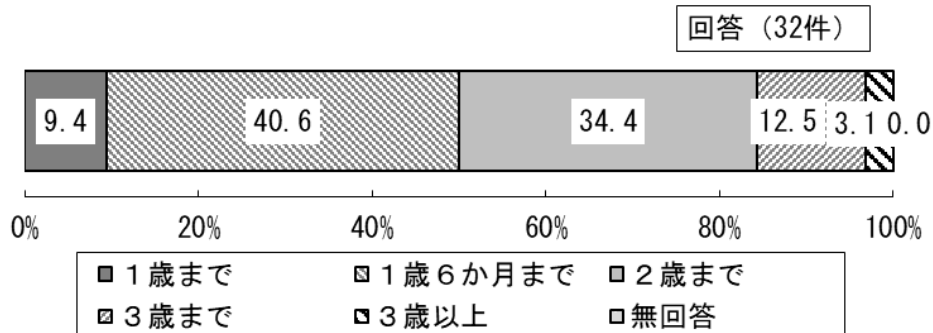
育児休業制度の規定については、「規定がある」が84.2%、「規定がない」が15.8%となっています。





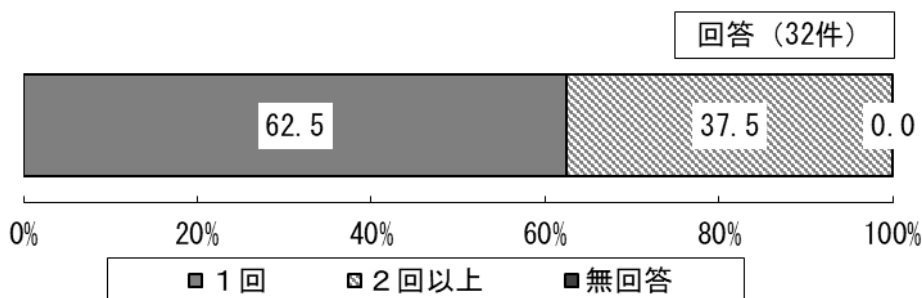
**問 14-1 育児休業を取得できる期間はどのくらいですか。（〇は1つ）**

育児休業を取得できる期間については、「1歳6か月まで」が40.6%と最も多く、次いで「2歳まで」が34.4%、「3歳まで」が12.5%と続きます。



**問 14-2 同じ子について育児休業を取得できる回数は何回くらいですか。（〇は1つ）**

同じ子について育児休業を取得できる回数については、「1回」が62.5%、「2回以上」が37.5%となっています。



**問 14-3 過去1年間の以下の従業員の人数についてお答えください。**

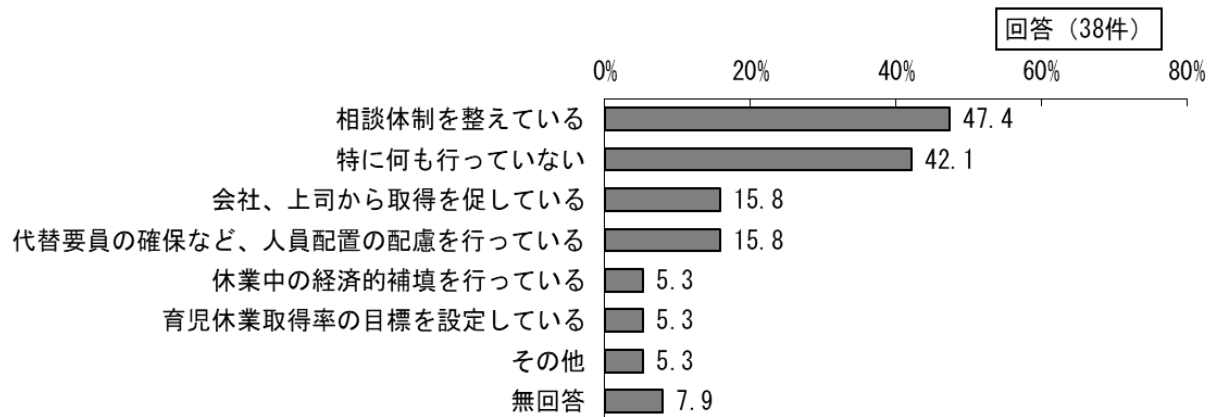
過去1年間において「出産した女性従業員」の人数は、全体で20人、「うち育児休業を取得している人数」は16人、育児休業取得率は80.0%となっています。

過去1年間において「配偶者が出産した男性従業員」の人数は、全体で61人、「うち育児休業を取得している人数」は14人、育児休業取得率は23.0%となっています。

	人 数	うち育児休業を取 得している人数	育児休業取得率
出産した女性従業員	20人	16人	80.0%
配偶者が出産した男性従業員	61人	14人	23.0%

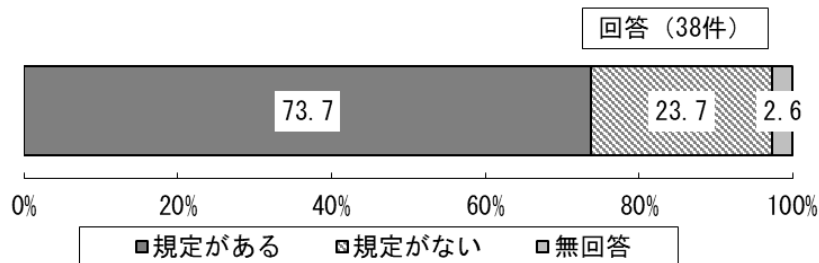
**問 15 男性の育児休業取得促進のための方策を何かとっていますか。（〇はいくつでも）**

男性の育児休業取得促進のための方策については、「相談体制を整えている」が47.4%と最も多く、次いで「特に何も行ってない」が42.1%、「会社、上司から取得を促している」と「代替要員の確保など、人員配置の配慮を行っている」が15.8%と続きます。



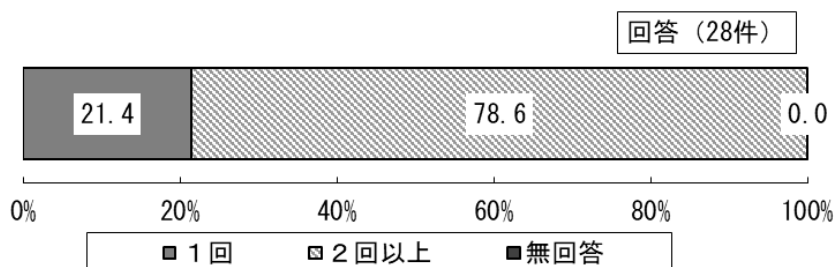
**問 16 貴事業所では、介護休業制度の規定がありますか。（〇は1つ）**

介護休業制度の規定については、「規定がある」が73.7%、「規定がない」が23.7%となっています。



**問 16-1 介護休業を取得できる回数はどのくらいですか。（〇は1つ）**

介護休業制度の規定については、「1回」が21.4%、「2回以上」が78.6%となっています。



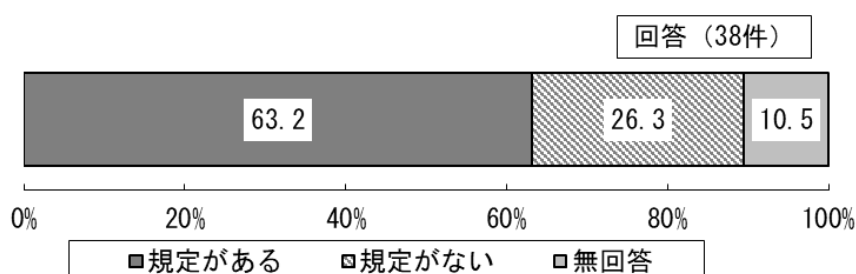
**問 16-2 過去1年間で介護休業を取得した従業員は何人いますか。**

過去1年間で介護休業を取得した従業員の人数は、全体で「女性」が7人、「男性」が6人となっています。

	女 性	男 性
介護休業を取得した人数	7人	6人

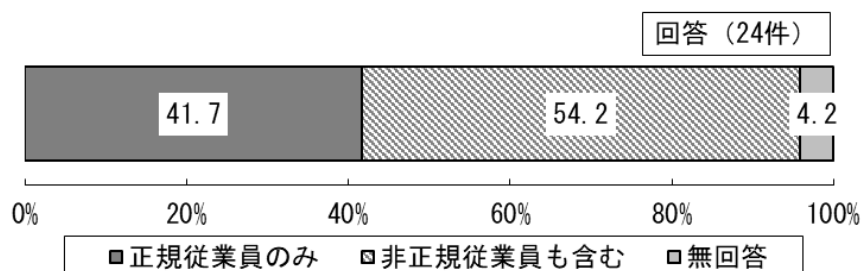
**問 17 貴事業所では、子の看護休暇制度の規定がありますか。(〇は1つ)**

子の看護休暇制度の規定については、「規定がある」が63.2%、「規定がない」が26.3%となっています。



**問 17-1 子の看護休暇の対象者は、どの範囲までですか。(〇は1つ)**

子の看護休暇の対象者は、どの範囲までかについては、「正規従業員のみ」が41.7%、「非正規従業員も含む」が54.2%となっています。



**問 17-2 過去1年間で看護休暇を取得した従業員は何人いますか。**

過去1年間で看護休暇を取得した従業員の人数は、全体で「女性」が3人、「男性」が3人となっています。

	女 性	男 性
看護休暇を取得した人数	3人	3人

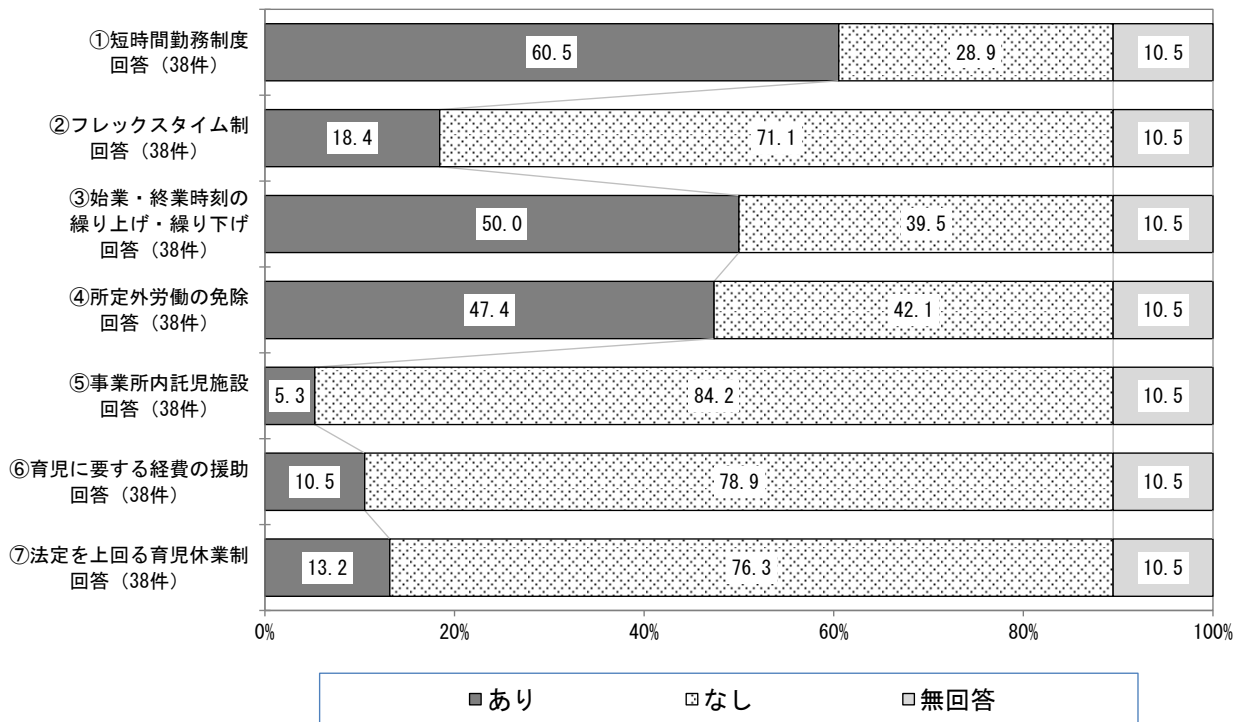
#### 4. ワーク・ライフ・バランスについておうかがいします

問 18 事業主は、3歳未満の子を養育する労働者について、勤務時間の短縮などの措置を講じなければなりません。貴事業所には以下のような制度はありますか。ある場合は、利用実績についてもお答えください。（〇はそれぞれ1つ）

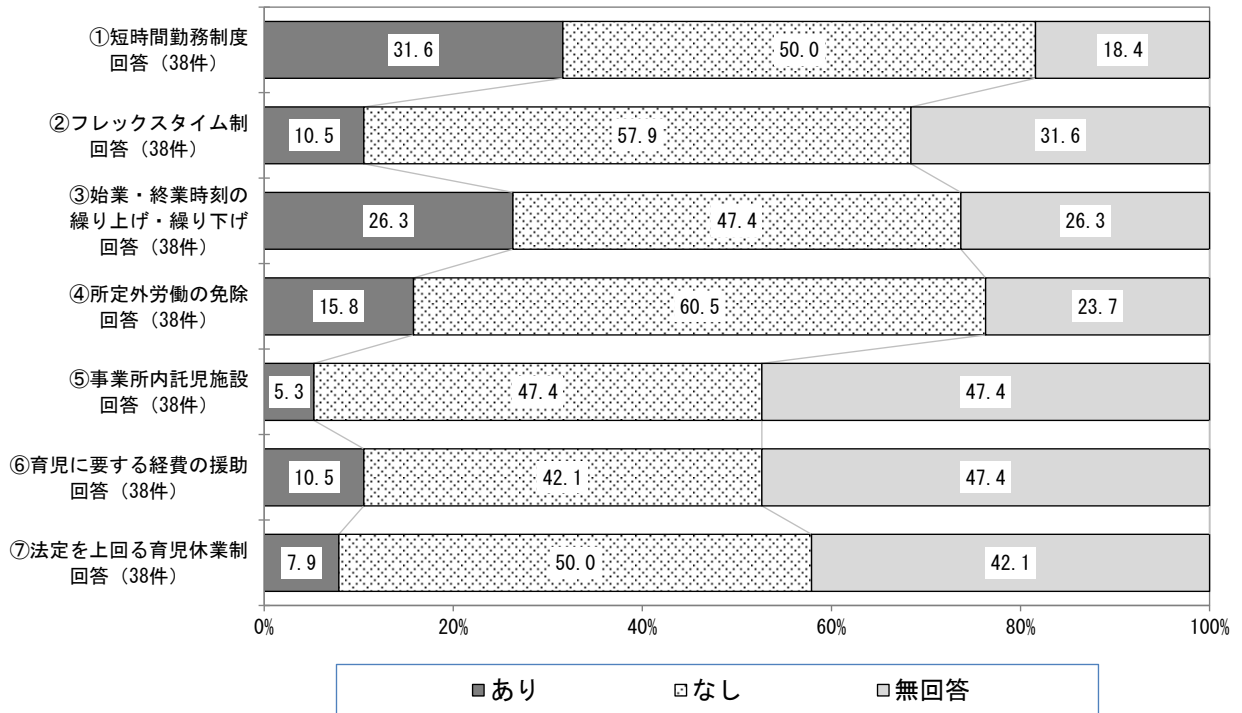
3歳未満の子を養育する労働者のための制度については、「制度の規定あり」では、「①短時間勤務制度」が60.5%と最も多く、次いで「③始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げ」が50.0%、「④所定外労働の免除」が47.4%と続きます。

「利用実績あり」では、「①短時間勤務制度」が31.6%と最も多く、次いで「③始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げ」が26.3%、「④所定外労働の免除」が15.8%と続きます。

##### 〔制度の規定の有無〕



〔利用実績の有無〕

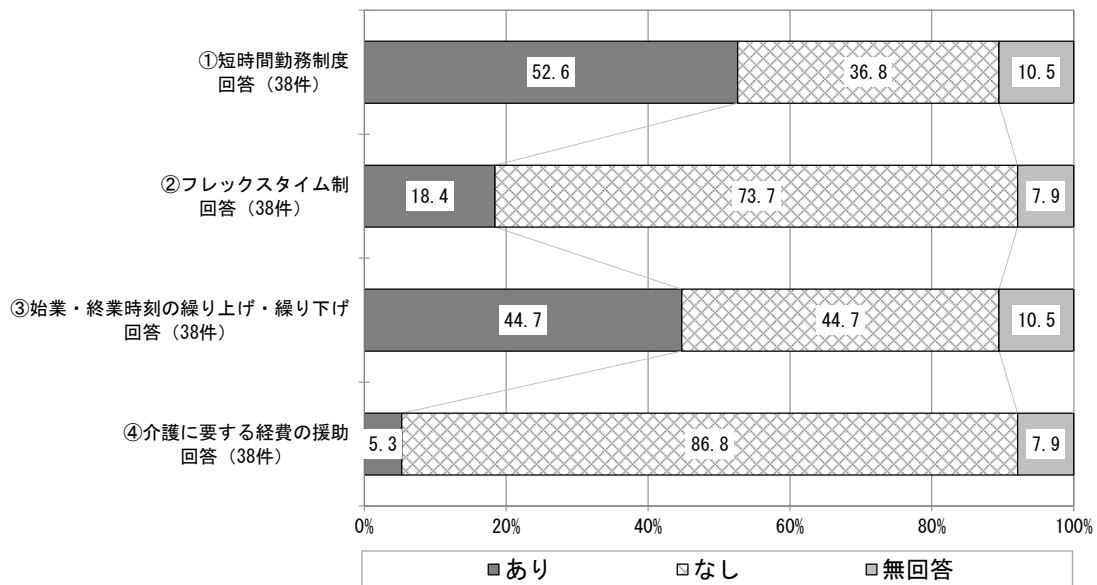


**問 19 介護が必要な家族がいる従業員が利用できる制度がありますが、貴事業所には以下のような制度はありますか。ある場合は、利用実績についてもお答えください。**  
**(〇はそれぞれ1つ)**

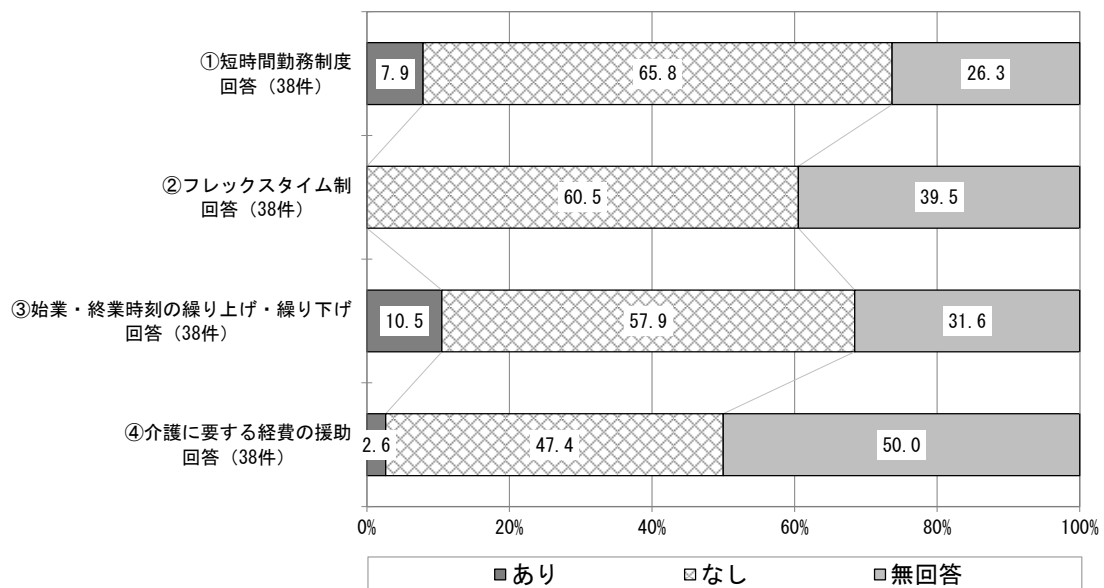
介護が必要な家族がいる従業員が利用できる制度については、「制度の規定あり」では、「①短時間勤務制度」が52.6%と最も多く、次いで「③始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げ」が44.7%、「②フレックスタイム制」が18.4%と続きます。

また、「利用実績の有無」では、「③始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げ」が10.5%と最も多く、次いで「①短時間勤務制度」が7.9%、「④介護に要する経費の援助」が2.6%と続きます。

**〔制度の規定の有無〕**



**〔利用実績の有無〕**

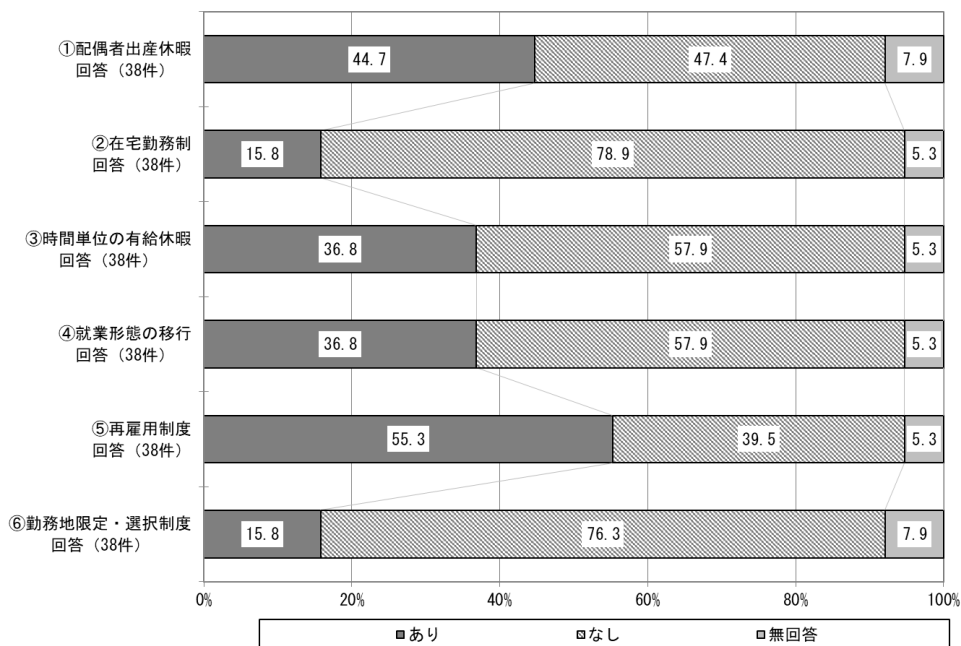


問 20 育児支援や介護支援の他に、仕事と家庭の両立のための支援制度（以下「両立支援制度」という。）を設けていますか。ある場合は、利用実績についてもお答えください。（〇はそれぞれ1つ）

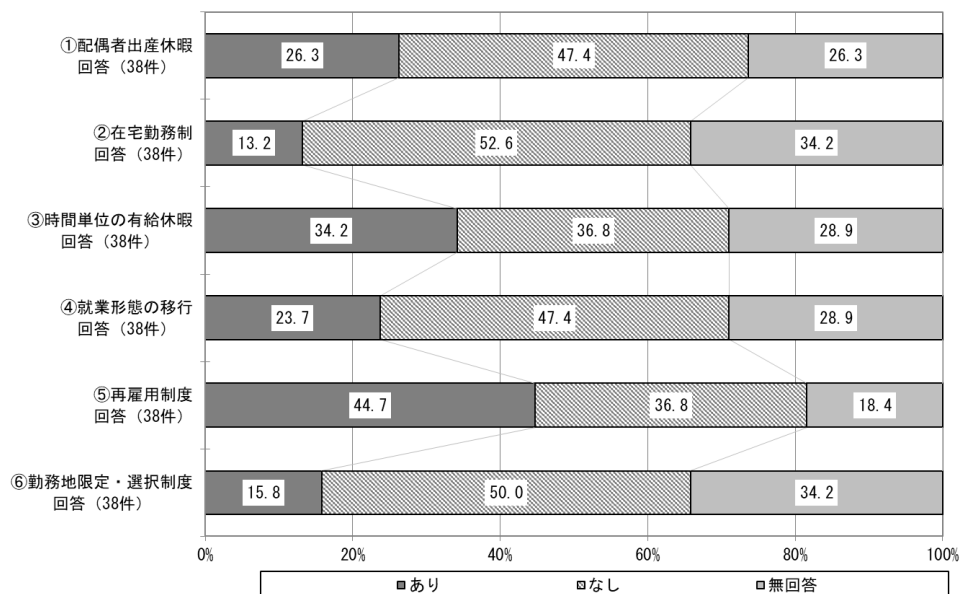
仕事と家庭の両立のための両立支援制度については、「制度の規定あり」では、「⑤再雇用制度」が55.3%と最も多く、次いで「①配偶者出産休暇」が44.7%、「③時間単位の有給休暇」と「④就業形態の移行」が36.8%と続きます。

また、「利用実績の有無」では、「⑤再雇用制度」が44.7%と最も多く、次いで「③時間単位の有給休暇」が34.2%、「①配偶者出産休暇」が26.3%と続きます。

〔制度の規定の有無〕

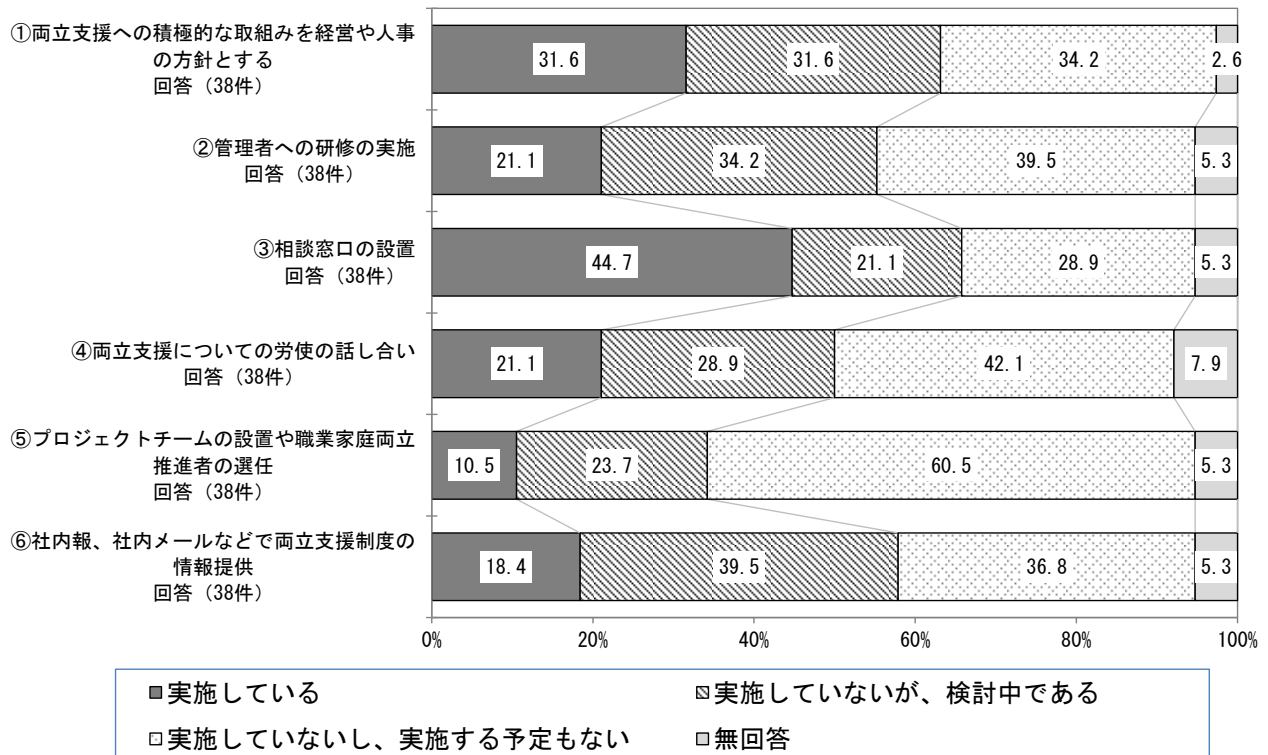


〔利用実績の有無〕



**問 21 育児や介護を行っている従業員にとって働きやすい環境づくりのための取組みとして、実施していることはありますか。（〇はそれぞれ1つ）**

育児や介護を行っている従業員にとって働きやすい環境づくりのための取組みについては、「実施している」では、「③相談窓口の設置」が44.7%と最も多く、次いで「①両立支援への積極的な取組みを経営や人事の方針とする」が31.6%、「②管理者への研修の実施」と「④両立支援についての労使の話し合い」が21.1%と続きます。

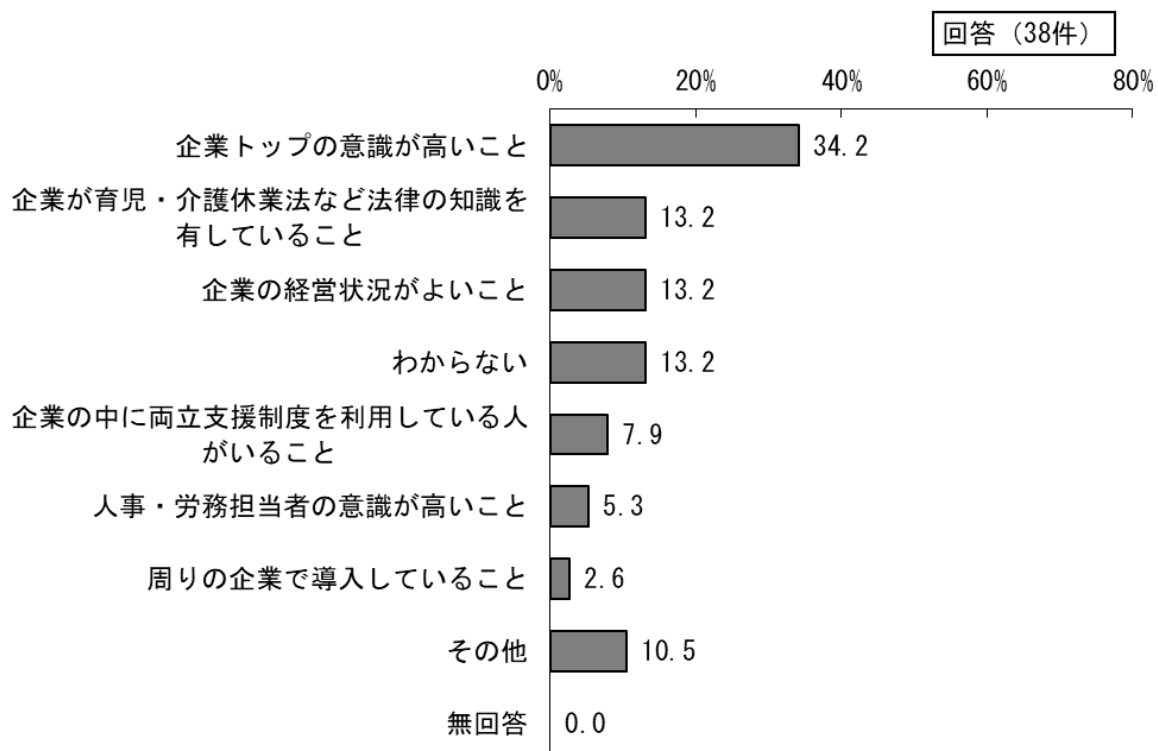




問 22 貴事業所において両立支援制度を設ける上で、一番重要なことは何ですか。

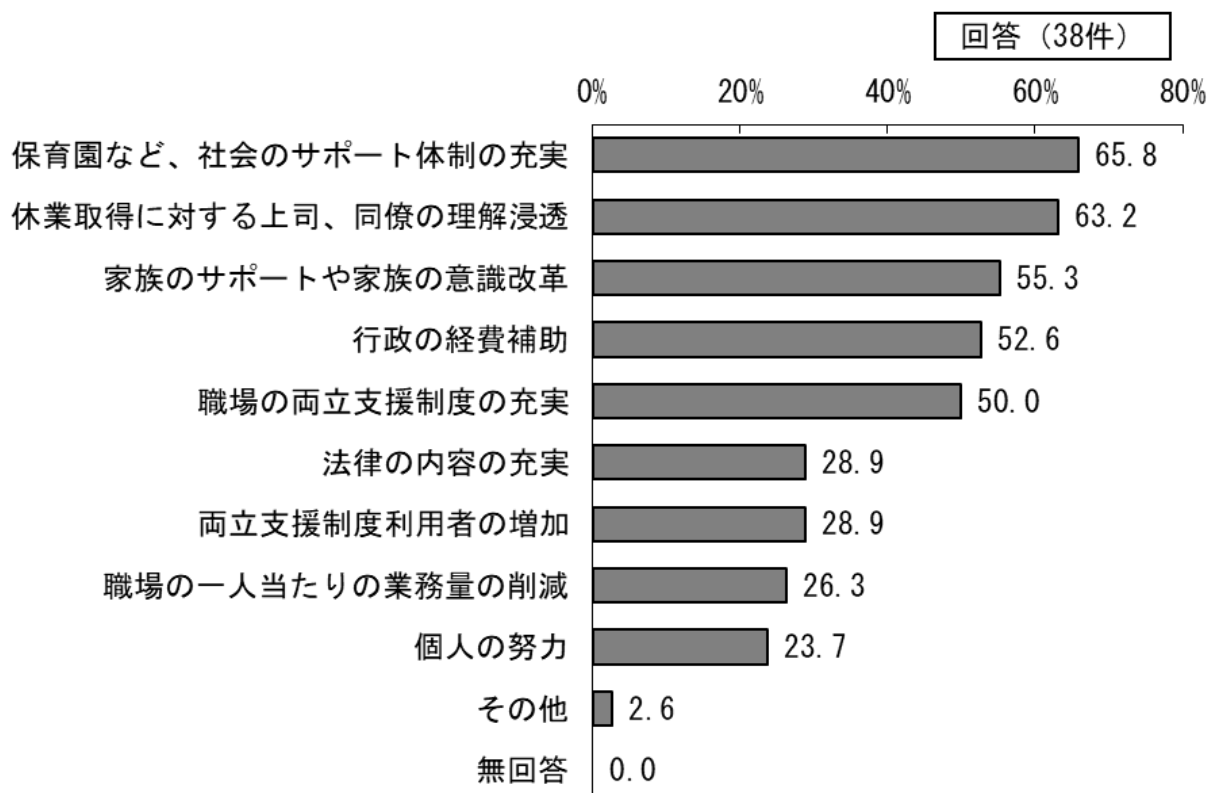
(〇は1つ)

両立支援制度を設ける上で、一番重要なことについては、「企業トップの意識が高いこと」が34.2%と最も多く、次いで「企業が育児・介護休業法など法律の知識を有していること」と「企業の経営状況がよいこと」と「わからない」が13.2%と続きます。



**問 23 仕事と家庭の両立にあたり、重要だと思うことは何ですか。（〇はいくつでも）**

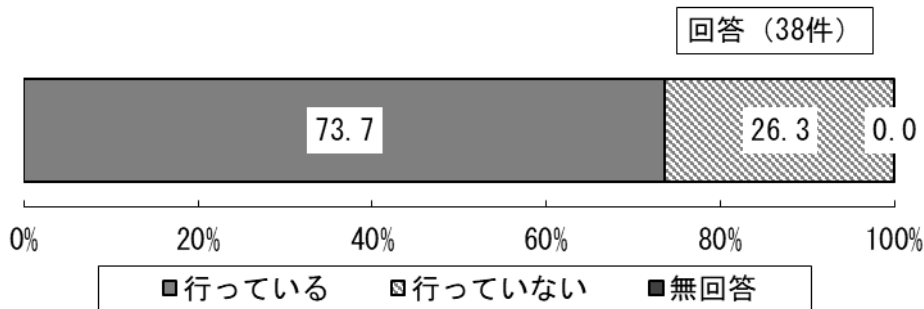
仕事と家庭の両立にあたり、重要だと思うことについては、「保育園など、社会のサポート体制の充実」が65.8%と最も多く、次いで「休業取得に対する上司、同僚の理解浸透」が63.2%、「家族のサポートや家族の意識改革」が55.3%と続きます。



## 5. セクシュアル・ハラスメントについておうかがいします

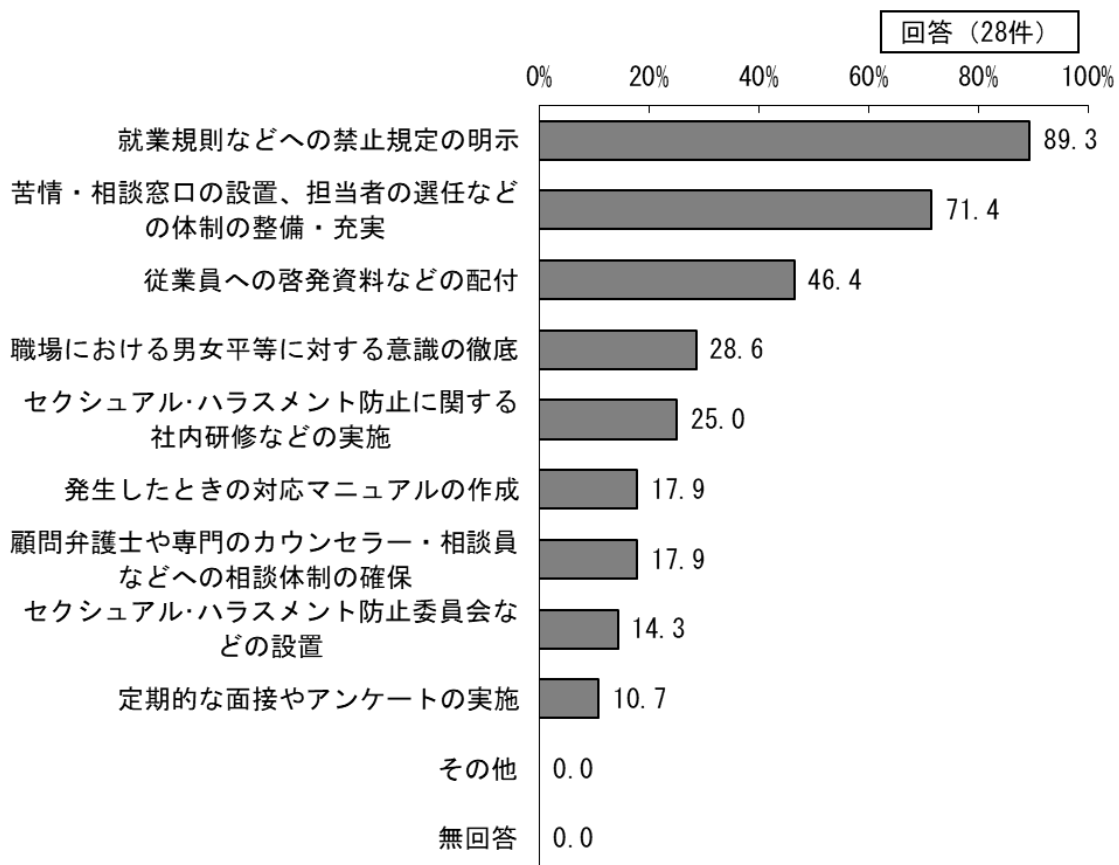
問 24 貴事業所では、セクシュアル・ハラスメントの防止に対して取組みを行っていますか。（〇は1つ）

セクシュアル・ハラスメントの防止に対して取組みを行っているかについては、「行っている」が73.7%、「行っていない」が26.3%となっています。



問 24-1 具体的にどのような取組みを行っていますか。（〇はいくつでも）

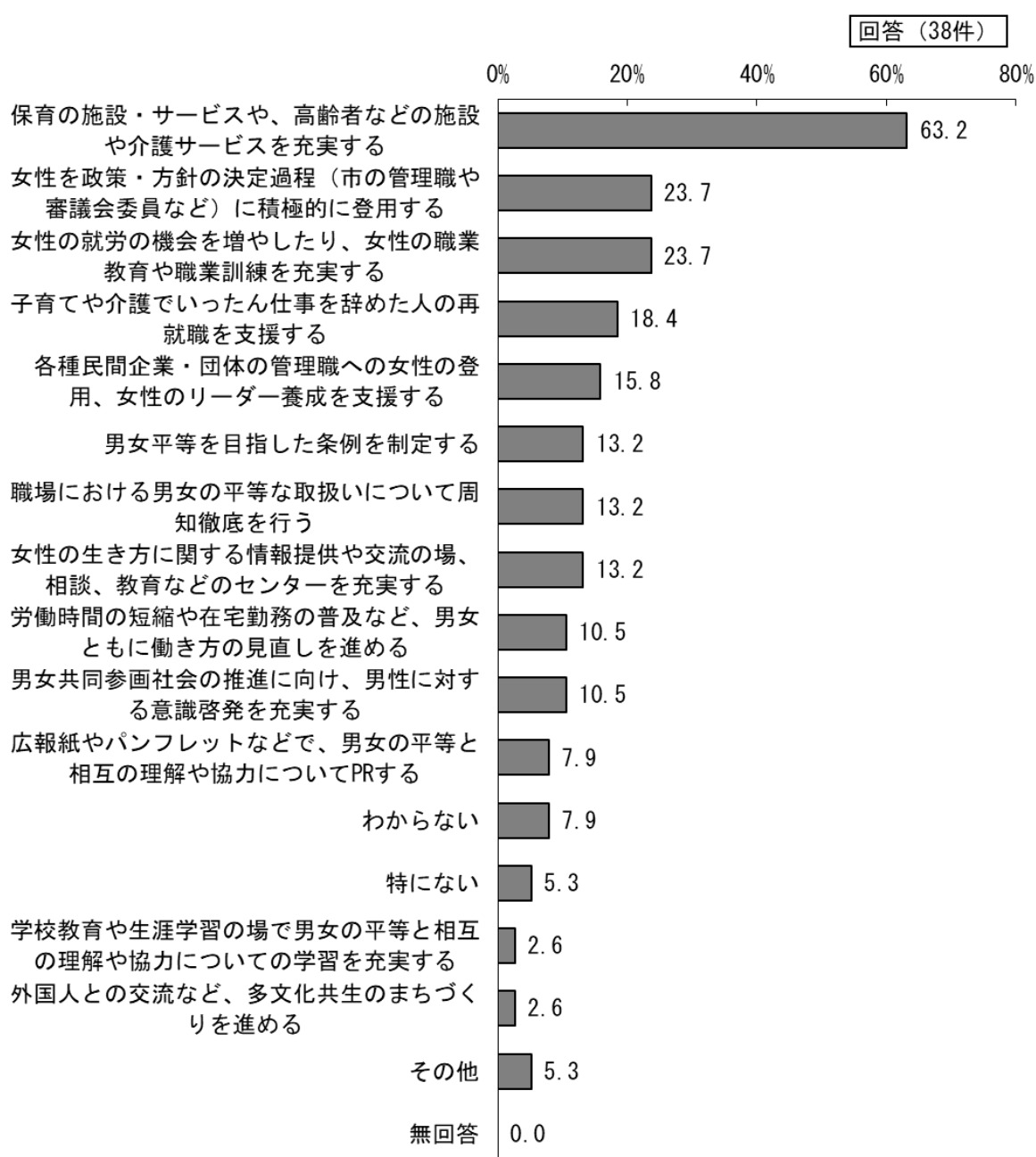
セクシュアル・ハラスメントの防止に対する具体的な取組みについては、「就業規則などへの禁止規定の明示」が89.3%と最も多く、次いで「苦情・相談窓口の設置、担当者の選任などの体制の整備・充実」が71.4%、「従業員への啓発資料などの配付」が46.4%と続きます。



## 6. 市の取組みについておうかがいします

### 問 25 安中市における男女共同参画社会の実現に向けて、今後、市はどのような施策に重点をおいていくべきだと思いますか。（〇は3つまで）

安中市における男女共同参画社会の実現に向けて、今後、市はどのような施策に重点をおいていくべきかについては、「保育の施設・サービスや、高齢者などの施設や介護サービスを充実する」が63.2%と最も多く、次いで「女性を政策・方針の決定過程（市の管理職や審議会委員など）に積極的に登用する」と「女性の就労の機会を増やしたり、女性の職業教育や職業訓練を充実する」が23.7%と続きます。



**安中市男女共同参画に関する意識調査結果報告書**  
**令和5年3月**

発行 安中市

編集 安中市企画経営部地域創造課市民協働係

〒379-0192 群馬県安中市安中一丁目23番13号

TEL (027) 382-1111 FAX (027) 381-0503

<http://www.city.annaka.lg.jp/>